第07311009（環境）

令 和 7 年 度

環　境　監　視　調　査

（　大　阪　府　域　）

報　告　書

令和８年７月

大阪湾広域臨海環境整備センター

はじめに

大阪湾広域臨海環境整備センター（広域臨海環境整備センター法　昭和56年　法律第76号）では、生活環境の保全と地域の均衡ある発展に資することを目的として、大阪湾圏域の広域処理対象区域において生じた廃棄物の適正な海面埋立による処理及びこれによる港湾の秩序ある整備を図るため、広域処分場及びこれに関連した積出基地の管理等の業務を推進しています。

大阪府域では、現在、泉大津沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場及びそれに関連した大阪基地、堺基地において廃棄物の受入れを実施しているところですが、周辺環境の保全を図るため、「大阪湾圏域広域処理場整備事業に係る大阪府域環境保全協議会」の指導を得ながら、環境監視計画に基づく調査を行っています。

本報告書は、令和７年度に大阪府域の泉大津沖埋立処分場、大阪基地、堺基地、泉大津基地及びその周辺で実施した環境監視調査結果等をとりまとめたものです。

なお、この調査は株式会社エヌ・イーサポートに委託して実施しました。

調査にあたり、御協力をいただいた関係各位に対し、厚くお礼申し上げるとともに、今後の御支援をお願い致します。

令和８年７月

大阪湾広域臨海環境整備センター

目　　次

Ⅰ　環境監視の概要 …… 1
　１　環境監視の目的 …… 3
　２　令和７年度大阪湾圏域広域処理場整備事業の概要 …… 3
　３　環境監視の内容 …… 9
　４　環境監視の実施体制 …… 10

Ⅱ　泉大津沖処分場の埋立及び泉大津基地供用に係る環境監視〔泉大津沖埋立処分場仮防波堤の建設に係る環境監視を含む〕 …… 11
第１章　　環境監視の概要 …… 13
　１　環境監視の目的 …… 13
　２　環境監視の内容 …… 13
第２章　　環境監視結果 …… 15
［ 海域調査 ］ …… 15
　１　水　質 …… 15
　　１－１　環境監視の実施状況 …… 15
　　１－２　調査方法 …… 18
　　１－３　環境監視の結果 …… 18
　　（１）　一般項目、生活環境項目１ …… 18
　　（２）　生活環境項目２、特殊項目、健康項目 …… 22
　　（３）　ダイオキシン類 …… 26
　　１－４　まとめ …… 69
　　（１）　濁りの出現状況 …… 69
　　（２）　放流水の監視基準適合状況 …… 69
　　（３）　基本監視点及び補助監視点における水質環境基準の適合状況 …… 69
　２　底　質 …… 73
　　２－１　環境監視の実施状況 …… 73
　　２－２　環境監視の結果 …… 73
　３　海生生物 …… 78
　　３－１　環境監視の実施状況 …… 78
　　３－２　環境監視の結果 …… 79
　　（１）　プランクトン調査 …… 79

（２）　魚卵・稚仔魚調査 …… 89
（３）　底生生物調査 …… 95
（４）　付着生物調査 …… 99
（５）　漁業生物調査 …… 121
［ 陸域調査 ］ …… 126
４　悪　臭・発生ガス …… 126
４－１　環境監視の実施状況 …… 126
４－２　環境監視の結果 …… 126
（１）　悪臭 …… 126
（２）　発生ガス …… 130
［ 泉大津沖埋立処分場仮防波堤の建設に係る環境監視調査 ］ …… 132
５　水　質 …… 132
５－１　環境監視の実施状況 …… 132
５－２　環境監視の結果 …… 132

Ⅲ　大阪基地供用に係る環境監視 …… 135
第１章　　環境監視の概要 …… 137
１　環境監視の目的 …… 137
２　環境監視の内容 …… 137
第２章　　環境監視結果 …… 139
１　交通量 …… 139
１－１　環境監視の実施状況 …… 139
１－２　環境監視の結果 …… 139
２　騒音・振動 …… 142
２－１　環境監視の実施状況 …… 142
２－２　環境監視の結果 …… 143
３　大気質 …… 144
３－１　環境監視の実施状況 …… 144
３－２　環境監視の結果 …… 144
４　悪　臭 …… 150
４－１　環境監視の実施状況 …… 150
４－２　環境監視の結果 …… 150

Ⅳ　堺基地供用に係る環境監視 …… 153
第１章　　環境監視の概要 …… 155
１　環境監視の目的 …… 155
２　環境監視の内容 …… 155
第２章　　環境監視結果 …… 157
１　交通量 …… 157
１－１　環境監視の実施状況 …… 157
１－２　環境監視の結果 …… 157
２　騒音・振動 …… 160
２－１　環境監視の実施状況 …… 160
２－２　環境監視の結果 …… 161
３　大気質 …… 162
３－１　環境監視の実施状況 …… 162
３－２　環境監視の結果 …… 162
４　悪　臭 …… 168
４－１　環境監視の実施状況 …… 168
４－２　環境監視の結果 …… 168

Ⅴ　　処分場及び積出基地の供用に係る環境監視計画 …… 171
ⅰ　泉大津沖処分場の埋立及び泉大津基地供用に係る環境監視計画 …… 173
１．監視の目的 …… 173
２．環境監視区分 …… 173
３．調査地点毎の調査概要 …… 173
４．測定・分析方法等 …… 175
５．評価と対策 …… 176
６．報告 …… 178
ⅱ　大阪基地供用に係る環境監視計画 …… 188
１．監視の目的 …… 188
２．監視項目、監視時期、監視地点 …… 188
３．監視方法 …… 188
４．監視スケジュールの報告 …… 188
５．監視結果の報告 …… 188

iii　堺基地供用に係る環境監視計画 …… 191
１．監視の目的 …… 191
２．監視項目、監視時期、監視地点 …… 191
３．監視方法 …… 191
４．監視スケジュールの報告 …… 191
５．監視結果の報告 …… 191
iv　泉大津沖埋立処分場仮防波堤の建設に係る環境監視計画 …… 194
１．監視の目的 …… 194
２．監視項目、監視時期、監視地点 …… 194
３．監視結果の報告 …… 194
v　参　考 …… 196
１．水質の監視基準及び濁度の管理の目安の設定の考え方 …… 196
２．濁りに係る環境監視の評価手順 …… 196
３．基本監視点における水質に係る環境調査の頻度 …… 196

Ⅵ　参考資料（大阪湾水域類型、水質環境基準等） …… 197

Ⅰ　環境監視の概要

１　環境監視の目的

大阪府域における大阪湾圏域広域処理場整備事業の推進にあたり、泉大津沖埋立処分場及びそれに関連した大阪基地、堺基地、泉大津基地の供用による周辺環境への影響を把握し、その影響を最小限にとどめ、環境の悪化を未然に防止することを目的とする。

２　令和７年度大阪湾圏域広域処理場整備事業の概要

（１）令和７年度の事業実施の概要

大阪府域における令和７年度の事業実施の概要は、以下のとおりである。

①　泉大津沖埋立処分場及び泉大津基地

令和３年３月末で安定型廃棄物及び浚渫土砂の受入れが終了し、泉大津基地への陸上輸送による陸上残土の受入れも令和７年３月に終了した。

②　大阪基地及び堺基地

廃棄物及び陸上残土等の受入れを実施した。

（２）埋立処分実施状況

令和７年度（令和７年４月～令和８年３月）における各基地での廃棄物等の受入れ状況は、表１－２－１及び表１－２－２に示すとおりであり、大阪基地288,662.7t、堺基地239,642.5t、和歌山基地94,736.9tであった。

泉大津沖埋立処分場では、直接投入した陸上残土226,988.0tを安定型区画で埋立処分した。

令和７年度における投入場所は図１－２－１に示すとおりである。

また、令和８年３月末現在の埋立進捗状況は、図１－２－２に示すとおりである。

表１－２－１ 基地別、廃棄物種類別の受入状況（令和７年４月～令和８年３月）

単位：ｔ

廃棄物の種類		大阪基地	堺基地	和歌山基地	泉大津沖埋立処分場		泉大津沖埋立処分場累計（H3年度～R7年度）
					直接投入	埋立処分量	
１	一　般　廃　棄　物	165,493.9	156,374.8	23,554.5	－	0.0	5,913,928.0
２ 産業廃棄物	①上水汚泥	1,010.5	2,552.2	5,253.4	－	0.0	978,296.0
	②下水汚泥	3,352.3	16,188.6	598.9	－	0.0	351,879.0
	③燃え殻	2,877.7	3,643.5	226.1	－	0.0	155,616.0
	④汚泥（①，②を除く）	10,924.8	54,382.3	242.5	－	0.0	2,020,672.0
	⑤鉱さい	9,227.5	3,515.6	43,541.9	－	0.0	2,435,482.0
	⑥ばいじん	2,646.7	1,702.2	6,607.9	－	0.0	57,753.0
	⑦廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類・ｺﾞﾑくず	1,622.8	0.0	19.5	－	0.0	29,274.0
	⑧金属くず	4.9	0.0	31.5	－	0.0	388.0
	⑨ｶﾞﾗｽくず及び陶磁器くず	4,478.3	0.0	979.1	－	0.0	303,402.0
	⑩がれき類	27,673.9	0.0	13,529.5	－	0.0	4,839,351.0
	⑪その他の管理型産廃	3,279.0	40.9	0.0	－	0.0	285,369.0
	産業廃棄物合計	67,098.4	82,025.3	71,030.3	－	0.0	11,457,482.0
３	陸上残土(購入残土を含む)	56,070.4	1,242.4	152.1	226,988.0	226,988.0	23,892,417.2
４	浚渫土砂	－	－	－	－	0.0	11,089,326.0
総　　計		288,662.7	239,642.5	94,736.9	226,988.0	226,988.0	52,353,153.2

表１－２－２ 基地別、月別の受入状況（令和７年４月～令和８年３月）

	大阪基地						堺基地						和歌山基地						直接投入（ｔ）	泉大津沖処分場		
	受入日数（日）	受入量（t）	搬入台数(台)				受入日数（日）	受入量（t）	搬入台数(台)				受入日数（日）	受入量（t）	搬入台数(台)					埋立処分量（ｔ）		
			総台数	日最大	日最小	日平均			総台数	日最大	日最小	日平均			総台数	日最大	日最小	日平均		管理型	安定型	計
4月	21	23,001	2,754	170	60	131	21	21551.6	2,498	158	97	119	21	10352.6	1,170	127	15	56	18,589	0	18,589	18,589
5月	21	27,240	3,256	205	58	155	21	21192.7	2,495	149	57	119	21	6532.2	765	96	14	36	15,632	0	15,632	15,632
6月	21	27,707	3,357	242	122	160	21	21167.6	2,492	149	91	119	21	6365.2	767	103	13	37	19,342	9,628	9,714	19,342
7月	22	27,188	3,306	186	107	150	22	21874.4	2,614	146	94	119	22	8192.9	937	106	14	43	19,437	18,832	605	19,437
8月	20	24,377	2,885	192	85	144	20	18313.1	2,149	137	81	107	20	7784.6	914	97	10	46	14,838	14,358	480	14,838
9月	20	25,996	3,091	180	123	155	20	19419.7	2,276	151	72	114	20	7587.7	883	116	18	44	19,983	19,849	134	19,983
10月	22	27,043	3,240	175	110	147	22	19705.9	2,351	133	86	107	22	8302.7	964	105	17	44	20,479	19,951	528	20,479
11月	18	20,728	2,471	175	104	137	18	16013.2	1,923	134	74	107	18	7036	816	93	18	45	18,135	17,300	835	18,135
12月	21	26,773	3,213	197	99	153	21	21072.5	2,466	155	90	117	21	8222.1	942	94	16	45	19,867	17,832	2,035	19,867
1月	19	22,411	2,688	168	104	141	20	19450.7	2,276	142	33	114	20	7168.1	820	96	11	41	23,356	14,971	8,385	23,356
2月	18	16,563	2,065	176	84	115	18	17824.7	2,183	146	99	121	18	7960.2	891	94	19	50	16,028	0	16,028	16,028
3月	21	19,635	2,464	179	83	117	21	22056.4	2,733	149	108	130	21	9232.6	1,042	105	19	50	21,302	173	21,129	21,302
合計	244	288,663	34,790	－	－	－	245	239,643	28,456	－	－	－	245	94,737	10,911	－	－	－	226,988	132,894	94,094	226,988

令和７年４月	７年５月
	
７年６月	７年７月
	
７年８月	７年９月
	

図１−２−１（１）　泉大津沖埋立処分場竣功進捗状況（令和７年度）

（※残土のみの受入でありポンド部の投入は無く、覆土作業のみ行った。）

７年10月	７年11月
	
７年12月	８年１月
	
８年２月	８年３月
	

図１−２−１（２）　泉大津沖埋立処分場竣功進捗状況（令和７年度）

（※残土のみの受入でありポンド部の投入は無く、覆土作業のみ行った。）



図1-2-2　埋め立て進捗状況図(令和８年３月末現在)

３　環境監視の内容

環境監視の内容は、令和７年４月から令和８年３月までの間に、「泉大津沖処分場の埋立及び泉大津基地供用に係る環境監視計画」、「泉大津沖埋立処分場仮防波堤の建設に係る環境監視計画」、「大阪基地供用に係る環境監視計画」及び「堺基地供用に係る環境監視計画」に基づいて実施した調査結果を整理するとともに、時系列変化、地域分布特性、環境基準との比較等を行い、最終処分場及び基地周辺の状況を把握した。

監視の項目は、以下に示すとおりである。

（１）泉大津沖処分場の埋立及び泉大津基地供用に係る環境監視〔泉大津沖埋立処分場仮防波堤の建設に係る環境監視を含む〕

〔海域調査〕

①　水質

②　底質

③　海生生物

〔陸域調査〕

④　悪臭・発生ガス

〔泉大津沖埋立処分場仮防波堤の建設に係る環境監視調査〕

⑤　水質

（２）大阪基地供用に係る環境監視

①　交通量

②　騒音・振動

③　大気質

④　悪臭

（３）堺基地供用に係る環境監視

①　交通量

②　騒音・振動

③　大気質

④　悪臭

４　環境監視の実施体制

環境監視の実施手順は以下に示すとおりである。

①環境監視計画に基づき環境調査を実施する。

②調査結果を解析し、周辺環境等を把握する。又、関係機関が測定する環境データにも留意する。

③調査結果を評価する。

④評価に基づき、必要に応じて適切な処置を講じる。

⑤監視結果等については「大阪湾圏域広域処理場整備事業に係る大阪府域環境保全協議会」に報告する。

環境監視の実施体制は図１－４－１に示すとおりである。

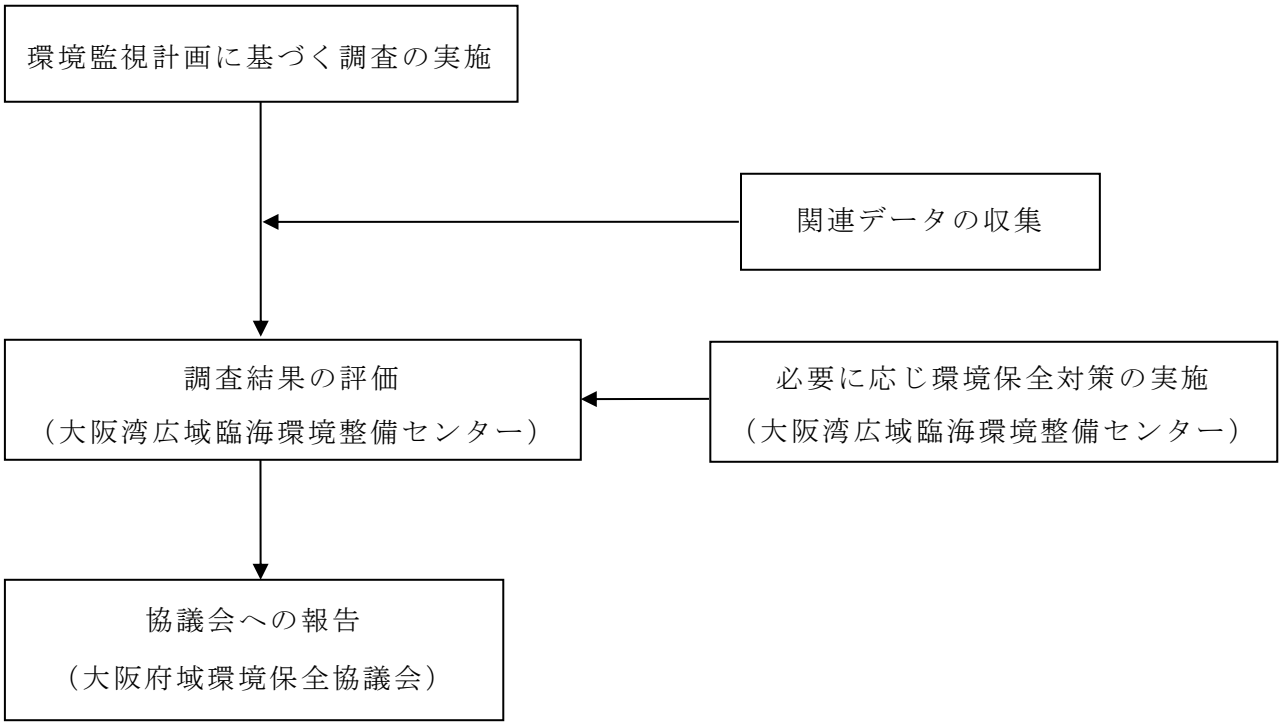


図１－４－１　環境監視の実施体制

Ⅱ　泉大津沖処分場の埋立及び泉大津基地供用に係る環境監視〔泉大津沖埋立処分場仮防波堤の建設に係る環境監視を含む〕

第１章　環境監視の概要

１　環境監視の目的

本環境監視は、泉大津沖処分場の埋立並びに基地供用及び廃棄物輸送にあたり、大阪湾広域臨海環境整備センターが「大阪湾圏域広域処理場整備事業に係る大阪府域環境保全協議会」の指導を得て作成した「泉大津沖処分場の埋立及び泉大津基地供用に係る環境監視計画」（以下、このⅡにおいて「環境監視計画」という。）及び「泉大津沖埋立処分場仮防波堤の建設に係る環境監視計画」に基づいて、周辺環境への影響を把握し、その影響を最小限にとどめ、環境の悪化を未然に防止することを目的とする。

２　環境監視の内容

環境監視の内容は、令和７年４月から令和８年３月までの間に、環境監視計画に基づいて実施した調査結果を整理するとともに、時系列変化、地域分布特性、環境基準との比較等のデータ解析を行い、最終処分場及び基地周辺の状況を把握した。

監視の項目は、以下に示す海域調査、陸域調査、泉大津沖埋立処分場仮防波堤の建設に係る環境監視調査の５項目である。

〔海域調査〕

①　水質

②　底質

③　海生生物

〔陸域調査〕

④　悪臭・発生ガス

〔泉大津沖埋立処分場仮防波堤の建設に係る環境監視調査〕

⑤　水質

第２章　環境監視結果

[海域調査]

１　水質

１－１　環境監視の実施状況

水質に係る環境監視の実施状況は表２-１-１に示すとおりである。

毎日調査（日調査）としては、管理型排水処理施設放流水(St.11)について、濁度及びＣＯＤ（化学的酸素要求量）等の連続測定を実施した。

週１回調査としては、補助監視点（管理型区画内水(St.８)）でＳＳ（浮遊物質量)、ＣＯＤ等の調査を実施し､管理型排水処理施設放流水（St.11）については、ＳＳ、全窒素を測定した。

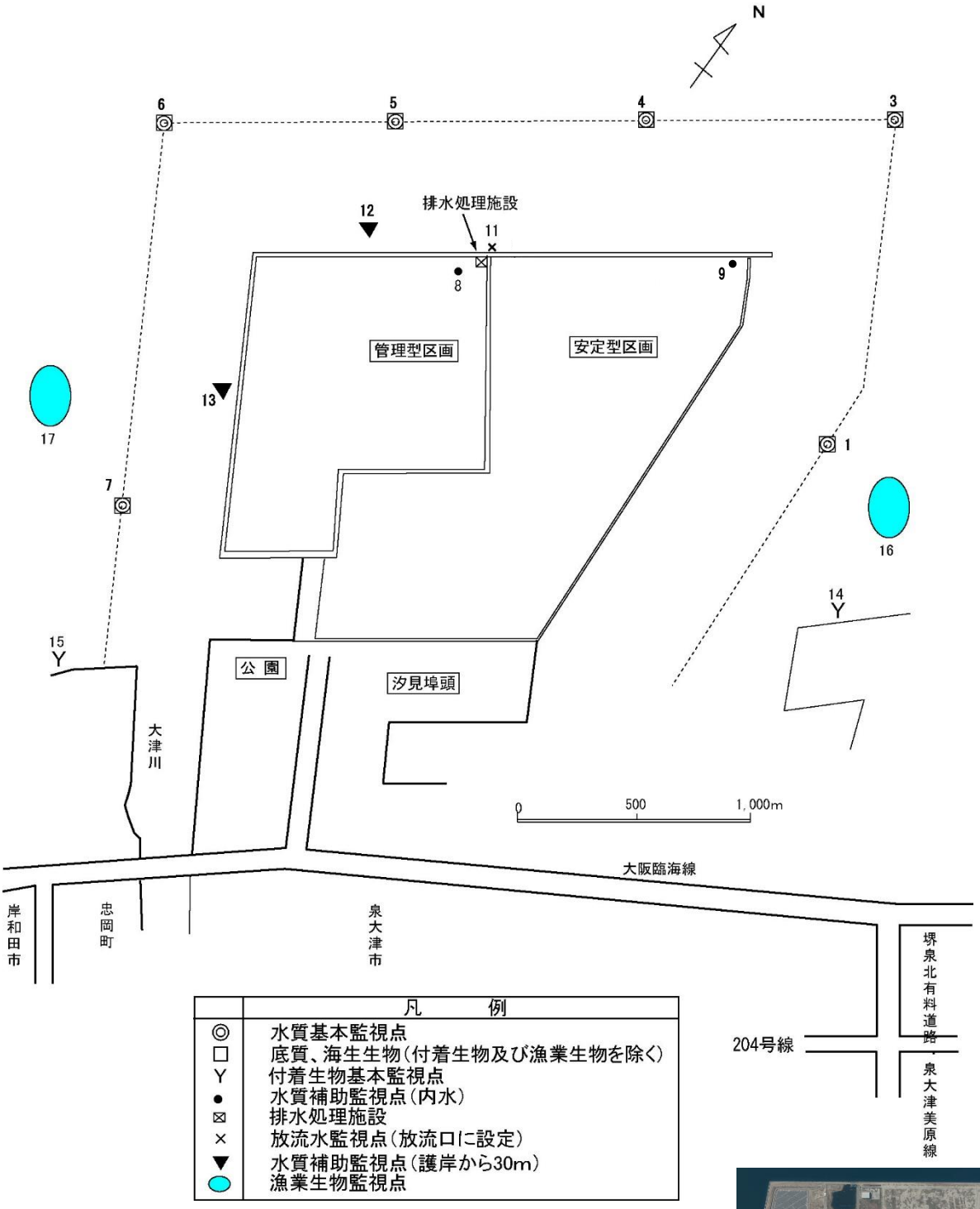
月１回調査としては、基本監視点（６監視点(St.１,３～７)）及び補助監視点（管理型区画護岸近傍の２監視点(St.12,13)）の計８監視点で、濁度、ＳＳ、ＦＳＳ（不揮発性浮遊物質量)、ＣＯＤ等の調査を実施し、管理型排水処理施設放流水（St.11）について、ＣＯＤ、ｐＨ（水素イオン濃度）を測定した。

年４回調査としては、基本監視点(St.１,３～７)、補助監視点（管理型区画内水(St.８)及び管理型区画護岸近傍(St.12,13)）の計９監視点と管理型排水処理施設放流水(St.11)について、全燐、大腸菌数等の生活環境項目の調査を四季に実施し、補助監視点（管理型区画内水(St.８)）と管理型排水処理施設放流水(St.11)については、健康項目（排水基準）も測定した。

年２回調査としては、基本監視点(St.１,３～７)及び補助監視点（管理型区画護岸近傍(St.12, 13)）の計８監視点で、健康項目（排水基準）の調査を夏・冬の二季に実施した。

なお、水質の測定点、調査内容及び測定方法等は「環境監視計画」に定められた内容にしたがった。

また、補助監視点（安定型区画の内水(St.９)）については、埋立ての進捗に伴って、内水が消滅したため、令和３年度をもって測定を終了した。





環境監視調査地点位置図〔海域調査〕

表２－１－１　　水質に係る環境監視の実施状況

環境項目		測定・調査項目	測定点	測定点数	頻　度	実　施　日
水質	一般項目・生活環境項目	濁度, 水温, COD(化学的酸素要求量), DO(溶存酸素量), pH（水素イオン濃度）	管理型排水処理施設 放流水 (St.11)	1地点	連続測定	毎日[注2]
		COD, pH			1回/月	月1回, 計12回
		SS(浮遊物質量), 全窒素			1回/週	週1回 計St.8:51回, St.11：51回
		透明度, 水温, SS, COD, DO, pH, 全窒素	補助監視点 (管理型区画内水) (St.8)	1地点		
		ｸﾛﾛﾌｨﾙa, FSS(不揮発性浮遊物質量), 塩分			4回/年	令和7年 5月 8日 8月 5日 11月11日 令和8年 2月 5日
		濁度, 透明度, 水温 SS, ｸﾛﾛﾌｨﾙa, FSS, 塩分, COD, DO, pH	基本監視点 (St.1, 3～7) 補助監視点 (St.12, 13)	8地点	1回/月	月1回, 計12回
		全燐, 大腸菌数, ﾉﾙﾏﾙﾍｷｻﾝ抽出物質	放流水(St.11) 補助監視点(内水)(St.8)	2地点	4回/年	令和7年 5月 8日 8月 5日 11月11日 令和8年 2月 5日
		全窒素, 全燐, 大腸菌数, ﾉﾙﾏﾙﾍｷｻﾝ抽出物質	基本監視点(St.1, 3～7) 補助監視点(St.12, 13)	8地点		
	特殊項目	ﾌｪﾉｰﾙ類, 銅, 亜鉛, 総ｸﾛﾑ, 溶解性鉄, 溶解性ﾏﾝｶﾞﾝ, 硝酸性窒素, 亜硝酸性窒素	放流水(St.11) 補助監視点(内水)(St.8)	2地点		
			基本監視点(St.1, 3～7) 補助監視点(St.12, 13)	8地点		
	健康項目	ｶﾄﾞﾐｳﾑ, 全ｼｱﾝ, 鉛, 六価ｸﾛﾑ, 砒素, 総水銀, ｱﾙｷﾙ水銀, PCB, ｼﾞｸﾛﾛﾒﾀﾝ, 四塩化炭素, 1, 2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾀﾝ, 1, 1-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ, ｼｽ-1, 2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ, 1, 1, 1-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ, 1, 1, 2-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ, ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ, ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ, 1, 3-ｼﾞｸﾛﾛﾌﾟﾛﾍﾟﾝ,	基本監視点 (St.1, 3～7) 補助監視点 (St.12, 13)	8地点	2回/年	令和7年 8月 5日 令和8年 2月 5日
		ﾁｳﾗﾑ, ｼﾏｼﾞﾝ, ﾁｵﾍﾞﾝｶﾙﾌﾞ,[注3] ﾍﾞﾝｾﾞﾝ, ｾﾚﾝ, 硝酸性窒素 及び亜硝酸性窒素, ふっ素, 1, 4-ｼﾞｵｷｻﾝ, ｱﾝﾓﾆｱ等,	補助監視点 (St.8) 放流水 (St.11)	2地点	4回/年	令和7年 5月 8日 7月22日 8月 5日 11月11日 令和8年 2月 5日
		有機燐, ほう素				
		ｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ, 1, 2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	補助監視点 (St.12, 13)	2地点	2回/年	令和7年 8月 5日 令和8年 2月 5日
	ダイオキシン類		放流水(St.11) 補助監視点(内水)(St.8)	2地点	4回/年	令和7年 5月 8日 8月 5日 11月11日 令和8年 2月 5日
			補助監視点(St.12, 13)	2地点		

注：１.採水は表層（海面下１ｍ）及び底層（海底上２ｍ）で実施。
２.管理型排水処理施設放流水（St.11）の一部測定日は、濁度上昇や浸出水の直接処理実験により未放流。
３.補助監視点（内水）（St.８）及び放流水（St.11）の５月調査項目であるチラウム、シマジン、チオベンカルブについては、７月に調査を実施した。

１－２　調査方法

管理型排水処理施設放流水及び補助監視点(St.８)を除く各測定地点の環境監視調査は、小型の漁船等を調査船として使用し、午前中に実施した。なお、週調査、月調査、年４回調査及び年２回調査の測定及び採水はできるだけ日調査と同じ時間帯に実施した。

また、管理型排水処理施設放流水のCOD、pH等については、毎日24時間の連続測定を行った。

１－３　環境監視の結果

（１）　一般項目、生活環境項目１

一般項目	濁度、透明度、水温、SS（浮遊物質量)、ｸﾛﾛﾌｨﾙａ、FSS（不揮発性浮遊物質量)、塩分
生活環境項目１	COD（化学的酸素要求量)、DO（溶存酸素量)、pH（水素イオン濃度）

①　管理型排水処理施設放流水（St.11）

管理型排水処理施設放流水の日調査結果の概要は表２－１－２及び図２－１－１～図２－１－５に、週調査結果の概要は表２－１－３及び図２－１－６に、また、月調査結果の概要は表２－１－４に示すとおりである。

なお、排水処理装置の保守点検等により放流を停止した日や、水質自動測定器の点検整備を行った場合の日データは欠測とした。

〔日調査〕

＜濁度＞

濁度は<１～47度(ｶｵﾘﾝ)（年平均14度(ｶｵﾘﾝ)）で推移していた。

＜ＣＯＤ（化学的酸素要求量）＞

ＣＯＤは12～46mg/Ｌ（年平均27mg/Ｌ）で推移しており、放流水質の管理基準（60mg/Ｌ）を超えた日はなかった。

＜ＤＯ（溶存酸素量）＞

ＤＯは<0.5～13mg/Ｌ（年平均7.2mg/Ｌ）で推移していた。

＜ｐＨ(水素イオン濃度)＞

ｐＨは7.0～8.5で推移しており、放流水質の管理基準（5.0以上9.0以下）の範囲内であった。

〔週調査〕

＜ＳＳ（浮遊物質量）＞

ＳＳは<１～19mg/Ｌ（年平均６mg/Ｌ）で推移しており、放流水質の管理基準（50mg/Ｌ）を超えた日はなかった。

〔月調査〕

＜ＣＯＤ（化学的酸素要求量）＞

ＣＯＤは15～44mg/Ｌ（年平均26mg/Ｌ）で推移しており、放流水質の管理基準（60mg/Ｌ）を超えた日はなかった。

＜ｐＨ＞

ｐＨは7.7～8.3で推移しており、放流水質の管理基準（5.0以上9.0以下）の範囲内であった。

② 管理型区画内水（St.８）

管理型区画内水の週調査結果の概要は表２-１-５及び図２-１-７に、また、年４回調査結果の概要は表２-１-６に示すとおりである。

〔週調査〕

＜透明度＞

透明度は0.2～2.9m（年平均1.2m）で推移していた。

＜ＳＳ（浮遊物質量）＞

ＳＳは<１～19mg/Ｌ（年平均７mg/Ｌ）で推移していた。

＜ＣＯＤ（化学的酸素要求量）＞

ＣＯＤは8.7～56mg/Ｌ（年平均26mg/Ｌ）で推移していた。

＜ＤＯ（溶存酸素量）＞

ＤＯは<0.5～7.7mg/Ｌ（年平均4.8mg/Ｌ）で推移していた。

＜ｐＨ(水素イオン濃度)＞

ｐＨは7.4～8.4で推移していた。

〔年４回調査〕

＜ＦＳＳ（不揮発性浮遊物質量）＞

ＦＳＳは<１～３mg/Ｌ（年平均２mg/Ｌ）で推移していた。

③　安定型区画内水（St.９）

安定型区画内水（St.９）については、埋立ての進捗に伴って、内水が消滅したため、令和３年度をもって測定を終了した。

④　基本監視点（St.１,３～７）

基本監視点の月調査結果の概要は表２-１-７及び図２-１-８に示すとおりである。

〔月調査〕

＜濁度＞

濁度は、表層で<１～２度(ｶｵﾘﾝ)（年平均１度(ｶｵﾘﾝ)）で推移しており、底層では<１～７度(ｶｵﾘﾝ)（年平均２度(ｶｵﾘﾝ)）で推移していた。

＜ＦＳＳ（不揮発性浮遊物質量）＞

ＦＳＳは、表層で<１～２mg/Ｌ（年平均１mg/Ｌ）で推移しており、底層では<１～３mg/Ｌ（年平均１mg/Ｌ）で推移していた。

＜ＣＯＤ（化学的酸素要求量）＞

ＣＯＤは、表層で1.7～4.4mg/Ｌ（年平均2.8mg/Ｌ）で推移しており、底層では1.5～3.3mg/Ｌ（年平均2.1mg/Ｌ）で推移していた。

＜ＤＯ（溶存酸素量）＞

ＤＯは、表層で6.8～11mg/Ｌ（年平均8.9mg/Ｌ）で推移しており、底層では1.5～9.5mg/Ｌ（年平均6.7mg/Ｌ）で推移していた。

＜ｐＨ＞

ｐＨは、表層で8.0～8.6で推移しており、底層では7.8～8.3で推移していた。

⑤　補助監視点（St.12～13）

補助監視点の月調査結果の概要は表２－１－８に示すとおりである。

〔月調査〕

＜濁度＞

濁度は、表層で<１～２度(ｶｵﾘﾝ)（年平均１度(ｶｵﾘﾝ)）で推移しており、底層では１～４度(ｶｵﾘﾝ)（年平均２度(ｶｵﾘﾝ)）で推移していた。

＜ＦＳＳ（不揮発性浮遊物質量）＞

ＦＳＳは、表層で<１～２mg/Ｌ（年平均１mg/Ｌ)、底層では<１～３mg/Ｌ（年平均２mg/Ｌ）で推移していた。

＜ＣＯＤ（化学的酸素要求量）＞

ＣＯＤは、表層で1.5～4.6mg/Ｌ（年平均2.7mg/Ｌ）で推移しており、底層では1.4～3.1mg/Ｌ（年平均2.2mg/Ｌ）で推移していた。

＜ＤＯ（溶存酸素量）＞

ＤＯは、表層で5.8～12mg/Ｌ（年平均8.7mg/Ｌ）で推移しており、底層では1.7～9.5mg/Ｌ（年平均6.4mg/Ｌ）で推移していた。

＜ｐＨ(水素イオン濃度)＞

ｐＨは、表層で8.0～8.5で推移しており、底層では7.8～8.2で推移していた。

なお、一般項目及び生活環境項目の監視点ごとの概要は表２－１－９に、ＦＳＳの監視点ごとの最大値、最小値、平均値は表２－１-10に、その水平分布は図２－１－９に、また、ＣＯＤの監視点ごとの最大値、最小値、平均値は表２－１-11に、その水平分布は図２－１-10に示すとおりである。

（２）　生活環境項目２、特殊項目、健康項目

生活環境項目２	全窒素、全燐、大腸菌数、ﾉﾙﾏﾙﾍｷｻﾝ抽出物質
特　殊　項　目	ﾌｪﾉｰﾙ類、銅、亜鉛、総ｸﾛﾑ、溶解性鉄、溶解性ﾏﾝｶﾞﾝ、 硝酸性窒素、亜硝酸性窒素
健　康　項　目	ｶﾄﾞﾐｳﾑ、全ｼｱﾝ、有機燐、鉛、六価ｸﾛﾑ、砒素、総水銀、 ｱﾙｷﾙ水銀、PCB 、ｼﾞｸﾛﾛﾒﾀﾝ、四塩化炭素、 1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾀﾝ、1,1-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ、ｼｽ-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ、 1,1,1-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ、1,1,2-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ、ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ、 ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ、1,3-ｼﾞｸﾛﾛﾌﾟﾛﾍﾟﾝ、チウラム、シマジン、 チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素、アンモニア等、 1,4-ｼﾞｵｷｻﾝ、ｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ、1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ （有機燐及びほう素については、管理型区画内水(St.8)及び 管理型排水処理施設放流水(St.11)のみ測定、 ｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ及び1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝはSt.12,13のみ測定）

①　管理型排水処理施設放流水（St.11）

管理型排水処理施設放流水の週調査結果の概要は表２－１－３及び図２－１－６に、年４回調査結果の概要は表２－１-12～表２－１-14に示すとおりである。なお、放流水の管理基準は全て適合していた。

〔週調査〕

＜生活環境項目２＞

全窒素は14～44 mg/Ｌ（年平均30mg/Ｌ）で推移していた。

〔年４回調査〕

＜生活環境項目２＞

全燐は0.021～0.12mg/Ｌ（年平均0.054mg/Ｌ）であった。

大腸菌数は全測定日で報告下限値未満（＜１CFU/mL)、ノルマルヘキサン抽出物質は全測定日で報告下限値未満（<0.5mg/Ｌ）であった。

＜特殊項目＞

フェノール類は<0.01～0.05mg/Ｌ（年平均0.02mg/Ｌ）、銅は<0.005～0.032mg/Ｌ（年平均0.012mg/Ｌ）、亜鉛は<0.005～0.036mg/Ｌ（年平均0.015mg/Ｌ）、溶解性マンガンは0.01～0.29mg/Ｌ（年平均0.13mg/Ｌ)、亜硝酸性窒素は<0.04mg/Ｌ～0.04mg/Ｌ（年平均0.04mg/Ｌ）で、その他の項目については、いずれも全測定日で報告下限値未満であった。

＜健康項目(排水基準)＞

砒素は<0.005～0.007mg/Ｌ（年平均0.006mg/Ｌ)、ほう素は1.2～2.0mg/Ｌ（年平均1.5mg/Ｌ)、ふっ素は1.5～1.8mg/Ｌ（年平均1.6mg/Ｌ)、アンモニア等は9.6～15mg/Ｌ（年平均12mg/Ｌ）で、その他の項目については、いずれも全測定日で報告下限値未満であった。

② 管理型区画内水（St.８）

管理型区画内水の年４回調査の概要は表２-１-15～表２-１-17に示すとおりである。

〔週調査〕

＜生活環境項目２＞

全窒素は13～44mg/Ｌ（年平均31mg/Ｌ）であった。

〔年４回調査〕

＜生活環境項目２＞

全燐は0.022～0.12mg/Ｌ（年平均0.052mg/Ｌ)、大腸菌数は全測定日で報告下限値未満（＜１CFU/mL)、ノルマルヘキサン抽出物質は全測定日で報告下限値未満（<0.5mg/Ｌ）であった。

＜特殊項目＞

フェノール類は<0.01～0.04mg/Ｌ（年平均0.02mg/Ｌ)、銅は<0.005～0.030mg/Ｌ（年平均0.011mg/Ｌ）で、亜鉛は<0.005～0.024mg/Ｌ（年平均0.012mg/Ｌ）で、溶解性マンガンは0.01～0.30mg/Ｌ（年平均0.13mg/Ｌ）で、硝酸性窒素は<0.04～0.09mg/Ｌ（年平均0.05mg/Ｌ）で、その他の項目については、いずれも全測定日で報告下限値未満であった。

＜健康項目(排水基準)＞

砒素は<0.005～0.007mg/Ｌ（年平均0.006mg/Ｌ)、ほう素は1.1～2.0mg/Ｌ（年平均1.4mg/Ｌ)、ふっ素は1.5～1.8mg/Ｌ（年平均1.6mg/Ｌ）、アンモニア等は9.6～15mg/Ｌ（年平均12mg/Ｌ）で、その他の項目については、いずれも報告下限値未満であった。

③ 安定型区画内水（St.９）

安定型区画内水（St.９）については、埋立ての進捗に伴って、内水が消滅したた

め、令和３年度をもって測定を終了した。

④　基本監視点（St.１,３～７）

基本監視点の年４回調査結果の概要は表２-１-18、表２-１-19に、年２回調査結果の概要は表２-１-20に示すとおりである。

〔年４回調査〕

＜生活環境項目２＞

全窒素は表層で0.23～0.65mg/Ｌ（年平均0.39mg/Ｌ）、底層では0.17～0.53mg/Ｌ（年平均0.33mg/Ｌ）、全燐は表層で0.022～0.082mg/Ｌ（年平均0.046mg/Ｌ）、底層では0.022～0.067mg/Ｌ（年平均0.041mg/Ｌ）であった。

大腸菌数は<１～33CFU/100mL（年平均９CFU/100mL)、で、ノルマルヘキサン抽出物質は全測定日で報告下限値未満（<0.5mg/Ｌ）であった。

＜特殊項目＞

銅は表層で<0.001～0.003mg/Ｌ（年平均0.001mg/Ｌ）、底層では全測定日で報告下限値未満（<0.001mg/Ｌ）、亜鉛は表層で0.002～0.005mg/Ｌ（年平均0.003mg/Ｌ）、底層では0.001～0.004mg/Ｌ（年平均0.002mg/Ｌ）、溶解性鉄は表層及び底層ともに<0.01～0.02mg/Ｌ（年平均0.01mg/Ｌ）、硝酸性窒素は表層で<0.04～0.14mg/Ｌ（年平均0.07mg/Ｌ)、底層では<0.04～0.08mg/Ｌ（年平均0.05mg/Ｌ）、亜硝酸性窒素は表層で<0.005～0.033mg/Ｌ（年平均0.013mg/Ｌ)、底層では<0.005～0.032mg/Ｌ（年平均0.012mg/Ｌ）で、その他の項目については、いずれも全測定日で報告下限値未満であった。

〔年２回調査〕

＜健康項目＞

砒素は0.003～0.004mg/Ｌ（年平均0.003mg/Ｌ)、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素は<0.045～0.15mg/Ｌ（年平均0.078mg/Ｌ)、ふっ素は0.71～1.0mg/Ｌ（年平均0.88mg/Ｌ）、アンモニア等は<0.01～0.17mg/Ｌ（年平均0.07mg/Ｌ）で、その他の項目については、いずれも全測定日で報告下限値未満であった。

⑤　補助監視点（St.12～13）

補助監視点の年４回調査結果の概要は表２－１-21、表２－１-22に、年２回調査結果の概要は表２－１-23に示すとおりである。

〔年４回調査〕

＜生活環境項目２＞

全窒素は表層で0.27～0.62mg/Ｌ（年平均0.45mg/Ｌ）、底層では0.20～0.49mg/Ｌ（年平均0.34mg/Ｌ）、全燐は表層で0.028～0.072mg/Ｌ（年平均0.046mg/Ｌ）、底層では0.024～0.074mg/Ｌ（年平均0.042mg/Ｌ）であった。

大腸菌数は<１～27CFU/100mL（年平均10CFU/100mL）で、ノルマルヘキサン抽出物質は全測定日で報告下限値未満であった。

＜特殊項目＞

銅は表層及び底層ともに<0.001～0.002mg/Ｌ（年平均0.001mg/Ｌ）、亜鉛は表層で0.003～0.016mg/Ｌ（年平均0.008mg/Ｌ）、底層では0.002～0.009mg/Ｌ（年平均0.005mg/Ｌ）、溶解性鉄は表層で<0.01～0.02mg/Ｌ（年平均0.02mg/Ｌ）、底層では<0.01～0.02mg/Ｌ（年平均0.01mg/Ｌ）、硝酸性窒素は表層で<0.04～0.17mg/Ｌ（年平均0.09mg/Ｌ）、底層では<0.04～0.09mg/Ｌ（年平均0.06mg/Ｌ）、亜硝酸性窒素は表層で<0.005～0.026mg/Ｌ（年平均0.012mg/Ｌ）、底層では<0.005～0.029mg/Ｌ（年平均0.012mg/Ｌ）で、その他の項目については、いずれも全測定日で報告下限値未満であった。

〔年２回調査〕

＜健康項目＞

砒素は表層で0.002～0.004mg/Ｌ（年平均0.004mg/Ｌ）、底層では0.003～0.004mg/Ｌ（年平均0.004mg/Ｌ）、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素は表層で0.045～0.12mg/Ｌ（年平均0.072mg/Ｌ）、底層では<0.045～0.053mg/Ｌ（年平均0.047mg/Ｌ）、ふっ素は表層で0.78～1.0mg/Ｌ（年平均0.90mg/Ｌ）、底層では0.88～1.0mg/Ｌ（年平均0.96mg/Ｌ）、アンモニア等は表層で0.06～0.13mg/Ｌ（年平均0.09mg/Ｌ）、底層では0.03～0.06mg/Ｌ（年平均0.05mg/Ｌ）で、その他の項目については、いずれも全測定日で報告下限値未満であった。

（３）　ダイオキシン類

①　管理型排水処理施設放流水（St.11）

管理型排水処理施設放流水の年４回調査結果の概要は表２－１-24に示すとおりである。

〔年４回調査〕

ダイオキシン類は0.00015～0.064pg-TEQ/L（年平均0.018pg-TEQ/L）であり、管理基準値(10pg-TEQ/L)以下であった。なお、ＳＳは１～11mg/Ｌ（年平均４mg/Ｌ）であった。

②　管理型区画内水（St.８）

管理型区画内水の年４回調査結果の概要は表２－１-25に示すとおりである。

〔年４回調査〕

ダイオキシン類は0.00037～0.077pg-TEQ/L（年平均0.028pg-TEQ/L）であった。なお、ＳＳは<１～16mg/Ｌ（年平均６mg/Ｌ）であった。

③　補助監視点（St.12～13）

補助監視点の年４回調査の結果の概要は表２－１-26に示すとおりである。

〔年４回調査〕

ダイオキシン類は0.047～0.17pg-TEQ/L（年平均0.088pg-TEQ/L）であった。なお、ＳＳは２～４mg/Ｌ（年平均３mg/Ｌ）であった。

表２－１－２　管理型排水処理施設放流水(St.11)の水質測定結果[日調査]

測定項目 / 年月	濁度（度(ｶｵﾘﾝ)）		水温（℃）		ＣＯＤ（mg/Ｌ）		ＤＯ（mg/Ｌ）		ｐＨ（－）	
	最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	平均値
令和７年４月	<1 ～ 20	7	11.8 ～ 20.1	16.0	12 ～ 32	21	2.1 ～ 11	7.9	7.6 ～ 8.1	－
令和７年５月	<1 ～ 4	1	18.2 ～ 25.4	21.0	18 ～ 20	19	6.1 ～ 12	7.5	7.7 ～ 8.5	－
令和７年６月	1 ～ 4	2	20.6 ～ 30.0	25.7	13 ～ 22	18	6.1 ～ 7.9	7.1	7.9 ～ 8.5	－
令和７年７月	1 ～ 4	2	27.5 ～ 32.2	31.1	18 ～ 22	19	5.7 ～ 8.3	6.4	8.0 ～ 8.5	－
令和７年８月	<1 ～ 4	2	27.6 ～ 32.1	30.8	20 ～ 23	21	<0.5 ～ 7.7	6.1	7.5 ～ 8.3	－
令和７年９月	<1 ～ 3	1	24.7 ～ 31.9	28.7	18 ～ 24	20	<0.5 ～ 7.2	6.0	7.3 ～ 7.9	－
令和７年10月	1 ～ 46	7	14.7 ～ 27.3	22.0	19 ～ 27	22	3.1 ～ 13	6.6	7.3 ～ 8.1	－
令和７年11月[注1]	8 ～ 47	16	13.0 ～ 19.2	15.2	21 ～ 42	30	<0.5 ～ 7.3	4.4	7.0 ～ 8.2	－
令和７年12月[注2]	25 ～ 39	34	11.5 ～ 15.0	14.0	33 ～ 35	34	3.8 ～ 8.6	6.2	7.4 ～ 7.6	－
令和８年１月[注2]	33 ～ 41	36	4.6 ～ 10.1	7.2	36 ～ 46	44	8.7 ～ 11	9.6	7.7 ～ 7.9	－
令和８年２月	26 ～ 38	32	5.6 ～ 11.8	7.6	37 ～ 46	42	8.8 ～ 11	9.7	7.8 ～ 8.2	－
令和８年３月	19 ～ 28	24	8.1 ～ 15.5	10.7	16 ～ 38	34	3.1 ～ 9.7	8.7	7.5 ～ 7.9	－
令和７年４月～令和８年３月	<1 ～ 47	14	4.6 ～ 32.2	19.2	12 ～ 46	27	<0.5 ～ 13	7.2	7.0 ～ 8.5	－

注：１.11月17日（月）～18日（火）は、濁度上昇により放流停止。
　　２.12月４日（木）～１月８日（木）は、濁度上昇により放流停止。
　　３．２月11日（水）～25日（水）は、浸出水の直接処理実験により未放流。

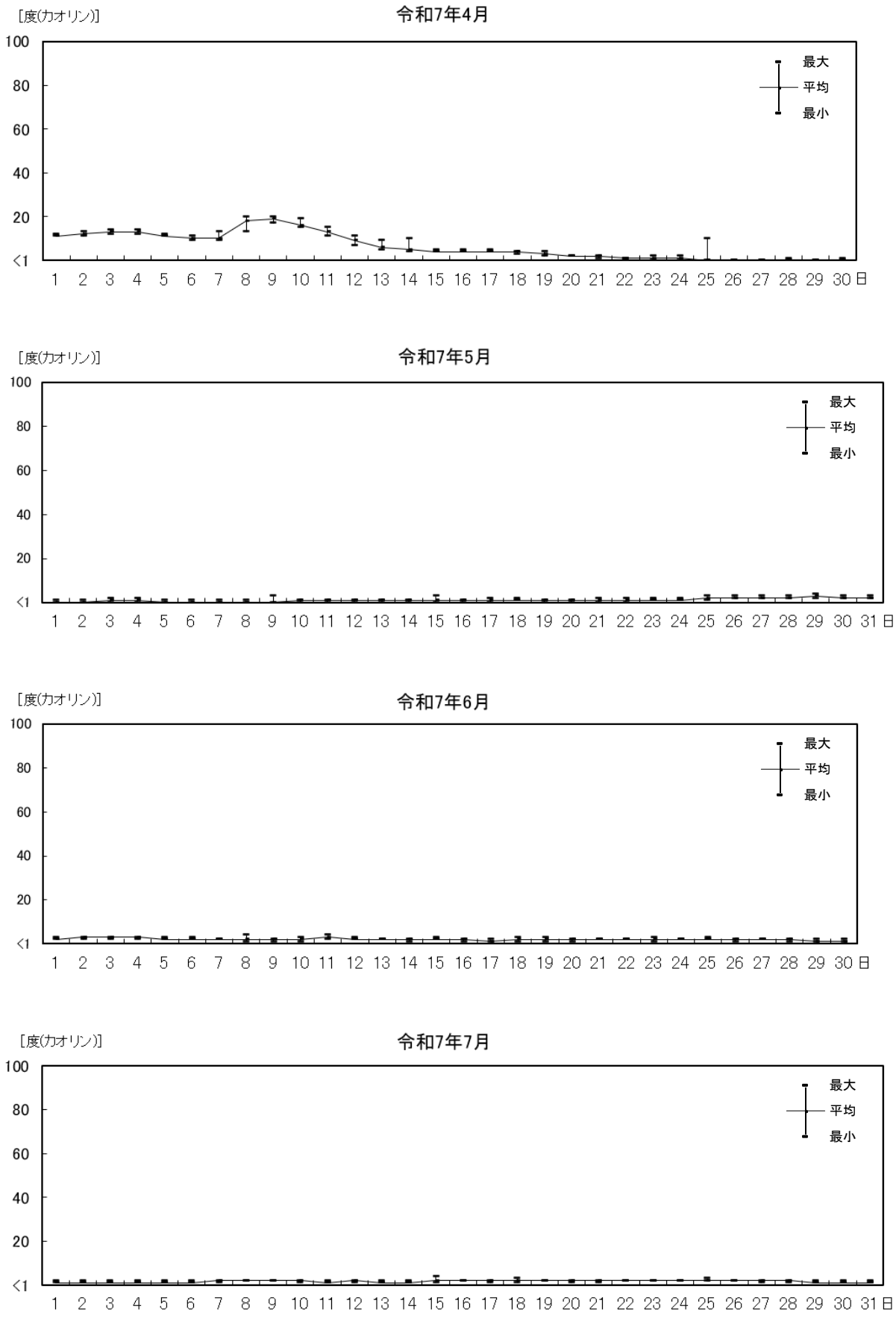
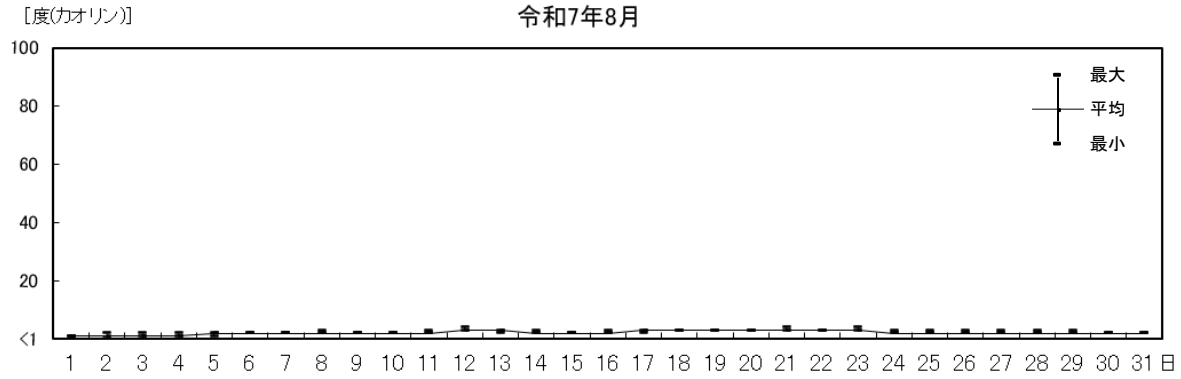
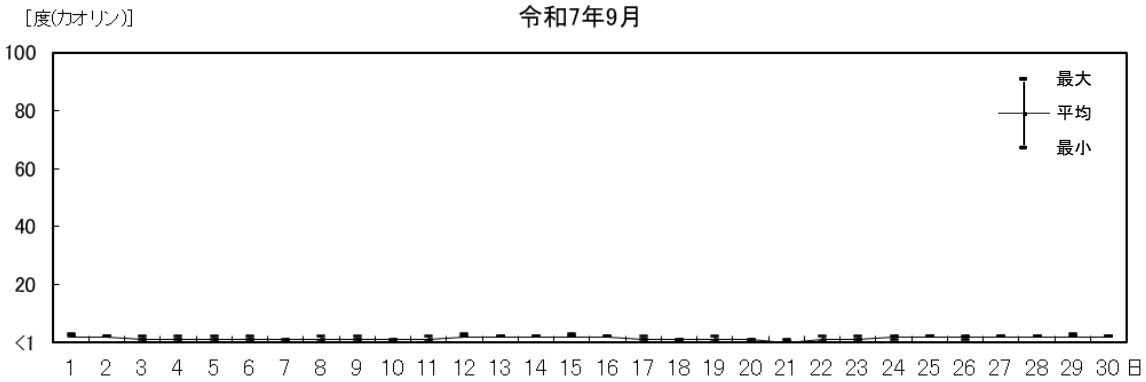
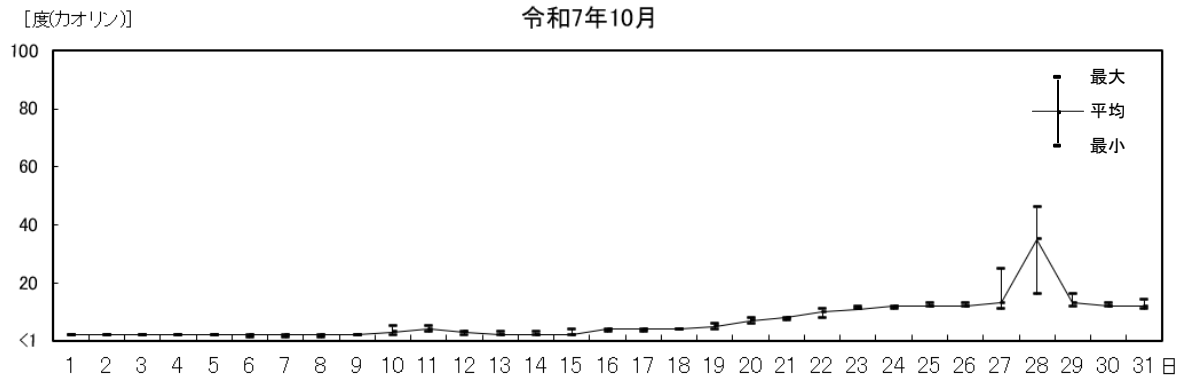


図２－１－１（１） 濁度の経時変化（管理型排水処理施設放流水(St.11)）







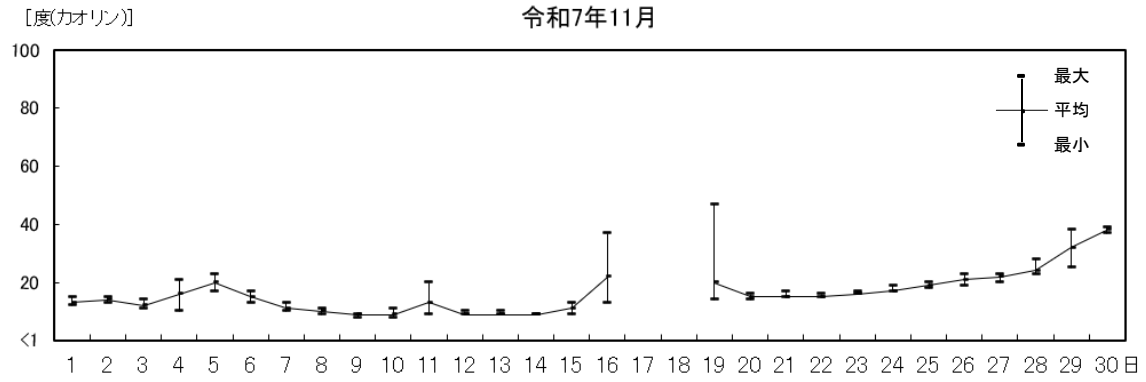
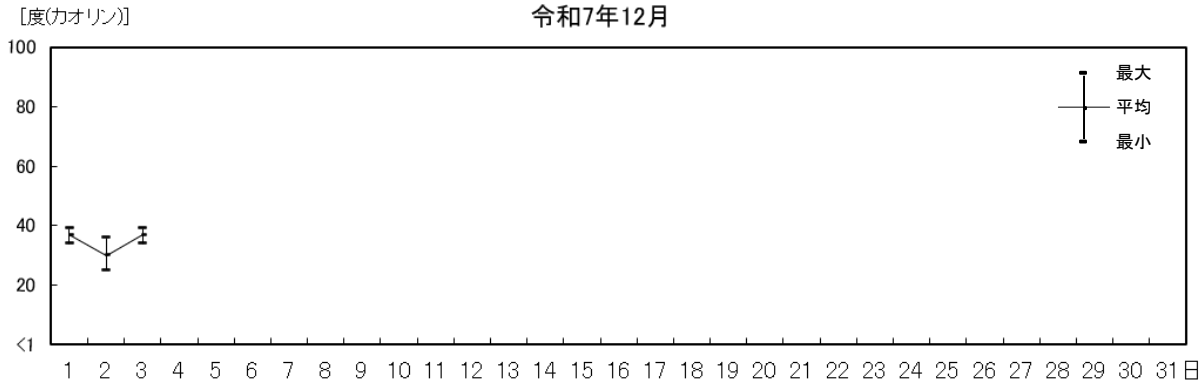
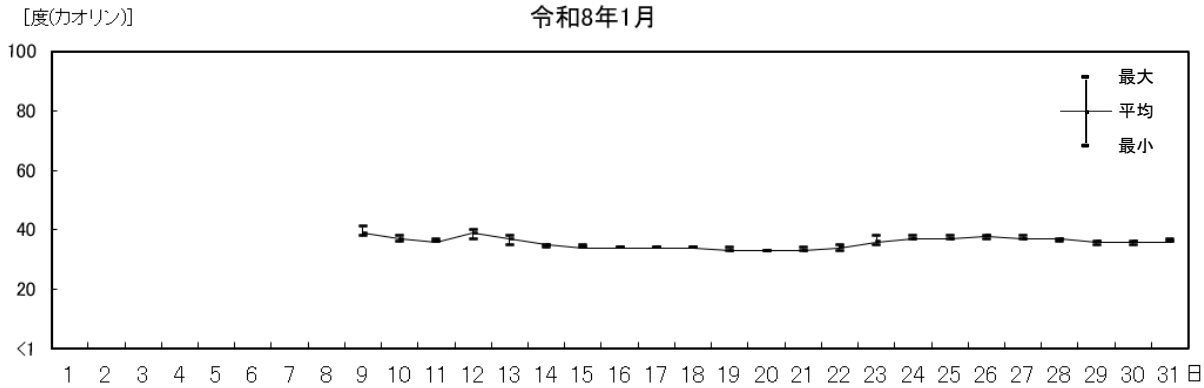
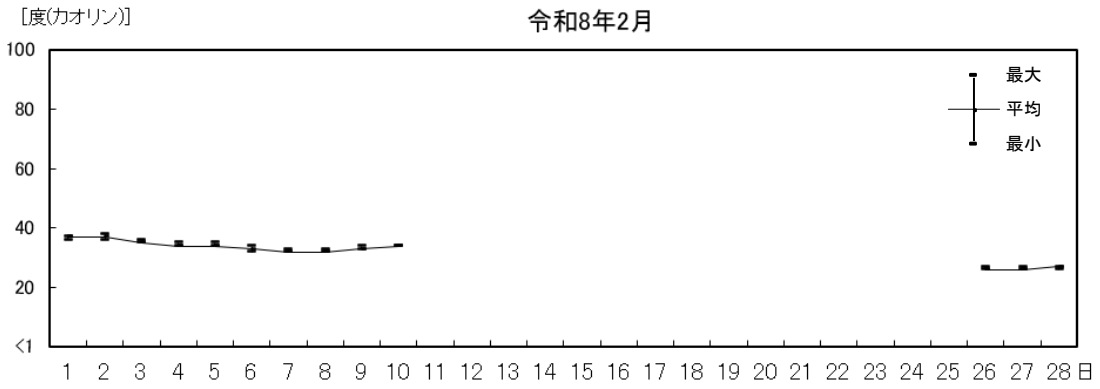


図２－１－１（２） 濁度の経時変化（管理型排水処理施設放流水(St.11)）







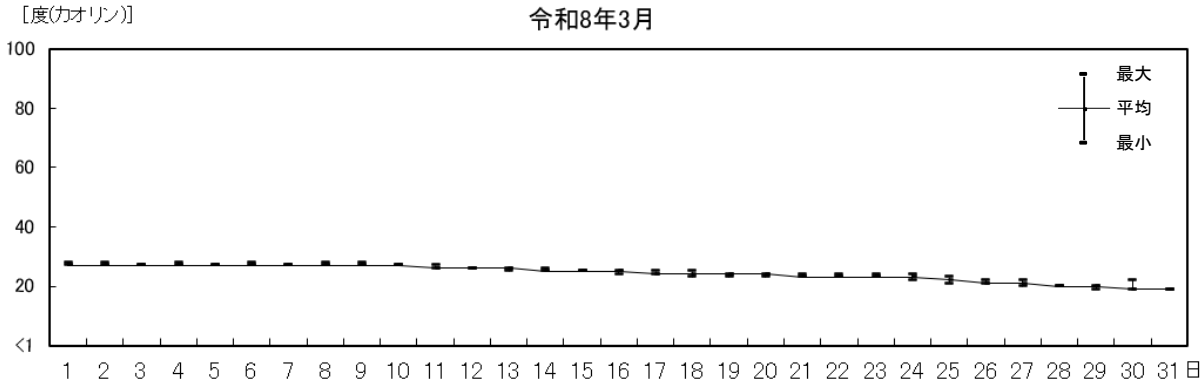
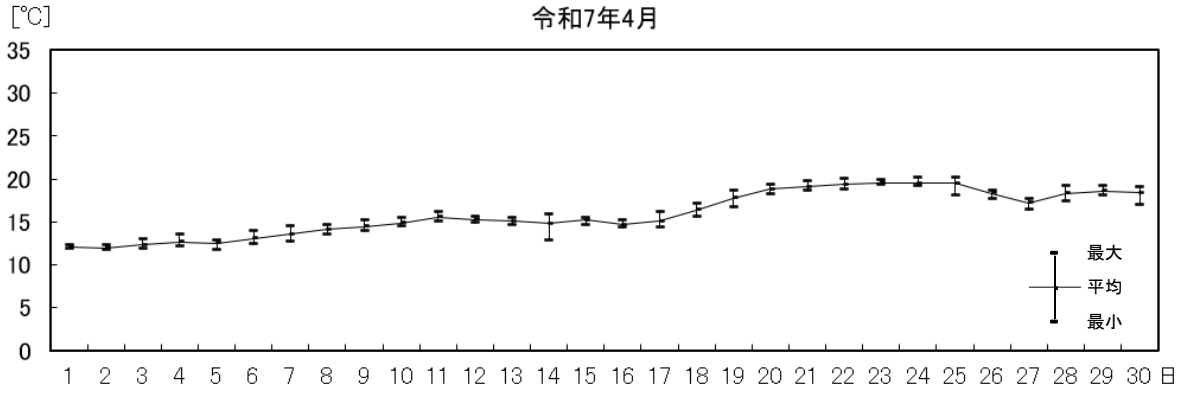
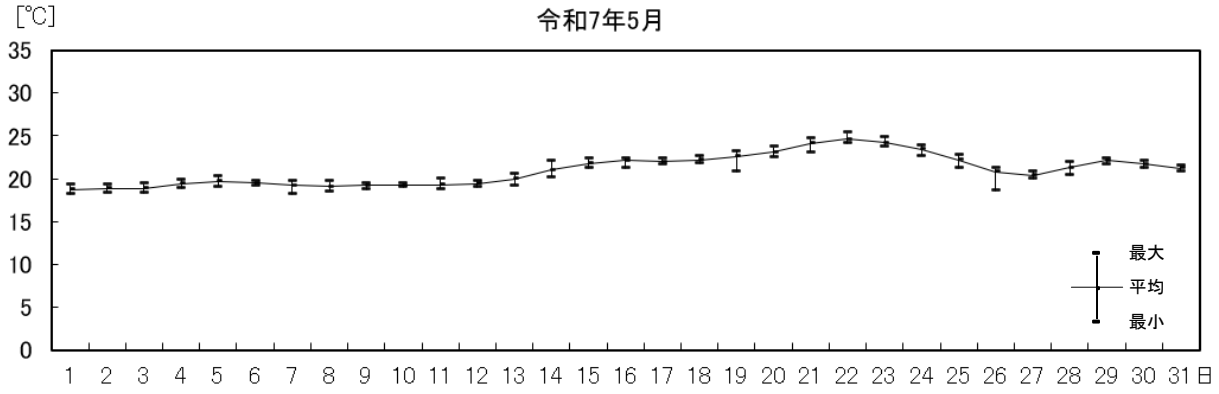
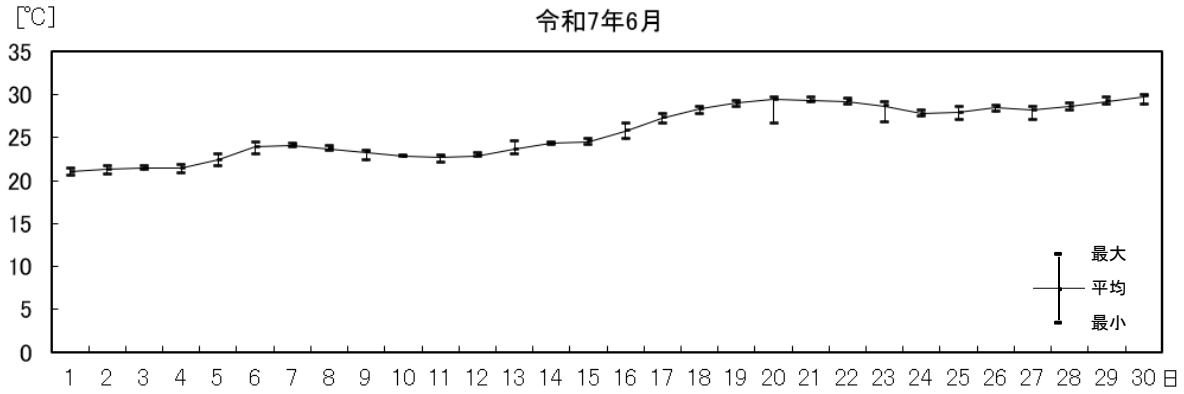


図２－１－１（３） 濁度の経時変化（管理型排水処理施設放流水(St.11)）







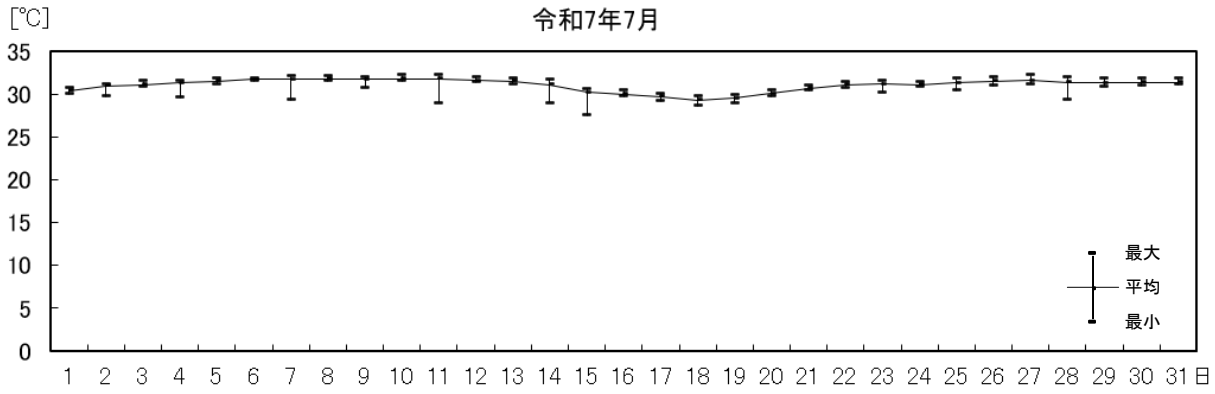
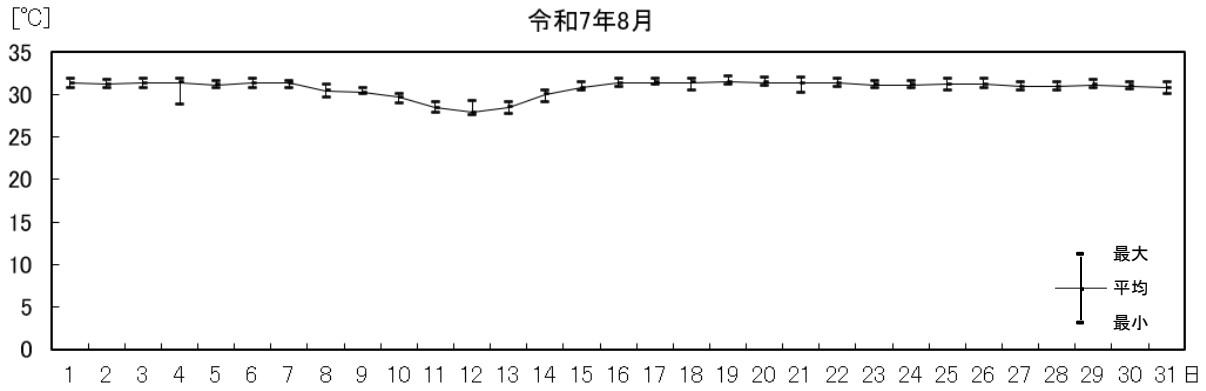
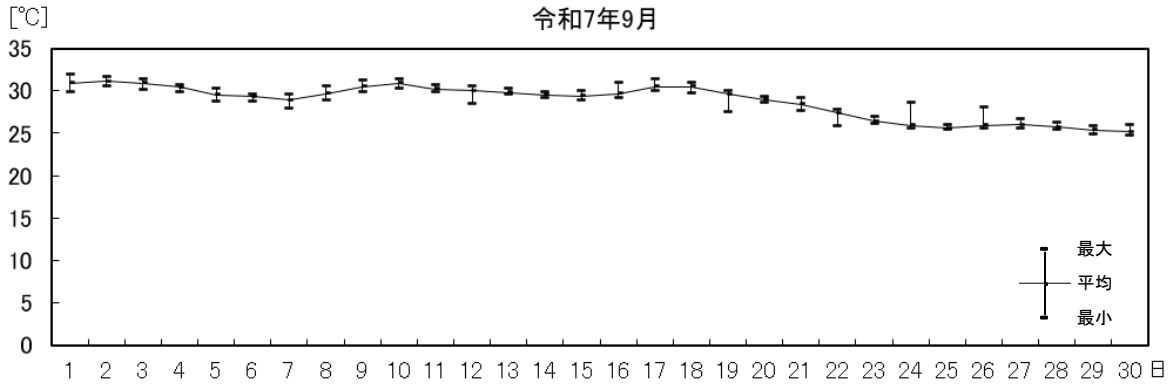
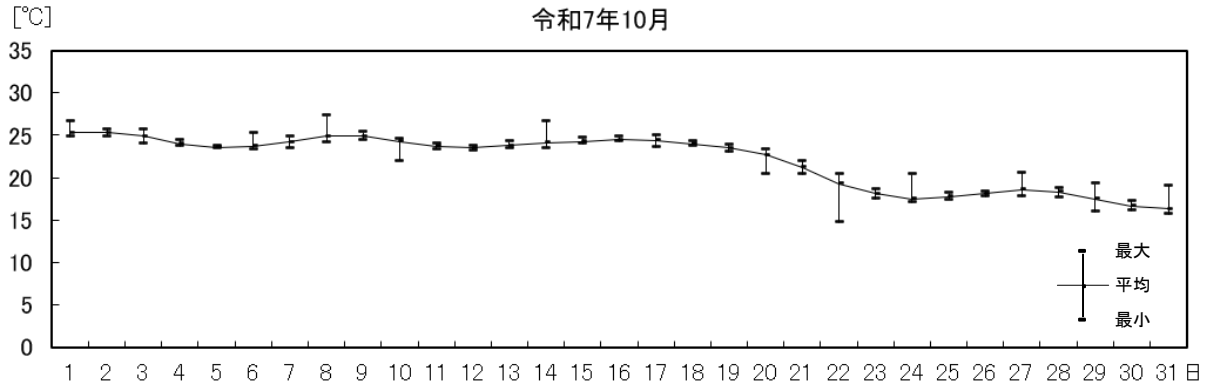


図２－１－２（１） 水温の経時変化（管理型排水処理施設放流水(St.11)）







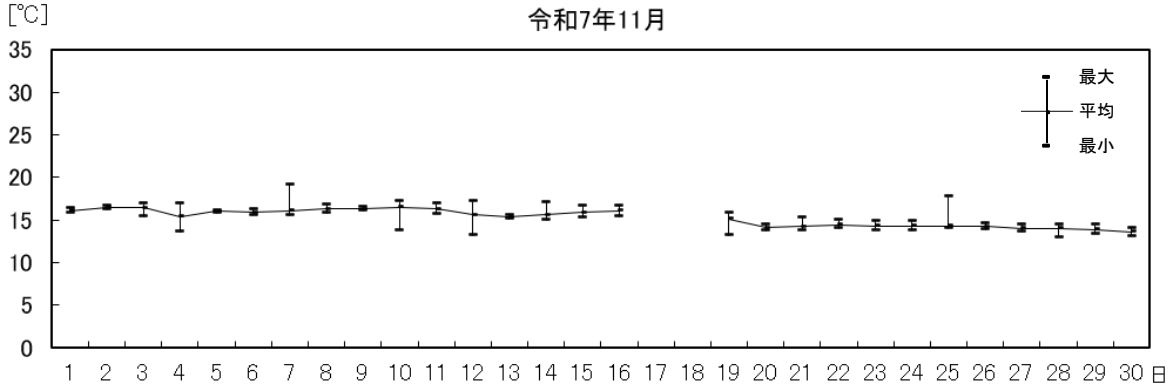
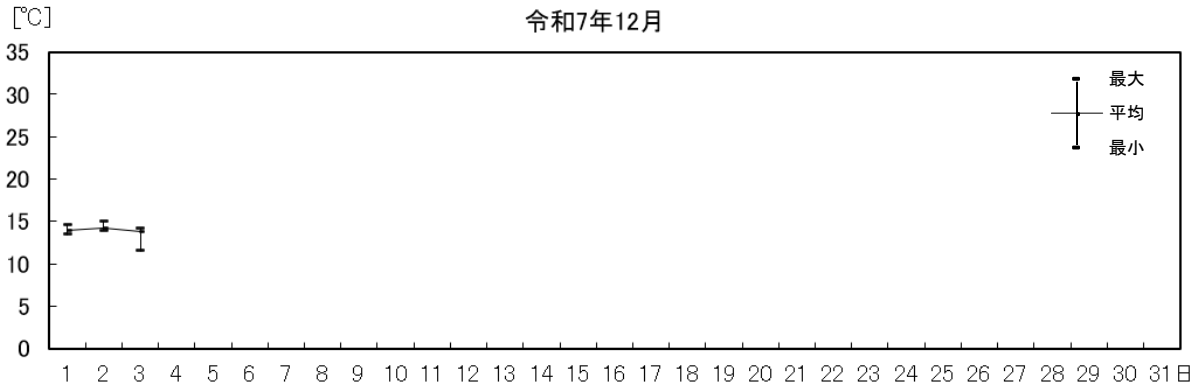
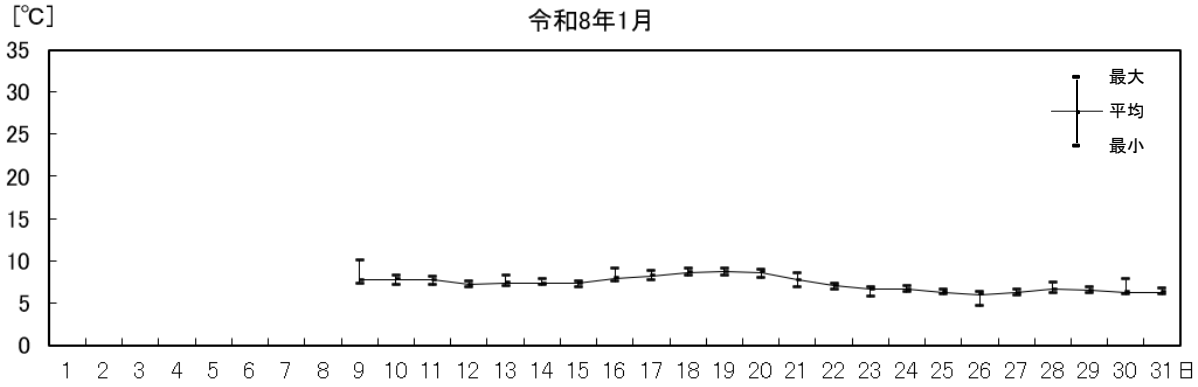
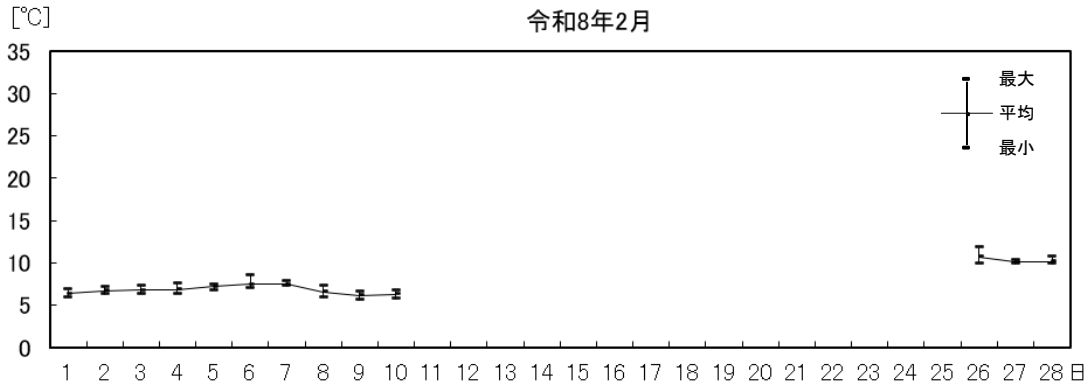


図２－１－２（２） 水温の経時変化（管理型排水処理施設放流水(St.11)）







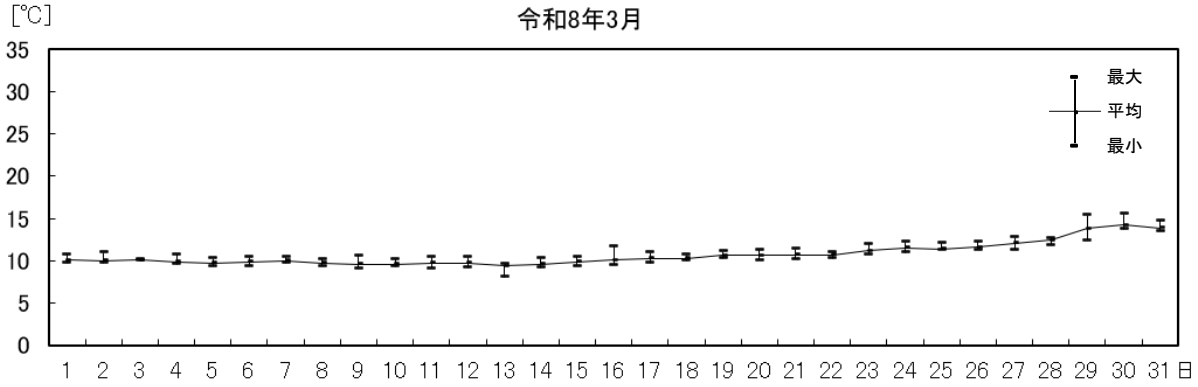
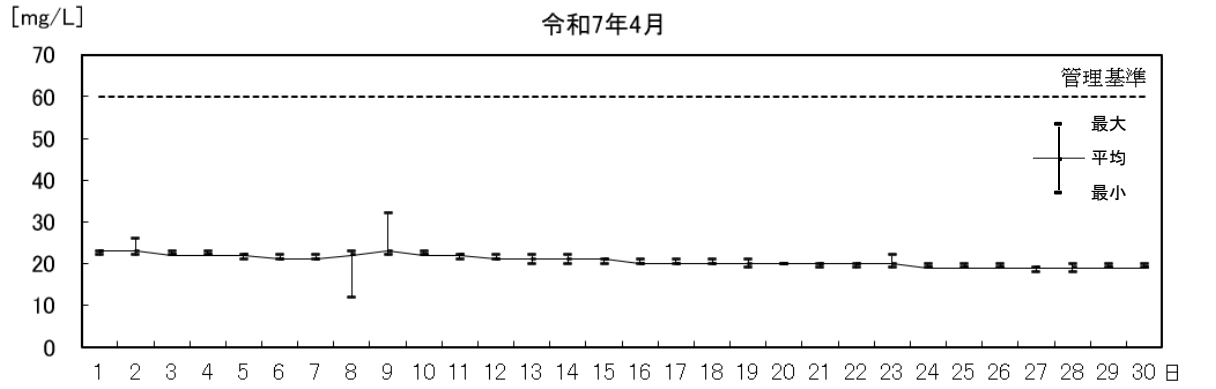
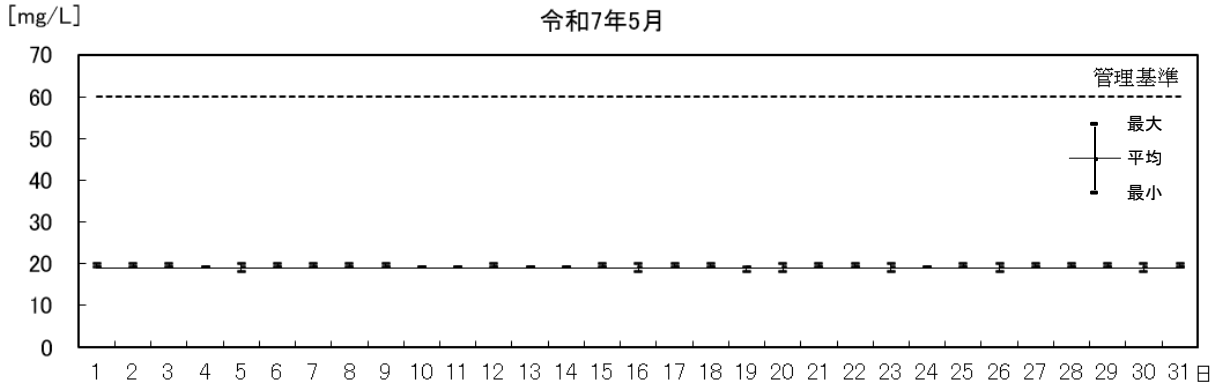
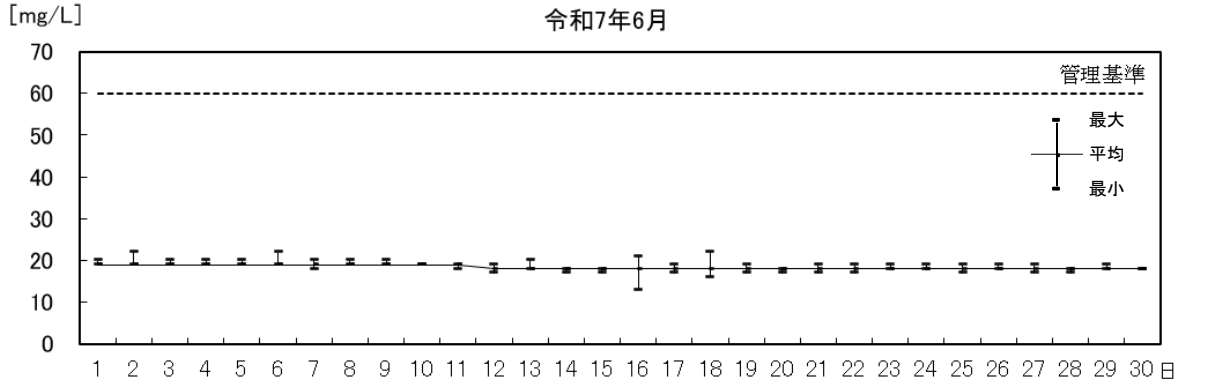


図２－１－２（３） 水温の経時変化（管理型排水処理施設放流水(St.11)）







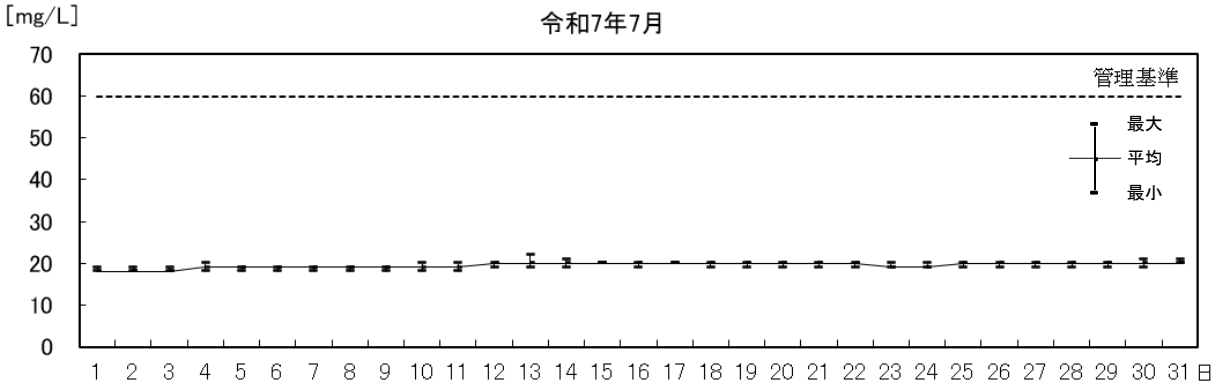
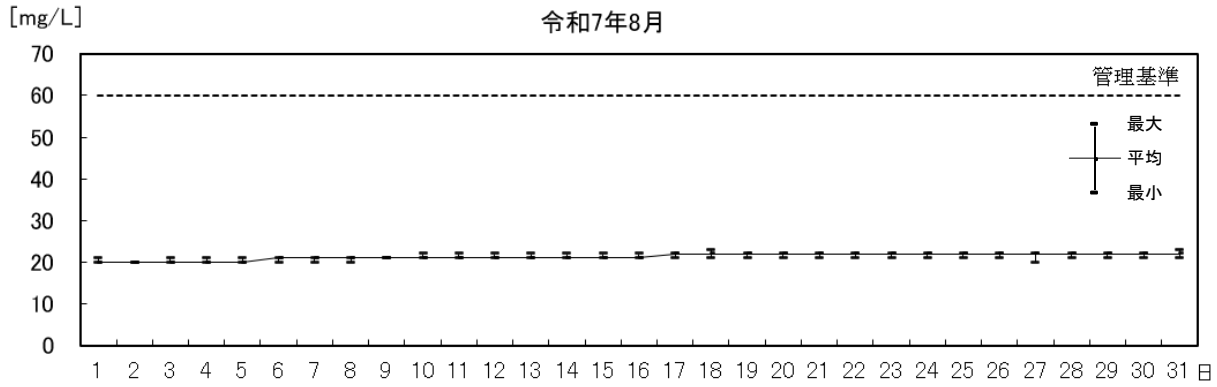
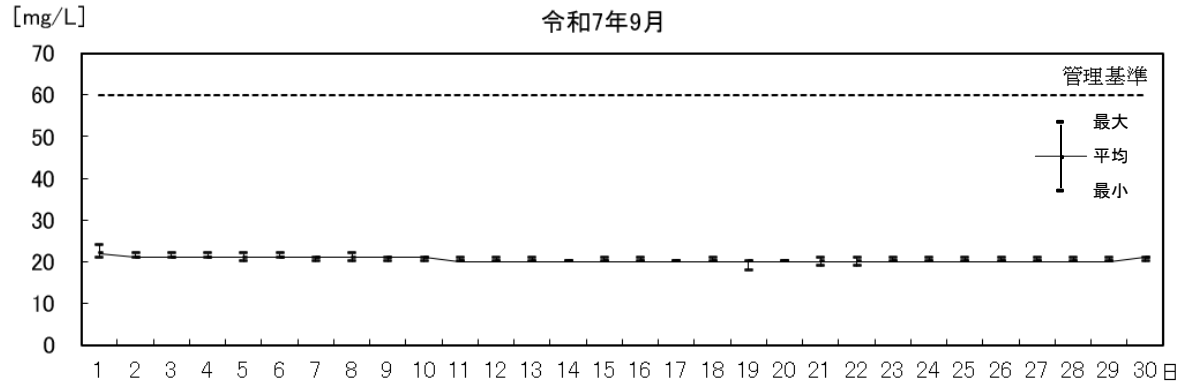
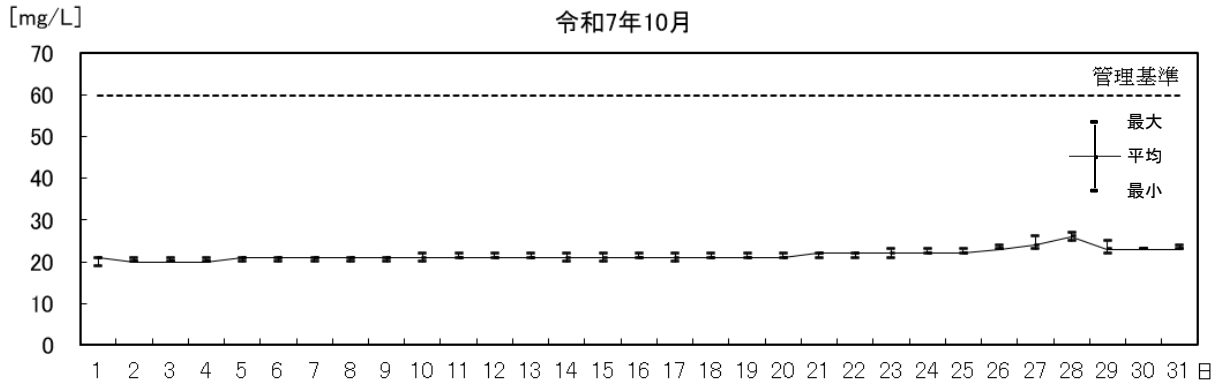


図２－１－３（１）　ＣＯＤの経時変化（管理型排水処理施設放流水(St.11)）







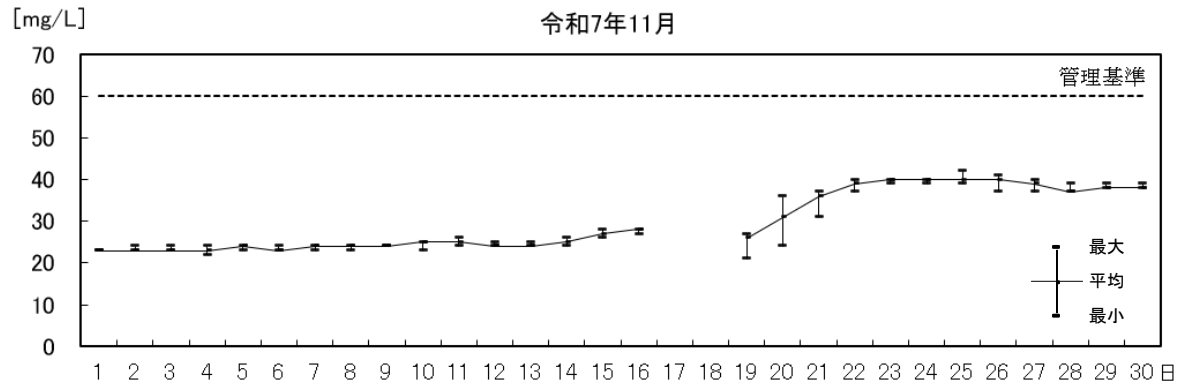
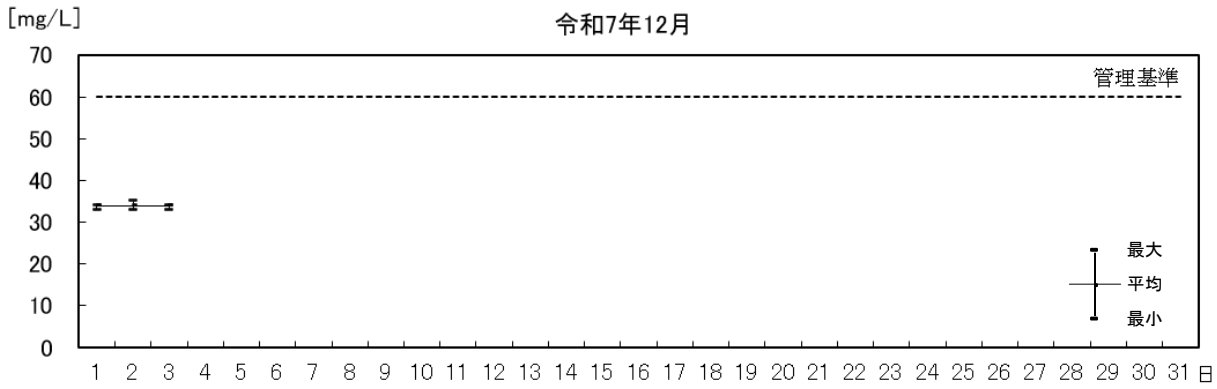
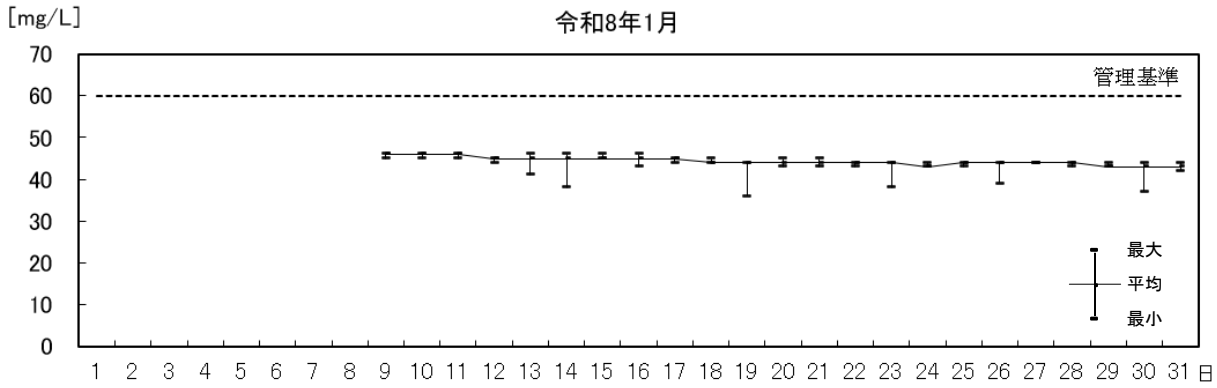
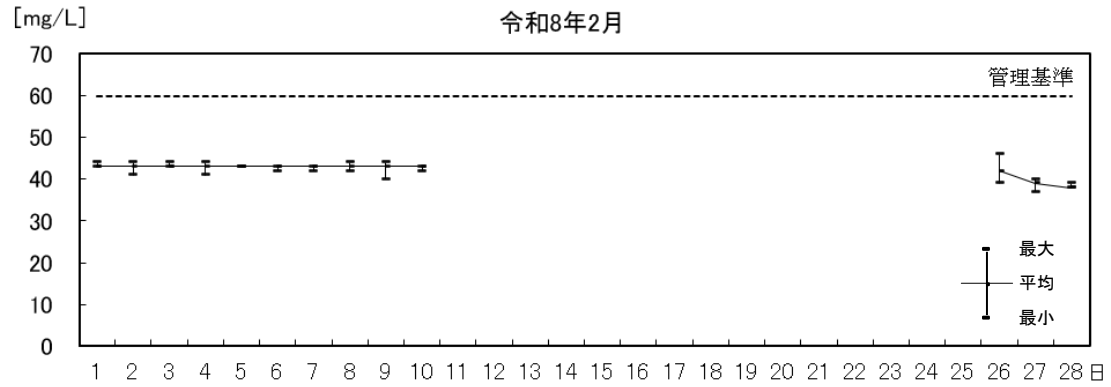


図２－１－３（２）　ＣＯＤの経時変化（管理型排水処理施設放流水(St.11)）







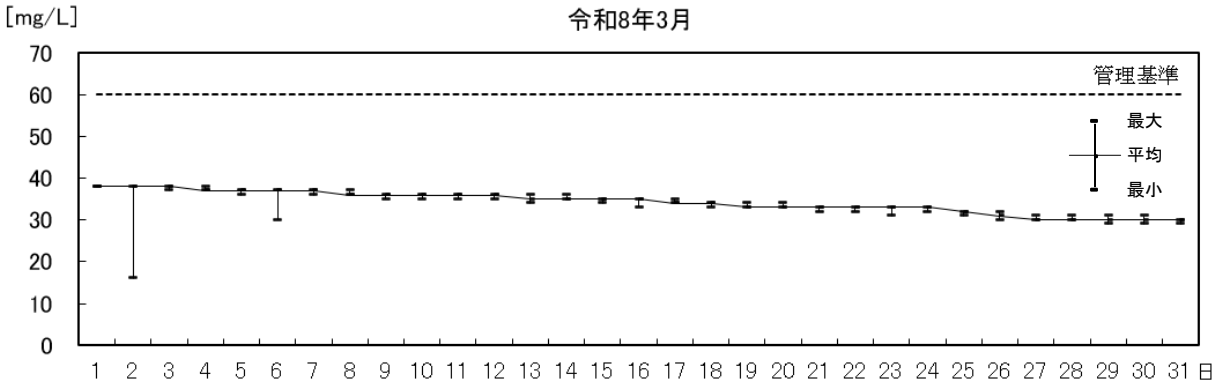
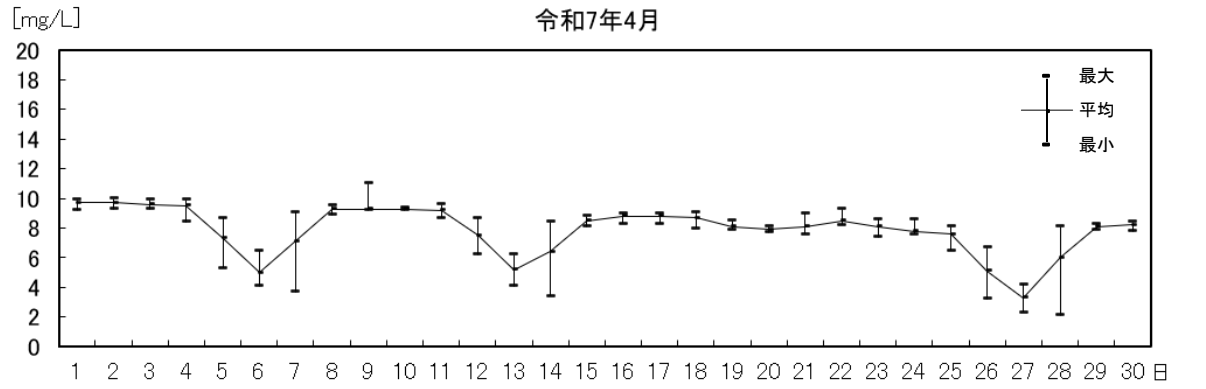
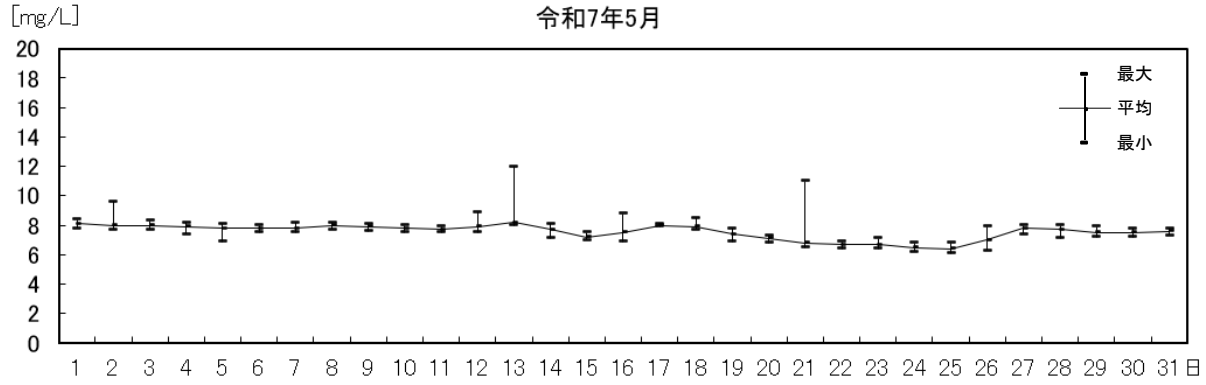
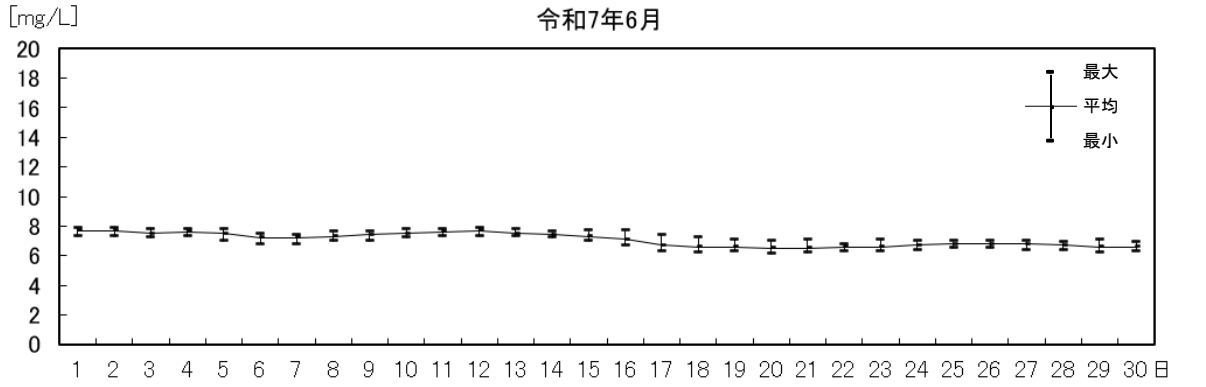


図２－１－３（３）　ＣＯＤの経時変化（管理型排水処理施設放流水(St.11)）







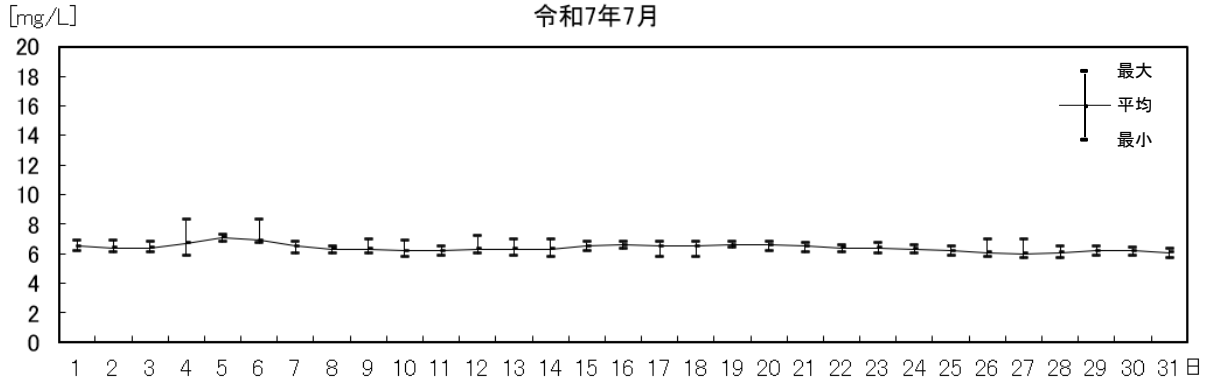
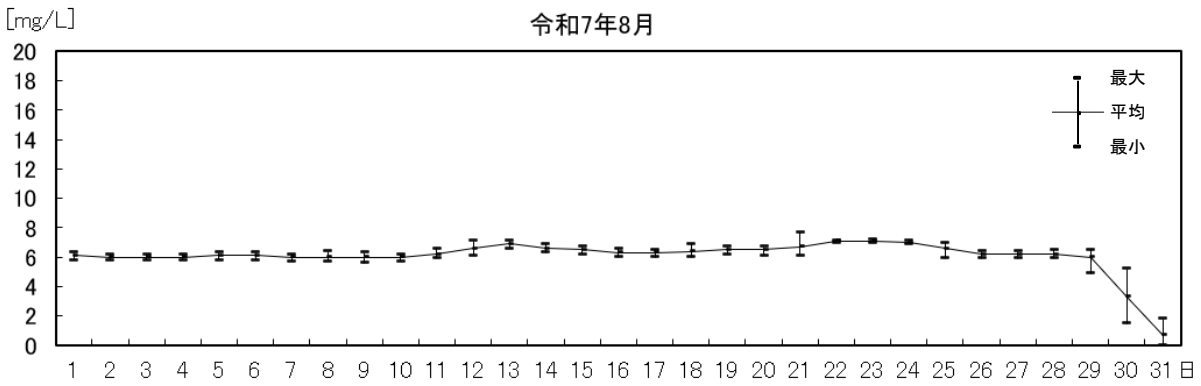
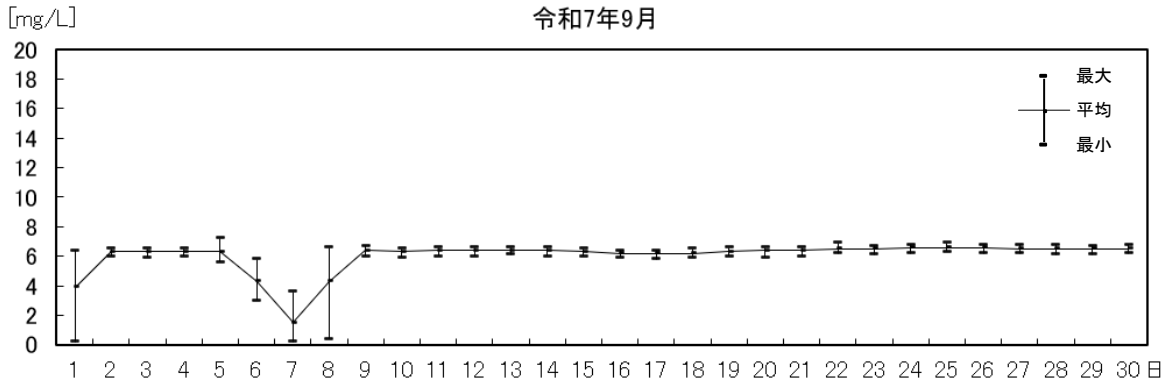
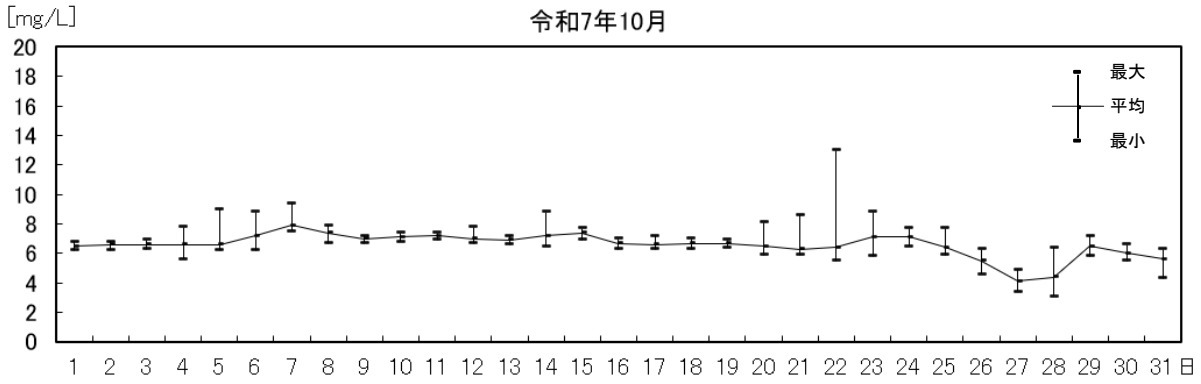


図２－１－４（１）　ＤＯの経時変化（管理型排水処理施設放流水(St.11)）







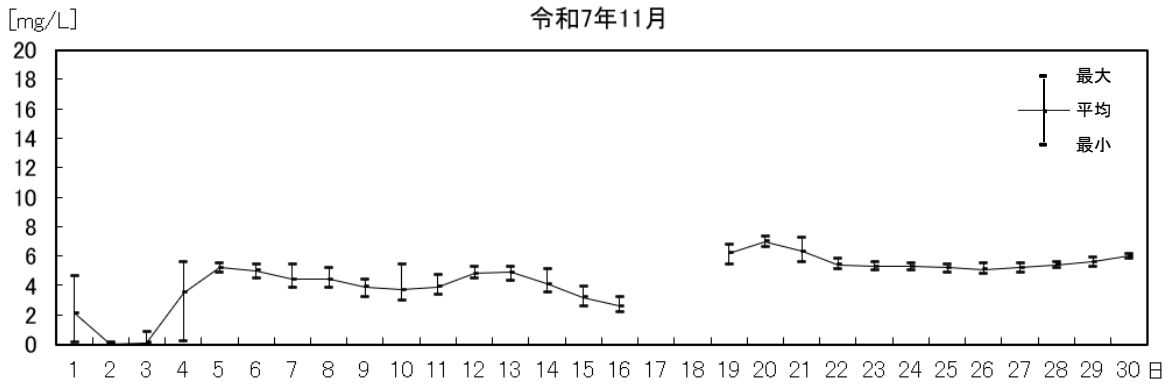
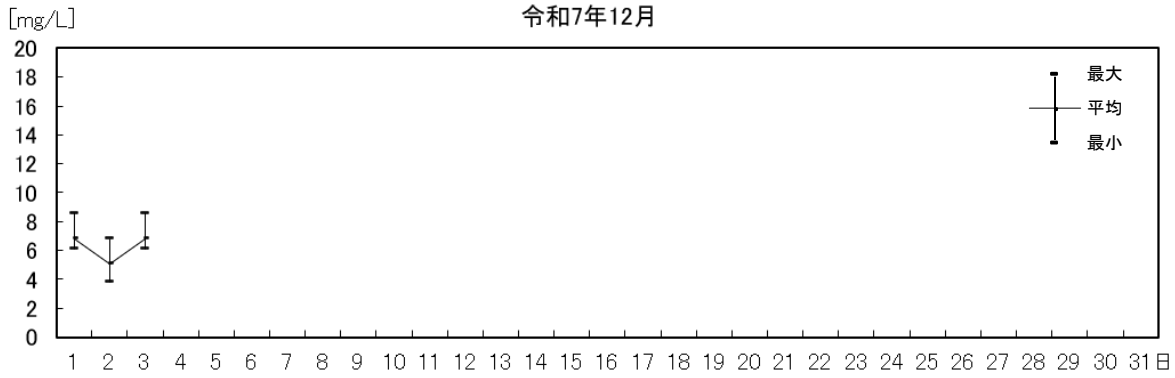
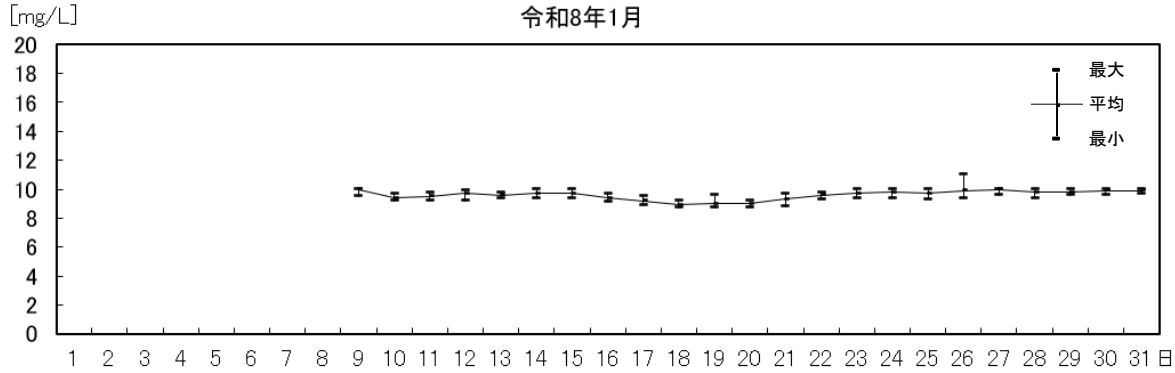
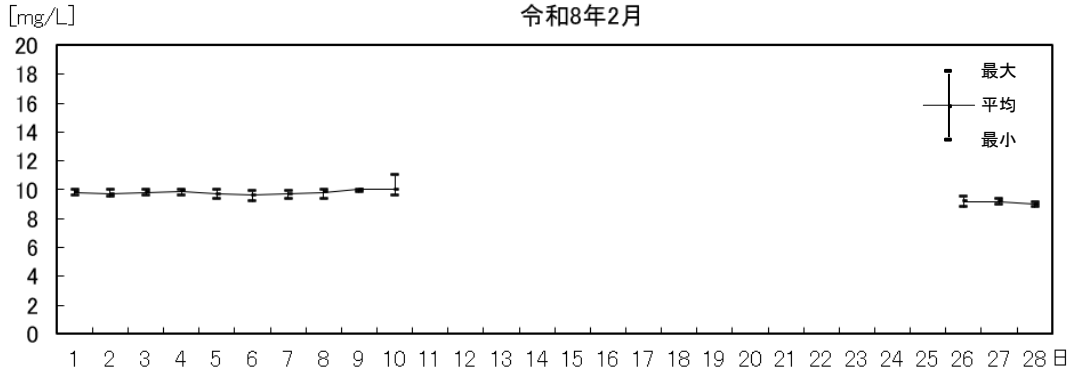


図２－１－４（２）　ＤＯの経時変化（管理型排水処理施設放流水(St.11)）







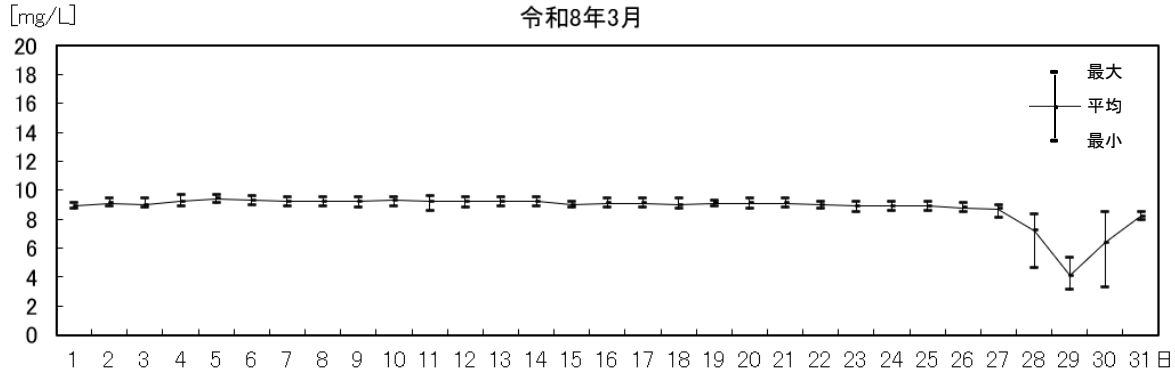


図２－１－４（３）　ＤＯの経時変化（管理型排水処理施設放流水(St.11)）

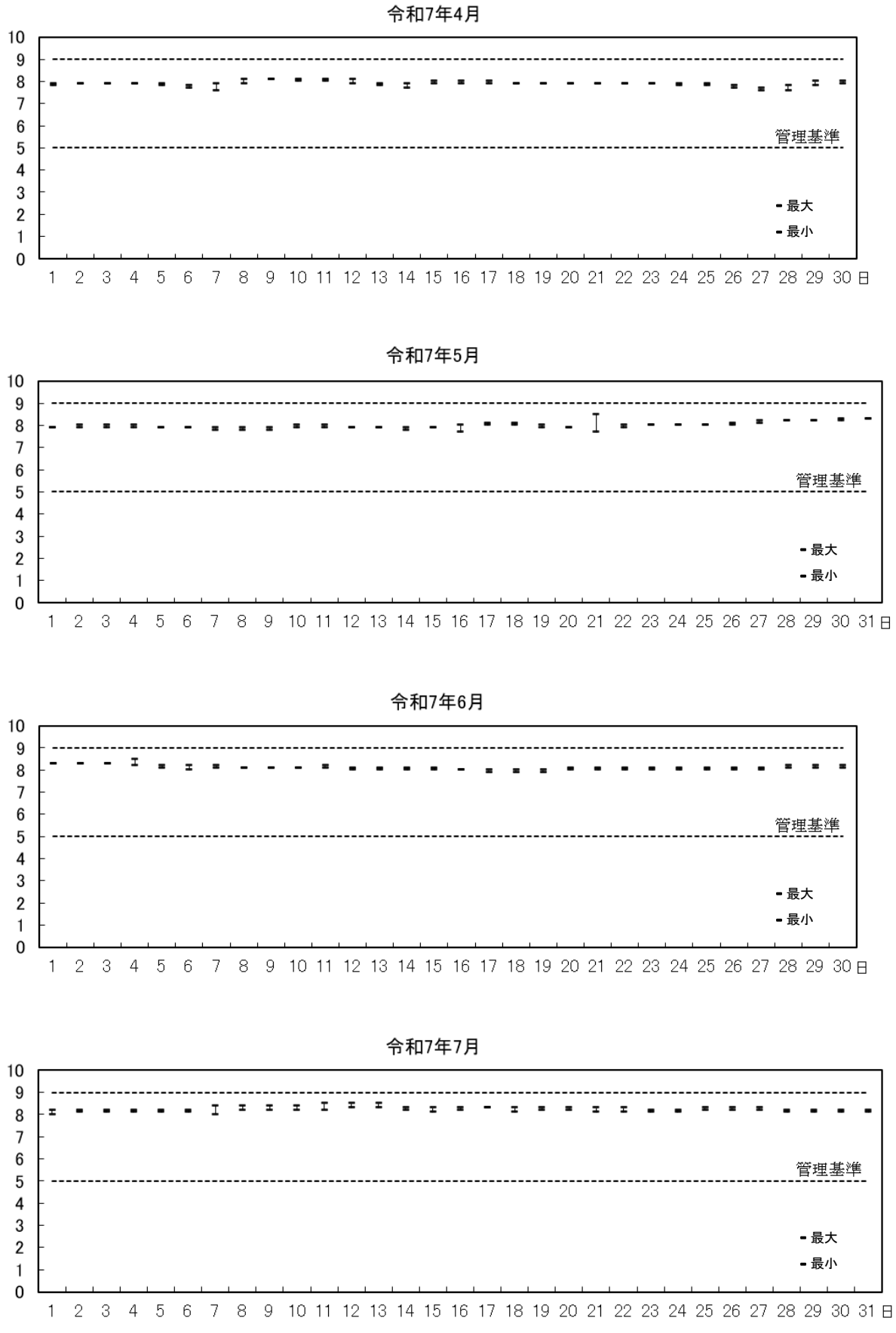


図２－１－５（１）　ｐＨの経時変化（管理型排水処理施設放流水(St.11)）

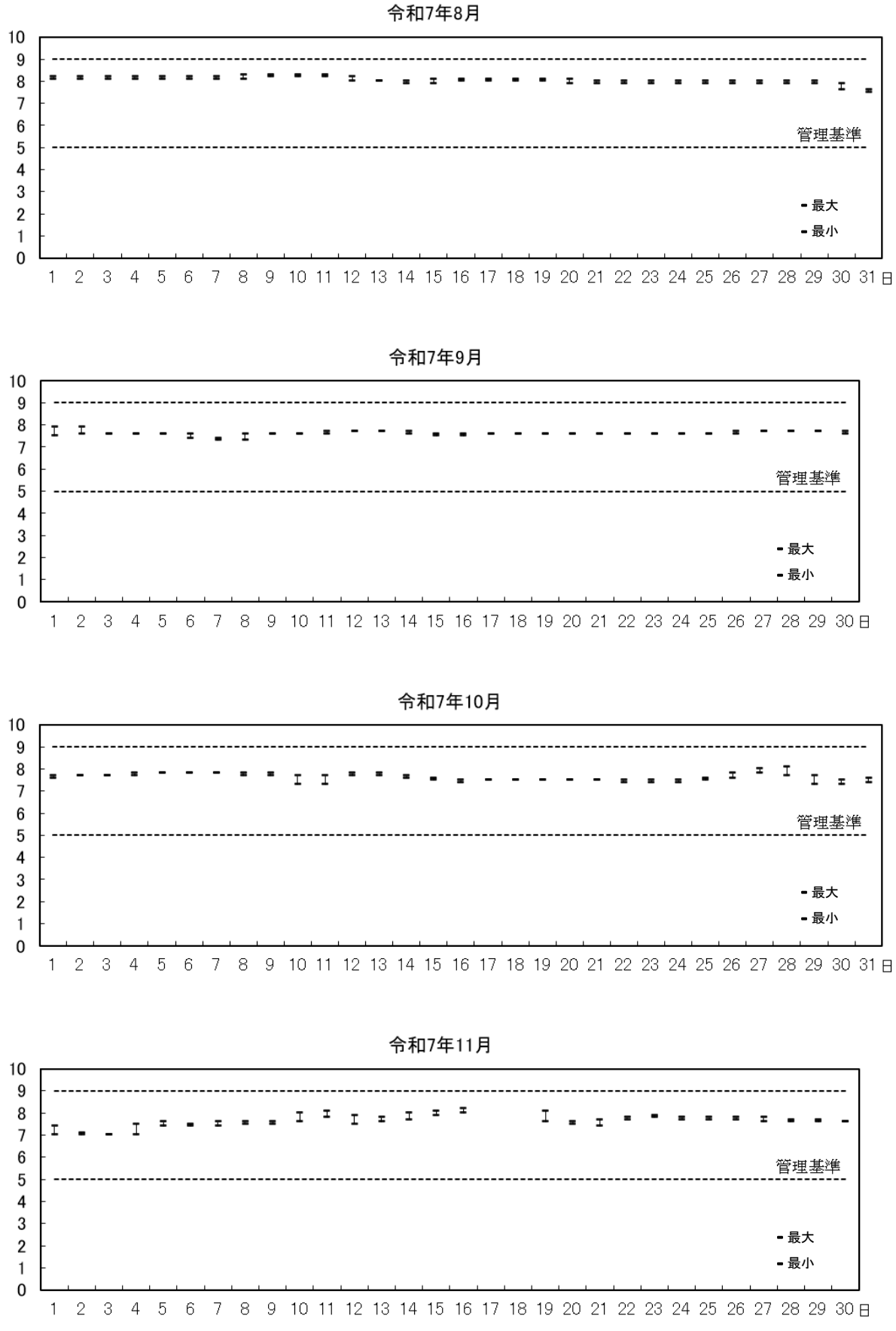
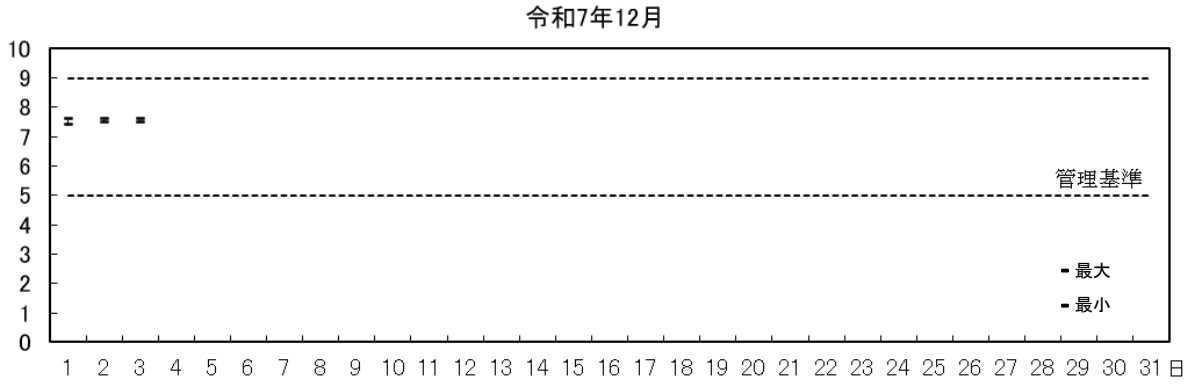
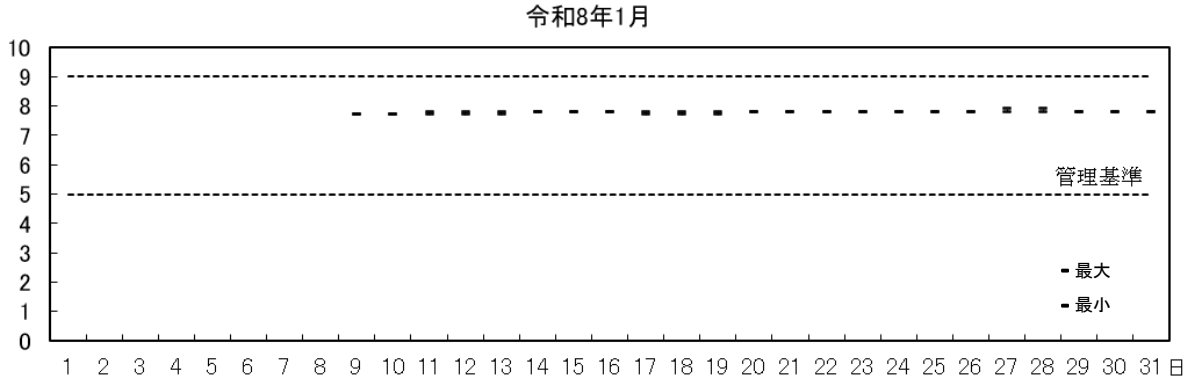
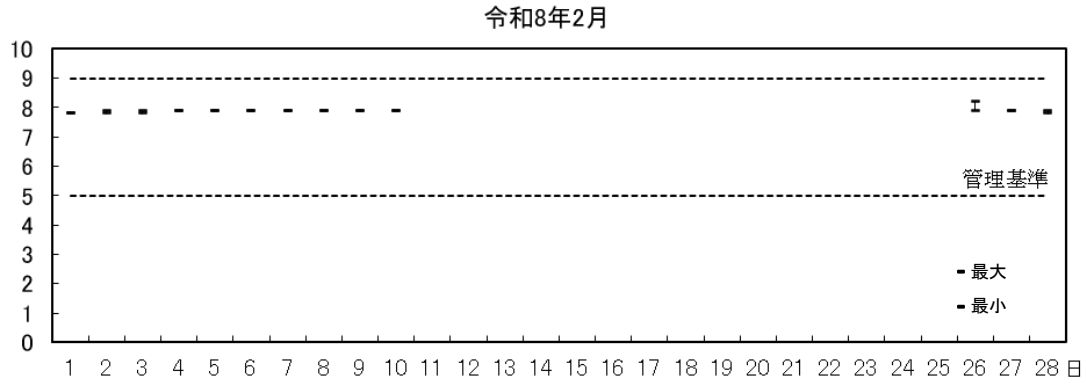


図２－１－５（２）　ｐＨの経時変化（管理型排水処理施設放流水(St.11)）







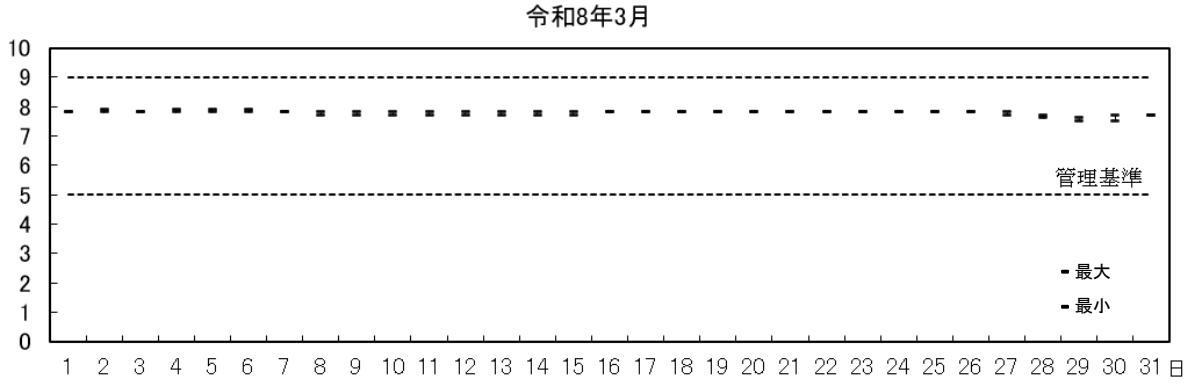
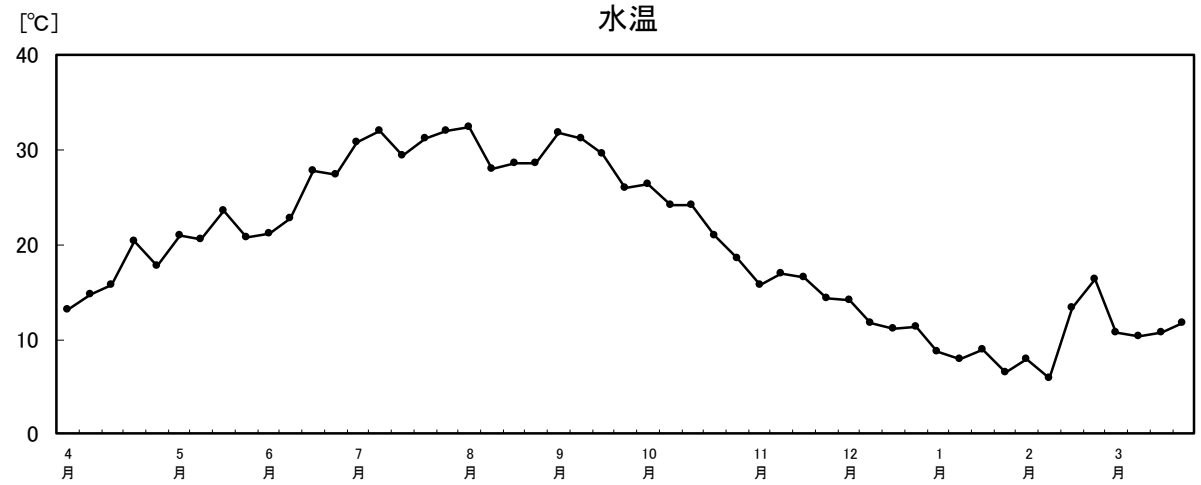


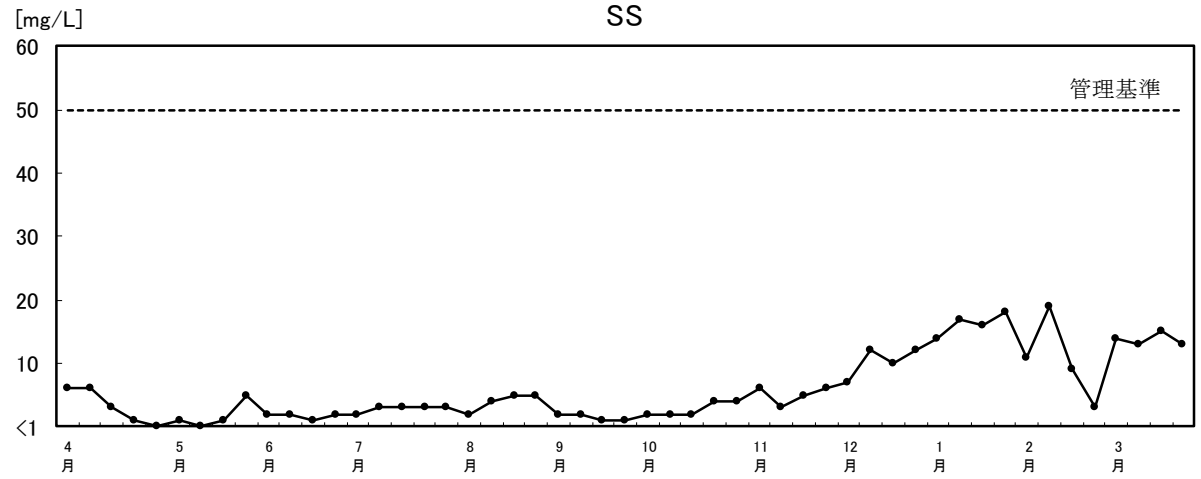
図２－１－５（３）　ｐＨの経時変化（管理型排水処理施設放流水(St.11)）

表２－１－３　管理型排水処理施設放流水(St.11)の水質測定結果［週調査］

測定項目 / 年月	水温 (℃) 最小値 ～ 最大値	水温 (℃) 平均値	SS (mg/L) 最小値 ～ 最大値	SS (mg/L) 平均値	T-N (mg/L) 最小値 ～ 最大値	T-N (mg/L) 平均値
令和7年 4月	13.1 ～ 20.3	16.3	<1 ～ 6	3	34 ～ 43	39
令和7年 5月	20.5 ～ 23.6	21.5	<1 ～ 5	2	27 ～ 36	31
令和7年 7月	21.2 ～ 27.9	24.8	1 ～ 2	2	16 ～ 21	19
令和7年 7月	29.4 ～ 32.1	31.1	2 ～ 3	3	14 ～ 24	18
令和7年 8月	28.0 ～ 32.4	29.4	2 ～ 5	4	22 ～ 31	26
令和7年 9月	26.0 ～ 31.9	29.7	1 ～ 2	2	20 ～ 24	22
令和7年10月	18.6 ～ 26.4	22.9	2 ～ 4	3	22 ～ 30	25
令和7年11月[注1]	14.4 ～ 17.0	15.9	3 ～ 6	5	28 ～ 34	32
令和7年12月[注2]	11.1 ～ 14.2	12.1	7 ～ 12	10	30 ～ 44	38
令和8年 1月[注3]	6.6 ～ 8.9	8.0	14 ～ 18	16	42 ～ 44	43
令和8年 2月[注4]	6.0 ～ 16.4	10.9	3 ～ 19	11	23 ～ 42	32
令和8年 3月	10.3 ～ 11.8	10.9	13 ～ 15	14	38 ～ 40	39
令和7年度	6.0 ～ 32.4	19.7	<1 ～ 19	6	14 ～ 44	30

注：1.11月18日（火）は、濁度上昇により放流停止（測定値は処理水）。
2.12月11日（木）、16日（火）及び23日（火）は、濁度上昇により放流停止（測定値は処理水）。
3．1月８日（木）は、濁度上昇により放流停止（測定値は処理水）。
4．2月10日（火）、17日（火）及び24日（火）は、浸出水の直接処理実験により未放流。





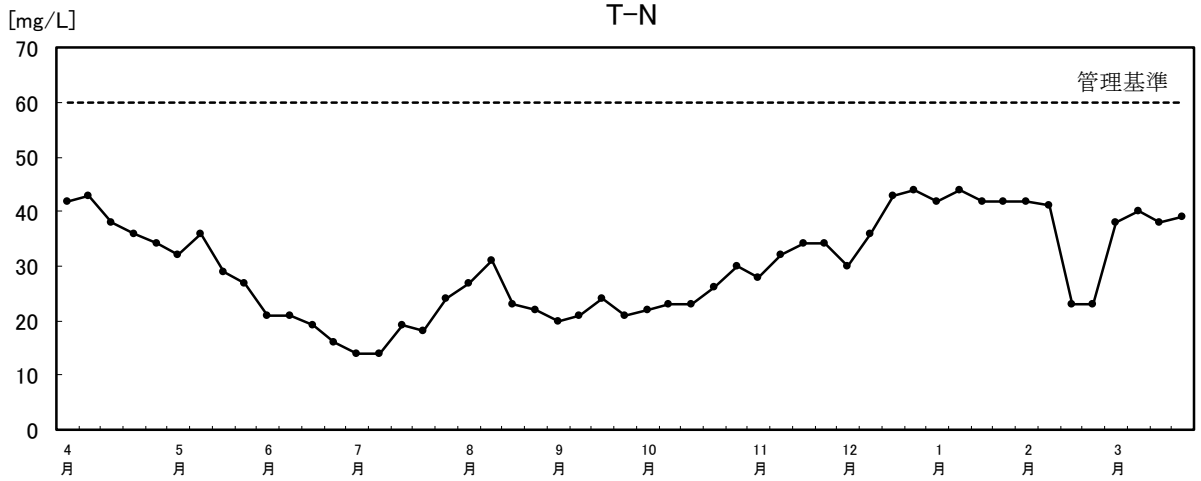


図２－１－６　週調査結果の経時変化（管理型排水処理施設放流水(St.11)）

表２－１－４　管理型排水処理施設放流水(St.11)の水質測定結果[月調査]

測定項目 年月	ＣＯＤ (mg/Ｌ)	ｐＨ (－)
令和7年 4月17日	19	7.9
令和7年 5月 8日	17	7.8
令和7年 6月 3日	18	8.3
令和7年 7月 1日	15	8.3
令和7年 8月 5日	21	8.1
令和7年 9月 2日	23	7.8
令和7年10月 1日	21	7.7
令和7年11月11日	42	7.9
令和7年12月11日[注1]	44	8.2
令和8年 1月 8日[注2]	34	7.7
令和8年 2月 5日	34	7.8
令和8年 3月 3日	25	7.8
最 大 値	44	8.3
最 小 値	15	7.7
平 均 値	26	－

注：1.12月11日（木）は、濁度上昇により放流停止（測定値は処理水）。
　　2．1月８日（木）は、濁度上昇により放流停止（測定値は処理水）。

表２－１－５　管理型区画内水(St.８)の水質測定結果［週調査］

測定項目 / 年月	透明度（m）		水温（℃）		ＳＳ（mg/Ｌ）		ＣＯＤ（mg/Ｌ）		ＤＯ（mg/Ｌ）		ｐＨ（－）		Ｔ－Ｎ（mg/Ｌ）	
	最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	平均値
令和7年 4月	0.6 ～ 2.7	1.4	13.4 ～ 20.7	16.5	<1 ～ 7	4	18 ～ 25	21	6.4 ～ 6.9	6.7	7.8 ～ 8.1	－	36 ～ 44	39
令和7年 5月	1.6 ～ 2.9	2.4	20.5 ～ 25.0	22.1	<1 ～ 3	2	18 ～ 20	19	5.9 ～ 7.7	6.8	7.9 ～ 8.3	－	27 ～ 37	31
令和7年 6月	1.7 ～ 2.0	1.9	20.5 ～ 29.2	24.9	<1 ～ 2	2	15 ～ 18	17	5.8 ～ 6.6	6.2	8.2 ～ 8.4	－	14 ～ 21	19
令和7年 7月	1.4 ～ 1.6	1.5	29.5 ～ 32.3	31.3	1 ～ 2	2	15 ～ 20	18	5.2 ～ 6.3	5.7	8.2 ～ 8.3	－	13 ～ 27	19
令和7年 8月	1.2 ～ 1.4	1.3	27.7 ～ 32.8	30.4	3 ～ 4	4	8.7 ～ 24	19	4.5 ～ 5.4	5.1	7.9 ～ 8.3	－	20 ～ 31	26
令和7年 9月	1.6 ～ 1.7	1.6	25.8 ～ 31.3	29.0	2 ～ 4	3	20 ～ 24	22	4.8 ～ 5.2	5.0	7.8 ～ 7.9	－	20 ～ 33	24
令和7年 10月	1.0 ～ 1.4	1.3	17.4 ～ 27.0	22.2	1 ～ 5	2	20 ～ 28	23	<0.5 ～ 5.2	3.0	7.8 ～ 8.0	－	22 ～ 27	25
令和7年 11月	1.1 ～ 1.3	1.2	14.5 ～ 15.9	15.4	4 ～ 7	5	37 ～ 43	41	<0.5 ～ 1.1	0.7	7.7 ～ 7.9	－	30 ～ 35	33
令和7年 12月	0.2 ～ 0.7	0.4	11.2 ～ 13.5	12.2	8 ～ 15	10	30 ～ 56	46	<0.5 ～ 2.8	1.4	7.7 ～ 8.4	－	33 ～ 42	39
令和8年 1月	0.3 ～ 0.5	0.4	6.9 ～ 8.3	7.9	15 ～ 19	17	30 ～ 36	32	3.7 ～ 6.4	4.9	7.4 ～ 7.6	－	41 ～ 44	42
令和8年 2月	0.4 ～ 0.5	0.5	6.5 ～ 10.7	8.4	10 ～ 19	16	26 ～ 27	27	3.7 ～ 7.1	5.5	7.4 ～ 7.7	－	37 ～ 42	39
令和8年 3月	0.5 ～ 0.5	0.5	10.5 ～ 12.4	11.2	12 ～ 14	13	23 ～ 25	24	6.6 ～ 7.3	7.0	7.6 ～ 7.7	－	37 ～ 41	39
令和7年度	0.2 ～ 2.9	1.2	6.5 ～ 32.8	19.3	<1 ～ 19	7	8.7 ～ 56	26	<0.5 ～ 7.7	4.8	7.4 ～ 8.4	－	13 ～ 44	31

注：平均値を算出するにあたって、報告下限値未満は報告下限値として計算した。

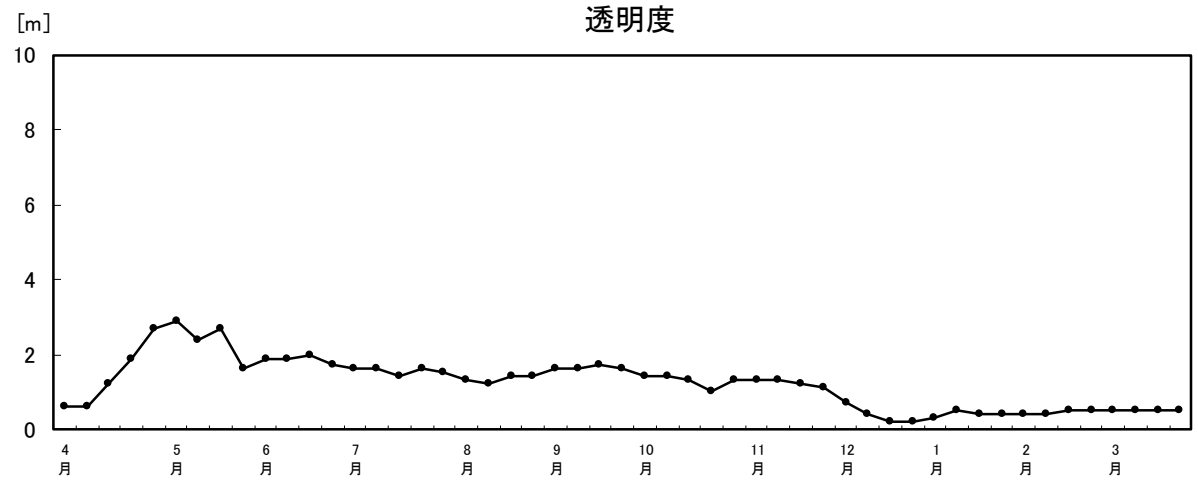
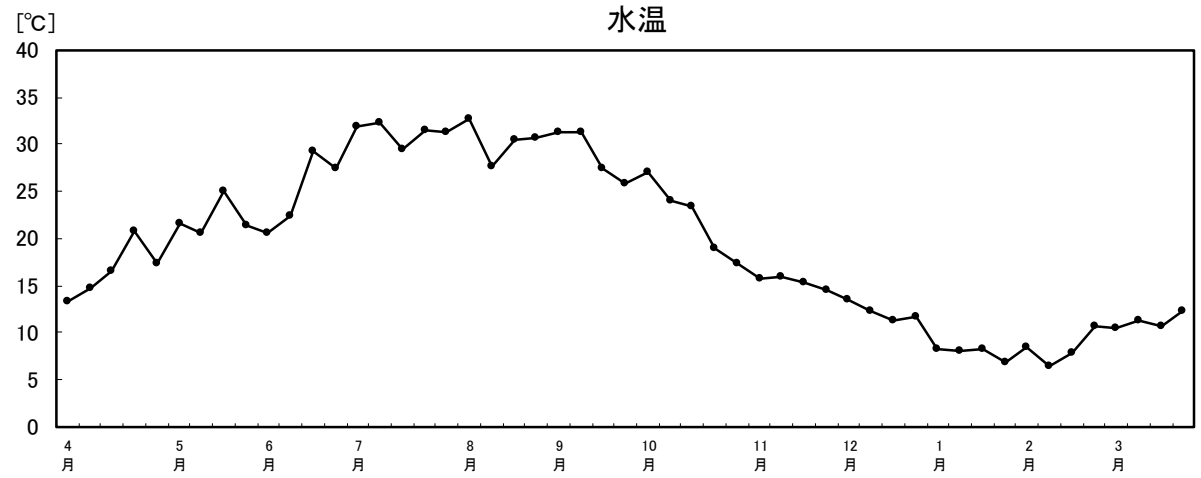
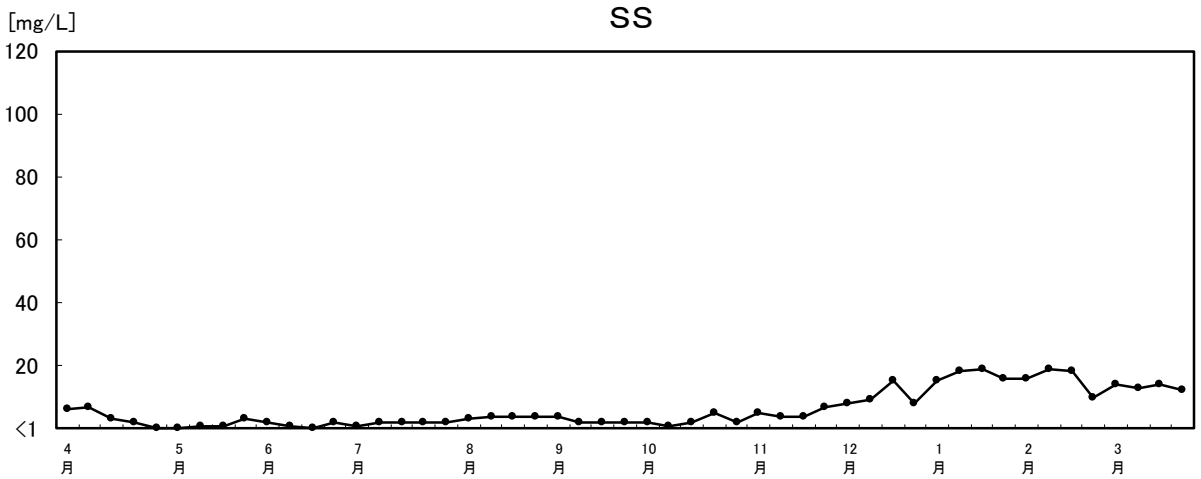


図２－１－７（１）　週調査結果の経時変化（管理型区画内水(St.８)）





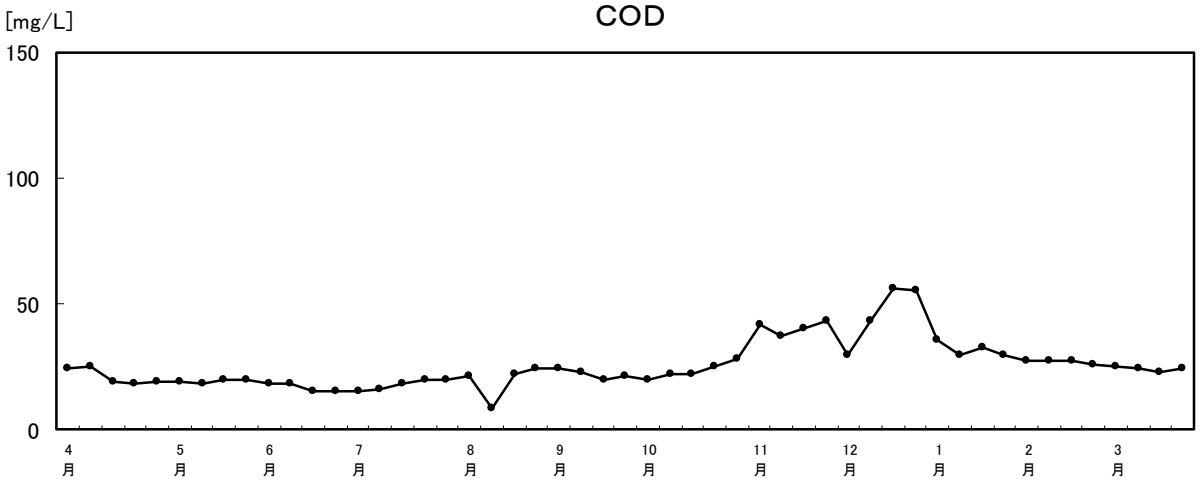
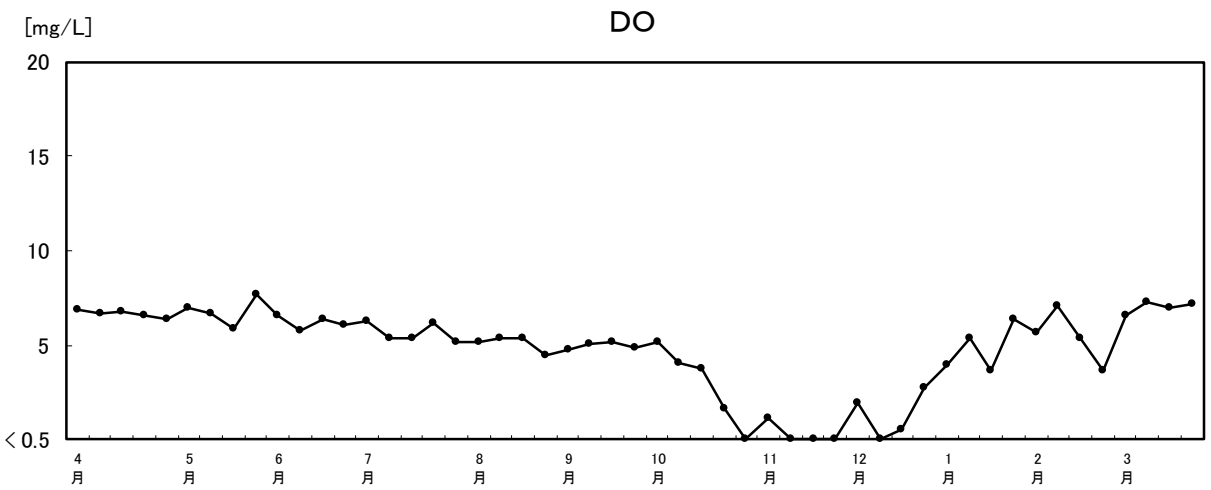
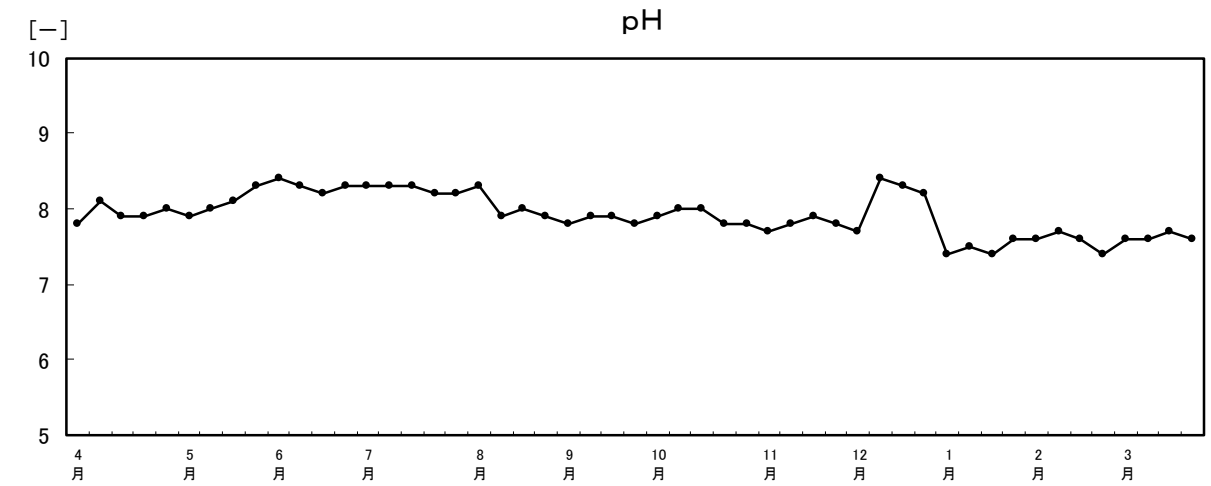


図２－１－７（２） 週調査結果の経時変化（管理型区画内水(St. ８)）





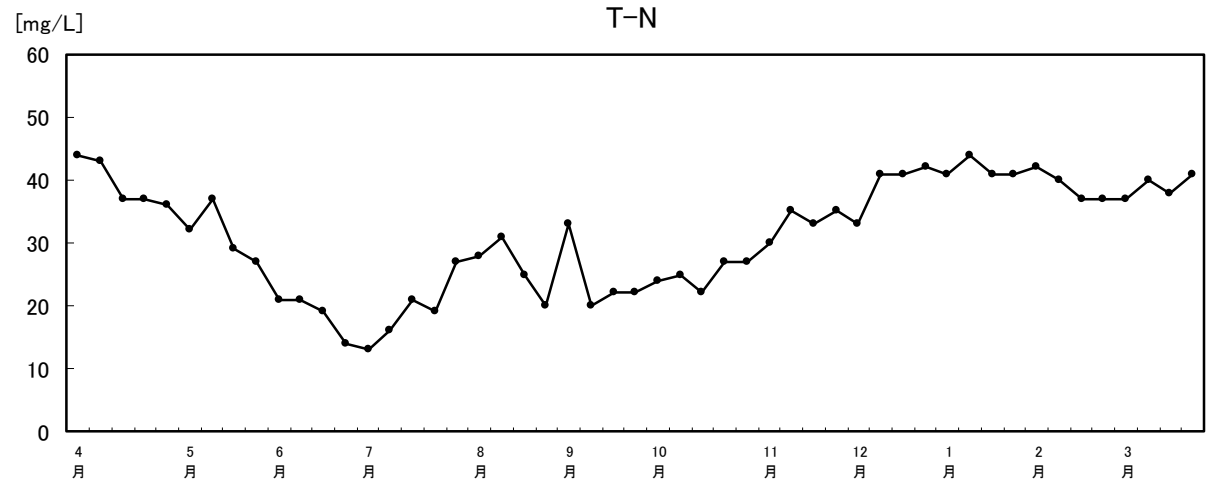


図２－１－７（３） 週調査結果の経時変化（管理型区画内水(St. ８)）

表２－１－６　管理型区画内水(St.８)の水質（一般項目）測定結果〔年４回調査〕

調査年月日 / 項目	令和7年5月8日	令和7年8月5日	令和7年11月11日	令和8年2月5日	令和7年度			
					最小値	～	最大値	平均値
クロロフィルa (μg/L)	3	6	17	17	3	～	17	11
ＦＳＳ (mg/L)	<1	<1	3	2	<1	～	3	2
塩分 (－)	12.5	11.8	13.3	21.1	11.8	～	21.1	14.7

注：平均値を算出するにあたって、報告下限値未満は報告下限値として計算した。

表２－１－７（１） 水質（一般項目及び生活環境項目１）測定結果〔月調査〕

［基本監視点(St．１，３～７)］

調査年月日 / 項目	令和7年4月17日		令和7年5月8日		令和7年6月3日		令和7年7月1日		令和7年8月5日		令和7年9月2日	
	最小値 ～ 最大値	平均値	最小値 ～ 最大値	平均値	最小値 ～ 最大値	平均値	最小値 ～ 最大値	平均値	最小値 ～ 最大値	平均値	最小値 ～ 最大値	平均値
濁度	2 ～ 2	2	<1 ～ <1	<1	<1 ～ 1	1	1 ～ 1	1	1 ～ 1	1	1 ～ 1	1
(度(ｶｵﾘﾝ))	1 ～ 3	2	<1 ～ 1	1	1 ～ 2	1	1 ～ 2	2	2 ～ 7	4	1 ～ 3	2
透明度 (m)	1.6 ～ 2.0	1.8	3.1 ～ 5.0	3.9	1.5 ～ 2.1	1.8	1.6 ～ 1.8	1.7	1.8 ～ 2.5	2.2	1.4 ～ 1.9	1.6
水温	13.3 ～ 13.7	13.5	15.3 ～ 16.5	15.7	18.7 ～ 19.2	19.0	25.5 ～ 27.8	26.8	29.6 ～ 29.7	29.6	30.1 ～ 30.6	30.3
(℃)	12.1 ～ 12.8	12.6	14.0 ～ 14.3	14.1	16.7 ～ 17.1	16.9	20.2 ～ 20.8	20.4	25.2 ～ 28.8	26.3	25.6 ～ 25.9	25.7
ＳＳ	3 ～ 4	4	2 ～ 3	3	3 ～ 4	3	3 ～ 5	5	1 ～ 2	2	2 ～ 3	3
(mg/L)	4 ～ 6	5	3 ～ 4	3	2 ～ 4	3	2 ～ 4	3	2 ～ 5	3	1 ～ 2	2
クロロフィルa	5 ～ 6	6	2 ～ 5	3	7 ～ 16	13	5 ～ 14	11	2 ～ 3	3	4 ～ 7	6
(μg/L)	－ ～ －	－	－ ～ －	－	－ ～ －	－	－ ～ －	－	－ ～ －	－	－ ～ －	－
ＦＳＳ	1 ～ 2	2	<1 ～ <1	<1	<1 ～ 2	1	<1 ～ 2	1	<1 ～ 1	1	<1 ～ 1	1
(mg/L)	2 ～ 3	3	1 ～ 2	1	<1 ～ 2	1	<1 ～ 2	1	1 ～ 3	2	<1 ～ 2	1
塩分	31.3 ～ 31.4	31.3	30.3 ～ 31.7	31.2	29.3 ～ 30.8	30.1	25.2 ～ 27.1	26.0	29.0 ～ 29.3	29.2	28.4 ～ 29.0	28.7
	31.5 ～ 31.9	31.6	32.3 ～ 32.4	32.4	32.4 ～ 32.6	32.5	31.9 ～ 32.0	32.0	29.8 ～ 32.2	31.5	32.8 ～ 32.9	32.9
ＣＯＤ	2.5 ～ 3.1	2.8	2.5 ～ 3.3	2.8	3.3 ～ 4.1	3.7	2.9 ～ 3.7	3.3	3.3 ～ 3.6	3.4	3.9 ～ 4.4	4.2
(mg/L)	2.1 ～ 2.6	2.4	1.9 ～ 2.3	2.1	2.0 ～ 2.8	2.4	2.1 ～ 2.7	2.4	2.3 ～ 3.3	3.0	1.5 ～ 2.1	1.9
ＤＯ	9.3 ～ 9.9	9.6	8.4 ～ 9.4	8.9	9.7 ～ 11	11	10 ～ 11	11	6.9 ～ 7.6	7.2	7.5 ～ 8.4	7.8
(mg/L)	6.5 ～ 9.1	8.4	6.0 ～ 7.2	6.5	6.2 ～ 7.7	7.1	3.6 ～ 5.1	4.4	4.6 ～ 6.6	5.7	1.5 ～ 4.1	2.6
ｐＨ	8.1 ～ 8.2	－	8.1 ～ 8.3	－	8.2 ～ 8.4	－	8.6 ～ 8.6	－	8.4 ～ 8.4	－	8.5 ～ 8.6	－
	7.9 ～ 8.1	－	7.9 ～ 8.0	－	8.0 ～ 8.1	－	7.9 ～ 8.0	－	8.1 ～ 8.3	－	7.9 ～ 8.0	－

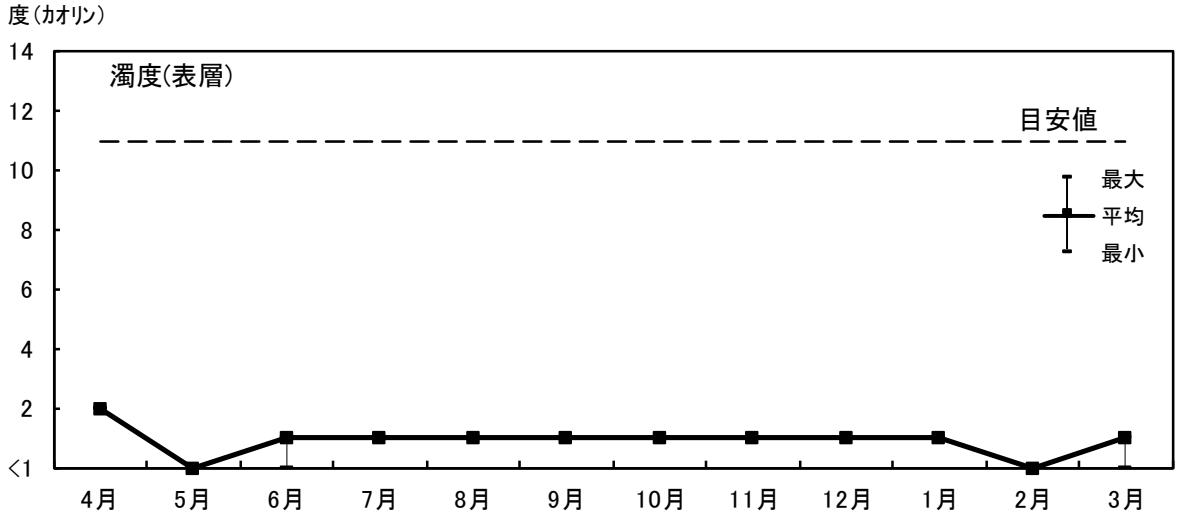
注：1.上段は表層（海面下１m）、下段は底層（海底上２m）を示す。クロロフィルａは表層のみ調査を行った。
2.平均値を算出するにあたって、報告下限値未満は報告下限値として計算した。

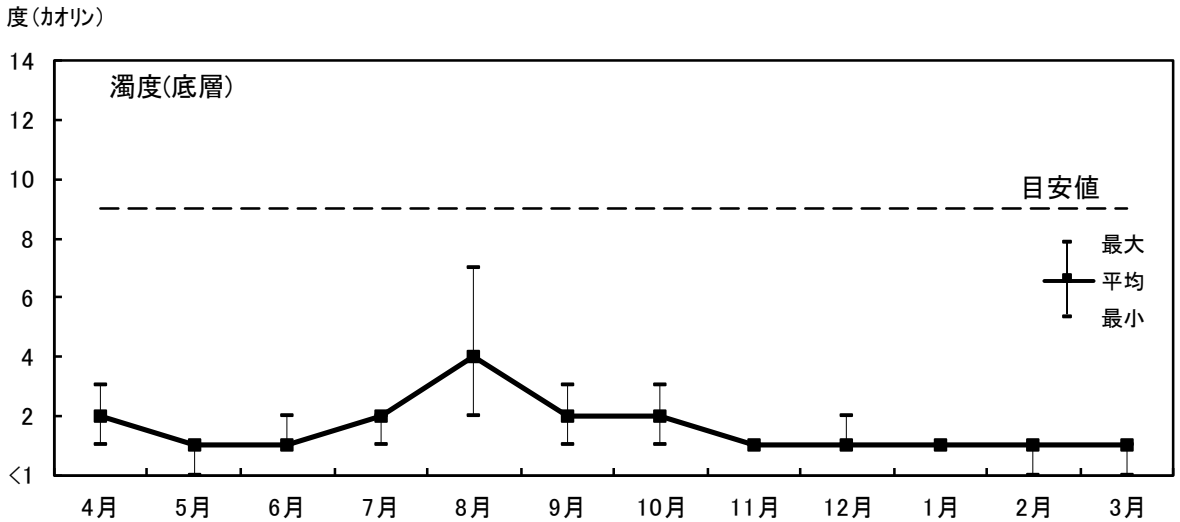
表２－１－７（２） 水質（一般項目及び生活環境項目１）測定結果〔月調査〕

［基本監視点(St．１，３～７)］

調査年月日 / 項目	令和7年10月1日		令和7年11月11日		令和7年12月11日		令和8年1月27日		令和8年2月5日		令和8年3月3日		令和7年4月～令和8年3月	
	最小値 ～ 最大値	平均値	最小値 ～ 最大値	平均値	最小値 ～ 最大値	平均値	最小値 ～ 最大値	平均値	最小値 ～ 最大値	平均値	最小値 ～ 最大値	平均値	最小値 ～ 最大値	平均値
濁度	1 ～ 1	1	1 ～ 1	1	1 ～ 1	1	1 ～ 1	1	<1 ～ <1	<1	<1 ～ 1	1	<1 ～ 2	1
(度(ｶｵﾘﾝ))	1 ～ 3	2	1 ～ 1	1	1 ～ 2	1	1 ～ 1	1	<1 ～ 1	1	<1 ～ 1	1	<1 ～ 7	2
透明度 (m)	1.6 ～ 2.6	2.3	4.0 ～ 5.2	4.7	3.6 ～ 5.1	4.4	3.7 ～ 4.1	3.9	3.3 ～ 5.4	4.7	3.6 ～ 4.1	3.8	1.4 ～ 5.4	3.1
水温	24.7 ～ 25.0	24.8	19.6 ～ 20.4	20.1	15.5 ～ 16.5	15.9	8.1 ～ 8.7	8.3	8.0 ～ 8.6	8.4	9.7 ～ 10.0	9.8	8.0 ～ 30.6	18.5
(℃)	24.4 ～ 24.6	24.5	20.1 ～ 20.4	20.2	15.8 ～ 16.7	16.3	9.4 ～ 9.6	9.5	9.3 ～ 9.5	9.4	9.6 ～ 9.7	9.6	9.3 ～ 28.8	17.1
ＳＳ	2 ～ 3	2	1 ～ 1	1	2 ～ 3	2	1 ～ 1	1	1 ～ 3	2	2 ～ 3	3	1 ～ 5	3
(mg/L)	2 ～ 3	2	1 ～ 2	2	2 ～ 4	3	2 ～ 2	2	2 ～ 2	2	2 ～ 3	2	1 ～ 6	3
クロロフィルa	4 ～ 9	6	2 ～ 3	3	<1 ～ 1	1	<1 ～ 1	1	2 ～ 3	3	3 ～ 4	3	<1 ～ 16	5
(μg/L)	－ ～ －	－	－ ～ －	－	－ ～ －	－	－ ～ －	－	－ ～ －	－	－ ～ －	－	－	－
ＦＳＳ	<1 ～ 2	1	<1 ～ 1	1	<1 ～ 2	1	1 ～ 1	1	<1 ～ <1	<1	<1 ～ 1	1	<1 ～ 2	1
(mg/L)	<1 ～ 2	1	<1 ～ 2	1	<1 ～ 2	2	1 ～ 1	1	1 ～ 1	1	<1 ～ 1	1	<1 ～ 3	1
塩分	31.4 ～ 32.2	31.7	31.8 ～ 32.2	32.1	32.1 ～ 32.6	32.4	31.5 ～ 32.1	32.0	31.5 ～ 31.7	31.6	32.4 ～ 32.7	32.5	25.2 ～ 32.7	30.7
	32.9 ～ 33.0	33.0	32.2 ～ 32.3	32.3	32.3 ～ 32.6	32.5	32.5 ～ 32.7	32.6	32.3 ～ 32.5	32.4	32.6 ～ 32.7	32.7	29.8 ～ 33.0	32.4
ＣＯＤ	2.7 ～ 3.5	3.2	1.7 ～ 2.3	2.0	1.7 ～ 2.0	1.9	1.7 ～ 2.1	1.9	1.8 ～ 2.0	1.9	1.7 ～ 2.1	2.0	1.7 ～ 4.4	2.8
(mg/L)	1.8 ～ 2.4	2.0	1.6 ～ 2.1	1.8	1.5 ～ 2.0	1.8	1.6 ～ 1.9	1.8	1.6 ～ 1.8	1.7	1.5 ～ 1.8	1.7	1.5 ～ 3.3	2.1
ＤＯ	6.8 ～ 8.7	7.8	7.0 ～ 7.5	7.2	7.4 ～ 7.7	7.6	9.3 ～ 9.6	9.5	10 ～ 10	10	9.0 ～ 9.3	9.2	6.8 ～ 11	8.9
(mg/L)	2.6 ～ 4.9	3.9	6.8 ～ 7.3	7.0	7.2 ～ 7.5	7.4	9.0 ～ 9.3	9.1	9.1 ～ 9.5	9.3	8.8 ～ 9.0	8.9	1.5 ～ 9.5	6.7
ｐＨ	8.2 ～ 8.3	－	8.0 ～ 8.1	－	8.0 ～ 8.1	－	8.1 ～ 8.2	－	8.1 ～ 8.1	－	8.0 ～ 8.1	－	8.0 ～ 8.6	－
	7.8 ～ 8.0	－	8.0 ～ 8.1	－	8.0 ～ 8.1	－	8.1 ～ 8.2	－	8.1 ～ 8.1	－	8.0 ～ 8.1	－	7.8 ～ 8.3	－

注：1.上段は表層（海面下１m）、下段は底層（海底上２m）を示す。クロロフィルａは表層のみ調査を行った。
2.平均値を算出するにあたって、報告下限値未満は報告下限値として計算した。





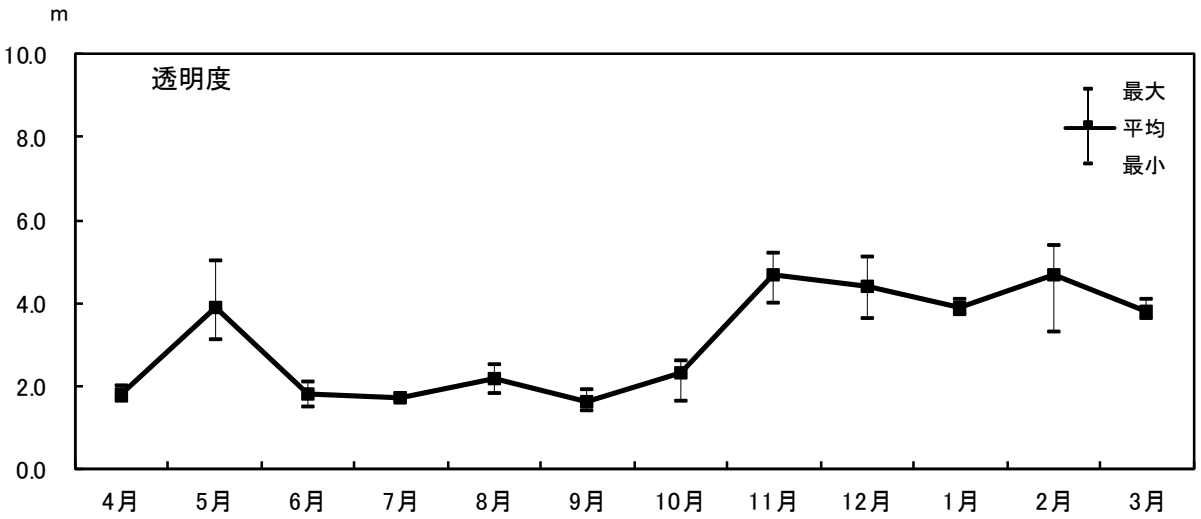


図２－１－８（１）　月調査結果の経時変化（基本監視点(St．１，３～７)）

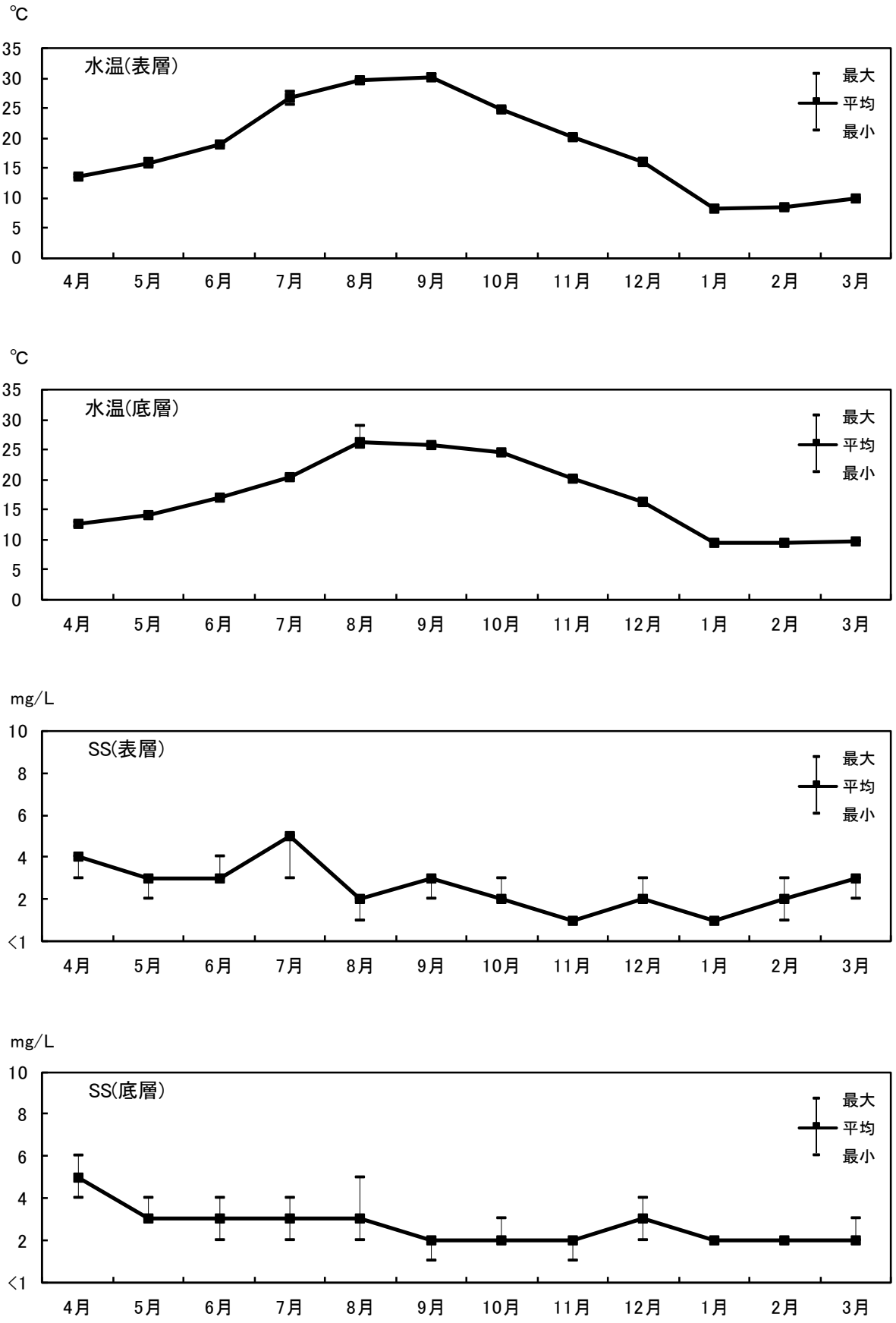
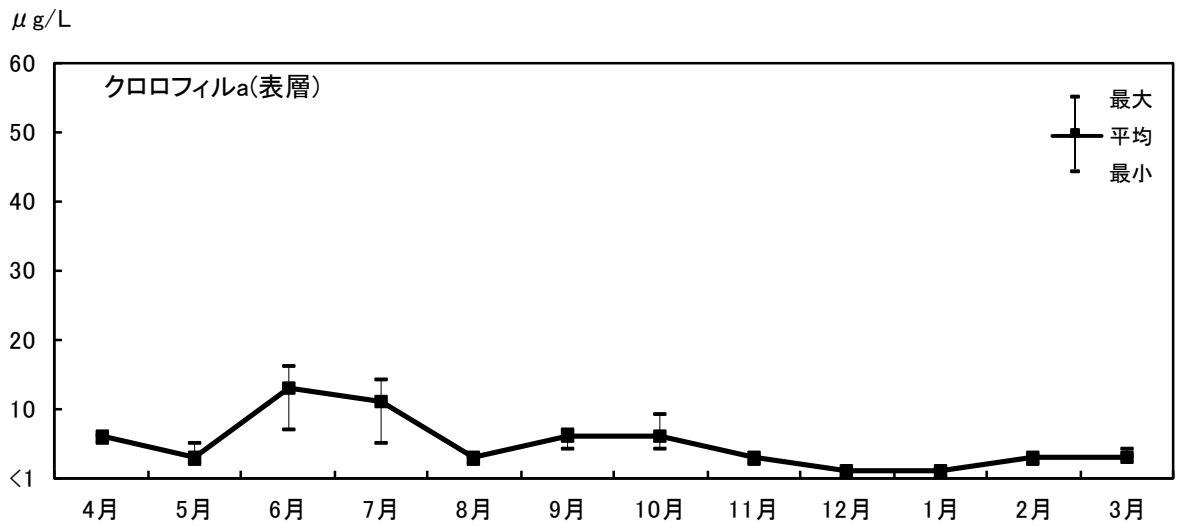
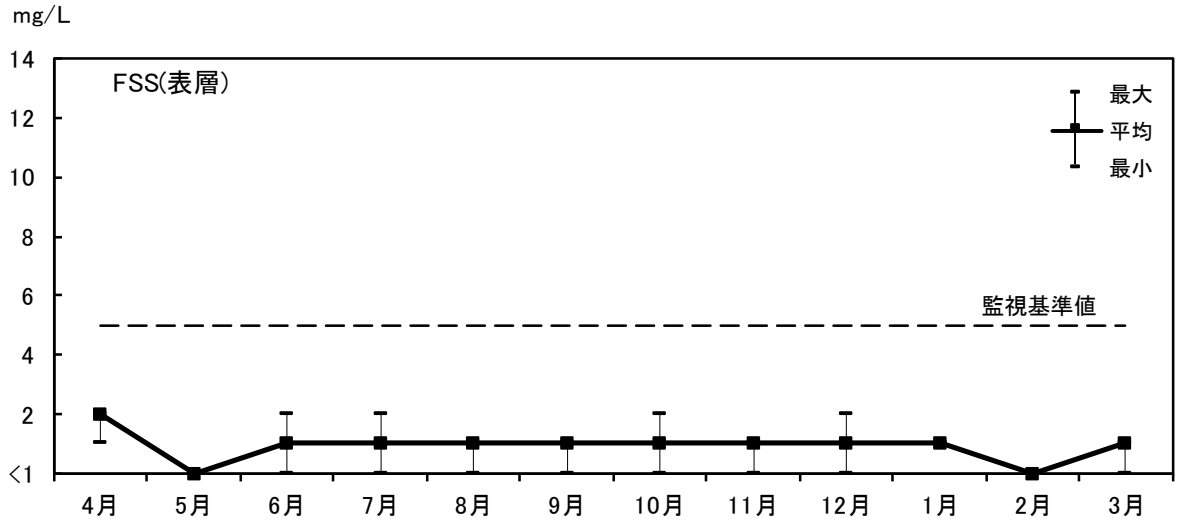


図２－１－８（２）　月調査結果の経時変化（基本監視点(St. １，３～７)）





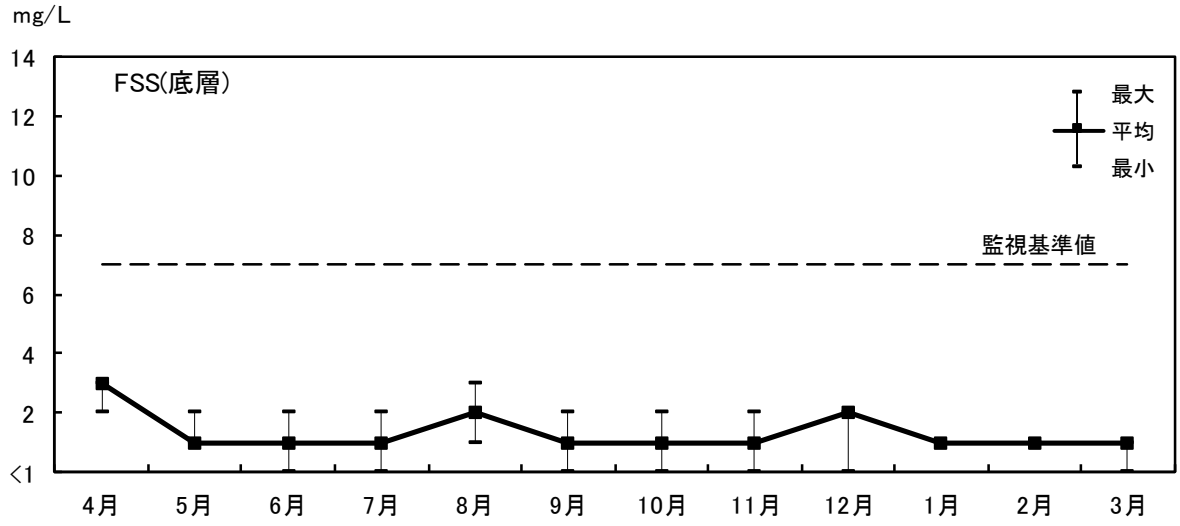
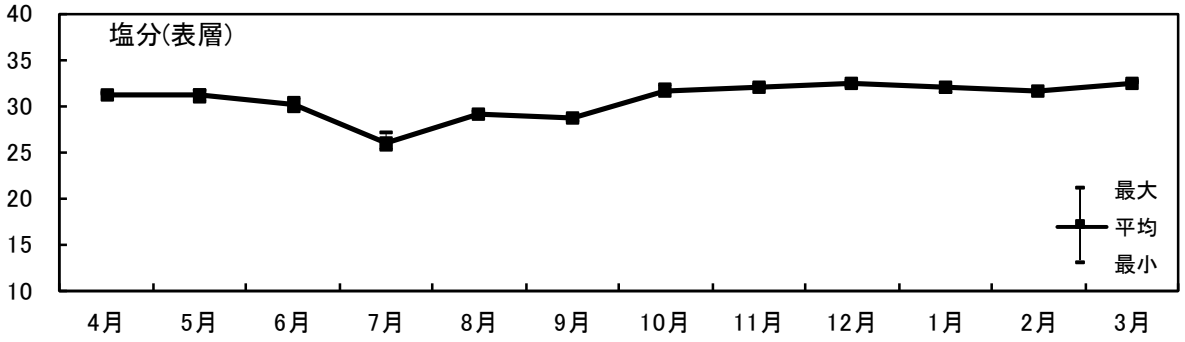
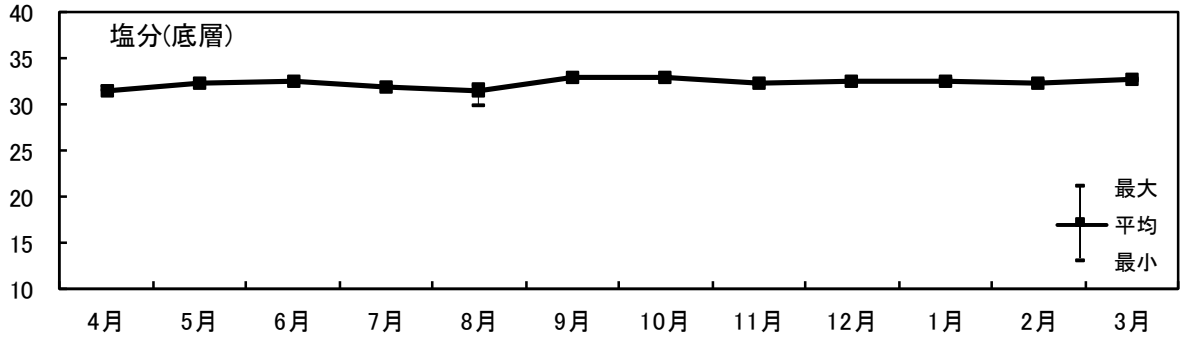
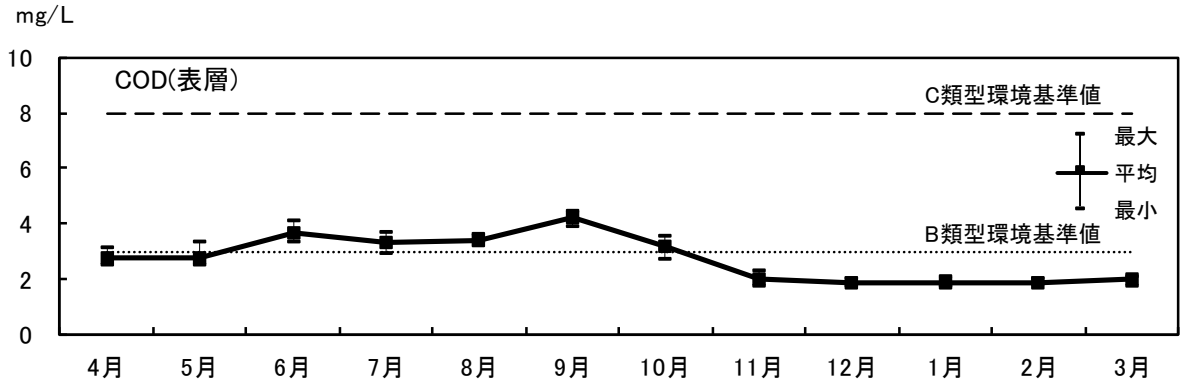


図２－１－８（３）　月調査結果の経時変化（基本監視点(St．１，３～７)）







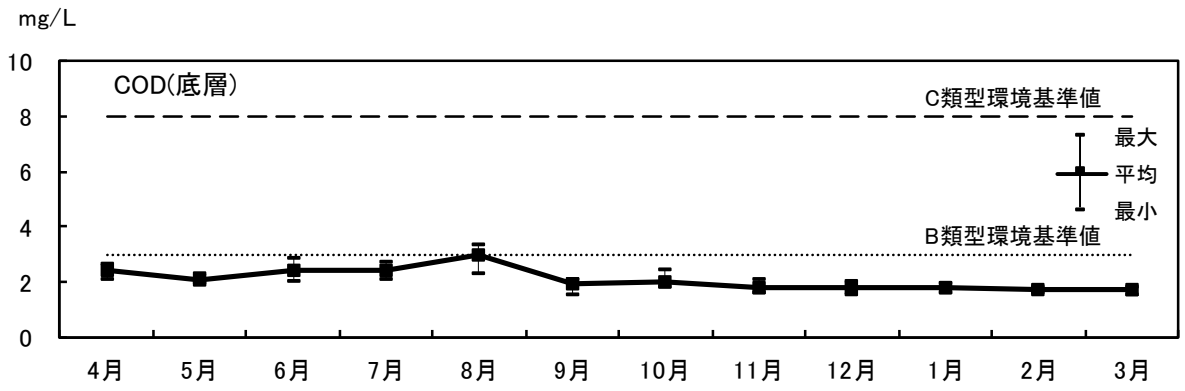
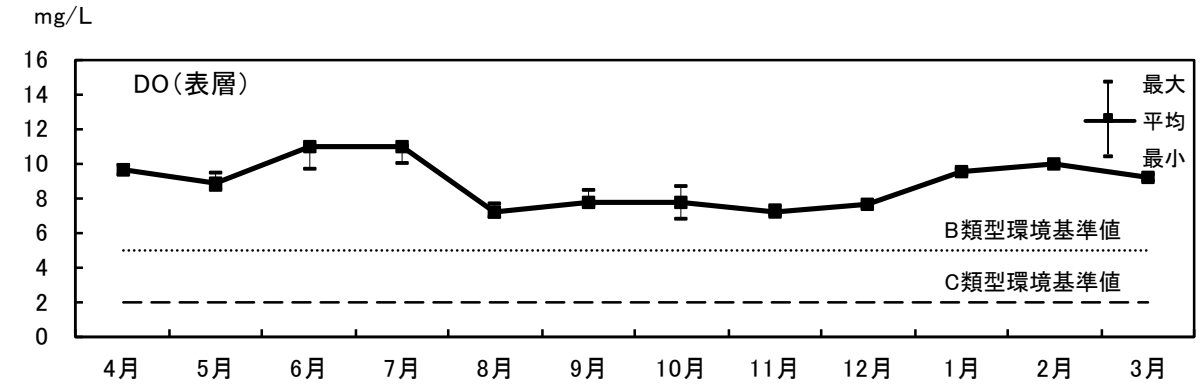
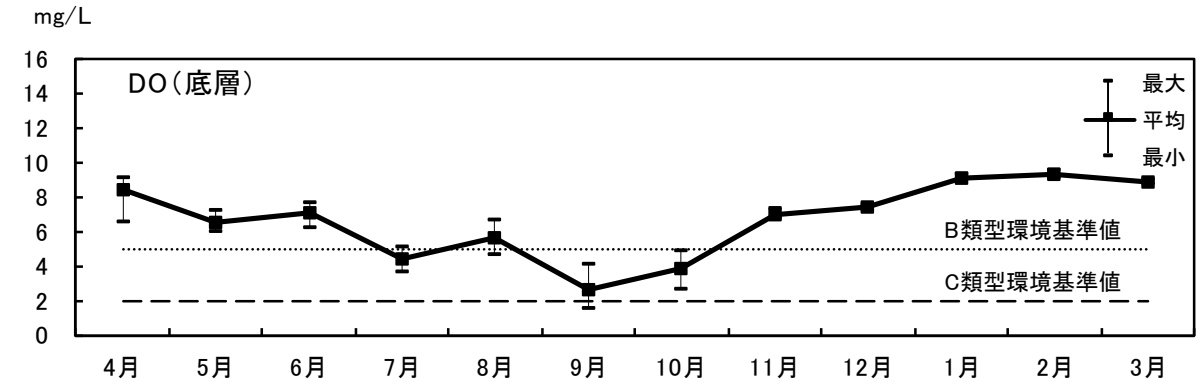
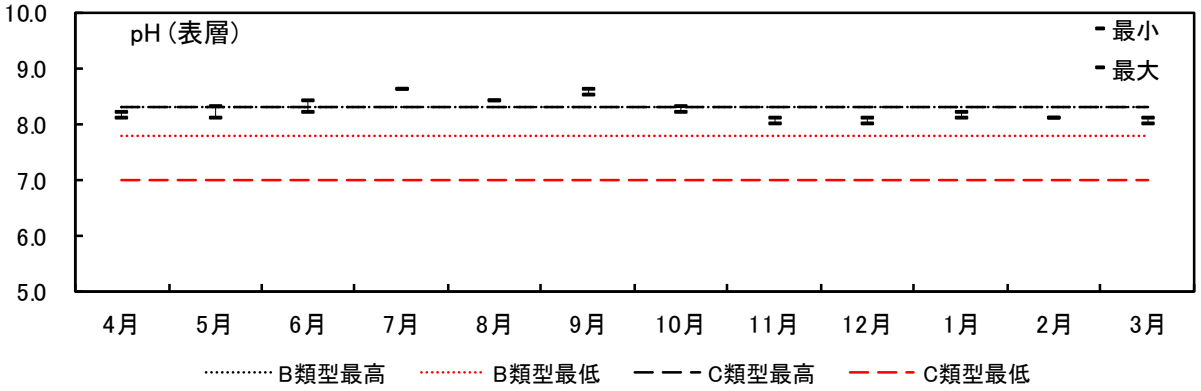


図２－１－８（４）　月調査結果の経時変化（基本監視点(St．１，３～７)）







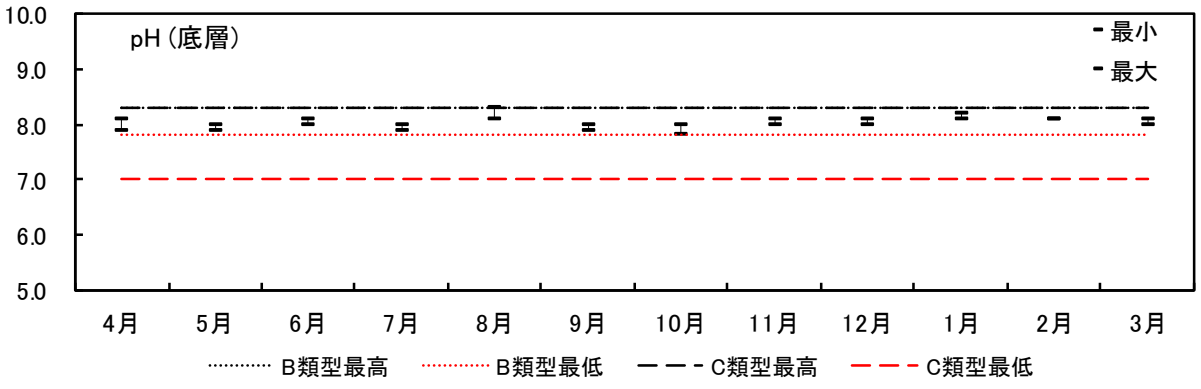


図２－１－８（５）　月調査結果の経時変化（基本監視点(St．１，３～７)）

表２－１－８（１） 水質（一般項目及び生活環境項目１）測定結果〔月調査〕

［補助監視点(St. 12, 13)］

調査年月日 / 項目	令和7年4月17日			令和7年5月8日			令和7年6月3日			令和7年7月1日			令和7年8月5日			令和7年9月2日		
	最小値 ～ 最大値		平均値	最小値 ～ 最大値		平均値	最小値 ～ 最大値		平均値	最小値 ～ 最大値		平均値	最小値 ～ 最大値		平均値	最小値 ～ 最大値		平均値
濁度	1	～ 1	1	<1	～ <1	<1	<1	～ 1	1	1	～ 1	1	1	～ 1	1	1	～ 1	1
（度(ｶｵﾘﾝ)）	3	～ 3	3	2	～ 3	3	1	～ 1	1	1	～ 2	2	3	～ 4	4	3	～ 3	3
透明度 (m)	2.0	～ 2.3	2.2	5.2	～ 5.4	5.3	1.6	～ 2.1	1.9	1.5	～ 1.8	1.7	2.1	～ 2.5	2.3	1.5	～ 1.6	1.6
水温	13.2	～ 13.3	13.3	15.4	～ 15.6	15.5	19.2	～ 19.2	19.2	27.1	～ 27.9	27.5	29.5	～ 29.7	29.6	30.3	～ 30.5	30.4
(℃)	12.6	～ 12.8	12.7	14.0	～ 14.3	14.2	17.0	～ 17.3	17.2	20.5	～ 20.8	20.7	25.7	～ 26.0	25.9	25.7	～ 25.8	25.8
ＳＳ	4	～ 4	4	2	～ 3	3	2	～ 3	3	5	～ 5	5	2	～ 3	3	3	～ 3	3
(mg/L)	5	～ 6	6	5	～ 5	5	3	～ 3	3	3	～ 3	3	2	～ 3	3	2	～ 3	3
クロロフィルa	6	～ 6	6	1	～ 2	2	7	～ 12	10	11	～ 20	16	4	～ 8	6	4	～ 5	5
(μg/L)	－		－	－		－	－		－	－		－	－		－	－		－
ＦＳＳ	1	～ 1	1	<1	～ <1	<1	<1	～ 1	1	1	～ 1	1	<1	～ 1	1	<1	～ <1	<1
(mg/L)	3	～ 3	3	2	～ 3	3	1	～ 1	1	<1	～ 1	1	1	～ 1	1	<1	～ <1	<1
塩分	31.1	～ 31.5	31.3	31.1	～ 31.3	31.2	30.4	～ 30.7	30.6	25.3	～ 25.6	25.5	27.3	～ 28.6	28.0	27.6	～ 28.3	28.0
	31.4	～ 31.9	31.7	32.0	～ 32.2	32.1	32.3	～ 32.5	32.4	31.8	～ 32.0	31.9	32.1	～ 32.1	32.1	32.9	～ 32.9	32.9
ＣＯＤ	2.8	～ 2.9	2.9	2.0	～ 2.4	2.2	3.5	～ 3.8	3.7	3.1	～ 3.2	3.2	3.6	～ 4.4	4.0	3.6	～ 4.6	4.1
(mg/L)	2.7	～ 2.7	2.7	2.2	～ 2.4	2.3	2.3	～ 3.1	2.7	2.2	～ 2.4	2.3	2.0	～ 2.9	2.5	2.0	～ 2.7	2.4
ＤＯ	9.3	～ 9.4	9.4	8.5	～ 9.0	8.8	11	～ 12	12	9.5	～ 11	10	6.9	～ 7.0	7.0	5.8	～ 7.2	6.5
(mg/L)	8.0	～ 8.4	8.2	6.2	～ 6.9	6.6	7.3	～ 7.5	7.4	3.9	～ 4.3	4.1	3.2	～ 4.0	3.6	1.7	～ 2.3	2.0
ｐＨ	8.1	～ 8.1	－	8.1	～ 8.2	－	8.4	～ 8.4	－	8.5	～ 8.5	－	8.4	～ 8.4	－	8.4	～ 8.5	－
	8.1	～ 8.1	－	8.0	～ 8.0	－	7.9	～ 8.1	－	7.8	～ 7.9	－	8.0	～ 8.2	－	7.9	～ 8.0	－

注：１.上段は表層（海面下１m）、下段は底層（海底上２m）を示す。クロロフィルａは表層のみ調査を行った。
２.平均値を算出するにあたって、報告下限値未満は報告下限値として計算した。

表２－１－８（２） 水質（一般項目及び生活環境項目１）測定結果〔月調査〕

［補助監視点(St. 12, 13)］

調査年月日 / 項目	令和7年10月1日			令和7年11月11日			令和7年12月11日			令和8年1月27日			令和8年2月5日			令和8年3月3日			令和7年4月～令和8年3月		
	最小値 ～ 最大値		平均値	最小値 ～ 最大値		平均値	最小値 ～ 最大値		平均値	最小値 ～ 最大値		平均値	最小値 ～ 最大値		平均値	最小値 ～ 最大値		平均値	最小値 ～ 最大値		平均値
濁度	1	～ 1	1	1	～ 1	1	1	～ 1	1	1	～ 1	1	<1	～ <1	<1	1	～ 2	2	<1	～ 2	1
（度(ｶｵﾘﾝ)）	2	～ 3	3	1	～ 1	1	1	～ 1	1	1	～ 1	1	1	～ 1	1	1	～ 2	2	1	～ 4	2
透明度 (m)	2.6	～ 2.8	2.7	4.5	～ 5.0	4.8	4.2	～ 4.6	4.4	3.9	～ 3.9	3.9	4.8	～ 5.6	5.2	3.0	～ 3.8	3.4	1.5	～ 5.6	3.3
水温	24.8	～ 24.9	24.9	19.5	～ 20.0	19.8	15.6	～ 16.1	15.9	8.2	～ 8.3	8.3	8.0	～ 8.5	8.3	9.6	～ 9.7	9.7	8.0	～ 30.5	18.5
(℃)	24.5	～ 24.5	24.5	20.1	～ 20.3	20.2	15.8	～ 16.1	16.0	9.4	～ 9.5	9.5	9.3	～ 9.4	9.4	9.6	～ 9.7	9.7	9.3	～ 26.0	17.2
ＳＳ	2	～ 2	2	1	～ 1	1	2	～ 2	2	1	～ 1	1	1	～ 2	2	2	～ 3	3	1	～ 5	2
(mg/L)	3	～ 3	3	1	～ 2	2	3	～ 3	3	1	～ 1	1	2	～ 3	3	3	～ 4	4	1	～ 6	3
クロロフィルa	7	～ 7	7	1	～ 2	2	<1	～ <1	<1	<1	～ <1	<1	2	～ 4	3	2	～ 3	3	<1	～ 20	5
(μg/L)	－		－	－		－	－		－	－		－	－		－	－		－	－		－
ＦＳＳ	<1	～ <1	<1	<1	～ <1	<1	<1	～ 1	1	<1	～ 1	1	<1	～ 1	1	1	～ 2	2	<1	～ 2	1
(mg/L)	2	～ 2	2	1	～ 1	1	1	～ 1	1	<1	～ 1	1	2	～ 2	2	2	～ 2	2	<1	～ 3	2
塩分	31.5	～ 31.7	31.6	31.6	～ 31.9	31.8	32.3	～ 32.5	32.4	32.1	～ 32.1	32.1	31.6	～ 31.6	31.6	32.6	～ 32.7	32.7	25.3	～ 32.7	30.5
	32.9	～ 32.9	32.9	32.3	～ 32.3	32.3	32.4	～ 32.5	32.5	32.6	～ 32.6	32.6	32.1	～ 32.3	32.2	32.7	～ 32.7	32.7	31.4	～ 32.9	32.4
ＣＯＤ	3.0	～ 3.1	3.1	1.7	～ 2.0	1.9	1.5	～ 1.7	1.6	1.7	～ 2.0	1.9	1.8	～ 1.9	1.9	1.8	～ 2.1	2.0	1.5	～ 4.6	2.7
(mg/L)	2.1	～ 2.4	2.3	1.9	～ 2.0	2.0	1.4	～ 1.6	1.5	1.7	～ 1.9	1.8	1.7	～ 1.7	1.7	1.5	～ 2.1	1.8	1.4	～ 3.1	2.2
ＤＯ	6.6	～ 7.4	7.0	7.0	～ 7.3	7.2	7.5	～ 7.6	7.6	9.6	～ 9.6	9.6	9.9	～ 10	10	8.7	～ 9.0	8.9	5.8	～ 12	8.7
(mg/L)	3.3	～ 4.1	3.7	6.7	～ 6.9	6.8	7.4	～ 7.4	7.4	9.1	～ 9.3	9.2	9.4	～ 9.5	9.5	8.6	～ 8.8	8.7	1.7	～ 9.5	6.4
ｐＨ	8.1	～ 8.2	－	8.1	～ 8.1	－	8.0	～ 8.1	－	8.1	～ 8.1	－	8.1	～ 8.1	－	8.0	～ 8.1	－	8.0	～ 8.5	－
	7.9	～ 8.0	－	8.1	～ 8.1	－	8.0	～ 8.1	－	8.1	～ 8.1	－	8.1	～ 8.1	－	8.0	～ 8.1	－	7.8	～ 8.2	－

注：１.上段は表層（海面下１m）、下段は底層（海底上２m）を示す。クロロフィルａは表層のみ調査を行った。
２.平均値を算出するにあたって、報告下限値未満は報告下限値として計算した。

表２－１－９(１)　水質（一般項目及び生活環境項目１）測定結果〔月調査〕

調査期間：令和7年4月～令和8年3月

監視区分	基本監視点														
調査点	1			3			4			5			6		
項目	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値
濁度	<1	2	1	<1	2	1	<1	2	1	<1	2	1	<1	2	1
(度(ｶｵﾘﾝ))	<1	2	1	<1	3	2	<1	6	2	<1	7	2	<1	5	2
透明度 (m)	1.6	5.1	2.9	1.4	4.3	2.9	1.4	5.3	3.1	1.5	5.0	3.1	1.4	5.4	3.1
水温	8.1	30.3	18.7	8.4	30.1	18.5	8.4	30.3	18.4	8.4	30.4	18.4	8.3	30.3	18.5
(℃)	9.3	28.8	17.3	9.4	27.0	17.2	9.4	25.6	17.1	9.5	25.7	17.0	9.5	25.7	17.1
ＳＳ	1	5	2	1	5	3	1	5	3	1	5	2	1	4	2
(mg/L)	1	5	3	1	4	3	1	4	2	2	4	3	2	5	3
クロロフィルa	<1	15	5	<1	16	5	<1	15	5	<1	14	5	<1	12	4
(μg/L)	－		－	－		－	－		－	－		－	－		－
ＦＳＳ	<1	2	1	<1	1	1	<1	2	1	<1	2	1	<1	2	1
(mg/L)	<1	2	1	1	3	1	<1	2	1	<1	3	2	<1	3	2
塩分	25.5	32.4	30.5	25.7	32.4	30.7	26.9	32.7	30.9	27.1	32.6	30.9	25.5	32.6	30.6
	29.8	32.9	32.1	30.9	32.9	32.3	31.6	33.0	32.4	31.6	33.0	32.4	31.5	33.0	32.4
ＣＯＤ	1.8	4.2	2.9	1.9	4.1	2.8	1.7	4.3	2.7	1.7	4.4	2.7	1.9	4.1	2.7
(mg/L)	1.6	3.3	2.2	1.6	3.1	2.1	1.5	3.0	2.0	1.6	3.0	2.0	1.5	2.5	2.0
ＤＯ	7.0	11	8.9	6.8	11	8.8	7.0	11	8.8	7.4	11	8.8	7.3	11	9.0
(mg/L)	2.1	9.5	6.8	2.9	9.2	6.6	3.7	9.4	6.8	3.2	9.3	6.6	1.9	9.4	6.5
ｐＨ	8.0	8.6	－	8.0	8.6	－	8.0	8.6	－	8.0	8.6	－	8.1	8.6	－
	7.9	8.3	－	7.9	8.2	－	7.9	8.3	－	7.9	8.3	－	7.8	8.1	－

注：1.上段は表層（海面下１m）、下段は底層（海底上２m）を示す。クロロフィルａは表層のみ調査を行った。
　　2.平均値を算出するにあたって、報告下限値未満は報告下限値として計算した。

表２－１－９(２)　水質（一般項目及び生活環境項目１）測定結果〔月調査〕

調査期間：令和7年4月～令和8年3月

監視区分	基本監視点						補助監視点								
調査点	7			St.1,3～7			12			13			St.12～13		
項目	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値
濁度	<1	2	1	<1	2	1	<1	2	1	<1	1	1	<1	2	1
(度(ｶｵﾘﾝ))	1	3	1	<1	7	2	1	3	2	1	4	2	1	4	2
透明度 (m)	1.8	5.1	3.2	1.4	5.4	3.1	1.5	5.2	3.2	1.5	5.6	3.4	1.5	5.6	3.3
水温	8.0	30.6	18.6	8.0	30.6	18.5	8.3	30.3	18.5	8.0	30.5	18.5	8.0	30.5	18.5
(℃)	9.3	25.9	17.1	9.3	28.8	17.1	9.3	25.7	17.0	9.4	26.0	17.2	9.3	26.0	17.2
ＳＳ	1	4	2	1	5	3	1	5	3	1	5	2	1	5	2
(mg/L)	2	6	3	1	6	3	1	5	3	1	6	3	1	6	3
クロロフィルa	<1	11	4	<1	16	5	<1	20	5	<1	11	4	<1	20	5
(μg/L)	－		－	－		－	－		－	－		－	－		－
ＦＳＳ	<1	1	1	<1	2	1	<1	2	1	<1	1	1	<1	2	1
(mg/L)	<1	3	1	<1	3	1	<1	3	2	<1	3	2	<1	3	2
塩分	25.2	32.5	30.7	25.2	32.7	30.7	25.3	32.7	30.6	25.6	32.6	30.5	25.3	32.7	30.5
	31.9	32.9	32.4	29.8	33.0	32.4	31.4	32.9	32.3	31.8	32.9	32.4	31.4	32.9	32.4
ＣＯＤ	1.7	3.9	2.7	1.7	4.4	2.8	1.5	4.6	2.8	1.7	4.4	2.6	1.5	4.6	2.7
(mg/L)	1.5	3.3	2.2	1.5	3.3	2.1	1.4	2.7	2.1	1.5	3.1	2.3	1.4	3.1	2.2
ＤＯ	7.3	11	8.8	6.8	11	8.9	7.0	11	8.7	5.8	12	8.5	5.8	12	8.7
(mg/L)	1.5	9.4	6.6	1.5	9.5	6.7	1.7	9.4	6.3	2.3	9.5	6.6	1.7	9.5	6.4
ｐＨ	8.0	8.6	－	8.0	8.6	－	8.0	8.5	－	8.0	8.5	－	8.0	8.5	－
	7.9	8.3	－	7.8	8.3	－	7.8	8.1	－	7.9	8.2	－	7.8	8.2	－

注：1.上段は表層（海面下１m）、下段は底層（海底上２m）を示す。クロロフィルａは表層のみ調査を行った。
　　2.平均値を算出するにあたって、報告下限値未満は報告下限値として計算した。

表２－１－10　地点ごとのＦＳＳ分析結果（単位：mg/L）

調査点	表層				底層			
	最小値		最大値	平均値	最小値		最大値	平均値
St.1	<1	～	2	1	<1	～	2	1
St.3	<1	～	1	1	1	～	3	1
St.4	<1	～	2	1	<1	～	2	1
St.5	<1	～	2	1	<1	～	3	2
St.6	<1	～	2	1	<1	～	3	2
St.7	<1	～	1	1	<1	～	3	1
St.8	<1	～	3	2		－		－
St.12	<1	～	2	1	<1	～	3	2
St.13	<1	～	1	1	<1	～	3	2

注：１.St.１，３～７、St.12,13は令和７年４月から令和８年３月までの月調査より、St.８は四季調査による。

２.表層は海面下１ｍ、底層は海底上２ｍを表す。なお、St.８は中層（水面下３ｍ）の結果を示す。

３.平均値を算出するにあたって、報告下限値未満は報告下限値として計算した。

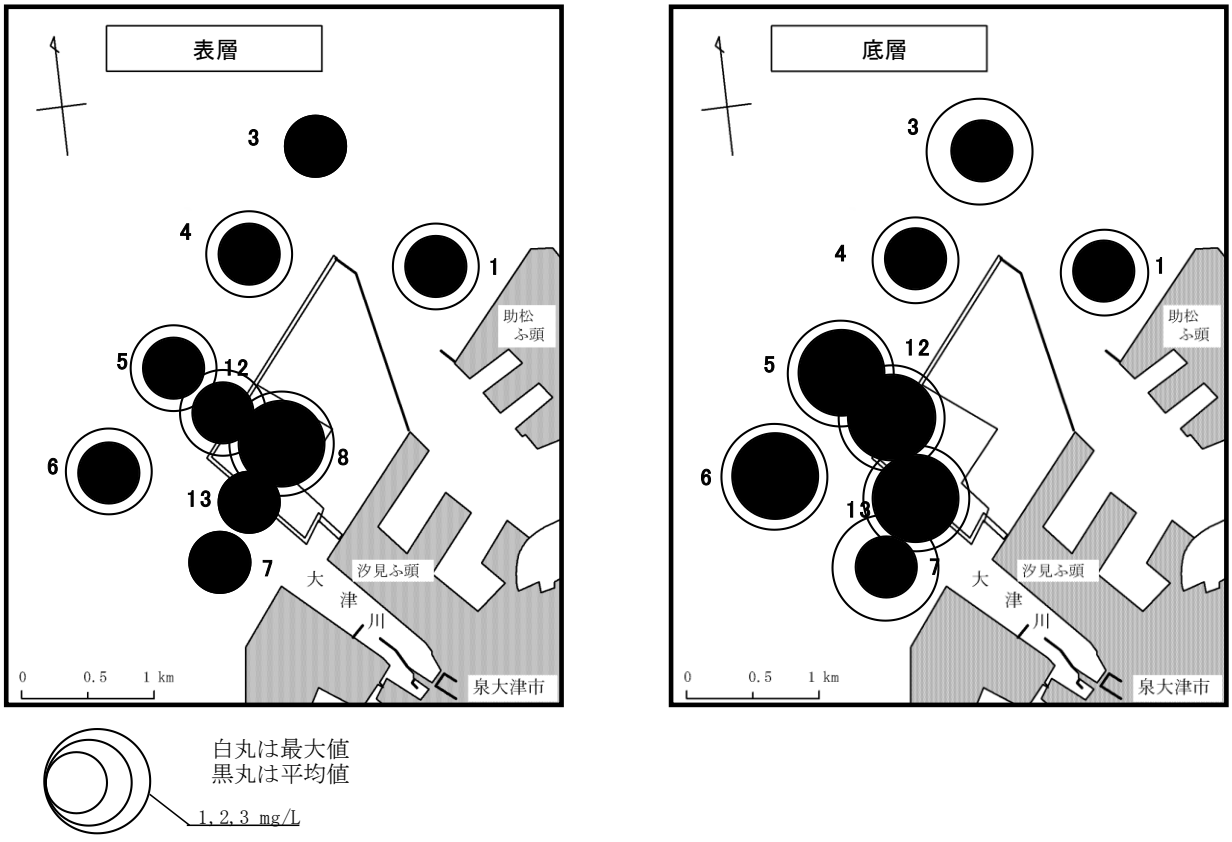


図２－１－９　ＦＳＳの水平分布

表２－１－11　地点ごとのＣＯＤ濃度分布状況（単位：mg/L）

調査点	表層			底層		
	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値
Ｓｔ.1	1.8 ～ 4.2		2.9	1.6 ～ 3.3		2.2
Ｓｔ.3	1.9 ～ 4.1		2.8	1.6 ～ 3.1		2.1
Ｓｔ.4	1.7 ～ 4.3		2.7	1.5 ～ 3.0		2.0
Ｓｔ.5	1.7 ～ 4.4		2.7	1.6 ～ 3.0		2.0
Ｓｔ.6	1.9 ～ 4.1		2.7	1.5 ～ 2.5		2.0
Ｓｔ.7	1.7 ～ 3.9		2.7	1.5 ～ 3.3		2.2
Ｓｔ.8	15 ～ 43		25	－		－
Ｓｔ.9	－		－	－		－
Ｓｔ.12	1.5 ～ 4.6		2.8	1.4 ～ 2.7		2.1
Ｓｔ.13	1.7 ～ 4.4		2.6	1.5 ～ 3.1		2.3

注：１.St.１、St.３～７、St.12,13は令和７年４月から令和６年３月までの月調査より、St.８，９は週調査のうち、月調査と同一日のデータによる。

２.表層は海面下１ｍ、底層は海底上２ｍを表す。なお、St.８，９は中層（水面下３ｍ）の結果を示す。

３.平均値を算出するにあたって、報告下限値未満は報告下限値として計算した。

４.St.９は埋立ての進捗に伴って、内水が消滅したため、令和３年度より測定を終了した。

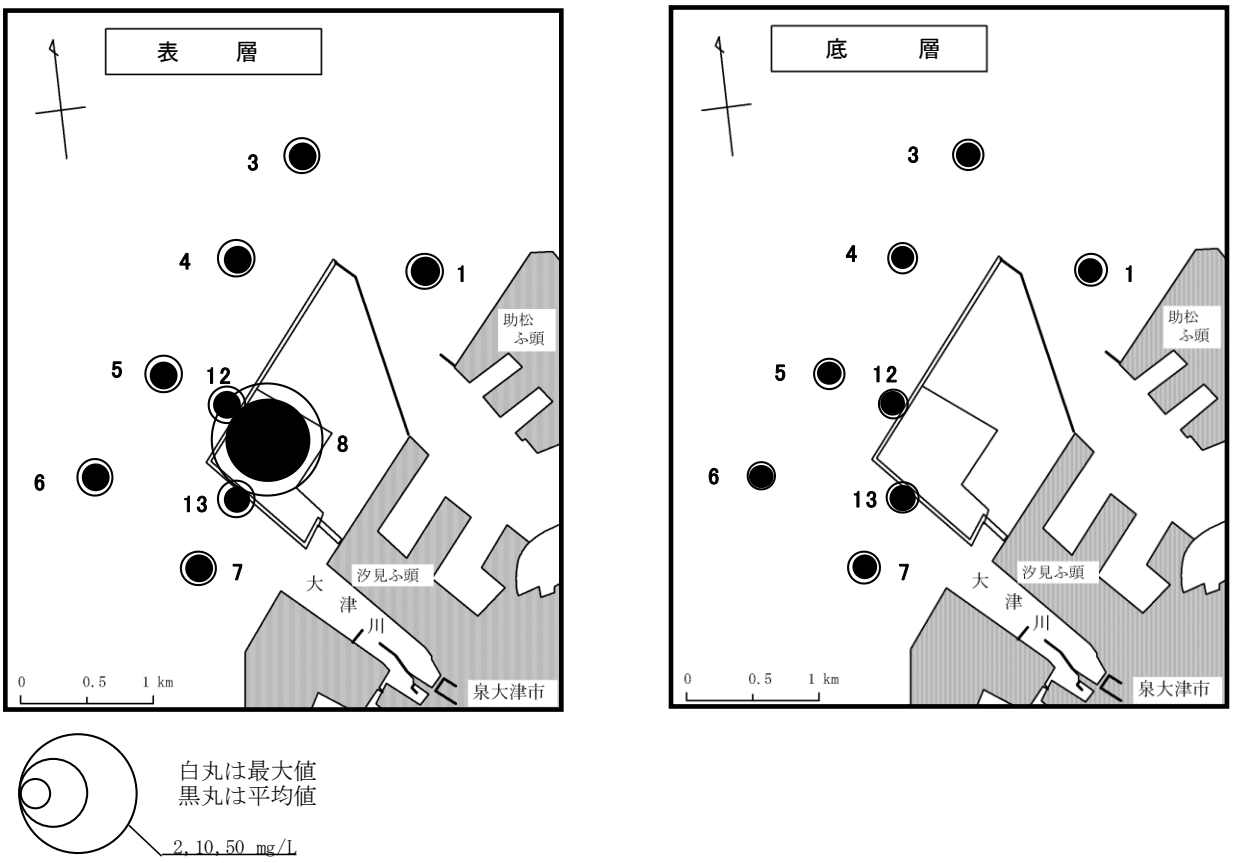


図２－１－10　ＣＯＤの水平分布

表２－１－12　水質（生活環境項目２）測定結果〔年４回調査〕

［管理型排水処理施設放流水(St.11)］

項目＼調査年月日	令和7年5月8日	令和7年8月5日	令和7年11月11日	令和8年2月5日	令和7年度			
					最小値	～	最大値	平均値
全燐 (mg/L)	0.021	0.026	0.047	0.12	0.021	～	0.12	0.054
大腸菌数 (CFU/mL)	<1	<1	<1	<1	<1	～	<1	<1
ﾉﾙﾏﾙﾍｷｻﾝ抽出物質 (mg/L)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	～	<0.5	<0.5

注：平均値を算出するにあたって、報告下限値未満は報告下限値として計算した。

表２－１－13　水質（特殊項目）測定結果〔年４回調査〕

［管理型排水処理施設放流水(St.11)］

項目＼調査年月日	令和7年5月8日	令和7年8月5日	令和7年11月11日	令和8年2月5日	令和7年度			
					最小値	～	最大値	平均値
フェノール類 (mg/L)	0.02	<0.01	<0.01	0.05	<0.01	～	0.05	0.02
銅 (mg/L)	<0.005	<0.005	0.032	<0.005	<0.005	～	0.032	0.012
亜鉛 (mg/L)	0.012	<0.005	0.036	0.008	<0.005	～	0.036	0.015
総クロム (mg/L)	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03	～	<0.03	<0.03
溶解性鉄 (mg/L)	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	～	<0.08	<0.08
溶解性マンガン (mg/L)	0.09	0.01	0.13	0.29	0.01	～	0.29	0.13
硝酸性窒素 (mg/L)	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	～	<0.04	<0.04
亜硝酸性窒素 (mg/L)	<0.04	0.04	<0.04	<0.04	<0.04	～	0.04	0.04

注：平均値を算出するにあたって、報告下限値未満は報告下限値として計算した。

表２－１－14　水質（健康項目（排水基準））測定結果〔年４回調査〕

［管理型排水処理施設放流水(St.11)］

項目＼調査年月日	令和7年5月8日	令和7年8月5日	令和7年11月11日	令和8年2月5日	令和7年度 最小値 ～ 最大値	令和7年度 平均値
カドミウム (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005 ～ <0.005	<0.005
シアン (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1 ～ <0.1	<0.1
有機リン (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1 ～ <0.1	<0.1
鉛 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005 ～ <0.005	<0.005
六価クロム (mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02 ～ <0.02	<0.02
砒素 (mg/L)	<0.005	<0.005	0.006	0.007	<0.005 ～ 0.007	0.006
総水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005 ～ <0.0005	<0.0005
アルキル水銀 (mg/L)	－	－	－	－	－	－
ＰＣＢ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005 ～ <0.0005	<0.0005
ジクロロメタン (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002 ～ <0.002	<0.002
四塩化炭素 (mg/L)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002 ～ <0.0002	<0.0002
１，２-ジクロロエタン (mg/L)	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004 ～ <0.0004	<0.0004
１，１-ジクロロエチレン (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002 ～ <0.002	<0.002
シス１，２-ジクロロエチレン (mg/L)	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004 ～ <0.004	<0.004
1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005 ～ <0.0005	<0.0005
1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006 ～ <0.0006	<0.0006
トリクロロエチレン (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002 ～ <0.002	<0.002
テトラクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005 ～ <0.0005	<0.0005
１，３-ジクロロプロペン (mg/L)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002 ～ <0.0002	<0.0002
チウラム (mg/L)	<0.006 注３	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006 ～ <0.006	<0.006
シマジン (mg/L)	<0.003 注３	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003 ～ <0.003	<0.003
チオベンカルブ (mg/L)	<0.02 注３	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02 ～ <0.02	<0.02
ベンゼン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001 ～ <0.001	<0.001
セレン (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005 ～ <0.005	<0.005
１，４-ジオキサン (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005 ～ <0.005	<0.005
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08 ～ <0.08	<0.08
硼素 (mg/L)	1.2	1.2	1.5	2.0	1.2 ～ 2.0	1.5
弗素 (mg/L)	1.6	1.8	1.5	1.5	1.5 ～ 1.8	1.6
アンモニア等 (mg/L)	13	9.6	11	15	9.6 ～ 15	12

注：１.平均値を算出するにあたって、報告下限値未満は報告下限値として計算した。
　　２.アンモニア等とはアンモニア性窒素に0.4を乗じたもの、亜硝酸性窒素及び硝酸性窒素の合計量のことである。
　　３．５月のチラウム、シマジン及びチオベンカルブは７月22日に調査した。

表２－１－15　水質（生活環境項目２）測定結果〔年４回調査〕

［管理型区画内水(St.８)］

調査年月日 / 項目	令和7年5月8日	令和7年8月5日	令和7年11月11日	令和8年2月5日	令和7年度			
					最小値	～	最大値	平均値
全燐 (mg/L)	0.022	0.025	0.042	0.12	0.022	～	0.12	0.052
大腸菌数 (CFU/mL)	<1	<1	<1	<1	<1	～	<1	<1
ﾉﾙﾏﾙﾍｷｻﾝ抽出物質 (mg/L)	<0.5	<0.5	<0.5	1.3	<0.5	～	1.3	0.7

注：平均値を算出するにあたって、報告下限値未満は報告下限値として計算した。

表２－１－16　水質（特殊項目）測定結果〔年４回調査〕

［管理型区画内水(St.８)］

調査年月日 / 項目	令和7年5月8日	令和7年8月5日	令和7年11月11日	令和8年2月5日	令和7年度			
					最小値	～	最大値	平均値
フェノール類 (mg/L)	0.03	<0.01	<0.01	0.04	<0.01	～	0.04	0.02
銅 (mg/L)	<0.005	<0.005	0.030	<0.005	<0.005	～	0.030	0.011
亜鉛 (mg/L)	0.011	<0.005	0.024	0.007	<0.005	～	0.024	0.012
総クロム (mg/L)	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03	～	<0.03	<0.03
溶解性鉄 (mg/L)	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	～	<0.08	<0.08
溶解性マンガン (mg/L)	0.09	0.01	0.10	0.30	0.01	～	0.30	0.13
硝酸性窒素 (mg/L)	<0.04	<0.04	0.09	<0.04	<0.04	～	0.09	0.05
亜硝酸性窒素 (mg/L)	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	～	<0.04	<0.04

注：平均値を算出するにあたって、報告下限値未満は報告下限値として計算した。

表２－１－17　水質（健康項目（排水基準））測定結果〔年４回調査〕

［管理型区画内水(St. 8)］

項目＼調査年月日	令和7年5月8日	令和7年8月5日	令和7年11月11日	令和8年2月5日	令和7年度 最小値	～	最大値	平均値
カドミウム (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	～	<0.005	<0.005
シアン (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	～	<0.1	<0.1
有機リン (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	～	<0.1	<0.1
鉛 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	～	<0.005	<0.005
六価クロム (mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	～	<0.02	<0.02
砒素 (mg/L)	<0.005	<0.005	0.005	0.007	<0.005	～	0.007	0.006
総水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005
アルキル水銀 (mg/L)	－	－	－	－	－			－
ＰＣＢ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005
ジクロロメタン (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002
四塩化炭素 (mg/L)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	～	<0.0002	<0.0002
１，２-ジクロロエタン (mg/L)	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	～	<0.0004	<0.0004
１，１-ジクロロエチレン (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002
シス１，２-ジクロロエチレン (mg/L)	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	～	<0.004	<0.004
1，1，1-トリクロロエタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005
1，1，2-トリクロロエタン (mg/L)	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	～	<0.0006	<0.0006
トリクロロエチレン (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002
テトラクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005
１，３-ジクロロプロペン (mg/L)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	～	<0.0002	<0.0002
チウラム (mg/L)	<0.006 注３	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	～	<0.006	<0.006
シマジン (mg/L)	<0.003 注３	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	～	<0.003	<0.003
チオベンカルブ (mg/L)	<0.02 注３	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	～	<0.02	<0.02
ベンゼン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	～	<0.001	<0.001
セレン (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	～	<0.005	<0.005
１，４-ジオキサン (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	0.005	<0.005	～	0.005	0.005
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	<0.08	<0.08	0.09	<0.08	<0.08	～	0.09	0.08
硼素 (mg/L)	1.3	1.1	1.3	2.0	1.1	～	2.0	1.4
弗素 (mg/L)	1.6	1.8	1.5	1.5	1.5	～	1.8	1.6
アンモニア等 (mg/L)	12	9.6	10	15	9.6	～	15	12

注：１.平均値を算出するにあたって、報告下限値未満は報告下限値として計算した。
　　２.アンモニア等とはアンモニア性窒素に0.4を乗じたもの、亜硝酸性窒素及び硝酸性窒素の合計量のことである。
　　３．５月のチラウム、シマジン及びチオベンカルブは７月22日に調査した。

表２－１－18　水質（生活環境項目２）測定結果〔年４回調査〕

［基本監視点(St. １，３～７)］

調査年月日 / 項目	令和7年5月8日			令和7年8月5日			令和7年11月11日			令和8年2月5日			令和7年度		
	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値
全窒素	0.41	0.65	0.52	0.30	0.34	0.32	0.31	0.51	0.37	0.23	0.45	0.33	0.23	0.65	0.39
(mg/L)	0.46	0.53	0.50	0.22	0.37	0.30	0.30	0.36	0.33	0.17	0.25	0.19	0.17	0.53	0.33
全燐	0.032	0.040	0.037	0.055	0.082	0.064	0.040	0.052	0.044	0.022	0.054	0.038	0.022	0.082	0.046
(mg/L)	0.022	0.037	0.029	0.048	0.067	0.054	0.042	0.056	0.047	0.027	0.036	0.032	0.022	0.067	0.041
大腸菌数 (CFU/100mL)	<1	24	8	<1	1	1	8	33	18	2	23	7	<1	33	9
ﾉﾙﾏﾙﾍｷｻﾝ抽出物質 (mg/L)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5

注：１.全窒素、全燐の採水層は表層（表中上段、海面下１ｍ）とし底層（表中下段、海底上２ｍ）、大腸菌数とノルマルヘキサン抽出物質は表層のみ。
　　２.平均値を算出するにあたって、報告下限値未満は報告下限値として計算した。

表２－１－19　水質（特殊項目）測定結果〔年４回調査〕

［基本監視点(St. １，３～７)］

調査年月日 / 項目	令和7年5月8日			令和7年8月5日			令和7年11月11日			令和8年2月5日			令和7年度		
	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値
フェノール類	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
銅	<0.001	0.001	0.001	<0.001	0.003	0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.003	0.001
(mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
亜鉛	0.003	0.005	0.003	0.002	0.005	0.003	0.002	0.004	0.003	0.003	0.003	0.003	0.002	0.005	0.003
(mg/L)	0.002	0.004	0.003	0.001	0.003	0.002	0.002	0.003	0.002	0.001	0.002	0.002	0.001	0.004	0.002
総クロム	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
溶解性鉄	0.01	0.02	0.01	<0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.01
(mg/L)	0.01	0.01	0.01	<0.01	0.02	0.01	0.02	0.02	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.01
溶解性マンガン	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
硝酸性窒素	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	0.08	0.14	0.10	0.06	0.14	0.10	<0.04	0.14	0.07
(mg/L)	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	0.08	0.08	0.08	<0.04	0.05	0.04	<0.04	0.08	0.05
亜硝酸性窒素	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.028	0.033	0.030	0.006	0.019	0.013	<0.005	0.033	0.013
(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.020	0.008	0.026	0.032	0.030	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.032	0.012

注：１.上段は表層（海面下１ｍ）、下段は底層（海底上２ｍ）を示す。
　　２.平均値を算出するにあたって、報告下限値未満は報告下限値として計算した。

表２－１－20　水質（健康項目）測定結果〔年２回調査〕

［基本監視点(St．１，３～７)］

調査年月日 / 項目	令和7年8月5日				令和8年2月5日				令和7年度			
	最小値	～	最大値	平均値	最小値	～	最大値	平均値	最小値	～	最大値	平均値
カドミウム	<0.0003	～	<0.0003	<0.0003	<0.0003	～	<0.0003	<0.0003	<0.0003	～	<0.0003	<0.0003
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
全シアン	<0.1	～	<0.1	<0.1	<0.1	～	<0.1	<0.1	<0.1	～	<0.1	<0.1
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
鉛	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
六価クロム	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
砒素	0.003	～	0.004	0.003	0.003	～	0.003	0.003	0.003	～	0.004	0.003
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
総水銀	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
アルキル水銀	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
ＰＣＢ	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
ジクロロメタン	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
四塩化炭素	<0.0002	～	<0.0002	<0.0002	<0.0002	～	<0.0002	<0.0002	<0.0002	～	<0.0002	<0.0002
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
１，２-ジクロロエタン	<0.0004	～	<0.0004	<0.0004	<0.0004	～	<0.0004	<0.0004	<0.0004	～	<0.0004	<0.0004
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
１，１-ジクロロエチレン	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
シス１，２-ジクロロエチレン	<0.004	～	<0.004	<0.004	<0.004	～	<0.004	<0.004	<0.004	～	<0.004	<0.004
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
１，１，１-トリクロロエタン	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
１，１，２-トリクロロエタン	<0.0006	～	<0.0006	<0.0006	<0.0006	～	<0.0006	<0.0006	<0.0006	～	<0.0006	<0.0006
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
トリクロロエチレン	<0.001	～	<0.001	<0.001	<0.001	～	<0.001	<0.001	<0.001	～	<0.001	<0.001
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
テトラクロロエチレン	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
１，３-ジクロロプロペン	<0.0002	～	<0.0002	<0.0002	<0.0002	～	<0.0002	<0.0002	<0.0002	～	<0.0002	<0.0002
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
チウラム	<0.0006	～	<0.0006	<0.0006	<0.0006	～	<0.0006	<0.0006	<0.0006	～	<0.0006	<0.0006
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
シマジン	<0.0003	～	<0.0003	<0.0003	<0.0003	～	<0.0003	<0.0003	<0.0003	～	<0.0003	<0.0003
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
チオベンカルブ	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
ベンゼン	<0.001	～	<0.001	<0.001	<0.001	～	<0.001	<0.001	<0.001	～	<0.001	<0.001
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
セレン	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
1,4-ｼﾞｵｷｻﾝ	<0.005	～	<0.005	<0.005	<0.005	～	<0.005	<0.005	<0.005	～	<0.005	<0.005
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
硝酸性窒素及び	<0.045	～	<0.045	<0.045	0.066	～	0.15	0.11	<0.045	～	0.15	0.078
亜硝酸性窒素(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
ふっ素	0.71	～	0.78	0.75	0.97	～	1.0	1.0	0.71	～	1.0	0.88
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
アンモニア等	<0.01	～	0.01	0.01	0.07	～	0.17	0.13	<0.01	～	0.17	0.07
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－

注：１．上段は表層（海面下１ｍ）、下段は底層（海底上２ｍ）を示す。
　　２．平均値を算出するにあたって、報告下限値未満は報告下限値として計算した。
　　３．アルキル水銀は、総水銀が定量下限値未満であったため、分析していない。
　　４．アンモニア等とはアンモニア性窒素に0.4を乗じたもの、亜硝酸性窒素及び硝酸性窒素の合計量のことである。

表２－１－21　水質（生活環境項目２）測定結果〔年４回調査〕

［補助監視点(St.12,13)］

調査年月日 / 項目	令和7年5月8日			令和7年8月5日			令和7年11月11日			令和8年2月5日			令和7年度		
	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値
全窒素	0.42	0.62	0.52	0.46	0.61	0.54	0.39	0.45	0.42	0.27	0.32	0.30	0.27	0.62	0.45
(mg/L)	0.35	0.49	0.42	0.33	0.36	0.35	0.35	0.36	0.36	0.20	0.23	0.22	0.20	0.49	0.34
全燐	0.031	0.039	0.035	0.070	0.072	0.071	0.043	0.045	0.044	0.028	0.036	0.032	0.028	0.072	0.046
(mg/L)	0.024	0.026	0.025	0.054	0.074	0.064	0.046	0.050	0.048	0.028	0.034	0.031	0.024	0.074	0.042
大腸菌数 (CFU/100ml)	4	10	7	<1	1	1	12	27	20	5	21	13	<1	27	10
ﾉﾙﾏﾙﾍｷｻﾝ抽出物質 (mg/L)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5

注：1.全燐、全窒素の採水層は表層（表中上段、海面下１m）とし底層（表中下段、海底上２m）、大腸菌数とノルマルヘキサン抽出物質は表層のみ。
　　2.平均値を算出するにあたって、報告下限値未満は報告下限値として計算した。

表２－１－22　水質（特殊項目）測定結果〔年４回調査〕

［補助監視点(St.12,13)］

調査年月日 / 項目	令和7年5月8日			令和7年8月5日			令和7年11月11日			令和8年2月5日			令和7年度		
	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値
フェノール類	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
銅	<0.001	0.002	0.002	0.001	0.001	0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.002	0.001
(mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.002	0.002	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.002	0.001
亜鉛	0.004	0.016	0.010	0.005	0.012	0.009	0.004	0.012	0.008	0.003	0.005	0.004	0.003	0.016	0.008
(mg/L)	0.004	0.009	0.007	0.002	0.007	0.005	0.003	0.004	0.004	0.002	0.003	0.003	0.002	0.009	0.005
総クロム	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
溶解性鉄	0.01	0.02	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.02	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.02
(mg/L)	0.01	0.01	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.02	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.01
溶解性マンガン	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
硝酸性窒素	<0.04	<0.04	<0.04	0.04	0.05	0.05	0.14	0.17	0.16	0.06	0.11	0.09	<0.04	0.17	0.09
(mg/L)	<0.04	0.09	0.07	<0.04	<0.04	<0.04	0.07	0.08	0.08	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	0.09	0.06
亜硝酸性窒素	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.025	0.026	0.026	0.007	0.012	0.010	<0.005	0.026	0.012
(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.013	0.009	0.025	0.029	0.027	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.029	0.012

注：1.上段は表層（海面下１m）、下段は底層（海底上２m）を示す。
　　2.平均値を算出するにあたって、報告下限値未満は報告下限値として計算した。

表２－１－23　水質（健康項目）測定結果〔年２回調査〕

［補助監視点(St.12,13)］

調査年月日 / 項目	令和7年8月5日				令和8年2月5日				令和7年度			
	最小値	～	最大値	平均値	最小値	～	最大値	平均値	最小値	～	最大値	平均値
カドミウム	<0.0003	～	<0.0003	<0.0003	<0.0003	～	<0.0003	<0.0003	<0.0003	～	<0.0003	<0.0003
(mg/L)	<0.0003	～	<0.0003	<0.0003	<0.0003	～	<0.0003	<0.0003	<0.0003	～	<0.0003	<0.0003
全シアン	<0.1	～	<0.1	<0.1	<0.1	～	<0.1	<0.1	<0.1	～	<0.1	<0.1
(mg/L)	<0.1	～	<0.1	<0.1	<0.1	～	<0.1	<0.1	<0.1	～	<0.1	<0.1
鉛	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002
(mg/L)	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002
六価クロム	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002
(mg/L)	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002
砒素	0.003	～	0.004	0.004	0.002	～	0.003	0.003	0.002	～	0.004	0.004
(mg/L)	0.004	～	0.004	0.004	0.003	～	0.003	0.003	0.003	～	0.004	0.004
総水銀	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005
(mg/L)	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005
アルキル水銀	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
(mg/L)	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
ＰＣＢ	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005
(mg/L)	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005
ジクロロメタン	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002
(mg/L)	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002
四塩化炭素	<0.0002	～	<0.0002	<0.0002	<0.0002	～	<0.0002	<0.0002	<0.0002	～	<0.0002	<0.0002
(mg/L)	<0.0002	～	<0.0002	<0.0002	<0.0002	～	<0.0002	<0.0002	<0.0002	～	<0.0002	<0.0002
1，2-ジクロロエタン	<0.0004	～	<0.0004	<0.0004	<0.0004	～	<0.0004	<0.0004	<0.0004	～	<0.0004	<0.0004
(mg/L)	<0.0004	～	<0.0004	<0.0004	<0.0004	～	<0.0004	<0.0004	<0.0004	～	<0.0004	<0.0004
1，1-ジクロロエチレン	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002
(mg/L)	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002
シス1，2-ジクロロエチレン	<0.004	～	<0.004	<0.004	<0.004	～	<0.004	<0.004	<0.004	～	<0.004	<0.004
(mg/L)	<0.004	～	<0.004	<0.004	<0.004	～	<0.004	<0.004	<0.004	～	<0.004	<0.004
1，2-ジクロロエチレン	<0.004	～	<0.004	<0.004	<0.004	～	<0.004	<0.004	<0.004	～	<0.004	<0.004
(mg/L)	<0.004	～	<0.004	<0.004	<0.004	～	<0.004	<0.004	<0.004	～	<0.004	<0.004
1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005
(mg/L)	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	～	<0.0006	<0.0006	<0.0006	～	<0.0006	<0.0006	<0.0006	～	<0.0006	<0.0006
(mg/L)	<0.0006	～	<0.0006	<0.0006	<0.0006	～	<0.0006	<0.0006	<0.0006	～	<0.0006	<0.0006
トリクロロエチレン	<0.001	～	<0.001	<0.001	<0.001	～	<0.001	<0.001	<0.001	～	<0.001	<0.001
(mg/L)	<0.001	～	<0.001	<0.001	<0.001	～	<0.001	<0.001	<0.001	～	<0.001	<0.001
テトラクロロエチレン	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005
(mg/L)	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005	<0.0005	～	<0.0005	<0.0005
1，3-ジクロロプロペン	<0.0002	～	<0.0002	<0.0002	<0.0002	～	<0.0002	<0.0002	<0.0002	～	<0.0002	<0.0002
(mg/L)	<0.0002	～	<0.0002	<0.0002	<0.0002	～	<0.0002	<0.0002	<0.0002	～	<0.0002	<0.0002
チウラム	<0.0006	～	<0.0006	<0.0006	<0.0006	～	<0.0006	<0.0006	<0.0006	～	<0.0006	<0.0006
(mg/L)	<0.0006	～	<0.0006	<0.0006	<0.0006	～	<0.0006	<0.0006	<0.0006	～	<0.0006	<0.0006
シマジン	<0.0003	～	<0.0003	<0.0003	<0.0003	～	<0.0003	<0.0003	<0.0003	～	<0.0003	<0.0003
(mg/L)	<0.0003	～	<0.0003	<0.0003	<0.0003	～	<0.0003	<0.0003	<0.0003	～	<0.0003	<0.0003
チオベンカルブ	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002
(mg/L)	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002
ベンゼン	<0.001	～	<0.001	<0.001	<0.001	～	<0.001	<0.001	<0.001	～	<0.001	<0.001
(mg/L)	<0.001	～	<0.001	<0.001	<0.001	～	<0.001	<0.001	<0.001	～	<0.001	<0.001
セレン	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002
(mg/L)	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002	<0.002	～	<0.002	<0.002
1,4-ジオキサン	<0.005	～	<0.005	<0.005	<0.005	～	<0.005	<0.005	<0.005	～	<0.005	<0.005
(mg/L)	<0.005	～	<0.005	<0.005	<0.005	～	<0.005	<0.005	<0.005	～	<0.005	<0.005
硝酸性窒素及び	0.045	～	0.055	0.050	0.067	～	0.12	0.094	0.045	～	0.12	0.072
亜硝酸性窒素 (mg/L)	<0.045	～	0.053	0.049	<0.045	～	<0.045	<0.045	<0.045	～	0.053	0.047
ふっ素	0.78	～	0.79	0.79	1.0	～	1.0	1.0	0.78	～	1.0	0.90
(mg/L)	0.88	～	0.95	0.92	1.0	～	1.0	1.0	0.88	～	1.0	0.96
アンモニア等	0.06	～	0.07	0.07	0.08	～	0.13	0.11	0.06	～	0.13	0.09
(mg/L)	0.05	～	0.06	0.06	0.03	～	0.04	0.04	0.03	～	0.06	0.05
クロロエチレン	<0.0002	～	<0.0002	<0.0002	<0.0002	～	<0.0002	<0.0002	<0.0002	～	<0.0002	<0.0002
(mg/L)	<0.0002	～	<0.0002	<0.0002	<0.0002	～	<0.0002	<0.0002	<0.0002	～	<0.0002	<0.0002

注：1.上段は表層（海面下１m）、下段は底層（海底上２m）を示す。
2.平均値を算出するにあたって、報告下限値未満は報告下限値として計算した。
3.アルキル水銀は、総水銀が定量下限値未満であったため、分析していない。
4.アンモニア等とはアンモニア性窒素に0.4を乗じたもの、亜硝酸性窒素及び硝酸性窒素の合計量のことである。

表２－１－24　水質（ダイオキシン類）測定結果〔年４回調査〕

［管理型排水処理施設放流水］

調査年月日 / 項目	令和7年5月8日	令和7年8月5日	令和7年11月11日	令和8年2月5日	令和7年度	
					最小値 ～ 最大値	平均値
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.00015	0.00029	0.0083	0.064	0.00015 ～ 0.064	0.018
SS (mg/L)	1	2	3	11	1 ～ 11	4

表２－１－25　水質（ダイオキシン類）測定結果〔年４回調査〕

［管理型区画内水］

調査年月日 / 項目	令和7年5月8日	令和7年8月5日	令和7年11月11日	令和8年2月5日	令和7年度	
					最小値 ～ 最大値	平均値
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.010	0.00037	0.025	0.077	0.00037 ～ 0.077	0.028
SS (mg/L)	<1	3	4	16	<1 ～ 16	6

表２－１－26　水質（ダイオキシン類）測定結果〔年４回調査〕

［補助監視点］

調査年月日		令和7年5月8日		令和7年8月5日		令和7年11月11日		令和8年2月5日		令和7年度	
項目	地点番号	St.12	St.13	St.12	St.13	St.12	St.13	St.12	St.13	最小値 ～ 最大値	平均値
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)		0.16	0.17	0.060	0.072	0.068	0.076	0.049	0.047	0.047 ～ 0.17	0.088
SS (mg/L)		3	2	2	3	3	2	4	2	2 ～ 4	3

１－４　まとめ

（１）　濁りの出現状況

基本監視点の月調査において、濁度については管理目安値〔表層11度(ｶｵﾘﾝ)、底層９度(ｶｵﾘﾝ)〕を超えた日はなかった。

また、ＦＳＳについては、監視基準値〔表層５mg/Ｌ、底層７mg/Ｌ〕を超えた日はなく、特に問題はなかった。

（２）　放流水の監視基準適合状況

管理型排水処理施設放流水は、前述の「１－３　環境監視の結果」のとおり、「環境監視計画」に定められている放流水質の管理基準値を超えたことはなかったことから、特に問題はなかった。

（３）　基本監視点及び補助監視点における水質環境基準の適合状況

〔健康項目〕

人の健康の保護に関する項目については、基本監視点(St.１，３～７)及び補助監視点(St.12,13)のいずれの監視点においても、環境基準を満足しており、特に問題はなかった。

〔生活環境項目〕

生活環境の保全に関する項目については、表２-１-27に示したように、水域の類型毎にｐＨ、ＣＯＤ、ＤＯはＡ、Ｂ、Ｃの３類型に、大腸菌数はＡ類型に、ノルマルヘキサン抽出物質はＡ、Ｂの２類型に、全窒素、全燐はⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの４類型に環境基準が設定されている。このため、測定点のうち基本監視点St.１，３，４，７、補助監視点St.12,13の６地点がＣ類型及びⅣ類型に、基本監視点St.５がＣ類型及びⅢ類型に、基本監視点St.６がＢ類型及びⅢ類型に該当する。

基本監視点及び補助監視点の水質環境基準の適合状況をまとめ、表２-１-28、表２-１-29に示した。

項目別に適合率をみると、次のとおりであった。

＜ｐＨ＞

ｐＨについては、Ｃ類型では表層68%、底層100%、Ｂ類型では表層67%、底層

100％となっていた。なお、Ｃ類型の表層(27回)及びＢ類型の表層(４回)では環境基準を上回っていたが、事業実施前の当海域における水質調査結果（表層：7.9～8.8）の範囲内にあるため、本事業による影響は非常に小さいと考えられる。

＜ＣＯＤ＞

ＣＯＤについては、Ｃ類型では表層及び底層ともに100％、Ｂ類型では表層67％、底層100％となっていた。なお、Ｂ類型の表層(４回)では環境基準を上回っていたが、事業実施前の当海域における水質調査結果（表層：1.7～12mg/L）の範囲内にあるため、本事業による影響は非常に小さいと考えられる。

＜ＤＯ＞

ＤＯについては、Ｃ類型では表層100％、底層98％、Ｂ類型では表層100％、底層75％となっていた。なお、Ｃ類型の底層(２回)及びＢ類型の底層(３回)では環境基準の非適合となったが、事業実施前の当海域における水質調査結果（底層：<0.5～9.6mg/L）の範囲内にあるため、本事業による影響は非常に小さいと考えられる。

＜全窒素、全燐＞

全窒素については、Ⅳ類型及びⅢ類型ともに全層100％となっていた。

全燐については、Ⅳ類型では表層及び底層100％、Ⅲ類型では表層50％、底層75％となっていた。なお、Ⅲ類型の表層(４回)及び底層(２回)では環境基準を上回っていたが、事業実施前の当海域における水質調査結果（表層：0.029～0.31mg/L、底層：0.020～0.19mg/L）の範囲内にあるため、本事業による影響は非常に小さいと考えられる。

＜ノルマルヘキサン抽出物質＞

ノルマルヘキサン抽出物質については、いずれの地点においても報告下限値未満（<0.5mg/L）であり、全て環境基準を満足しており特に問題はなかった。

（大阪湾水域類型、水質環境基準等については、Ⅵ　参考資料を参照。）

表２－１－27（１）　生活環境の保全に関する項目の環境基準（海域）

項　　目	類　　型		
	A	B	C
水素イオン濃度(pH)	7.8～8.3	7.8～8.3	7.0～8.3
化学的酸素要求量(COD)	２mg/Ｌ以下	３mg/Ｌ以下	８mg/Ｌ以下
溶存酸素量(DO)	7.5mg/Ｌ以上	５mg/Ｌ以上	２mg/Ｌ以上
大腸菌数	300CFU/100mL 以下	－	－
ﾉﾙﾏﾙﾍｷｻﾝ抽出物質 （油分等）	検出されないこと	検出されないこと	－
該当する監視点	－	St.６ （１地点）	St.１，３～５，７,12,13 （７地点）

表２－１－27（２）　生活環境の保全に関する項目の環境基準（海域）

項　　目	類　　型			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
全窒素(T-N)	0.2mg/Ｌ以下	0.3mg/Ｌ以下	0.6mg/Ｌ以下	１mg/Ｌ以下
全燐(T-P)	0.02mg/Ｌ以下	0.03mg/Ｌ以下	0.05mg/Ｌ以下	0.09mg/Ｌ以下
該当する監視点	－	－	St.５，６ （２地点）	St.１，３，４，７,12,13 （６地点）

表２－１－28　「水質汚濁に係る環境基準」の適合率（表層）

調査日	項目	水素イオン濃度（ｐＨ）		化学的酸素要求量（ＣＯＤ）		溶存酸素量（ＤＯ）		全窒素（Ｔ－Ｎ）		全燐（T-P）	
	類型	Ｂ類型	Ｃ類型	Ｂ類型	Ｃ類型	Ｂ類型	Ｃ類型	類型Ⅲ	類型Ⅳ	類型Ⅲ	類型Ⅳ
	基準値	7.8以上 8.3以下	7.0以上 8.3以下	3 mg/L 以下	8 mg/L 以下	5 mg/L 以上	2 mg/L 以上	0.6 mg/L 以下	1 mg/L 以下	0.05 mg/L 以下	0.09 mg/L 以下
令和7年	4月17日	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	－	－	－	－
	5月 8日	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	2 ／ 2	6 ／ 6	1 ／ 2	6 ／ 6
	6月 3日	0 ／ 1	1 ／ 7	0 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	－	－	－	－
	7月 1日	0 ／ 1	0 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	－	－	－	－
	8月 5日	0 ／ 1	0 ／ 7	0 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	2 ／ 2	6 ／ 6	0 ／ 2	6 ／ 6
	9月 2日	0 ／ 1	0 ／ 7	0 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	－	－	－	－
	10月 1日	1 ／ 1	7 ／ 7	0 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	－	－	－	－
	11月11日	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	2 ／ 2	6 ／ 6	2 ／ 2	6 ／ 6
	12月11日	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	－	－	－	－
令和8年	1月27日	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	－	－	－	－
	2月 5日	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	2 ／ 2	6 ／ 6	1 ／ 2	6 ／ 6
	3月 3日	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	－	－	－	－
合計適合率（%）		8 ／ 12 (67)	57 ／ 84 (68)	8 ／ 12 (67)	84 ／ 84 (100)	12 ／ 12 (100)	84 ／ 84 (100)	8 ／ 8 (100)	24 ／ 24 (100)	4 ／ 8 (50)	24 ／ 24 (100)

表２－１－29　「水質汚濁に係る環境基準」の適合率（底層）

調査日	項目	水素イオン濃度（ｐＨ）		化学的酸素要求量（ＣＯＤ）		溶存酸素量（ＤＯ）		全窒素（Ｔ－Ｎ）		全燐（T-P）	
	類型	Ｂ類型	Ｃ類型	Ｂ類型	Ｃ類型	Ｂ類型	Ｃ類型	類型Ⅲ	類型Ⅳ	類型Ⅲ	類型Ⅳ
	基準値	7.8以上 8.3以下	7.0以上 8.3以下	3 mg/L 以下	8 mg/L 以下	5 mg/L 以上	2 mg/L 以上	0.6 mg/L 以下	1 mg/L 以下	0.05 mg/L 以下	0.09 mg/L 以下
令和7年	4月17日	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	－	－	－	－
	5月 8日	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	2 ／ 2	6 ／ 6	2 ／ 2	6 ／ 6
	6月 3日	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	－	－	－	－
	7月 1日	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	－	－	－	－
	8月 5日	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	0 ／ 1	7 ／ 7	2 ／ 2	6 ／ 6	1 ／ 2	6 ／ 6
	9月 2日	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	0 ／ 1	5 ／ 7	－	－	－	－
	10月 1日	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	0 ／ 1	7 ／ 7	－	－	－	－
	11月11日	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	2 ／ 2	6 ／ 6	1 ／ 2	6 ／ 6
	12月11日	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	－	－	－	－
令和8年	1月27日	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	－	－	－	－
	2月 5日	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	2 ／ 2	6 ／ 6	2 ／ 2	6 ／ 6
	3月 3日	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	1 ／ 1	7 ／ 7	－	－	－	－
合計適合率（%）		12 ／ 12 (100)	84 ／ 84 (100)	12 ／ 12 (100)	84 ／ 84 (100)	9 ／ 12 (75)	82 ／ 84 (98)	8 ／ 8 (100)	24 ／ 24 (100)	6 ／ 8 (75)	24 ／ 24 (100)

２　底　質

２－１　環境監視の実施状況

底質については、表２-２-１に示すとおり、最終処分場周辺海域の底質の状況を把握するため、ＣＯＤsed（化学的酸素要求量）等の項目、栄養塩類（窒素、燐)、一部重金属類等及びシアン等の有害項目について８月、２月に調査を実施した。

なお、底質の測定点、調査内容及び測定方法等は「環境監視計画」に定められた内容に従った。

表２－２－１　底質調査の実施状況

環境項目	測定・調査項目	測定地点	測定点数	頻　度	実施日
底　質	泥温、含水率、 粒度組成、 CODsed、強熱減量、 全窒素、硫化物、 全燐、ｶﾄﾞﾐｳﾑ、ｼｱﾝ、 有機燐、鉛、 六価ｸﾛﾑ、PCB、砒素、 総水銀、ｱﾙｷﾙ水銀、 ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ、ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ、 銅、亜鉛、ふっ素	基本監視点 (St.１,３～７)	６地点	２回／年	令和７年 ８月18日 令和８年 ２月６日

２－２　環境監視の結果

底質調査は、水質の月調査等と同様に漁船を調査船として使用し、午前中に実施した。

調査結果の概要については表２-２-２～表２-２-５に示すとおりである。

〔一般項目〕

＜粒度組成＞

周辺海域における海底泥のシルト分以下の占める割合は、73.5～99.2%（年平均95.4%)であり、全域的に高かった。

＜ＣＯＤsed、強熱減量、硫化物＞

ＣＯＤsedは15～48mg/g乾泥（年平均28mg/g乾泥)、強熱減量は5.5～12（年平均8.9%)、硫化物は0.2～1.7mg/g乾泥（年平均0.7mg/g乾泥）の範囲であった。

なお、ＣＯＤsedの水平分布は図２－２－１に示すとおりである。

＜全窒素、全燐＞

全窒素は990～3,000mg/kg乾泥（年平均2,000mg/kg乾泥）、全燐は370～790mg/kg乾泥（年平均550mg/kg乾泥）の範囲であった。

従来の測定結果と同程度であり、本事業による影響は非常に小さいものと考えられる。

〔健康項目等〕

カドミウムは0.22～0.81mg/kg乾泥（年平均0.57mg/kg乾泥）、鉛は23～52mg/kg乾泥（年平均42mg/kg乾泥）、砒素は6.4～11mg/kg乾泥（年平均9.2mg/kg乾泥）、総水銀は0.18～0.47mg/kg乾泥（年平均0.31mg/kg乾泥）、銅は21～56mg/kg乾泥（年平均38mg/kg乾泥）、亜鉛は120～310mg/kg乾泥（年平均230mg/kg乾泥）、ふっ素は91～170mg/kg乾泥（年平均120mg/kg乾泥）であった。その他の健康項目（シアン、有機燐等）はいずれも全測定日で報告下限値未満であった。

カドミウムについては0.22～0.81(平均0.57)mg/kg乾泥の範囲にあり、令和６年度大阪湾底質調査結果「0.05～0.66(平均0.30)mg/kg乾泥」及び令和７年度大阪湾底質調査結果（暫定値）「0.36～0.55(平均0.48)mg/kg乾泥」と比較して、令和６年度調査結果の最大値及び平均値、令和７年度暫定値の最大値及び平均値を上回った。

総水銀は0.18～0.47(平均0.31)mg/kg乾泥の範囲にあり、令和６年度大阪湾底質調査結果「水質汚濁防止法の水質測定計画に基づく調査結果：0.02～0.45(平均0.20)mg/kg乾泥」及び令和７年度大阪湾底質調査結果（暫定値）「0.20～0.43(平均0.33)mg/kg乾泥」と比較して、令和６年度調査結果の最大値及び平均値、令和７年度暫定値の最大値を上回った。

ＰＣＢは全監視点及び全測定日で報告下限値未満（<0.01mg/kg乾泥）であり、大阪府の生活環境保全目標値（10mg/kg乾泥）を下回った。

本年度の測定結果については、従来の測定結果と概ね同程度であり、本事業による影響は非常に小さいものと考えられる。

表２－２－２　底質（一般項目）の調査日ごとの測定結果〔年２回調査〕

［基本監視点(St．１，３～７)］

項目		調査年月日 / 単位	令和7年8月18日 最小値	～	最大値	平均値	令和8年2月6日 最小値	～	最大値	平均値	令和7年度 最小値	～	最大値	平均値
泥温		℃	24.6	～	28.3	26.5	10.3	～	11.0	10.7	10.3	～	28.3	18.6
含水率		%	61	～	73	67	48	～	76	66	48	～	76	66
粒度組成	粗礫 (19～75mm)	%	－	～	－	－	－	～	－	－	－	～	－	－
	中礫 (4.75～19mm)	%	0.1	～	0.1	0.1	0.7	～	0.7	0.7	0.1	～	0.7	0.4
	細礫 (2.00～4.75mm)	%	0.1	～	0.2	0.1	0.2	～	2.5	1.0	0.1	～	2.5	0.6
	粗砂 (0.85～2.00mm)	%	0.2	～	1.3	0.5	0.4	～	4.4	1.5	0.2	～	4.4	0.9
	中砂 (0.250～0.850mm)	%	0.4	～	2.7	1.2	0.4	～	9.6	2.1	0.4	～	9.6	1.7
	細砂 (0.075～0.250mm)	%	0.7	～	2.8	1.5	0.4	～	9.3	2.4	0.4	～	9.3	1.9
	シルト (0.005～0.075mm)	%	74.6	～	82.4	79.7	48.6	～	80.3	72.5	48.6	～	82.4	76.1
	粘土 (0.005mm以下)	%	15.9	～	19.1	17.2	18.9	～	25.2	21.4	15.9	～	25.2	19.3
	シルト分以下 (0.075mm以下)	%	93.7	～	98.9	96.9	73.5	～	99.2	93.9	73.5	～	99.2	95.4
強熱減量（IL）		%	7.9	～	10	8.9	5.5	～	12	8.9	5.5	～	12	8.9
化学的酸素要求量（ＣＯＤsed）		mg/g乾泥	15	～	45	28	15	～	48	27	15	～	48	28
硫化物		mg/g乾泥	0.3	～	1.7	0.8	0.2	～	1.3	0.6	0.2	～	1.7	0.7
全窒素（Ｔ－Ｎ）		mg/kg乾泥	1200	～	2300	1900	990	～	3000	2200	990	～	3000	2000
全りん（Ｔ－Ｐ）		mg/kg乾泥	420	～	590	510	370	～	790	590	370	～	790	550

表２－２－３　底質（健康項目）の調査日ごとの測定結果〔年２回調査〕

［基本監視点(St．１，３～７)］

項目	調査年月日 / 単位	令和7年8月18日 最小値	～	最大値	平均値	令和8年2月6日 最小値	～	最大値	平均値	令和7年度 最小値	～	最大値	平均値
カドミウム	mg/kg乾泥	0.27	～	0.76	0.56	0.22	～	0.81	0.58	0.22	～	0.81	0.57
シアン	mg/kg乾泥	<0.1	～	<0.1	<0.1	<0.1	～	<0.1	<0.1	<0.1	～	<0.1	<0.1
有機燐	mg/kg乾泥	<0.1	～	<0.1	<0.1	<0.1	～	<0.1	<0.1	<0.1	～	<0.1	<0.1
鉛	mg/kg乾泥	35	～	52	44	23	～	47	41	23	～	52	42
六価クロム	mg/kg乾泥	<2	～	<2	<2	<2	～	<2	<2	<2	～	<2	<2
砒素	mg/kg乾泥	6.4	～	9.5	8.2	9.4	～	11	10	6.4	～	11	9.2
総水銀	mg/kg乾泥	0.20	～	0.41	0.29	0.18	～	0.47	0.33	0.18	～	0.47	0.31
アルキル水銀	mg/kg乾泥	<0.01	～	<0.01	<0.01	<0.01	～	<0.01	<0.01	<0.01	～	<0.01	<0.01
トリクロロエチレン	mg/kg乾泥	<0.05	～	<0.05	<0.05	<0.05	～	<0.05	<0.05	<0.05	～	<0.05	<0.05
テトラクロロエチレン	mg/kg乾泥	<0.01	～	<0.01	<0.01	<0.01	～	<0.01	<0.01	<0.01	～	<0.01	<0.01
ＰＣＢ	mg/kg乾泥	<0.01	～	<0.01	<0.01	<0.01	～	<0.01	<0.01	<0.01	～	<0.01	<0.01
銅	mg/kg乾泥	26	～	38	33	21	～	56	42	21	～	56	38
亜鉛	mg/kg乾泥	130	～	250	200	120	～	310	250	120	～	310	230
ふっ素	mg/kg乾泥	100	～	140	120	91	～	170	120	91	～	170	120

注：平均の算出にあたっては、報告下限値未満は報告下限値として計算した。

表２－２－４（１）　底質（一般項目）地点別測定結果表〔年２回調査〕

項目	単位	基本監視点 1 8月	1 2月	1 平均値	3 8月	3 2月	3 平均値	4 8月	4 2月	4 平均値	5 8月	5 2月	5 平均値	6 8月	6 2月	6 平均値	7 8月	7 2月	7 平均値	St.1,3～7 最小値	～	St.1,3～7 最大値	St.1,3～7 平均値
泥温	℃	28.3	10.3	19.3	27.5	10.8	19.2	26.2	10.7	18.5	25.7	10.8	18.3	26.6	10.7	18.7	24.6	11.0	17.8	10.3	～	28.3	18.6
含水率	%	65	48	57	61	65	63	64	68	66	71	70	71	65	67	66	73	76	75	48	～	76	66
粒度組成 粗礫（19～75mm）	%	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	～	－	－
粒度組成 中礫（4.75～19mm）	%	0.1	0.7	0.4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.1	～	0.7	0.4
粒度組成 細礫（2.00～4.75mm）	%	0.2	2.5	1.4	0.1	0.4	0.3	0.1	0.2	0.2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.1	～	2.5	0.6
粒度組成 粗砂（0.85～2.00mm）	%	0.4	4.4	2.4	1.3	0.6	1.0	0.2	0.4	0.3	0.2	－	0.2	0.2	0.4	0.3	－	－	－	0.2	～	4.4	0.9
粒度組成 中砂（0.250～0.850mm）	%	2.1	9.6	5.9	2.7	1.1	1.9	0.8	0.6	0.7	0.6	0.4	0.5	0.6	0.6	0.6	0.4	0.4	0.4	0.4	～	9.6	1.7
粒度組成 細砂（0.075～0.250mm）	%	2.8	9.3	6.1	2.2	1.9	2.1	1.0	1.4	1.2	0.9	0.4	0.7	1.2	0.9	1.1	0.7	0.4	0.6	0.4	～	9.3	1.9
粒度組成 シルト（0.005～0.075mm）	%	76.7	48.6	62.7	74.6	74.9	74.8	81.7	78.5	80.1	82.4	80.3	81.4	81.8	78.6	80.2	81.0	74.0	77.5	48.6	～	82.4	76.1
粒度組成 粘土（0.005mm以下）	%	17.7	24.9	21.3	19.1	21.1	20.1	16.2	18.9	17.6	15.9	18.9	17.4	16.2	19.5	17.9	17.9	25.2	21.6	15.9	～	25.2	19.3
粒度組成 シルト分以下（0.075mm以下）	%	94.4	73.5	84.0	93.7	96.0	94.9	97.9	97.4	97.7	98.3	99.2	98.8	98.0	98.1	98.1	98.9	99.2	99.1	73.5	～	99.2	95.4
強熱減量（IL）	%	7.9	5.5	6.7	8.4	8.8	8.6	8.3	8.6	8.5	9.6	9.5	9.6	9.4	8.8	9.1	10	12	11	5.5	～	12	8.9
化学的酸素要求量（ＣＯＤsed）	mg/g乾泥	25	15	20	15	19	17	23	25	24	35	31	33	26	26	26	45	48	47	15	～	48	28
硫化物	mg/g乾泥	0.7	0.2	0.5	0.3	0.4	0.4	0.5	0.6	0.6	1.0	0.4	0.7	0.5	0.4	0.5	1.7	1.3	1.5	0.2	～	1.7	0.7
全窒素（Ｔ－Ｎ）	mg/kg乾泥	1700	990	1300	1200	1900	1600	1600	2300	2000	2100	2700	2400	2200	2300	2300	2300	3000	2700	990	～	3000	2000
全りん（Ｔ－Ｐ）	mg/kg乾泥	470	370	420	420	600	510	430	600	520	580	620	600	540	570	560	590	790	690	370	～	790	550

表２－２－４（２）　底質（健康項目）地点別測定結果表〔年２回調査〕

項目	単位	基本監視点 1 8月	1 2月	1 平均値	3 8月	3 2月	3 平均値	4 8月	4 2月	4 平均値	5 8月	5 2月	5 平均値	6 8月	6 2月	6 平均値	7 8月	7 2月	7 平均値	St.1,3～7 最小値	～	St.1,3～7 最大値	St.1,3～7 平均値
カドミウム	mg/kg乾泥	0.34	0.22	0.28	0.27	0.35	0.31	0.67	0.67	0.67	0.73	0.79	0.76	0.76	0.81	0.79	0.58	0.64	0.61	0.22	～	0.81	0.57
シアン	mg/kg乾泥	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	～	<0.1	<0.1
有機燐	mg/kg乾泥	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	～	<0.1	<0.1
鉛	mg/kg乾泥	35	23	29	35	35	35	46	46	46	50	46	48	52	47	50	47	47	47	23	～	52	42
六価クロム	mg/kg乾泥	<2	<2	<2	<2	<2	<2	<2	<2	<2	<2	<2	<2	<2	<2	<2	<2	<2	<2	<2	～	<2	<2
砒素	mg/kg乾泥	7.6	10	8.8	8.5	10	9.3	8.4	11	9.7	9.0	10	9.5	9.5	10	9.8	6.4	9.4	7.9	6.4	～	11	9.2
総水銀	mg/kg乾泥	0.26	0.18	0.22	0.25	0.29	0.27	0.39	0.42	0.41	0.25	0.37	0.31	0.41	0.47	0.44	0.20	0.26	0.23	0.18	～	0.47	0.31
アルキル水銀	mg/kg乾泥	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	～	<0.01	<0.01
トリクロロエチレン	mg/kg乾泥	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	～	<0.05	<0.05
テトラクロロエチレン	mg/kg乾泥	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	～	<0.01	<0.01
ＰＣＢ	mg/kg乾泥	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	～	<0.01	<0.01
銅	mg/kg乾泥	27	21	24	26	34	30	33	45	39	38	49	44	36	48	42	37	56	47	21	～	56	38
亜鉛	mg/kg乾泥	150	120	140	130	190	160	220	300	260	250	310	280	250	310	280	210	280	250	120	～	310	230
ふっ素	mg/kg乾泥	100	91	96	100	97	99	110	94	100	140	140	140	130	99	110	120	170	150	91	～	170	120

注：平均の算出にあたっては、報告下限値未満は報告下限値として計算した。

表２－２－５　　地点ごとのＣＯＤsedの分析結果（単位：mg/g乾泥）

調査点	令和7年8月18日	令和8年2月6日	平均
St.1	25	15	20
St.3	15	19	17
St.4	23	25	24
St.5	35	31	33
St.6	26	26	26
St.7	45	48	47

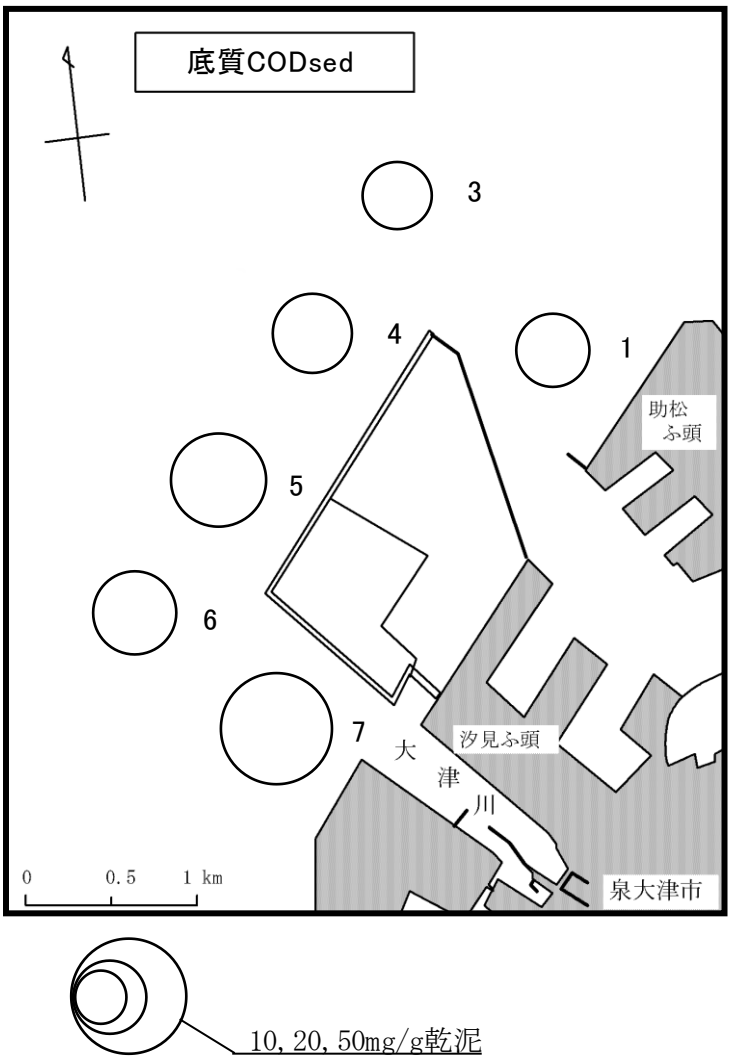


図２－２－１　　ＣＯＤsedの水平分布（底質、平均値）

３　海生生物

３－１　環境監視の実施状況

海生生物については、表２-３-１に示すとおり、最終処分場周辺海域の底生生物、プランクトン等の状況を把握するため、年４回の四季調査を実施した。

なお、海生生物の測定点、調査内容及び測定方法等は「環境監視計画」に定められた内容にしたがった。

表２－３－１　海生生物調査の実施状況

環境項目	測定・調査項目	測定地点	測定点数	頻度	実施日
海生生物	プランクトン	基本監視点 (St.1,3～7)	6地点	4回／年	令和7年 5月 8日 8月 5日 11月11日 令和8年 2月 5日
	魚卵・稚仔魚				令和7年 5月 9日 8月18日 11月12日 令和8年 2月 6日
	底生生物				令和7年 5月 9日 8月18日 11月12日 令和8年 2月 6日
	付着生物	基本監視点 (St.14,15)	2地点		令和7年 5月 9日 8月14日 11月12日 令和8年 2月 6日
	漁業生物	基本監視点 (St.16,17)	2地点		令和7年 5月 8～ 9日 8月18～19日 11月11～12日 令和8年 2月 5～ 6日

３－２　環境監視の結果

（１）　プランクトン調査

①　植物プランクトン

植物プランクトンの季節別出現状況を表２-３-２に、季節変化を図２-３-１に、各季の水平分布を図２-３-２に示した。

季別の出現種類数は、表層では春季に最も多く54種類、秋季に最も少なく40種類であった。底層では春季に最も多く59種類、秋季に最も少なく37種類であった。

表層、底層の各季の出現種類数を比較すると、春季は底層の方が５種類多く、夏季は底層の方が８種類多く、秋季は表層の方が３種類多く、冬季は底層の方が６種類多かった。

平均出現細胞数は、表層では春季に最も多く1,107細胞/mL、秋季に最も少なく50細胞/mLであった。底層では春季に最も多く920細胞/mL、秋季に最も少なく58細胞/mLであった。

表層、底層の平均出現細胞数を比較すると、春季は表層の方が187細胞/mL多く、夏季は表層の方が155細胞/mL多く、秋季は底層の方が８細胞/mL多く、冬季は底層の方が64細胞/mL多かった。

平均沈殿量は、表層及び底層ともに春季及び冬季が0.1mL/L、夏季及び秋季が<0.05mL/Lであった。

季別の主要種をみると、春季は表層及び底層ともにニッチア　プンゲンス、夏季は表層及び底層ともにリゾソレニア　フラギリシマ、秋季は表層及び底層ともにクリプト藻綱、冬季は表層でクリプト藻綱、底層ではスケレトネマ　コスタツムが最優占種であった。

季別の水平分布をみると、春季の表層のSt．１,St．３及び底層のSt．４、夏季の底層のSt．１及びSt．７、秋季の底層のSt．６、冬季の表層のSt．３が他の地点に比べ細胞数が多く、春季の底層のSt．３、夏季の底層のSt．４及びSt．６が他の地点に比べ細胞数が少なかった。

以上のように、本調査海域における植物プランクトンの出現状況は、赤潮状態にあるとはいえないが、大阪湾をはじめ各地内湾でしばしば赤潮を形成する珪藻綱のニッチア属、スケレトネマ　コスタツム等が四季を通して主要種として出現した。その他の出現種はいずれも大阪湾で普通にみられる種であった。

表２－３－２（１） 植物プランクトンの季節別出現状況（表層）

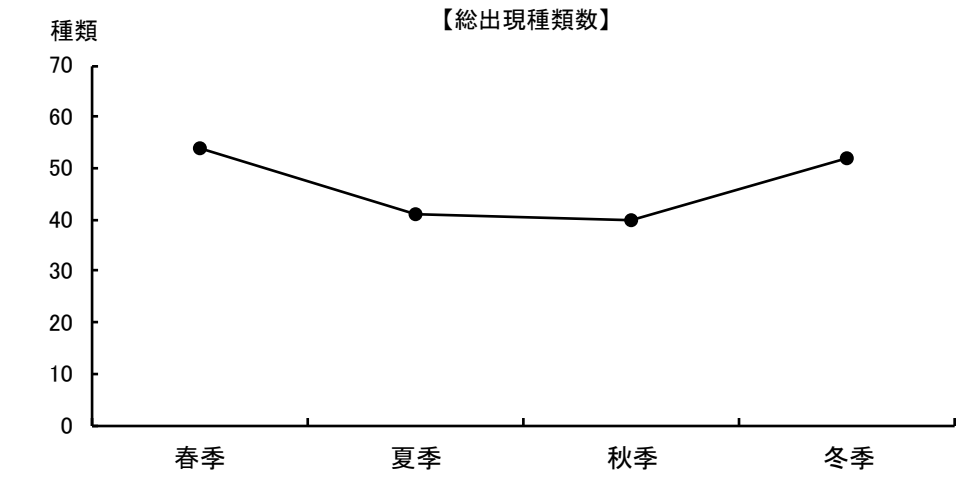
調査期日 / 項目	令和7年5月8日 (春季)	令和7年8月5日 (夏季)	令和7年11月11日 (秋季)	令和8年2月5日 (冬季)
総出現種類数	54	41	40	52
平均出現種類数 (注1)	31 (25 ～ 35)	25 (22 ～ 27)	21 (14 ～ 28)	33 (30 ～ 37)
平均出現細胞数 (細胞/mL)	1,107 (789 ～ 1,537)	909 (676 ～ 1,131)	50 (27 ～ 64)	493 (292 ～ 888)
沈殿量 (mL/L)	0.1 (<0.05 ～ 0.2)	<0.05 (<0.05 ～ <0.05)	<0.05 (<0.05 ～ <0.05)	0.1 (<0.05 ～ 0.1)
主要種の平均出現数 (細胞/mL) カッコ内は組成比：% (注2)	ﾆｯﾁｱ ﾌﾟﾝｹﾞﾝｽ 664 (60.0)	ﾘｿﾞｿﾚﾆｱ ﾌﾗｷﾞﾘｼﾏ 549 (60.4)	ｸﾘﾌﾟﾄ藻綱 16 (31.5)	ｸﾘﾌﾟﾄ藻綱 142 (28.8)
	ﾘｿﾞｿﾚﾆｱ ｾﾃｨｹﾞﾗ 141 (12.7)	ﾆｯﾁｱ属 72 (7.9)	ﾀﾗｼｵｼﾗ属 4 (7.3)	ｽｹﾚﾄﾈﾏ ｺｽﾀﾂﾑ 136 (27.5)
	ｽｹﾚﾄﾈﾏ ｺｽﾀﾂﾑ 81 (7.3)	ｷﾞﾑﾉﾃﾞｨﾆｳﾑ属 71 (7.8)	ｽｹﾚﾄﾈﾏ ｺｽﾀﾂﾑ 3 (6.3)	ｷﾞﾑﾉﾃﾞｨﾆｳﾑ属 29 (5.9)
	ｷｰﾄｹﾛｽ属 65 (5.8)	ｷｰﾄｹﾛｽ属 69 (7.6)	ﾊﾌﾟﾄ藻綱 3 (5.3)	ﾆｯﾁｱ ﾌﾟﾝｹﾞﾝｽ 27 (5.5)
	ｷﾞﾑﾉﾃﾞｨﾆｳﾑ属 39 (3.5)	ｸﾘﾌﾟﾄ藻綱 37 (4.1)	ｷﾞﾑﾉﾃﾞｨﾆｳﾑ属 3 (5.0)	ﾊﾌﾟﾄ藻綱 25 (5.0)

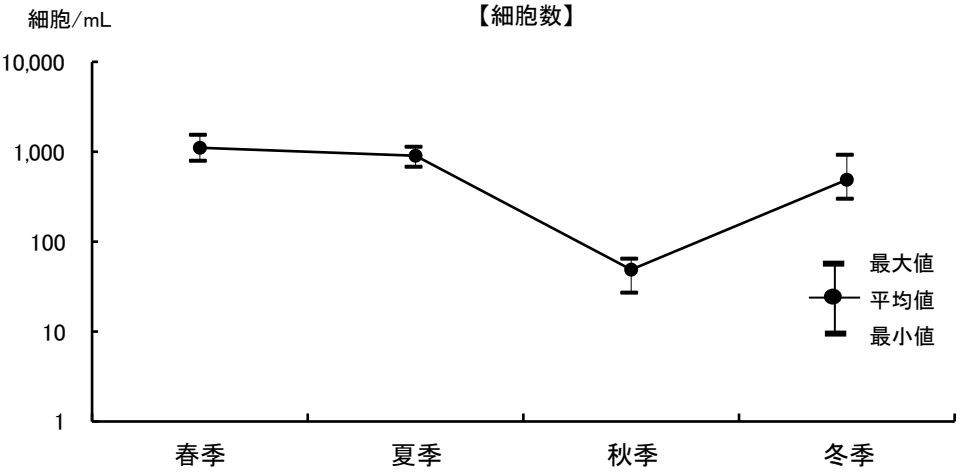
注：１.総出現種類数欄には各季の総種類数を、平均出現種類数欄には調査点平均値（最小値～最大値）を示す。
　　２.主要種は平均出現数の組成比で上位５種を示す。

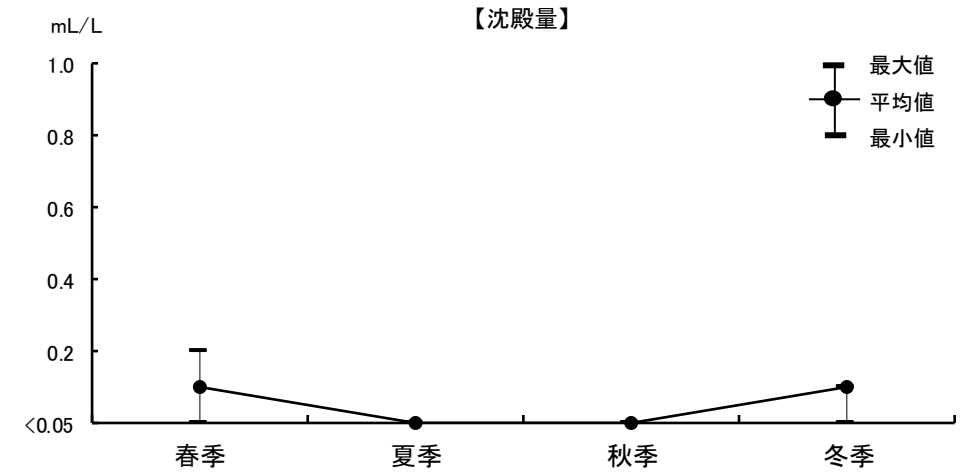
表２－３－２（２） 植物プランクトンの季節別出現状況（底層）

調査期日 / 項目	令和7年5月8日 (春季)	令和7年8月5日 (夏季)	令和7年11月11日 (秋季)	令和8年2月5日 (冬季)
総出現種類数	59	49	37	58
平均出現種類数 (注1)	32 (29 ～ 35)	27 (21 ～ 30)	18 (12 ～ 26)	40 (36 ～ 44)
平均出現細胞数 (細胞/mL)	920 (297 ～ 1,461)	754 (491 ～ 1,038)	58 (37 ～ 110)	557 (431 ～ 657)
沈殿量 (mL/L)	0.1 (0.1 ～ 0.1)	<0.05 (<0.05 ～ 0.1)	<0.05 (<0.05 ～ 0.1)	0.1 (0.1 ～ 0.1)
主要種の平均出現数 (細胞/mL) カッコ内は組成比：% (注2)	ﾆｯﾁｱ ﾌﾟﾝｹﾞﾝｽ 272 (29.6)	ﾘｿﾞｿﾚﾆｱ ﾌﾗｷﾞﾘｼﾏ 339 (45.0)	ｸﾘﾌﾟﾄ藻綱 26 (43.8)	ｽｹﾚﾄﾈﾏ ｺｽﾀﾂﾑ 111 (19.8)
	ｽｹﾚﾄﾈﾏ ｺｽﾀﾂﾑ 240 (26.0)	ﾆｯﾁｱ属 149 (19.8)	ﾐﾄﾞﾘﾑｼ藻綱 7 (11.5)	ｸﾘﾌﾟﾄ藻綱 69 (12.3)
	ﾘｿﾞｿﾚﾆｱ ｾﾃｨｹﾞﾗ 151 (16.4)	ｷｰﾄｹﾛｽ属 62 (8.2)	ｷﾞﾑﾉﾃﾞｨﾆｳﾑ属 4 (6.3)	ﾊﾌﾟﾄ藻綱 64 (11.5)
	ｷｰﾄｹﾛｽ属 88 (9.6)	ｷﾞﾑﾉﾃﾞｨﾆｳﾑ属 51 (6.8)	ｺｽｷﾉﾃﾞｨｽｸｽ属 3 (4.9)	ﾕｰｶﾝﾋﾟｱ ｿﾞﾃﾞｨｱｸｽ 50 (8.9)
	ｷｰﾄｹﾛｽ ﾃﾞﾋﾞﾚ 52 (5.6)	ｸﾘﾌﾟﾄ藻綱 33 (4.3)	ﾊﾌﾟﾄ藻綱 3 (4.3)	ﾘｿﾞｿﾚﾆｱ ｲﾝﾌﾞﾘｶｰﾀ 40 (7.1)
		ﾀﾗｼｵｼﾗ属 33 (4.3)		

注：１.総出現種類数欄には各季の総種類数を、平均出現種類数欄には調査点平均値（最小値～最大値）を示す。
　　２.主要種は平均出現数の組成比で上位５種を示す。

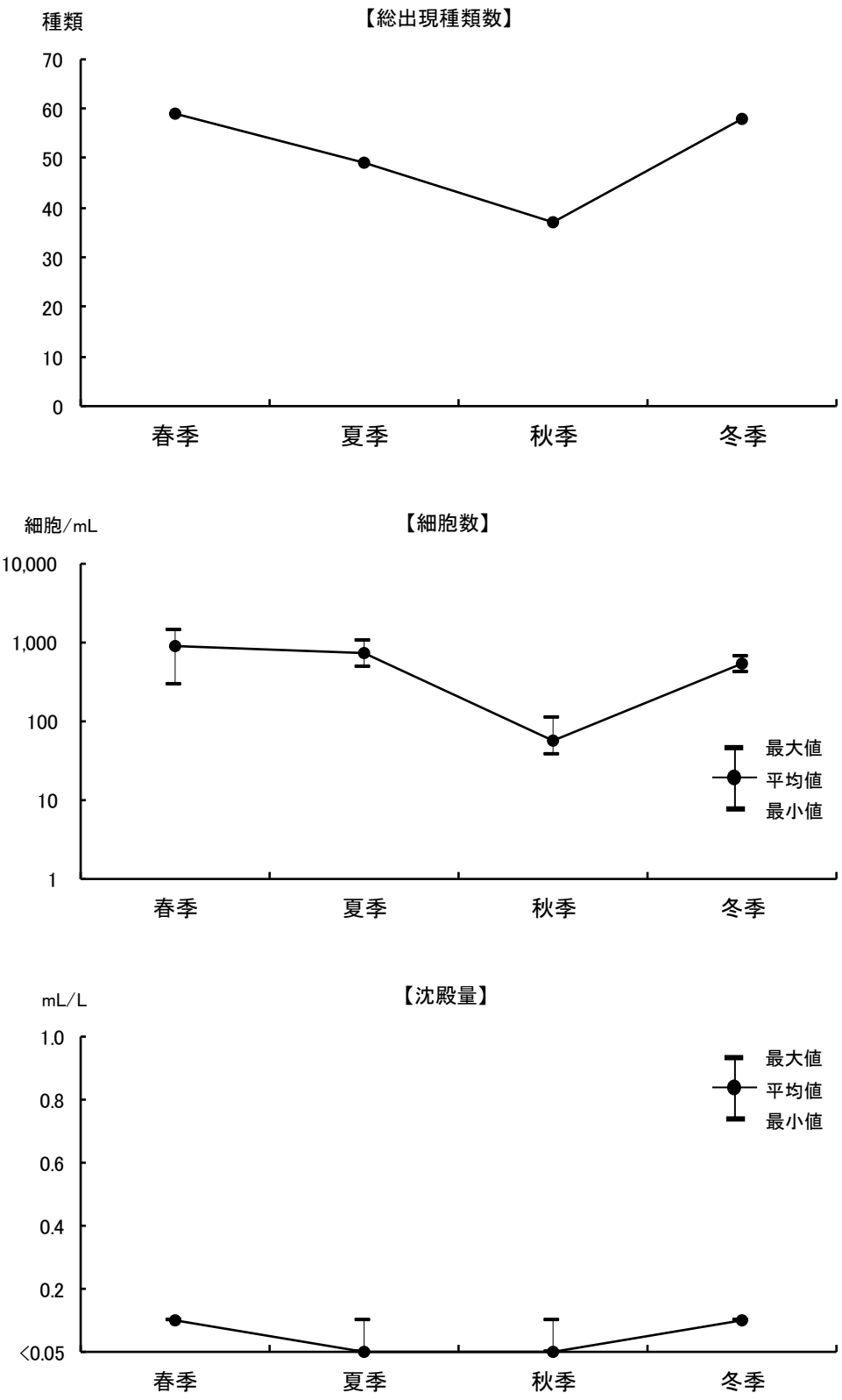






調査期日
春季： 令和7年 5月 8日
夏季： 令和7年 8月 5日
秋季： 令和7年11月11日
冬季： 令和8年 2月 5日

図２－３－１（１） 植物プランクトンの季節変化（表層）



調査期日
春季： 令和7年 5月 8日
夏季： 令和7年 8月 5日
秋季： 令和7年11月11日
冬季： 令和8年 2月 5日

図２－３－１（２） 植物プランクトンの季節変化（底層）

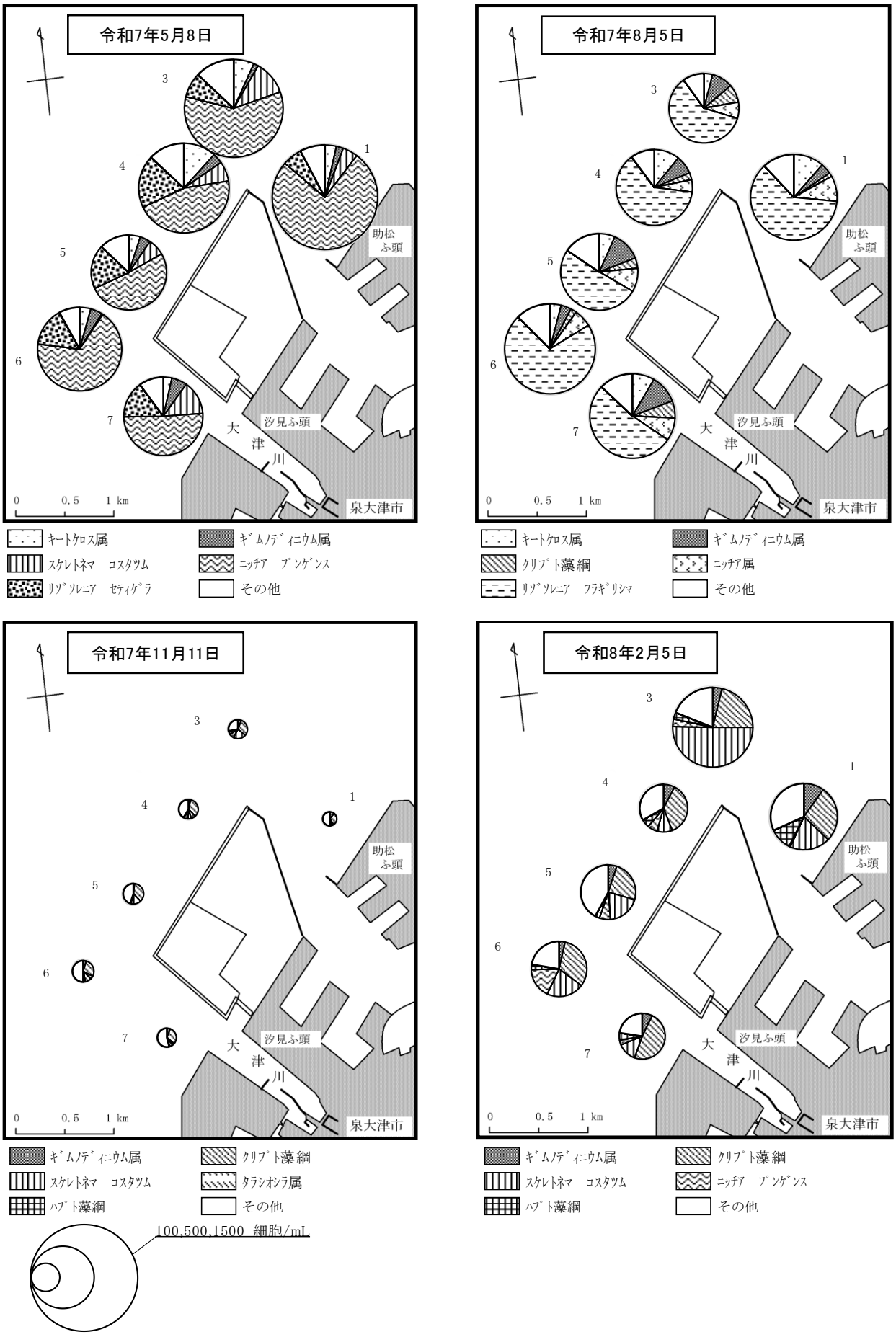


図２－３－２（１）　植物プランクトン水平分布（表層）

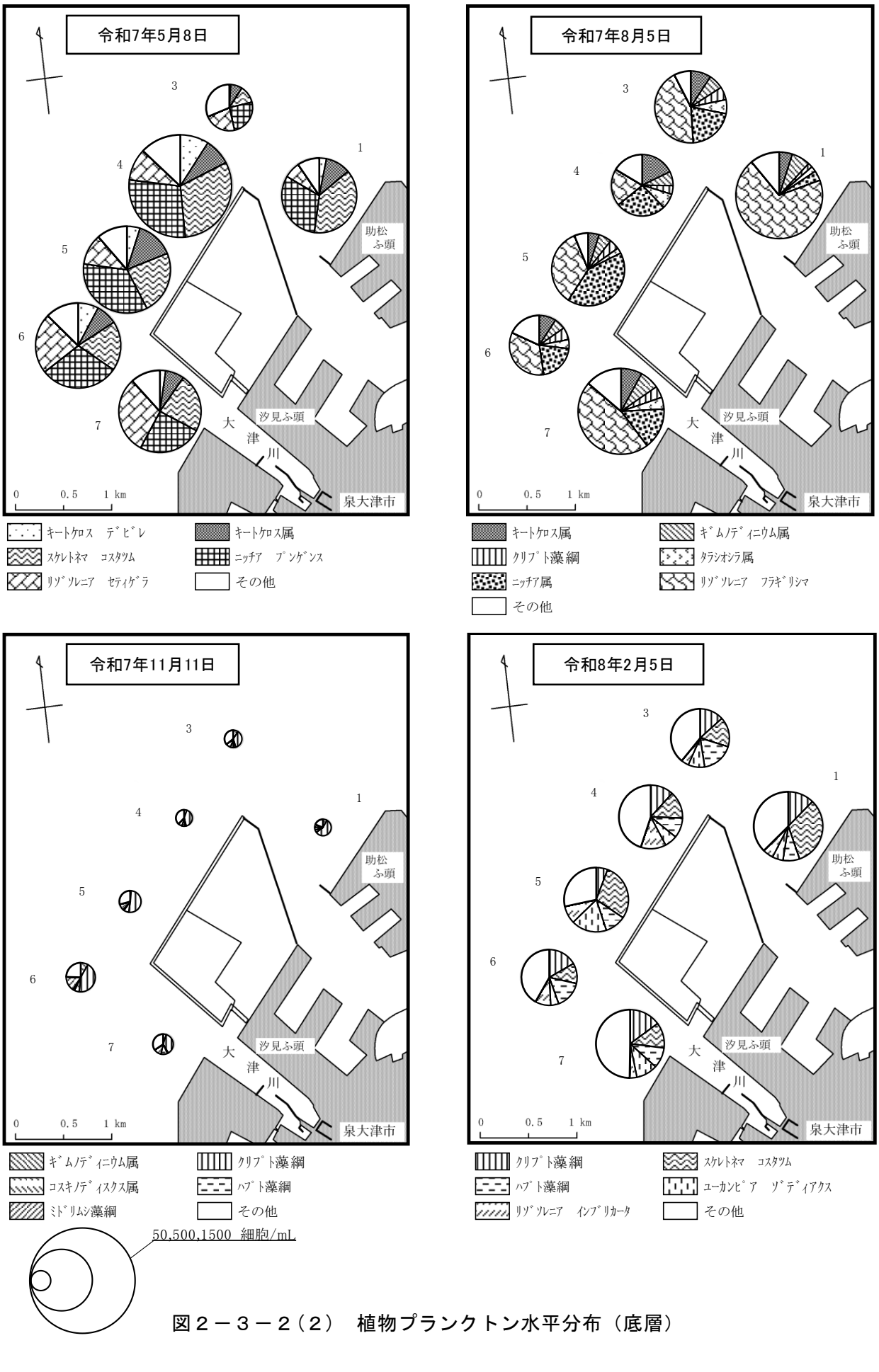


図２－３－２（２）　植物プランクトン水平分布（底層）

②　動物プランクトン

動物プランクトンの季節別出現状況を表２－３－３に、季節変化を図２－３－３に、各季の水平分布を図２－３－４に示した。

季別の出現種類数は、春季に最も多く50種類、冬季に最も少なく40種類であった。

平均出現個体数は春季に最も多く164,004個体/m^3、冬季に最も少なく38,102個体/m^3であった。

平均沈殿量は、春季に最も多く40.0mL/m^3、夏季に最も少なく6.8mL/m^3であった。

季別の主要種をみると、春季は繊毛虫類のビンガタカラムシ、夏季は甲殻綱のオイトナダヴィセー、秋季は甲殻綱のオイトナ属のコペポディド期幼生、冬季は甲殻綱のカイアシ類のノープリウス期幼生が最優占種となっていた。

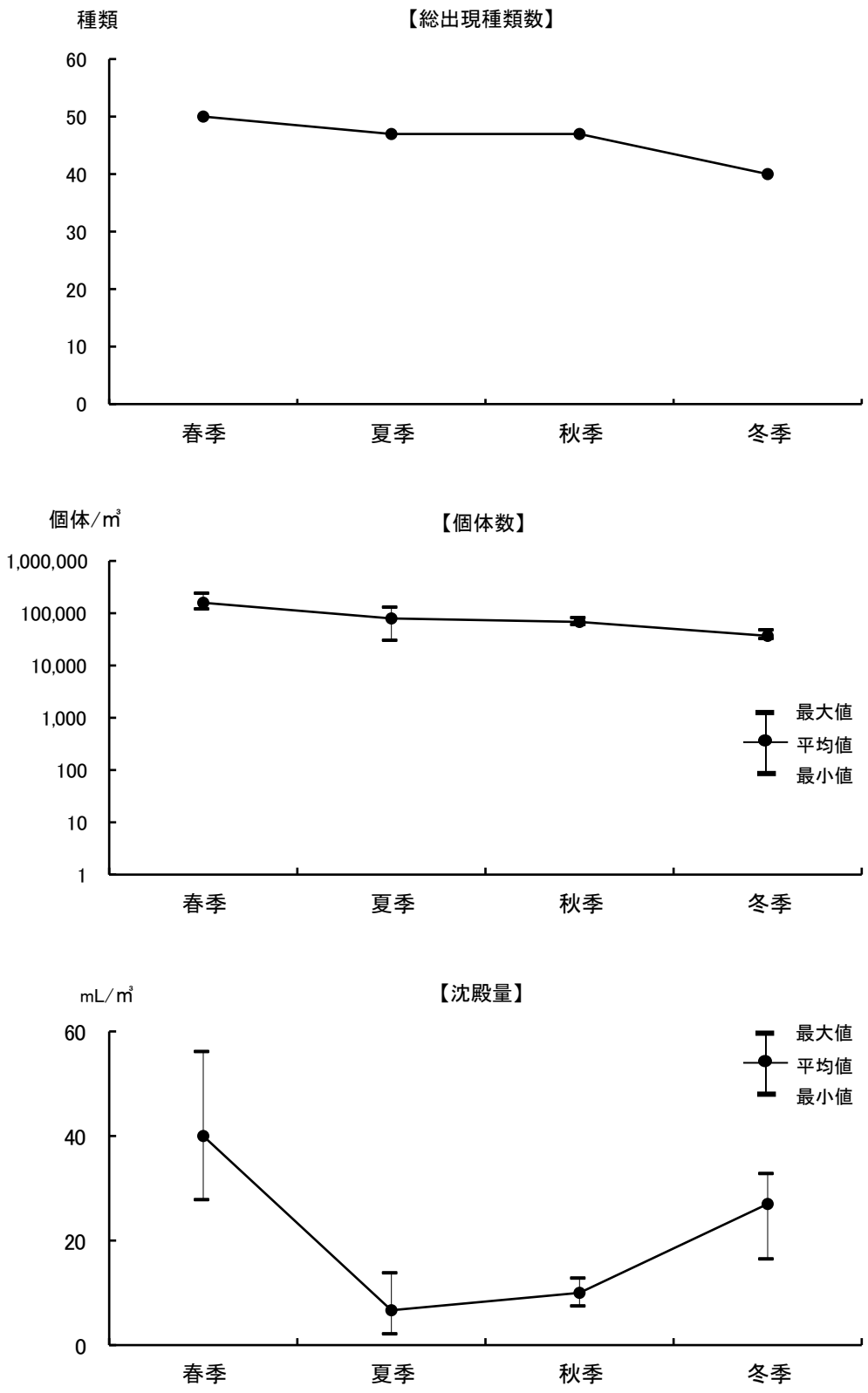
季別の水平分布をみると、春季のSt．１、夏季のSt．３及びSt．４が他の地点に比べ、個体数が多く、夏季St．７が他の地点に比べ、個体数が少なかった。

以上のように、本調査海域における動物プランクトンの出現状況は、季節により優占種に違いがみられたが、これらは内湾で一般的にみられる変動であり、主要種はいずれも大阪湾で普通にみられる種であった。

表２－３－３　動物プランクトンの季節別出現状況

項目＼調査期日	令和7年5月8日 （春季）	令和7年8月5日 （夏季）	令和7年11月11日 （秋季）	令和8年2月5日 （冬季）
総出現種類数	50	47	47	40
平均出現種類数 （注1）	36 （ 32 ～ 41 ）	33 （ 26 ～ 37 ）	31 （ 25 ～ 36 ）	29 （ 25 ～ 32 ）
平均出現個体数 （個体/m³）	164,004 （114,938 ～ 227,907）	83,032 （30,527 ～ 125,991）	67,210 （58,247 ～ 79,737）	38,102 （31,706 ～ 45,552）
沈殿量 （mL/m³）	40.0 （27.8 ～ 55.9 ）	6.8 （1.8 ～ 13.8 ）	10.1 （7.4 ～ 12.7 ）	27.0 （16.3 ～ 32.8 ）
主要種の 平均出現数 （個体/m³） カッコ内は 組成比：% （注2）	ﾋﾞﾝｶﾞﾀｶﾗﾑｼ 71,326 (43.5) ｶｲｱｼ類のﾉｰﾌﾟﾘｳｽ期幼生 26,662 (16.3) ﾉｸﾃｨﾙｶ ﾐﾘｱﾘｽ 13,982 (8.5) ｱｶﾙﾁｱ属のｺﾍﾟﾎﾟﾃﾞｨﾄﾞ期幼生 11,881 (7.2) 二枚貝類のｳﾝﾎﾞ期幼生 7,441 (4.5)	ｵｲﾄﾅ ﾀﾞｳﾞｨｾｰ 30,546 (36.8) ｵｲﾄﾅ属のｺﾍﾟﾎﾟﾃﾞｨﾄﾞ期幼生 12,262 (14.8) ｶｲｱｼ類のﾉｰﾌﾟﾘｳｽ期幼生 6,398 (7.7) ﾂﾎﾞﾜﾑｼ属 4,566 (5.5) 二枚貝類のｳﾝﾎﾞ期幼生 3,823 (4.6)	ｵｲﾄﾅ属のｺﾍﾟﾎﾟﾃﾞｨﾄﾞ期幼生 22,455 (33.4) ｵｲﾄﾅ ﾌﾞﾚﾋﾞｺﾙﾆｽ 17,252 (25.7) ﾊﾟﾗｶﾗﾇｽ属のｺﾍﾟﾎﾟﾃﾞｨﾄﾞ期幼生 7,278 (10.8) 二枚貝類のｳﾝﾎﾞ期幼生 4,024 (6.0) ﾊﾟﾗｶﾗﾇｽ ｸﾗｼﾛｽﾄﾘｽ 3,828 (5.7)	ｶｲｱｼ類のﾉｰﾌﾟﾘｳｽ期幼生 13,074 (34.3) ﾉｸﾃｨﾙｶ ﾐﾘｱﾘｽ 5,155 (13.5) ﾊﾟﾗｶﾗﾇｽ属のｺﾍﾟﾎﾟﾃﾞｨﾄﾞ期幼生 3,324 (8.7) ｱｶﾙﾁｱ属のｺﾍﾟﾎﾟﾃﾞｨﾄﾞ期幼生 2,383 (6.3) ｵｲｺﾌﾟﾚｳﾗ属 2,275 (6.0)

注：１.総出現種類数欄には各季の総種類数を、平均出現種類数欄には調査点平均値（最小値～最大値）を示す。
　　２.主要種は平均出現数の組成比で上位５種を示す。



調査期日

春季： 令和7年 5月 8日

夏季： 令和7年 8月 5日

秋季： 令和7年11月11日

冬季： 令和8年 2月 5日

図２－３－３　動物プランクトンの季節変化

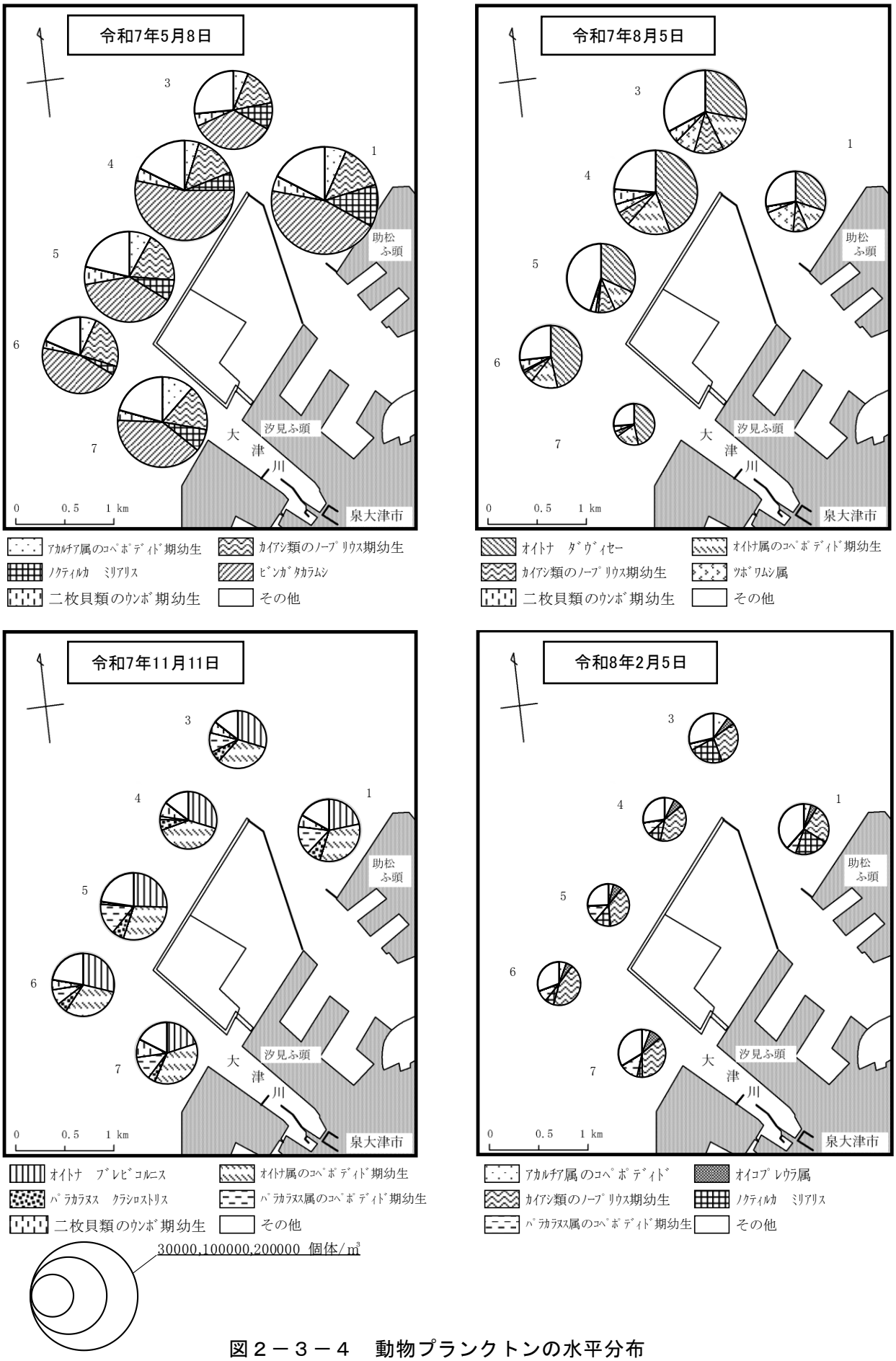


図２－３－４　動物プランクトンの水平分布

（２）　魚卵・稚仔魚調査

魚卵の季節別出現状況を表２－３－４に、季節変化を図２－３－５に、各季の水平分布を図２－３－６に示し、稚仔魚の季節別出現状況を表２－３－５に、季節変化を図２－３－７に、各季の水平分布を図２－３－８に示した。

① 魚卵

季別の出現種類数は、春季に最も多く５種類であったが、冬季には何も採捕されなかった。平均出現個数は、春季に最も多く23,861個体/1,000m^3、冬季に最も少なく０個体/1,000m^{3}であった。

季別の主要種をみると、何も採捕されなかった冬季以外でカタクチイワシが最優占種であった。種不明の単脂卵及び無脂卵は、種の同定が困難な魚卵であり、春季及び夏季に卵径範囲の異なる単脂卵が各１種類、夏季に無脂卵が１種類出現していた。

季別の水平分布をみると、春季のSt．４、夏季のSt．５が他の地点に比べ出現数が多く、夏季のSt．３及びSt．４は他の地点に比べ出現数が少なかった。冬季は全地点において何も採捕されなかった。

以上のように、本調査海域における魚卵の出現状況は、内湾で産卵される分離浮遊卵の多くが、水温の上昇する春季から夏季に産出されるという一般的な季節変化の特徴と一致しており、本年度は春季に出現個数が多かった。また、種名が判明した魚卵の主要種はいずれも大阪湾で普通にみられる種であった。

② 稚仔魚

季別の出現種類数は、春季に最も多く11種類、冬季に最も少なく４種類であった。

平均出現個体数は、春季に最も多く515個体/1,000m^3、冬季に最も少なく18個体/1,000m^{3}であった。

季別の主要種をみると、春季はネズッポ科、夏季は不明孵化仔魚、秋季はカタクチイワシ、冬季はカサゴが最優占種であった。

季別の水平分布をみると、春季のSt．６、夏季のSt．１及びSt．３、秋季のSt．５及びSt．７が他の地点に比べ出現数が多く、夏季のSt．４、St．６及びSt．７、冬季のSt．７が他の地点に比べ出現数が少なかった。

以上のように、本調査海域における稚仔魚の出現状況は、いずれも大阪湾で普通にみられる種類であった。

表２－３－４　魚卵の季節別出現状況

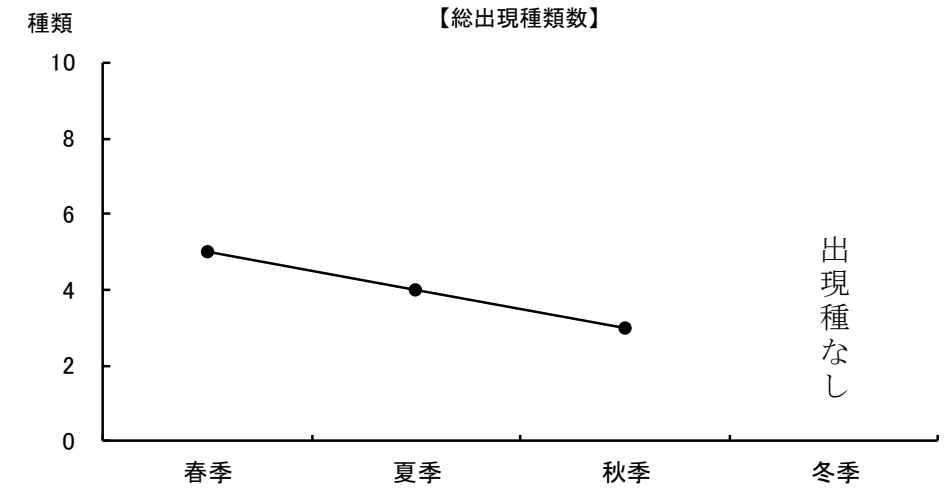
調査期日 / 項目	令和7年5月9日 (春季)	令和7年8月18日 (夏季)	令和7年11月12日 (秋季)	令和8年2月6日 (冬季)
総出現種類数	5	4	3	0
平均出現種類数 (注1)	4 (3 ～ 5)	3 (2 ～ 4)	2 (1 ～ 3)	0 (0 ～ 0)
平均出現個数 (個体/1000㎥)	23,861 (9,730 ～ 66,317)	10,464 (4,509 ～ 21,368)	381 (84 ～ 934)	0 (0 ～ 0)
主要種の平均出現数 (個体/1000㎥) カッコ内は組成比：% (注2)	カタクチイワシ 22,044 (92.4) ネズッポ科 1,028 (4.3) 単脂卵(0.86～1.24㎜) 783 (3.3) コノシロ 6 (<0.1) サッパ <1 (<0.1)	カタクチイワシ 6,093 (58.2) 単脂卵(0.57～0.78㎜) 4,363 (41.7) サッパ 7 (0.1) 無脂卵(0.62㎜) 1 (<0.1)	カタクチイワシ 379 (99.6) ネズッポ科 1 (0.3) マイワシ <1 (0.1)	

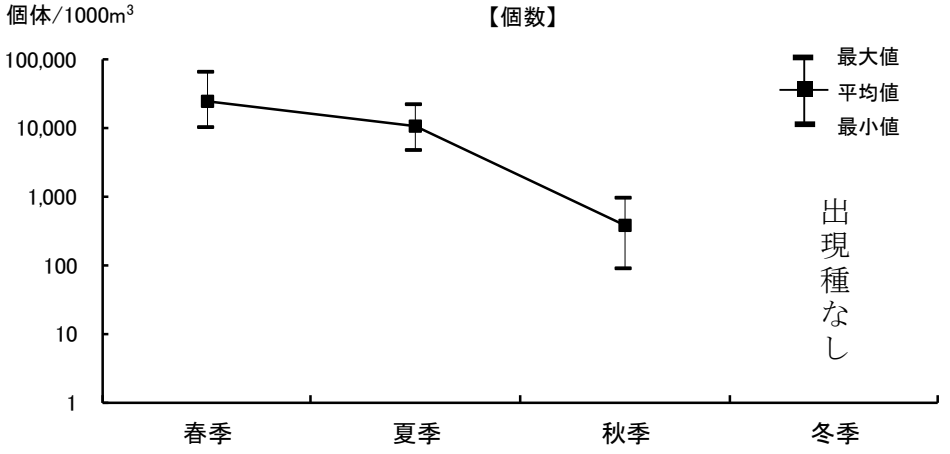
注：１.総出現種類数欄には各季の総種類数を、平均出現種類数欄には調査点平均値（最小値～最大値）を示す。
　　２.主要種は平均出現数の組成比で上位５種を示す。

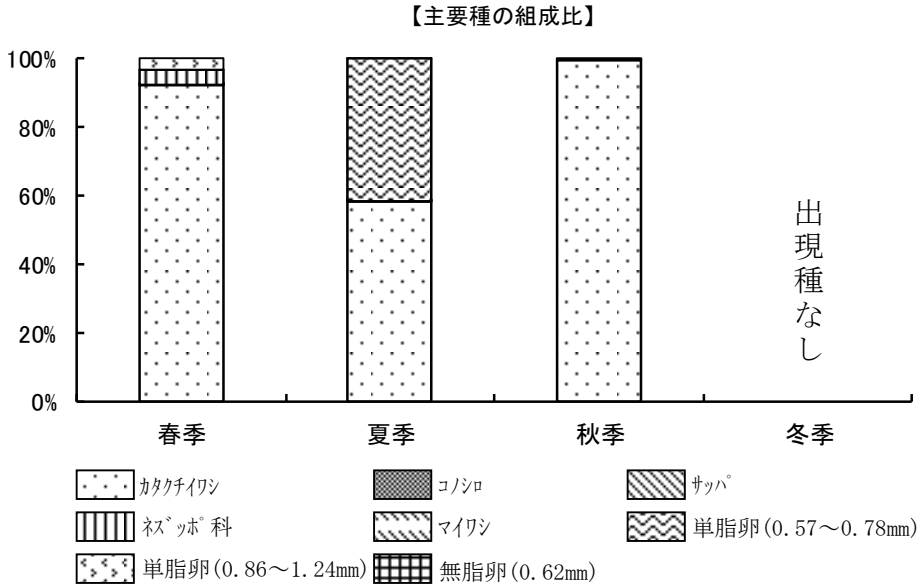
表２－３－５　稚仔魚の季節別出現状況

調査期日 / 項目	令和7年5月9日 (春季)	令和7年8月18日 (夏季)	令和7年11月12日 (秋季)	令和8年2月6日 (冬季)
総出現種類数	11	5	6	4
平均出現種類数 (注1)	8 (6 ～ 9)	3 (2 ～ 5)	3 (3 ～ 4)	2 (1 ～ 4)
平均出現個体数 (個体/1000㎥)	515 (247 ～ 791)	64 (16 ～ 148)	93 (32 ～ 159)	18 (6 ～ 26)
主要種の平均出現数 (個体/1000㎥) カッコ内は組成比：% (注2)	ネズッポ科 330 (64.1) カタクチイワシ 94 (18.3) イソギンポ 29 (5.6) カサゴ 28 (5.4) コノシロ 25 (4.8)	不明孵化仔魚 29 (45.8) カタクチイワシ 26 (40.4) サッパ 6 (8.6) ナベカ 3 (4.2) イソギンポ 1 (1.0)	カタクチイワシ 82 (88.1) ネズッポ科 6 (6.5) イソギンポ 2 (2.2) カサゴ 2 (1.6) キチヌ 1 (1.3)	カサゴ 15 (82.4) カレイ科 2 (12.0) メバル属 1 (3.7) ハゼ科 <1 (1.9)

注：１.総出現種類数欄には各季の総種類数を、平均出現種類数欄には調査点平均値（最小値～最大値）示す。
　　２.主要種は平均出現数の組成比で上位５種を示す。

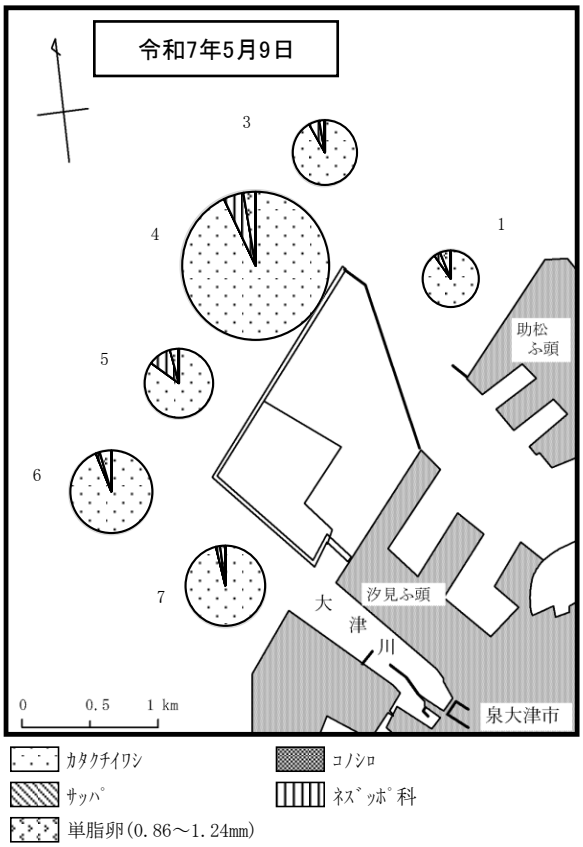


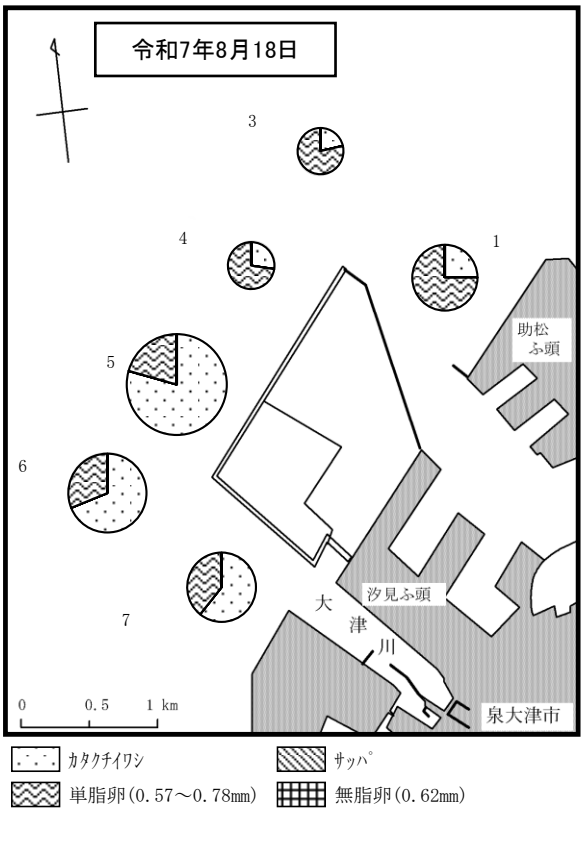




調査期日
春季： 令和7年 5月 9日
夏季： 令和7年 8月18日
秋季： 令和7年11月12日
冬季： 令和8年 2月 6日

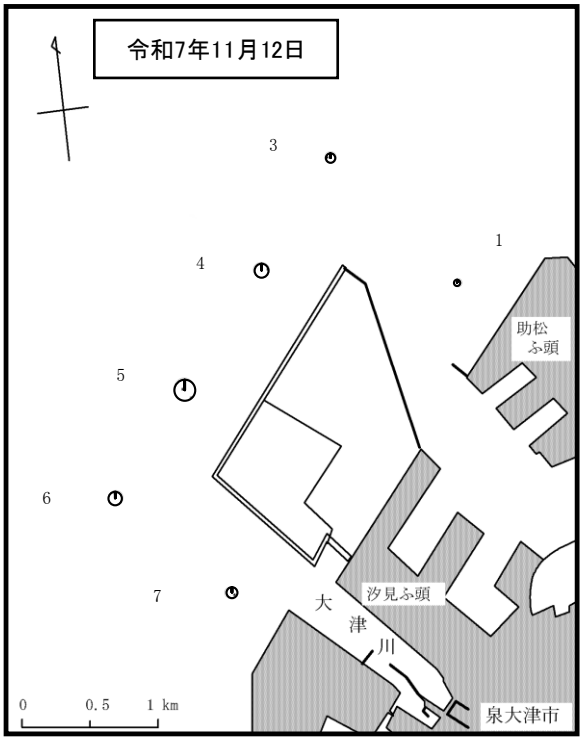
図２－３－５　魚卵の季節変化

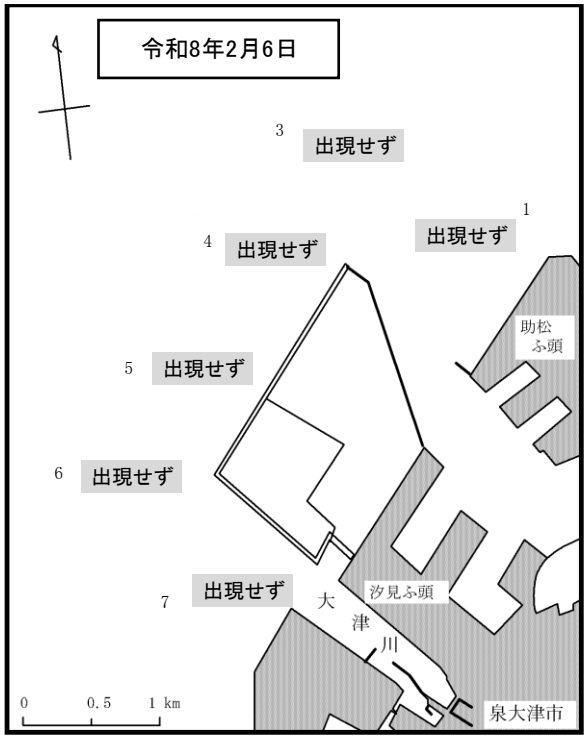




カタクチイワシ　コノシロ
サッパ　ネズッポ科
単脂卵(0.86～1.24mm)

カタクチイワシ　サッパ
単脂卵(0.57～0.78mm)　無脂卵(0.62mm)





カタクチイワシ　ネズッポ科
マイワシ

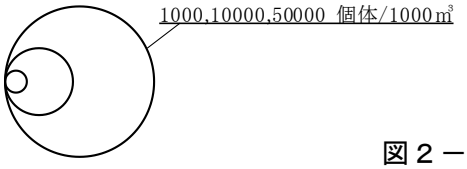
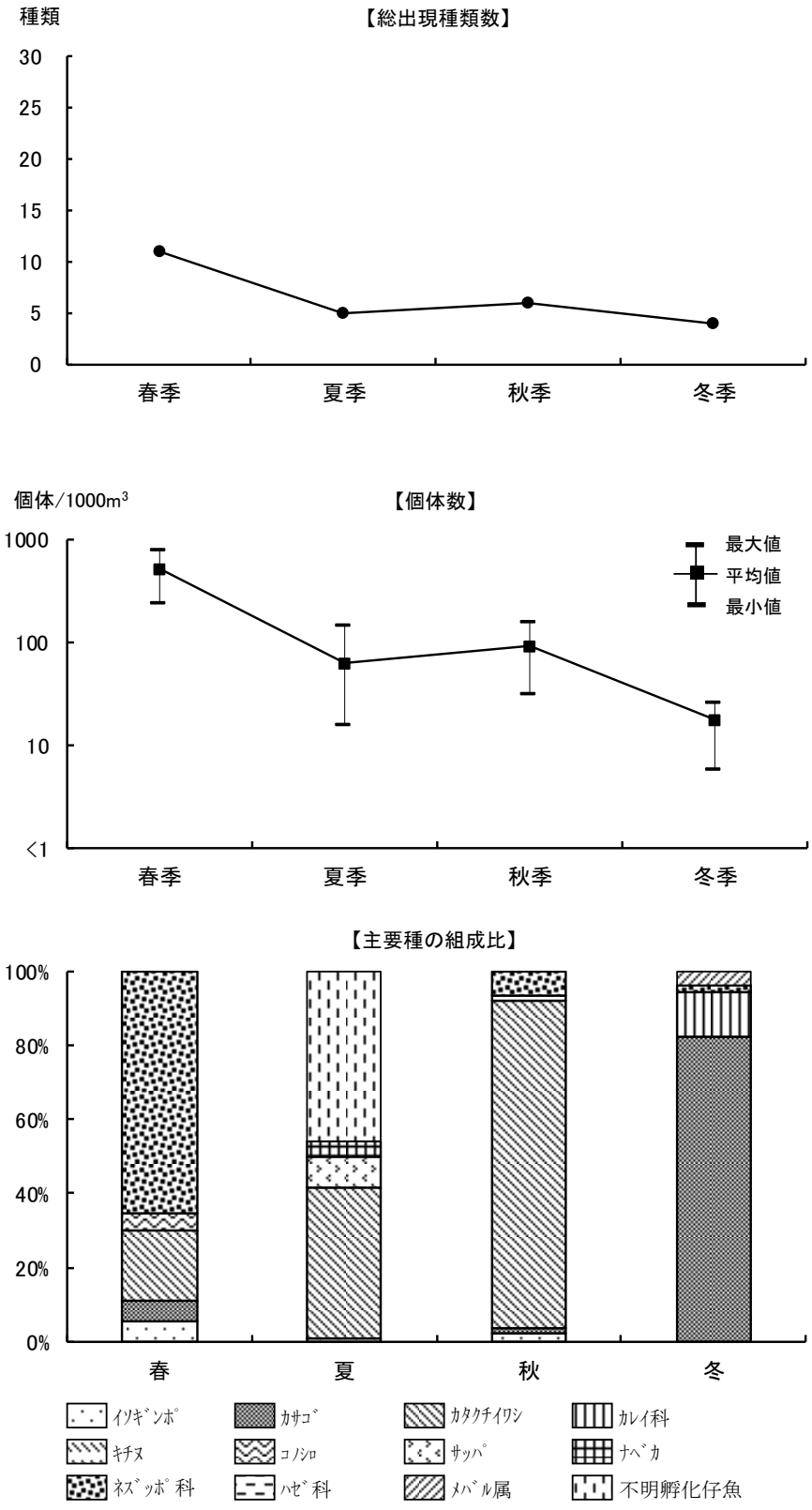


図２－３－６　魚卵水平分布



調査期日
春季： 令和7年 5月 9日
夏季： 令和7年 8月18日
秋季： 令和7年11月12日
冬季： 令和8年 2月 6日

図２－３－７　稚仔魚の季節変化



図２－３－８　稚仔魚水平分布

（３） 底生生物調査

底生生物の季節別出現状況を表２－３－６に、季節変化を図２－３－９に、各季の個体数の水平分布を図２－３-10に示した。

四季を通して確認した底生生物は、合計54種類であった。

季別の出現種類数は、冬季に最も多く35種類、夏季及び秋季に最も少なく17種類であった。

平均出現個体数は、秋季に最も多く319個体/0.1㎡、夏季に最も少なく71個体/0.1㎡であった。

平均出現湿重量は、冬季に最も多く8.25g/0.1㎡、夏季に最も少なく0.59g/0.1㎡であった。

分類群別の個体数組成比は、春季は軟体動物が最も高く57.7%、夏季、秋季及び冬季は環形動物が最も高く85.2%以上であった。

調査海域全体の主要種は、春季以外で有機汚濁指標種とされる環形動物のパラプリオノスピオ属(A型)が最優占種であり、72.1%以上の高い占有率を示した。

季別の水平分布をみると、春季及び夏季のSt．４、秋季のSt．３が他の地点に比べ出現数が多く、春季及び夏季のSt．６、冬季のSt．７は他の地点に比べ出現数が少なかった。また、夏季のSt．７においては何も採捕されなかった。主要種は、春季のSt．４～７を除く全てにおいて、パラプリオノスピオ属(A型)が最優占種であった。

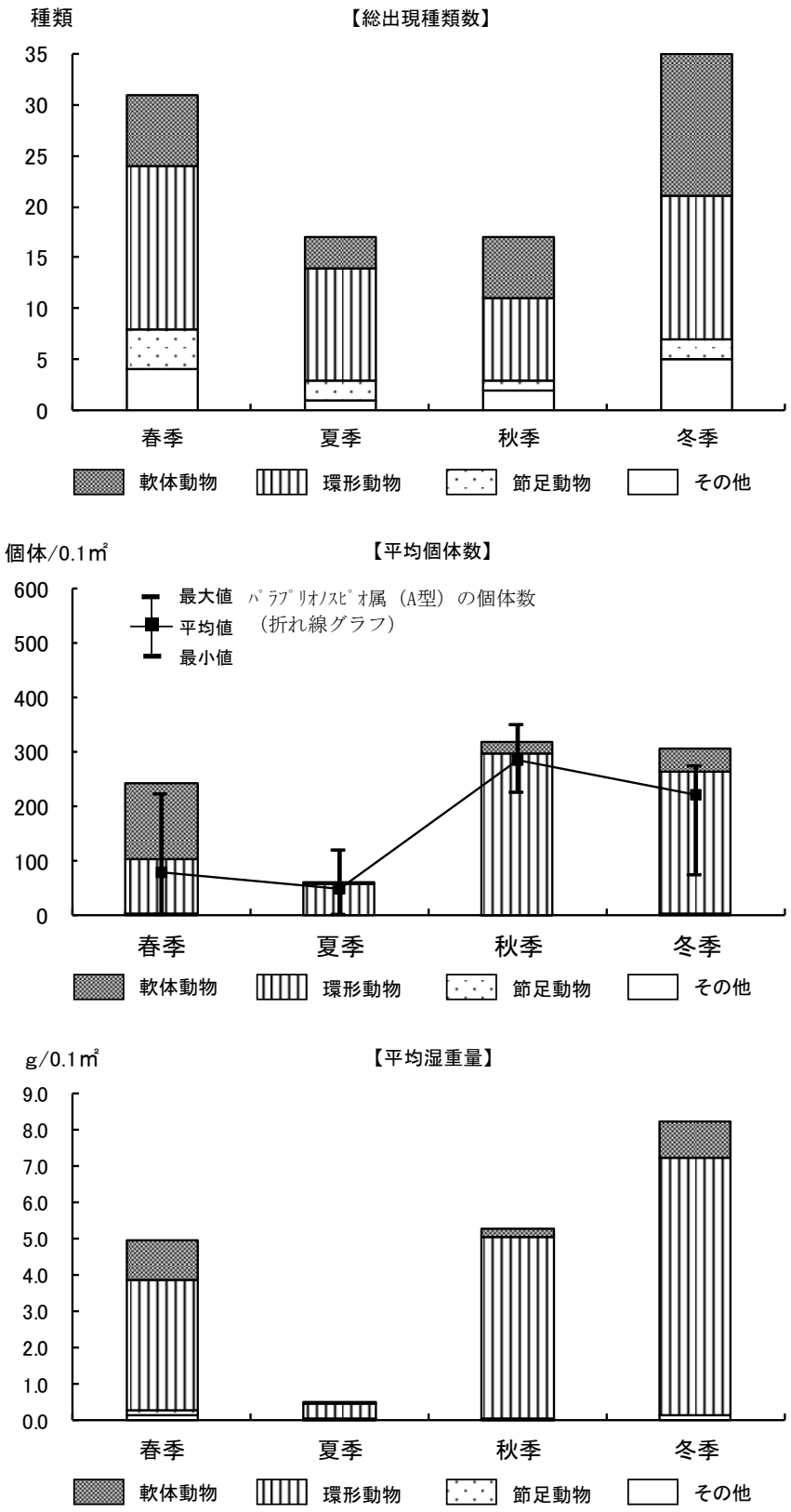
以上のように、本調査海域における底生生物の出現状況は、パラプリオノスピオ属(A型)が高密度に出現していたことが特徴的であった。本種は一般に浅海域において春季から夏季に産卵し、夏季から順次着底する繁殖周期を持っており、夏季に底層水の貧酸素化によって他の底生動物が減少した後に、新規着底し優占する特性を有している。令和７年度においては秋季に最も多く、夏季に最も少なかった。

その他の主要種も、富栄養域から有機汚濁域に優占する種類であり、当該海域がかなり富栄養的であることを示しているが、これらは当該海域のような大阪湾奥の港湾区域内においては一般的な状況であった。なお、四季を通して出現したヒメカノコアサリは「大阪府レッドリスト2014」（大阪府、2014年）で準絶滅危惧、夏季に出現したハナオカカギゴカイは「大阪府レッドリスト2014」（大阪府、2014年）で情報不足に指定されている種である。

表２－３－６　底生生物の季節別出現状況

項目＼調査期日	令和7年5月9日（春季）	令和7年8月18日（夏季）	令和7年11月12日（秋季）	令和8年2月6日（冬季）
総出現種類数[54]（注1）	31	17	17	35
平均出現種類数（注2）	13 （ 6 ～ 19 ）	6 （ 0 ～ 10 ）	8 （ 5 ～ 11 ）	16 （ 12 ～ 22 ）
平均出現個体数（個体/0.1㎡）	240 （ 61 ～ 373 ）	71 （ 0 ～ 139 ）	319 （ 232 ～ 410 ）	305 （ 128 ～ 422 ）
平均出現湿重量（g/0.1㎡）	4.94 （ 1.24 ～ 8.38 ）	0.59 （ 0.00 ～ 1.54 ）	5.28 （ 3.33 ～ 7.08 ）	8.25 （ 3.23 ～ 12.27 ）
構成比（個体数%） 軟体動物門	57.7	1.4	6.3	13.3
構成比（個体数%） 環形動物門	41.0	97.5	93.4	85.2
構成比（個体数%） 節足動物門	0.6	0.6	0.1	0.1
構成比（個体数%） その他	0.8	0.6	0.3	1.4
主要種の平均出現数（個体/0.1㎡） カッコ内は構成比：%（注3）	シズクガイ 85 (35.4) ﾊﾟﾗﾌﾟﾘｵﾉｽﾋﾟｵ属（A型） 80 (33.4) ホトトギスガイ 47 (19.7) ウロコムシ科 4 (1.8) ヒメカノコアサリ 3 (1.3)	ﾊﾟﾗﾌﾟﾘｵﾉｽﾋﾟｵ属（A型） 48 (81.5) カタマガリギボシイソメ 4 (6.2) シガンブラ属 2 (3.4) シロガネゴカイ科 1 (2.0) ハナオカカギゴカイ 1 (1.4)	ﾊﾟﾗﾌﾟﾘｵﾉｽﾋﾟｵ属（A型） 284 (89.1) ヒメカノコアサリ 18 (5.5) シガンブラ属 6 (1.9) カタマガリギボシイソメ 5 (1.4) オウギゴカイ 2 (0.5)	ﾊﾟﾗﾌﾟﾘｵﾉｽﾋﾟｵ属（A型） 220 (72.1) ヒメカノコアサリ 27 (8.8) シガンブラ属 15 (4.9) カタマガリギボシイソメ 6 (2.1) ノラリウロコムシ科 5 (1.7)

注：１.総出現種類数欄には各季の総種類数を、[ ]内の数字は年間平均を通した総出現種類数を示す。
　　２.平均種類数欄には調査点平均値（最小値～最大値）を示す。
　　３.主要種は平均出現数の構成比で上位５種を示す。



調査期日
春季： 令和7年 5月 9日
夏季： 令和7年 8月18日
秋季： 令和7年11月12日
冬季： 令和8年 2月 6日

図２－３－９　底生生物の季節変化

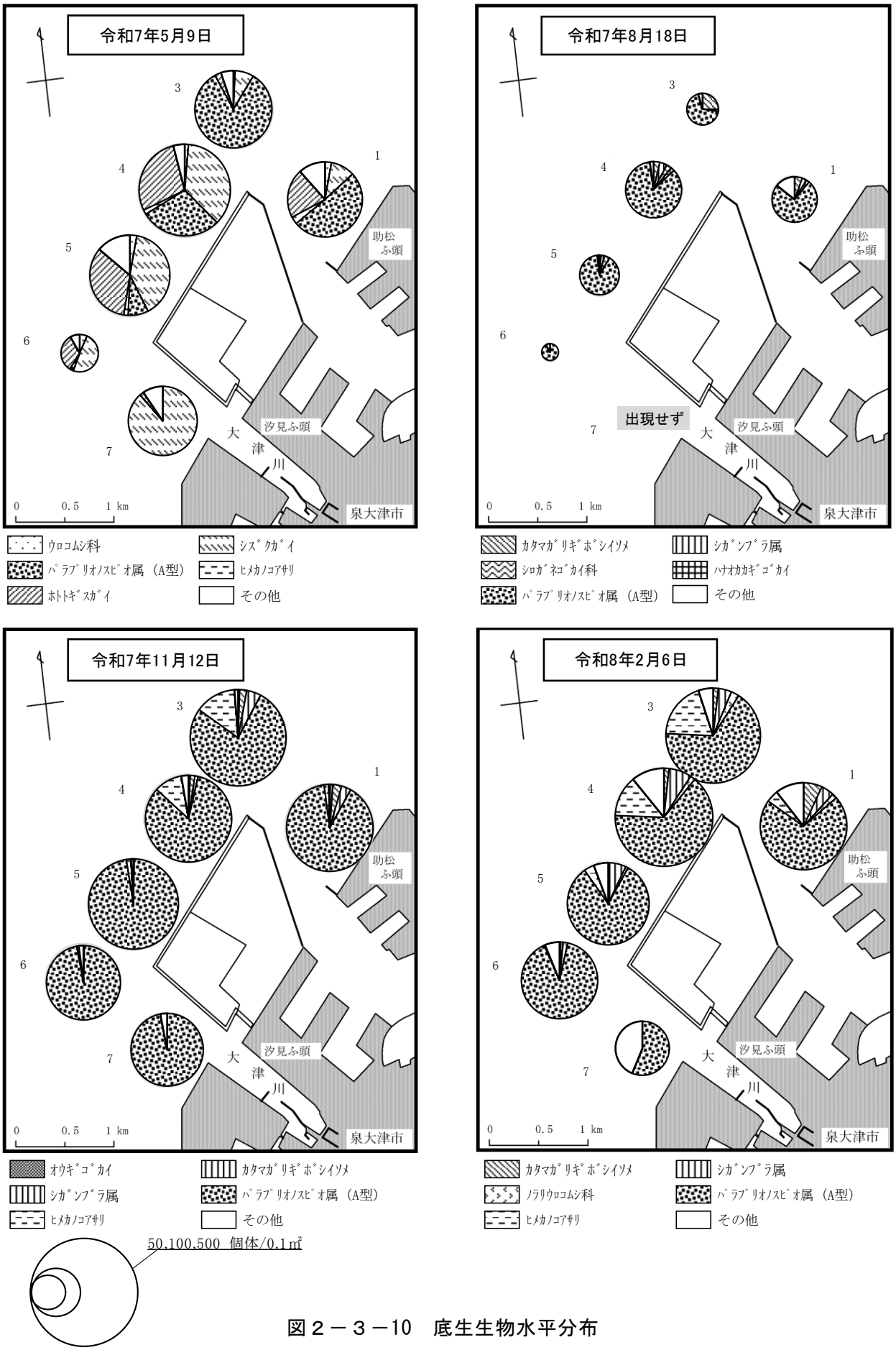


図２－３－10　底生生物水平分布

（４） 付着生物調査

① 調査点の概要

助松埠頭のSt.14と阪南港のSt.15の両調査点とも埋立地の護岸に設置されている。

基質はSt.14が消波ブロック、St.15が垂直コンクリート護岸であった。海底には両調査点とも根固め石が置かれていた。

② ベルトトランセクト法による観察

観察による付着生物の季節別出現状況を表２－３－７、表２－３－８に、主な付着生物の鉛直分布を図２－３-11、調査点の模式断面を図２－３-12に示した。

ｱ）植物

四季を通して確認した植物(海藻)は、緑藻植物３種類、褐藻植物７種類、紅藻植物19種類、その他の植物２種類の合計31種類であった。季別の出現種類数は、助松埠頭のSt.14が７～17種類、阪南港のSt.15が７～14種類であった。

季別の種類数は、St.14では春季に最も多く、秋季に最も少なく、St.15では春季に最も多く、夏季に最も少なかった。被度は、秋季以外で垂直護岸のSt.15に比べて消波ブロックのSt.14で高かった。

St.14では緑藻植物のアオサ属及びシオグサ属、紅藻植物のムカデノリ科及びイギス科、St.15では緑藻植物のシオグサ属、紅藻植物のマクサ、ムカデノリ科、カバノリ及びイギス科が各季にみられた。これらは当該海域で普通にみられる海藻であった。

鉛直分布をみると、St.14では春季にムカデノリ、ワカメ及びカバノリが広範囲に分布し、冬季にイトグサ属が広範囲にやや多く分布していた。St.15では冬季にイギス科及びイトグサ属が広範囲に分布していた。

ｲ）動物

全調査を通して確認した動物は、軟体動物16種類、環形動物１種類、節足動物７種類、その他の動物16種類の合計40種類であった。季別の出現種類数は、助松埠頭のSt.14が22～27種類、阪南港のSt.15が19～27種類の範囲にあり、St.14では冬季に最も多く、秋季に最も少なく、St.15では春季に最も多く、夏季に最も少なかった。種類数について両調査点を比べると、春季、夏季及び冬季はSt.14の方が多く、秋季はSt.15の方が多かった。四季を通してすべての調査点に出現したのは、フサコケムシ科、コケムシ綱、オオヘビガ

イ、カンザシゴカイ科、ヨコエビ類の泥巣、シロボヤ、群体性ホヤ類及びイボニシであった。

鉛直分布をみると、St.14では四季を通してカンザシゴカイ科が広範囲に分布し、夏季にヨコエビ類の泥巣、秋季にフォロニス属及びヨコエビ類の泥巣が広範囲に分布し、夏季にはイソギンチャク目が広範囲に多く分布していた。St.15では四季を通してカンザシゴカイ科が広範囲に分布し、春季にコケムシ綱、秋季にコケムシ綱及びヨコエビ類の泥巣、冬季にコケムシ綱が広範囲に分布し、夏季及び秋季にはイソギンチャク目が広範囲に多く分布していた。

③ 坪刈

植物の種類数、湿重量（各調査点３層※合計）の季節別出現状況を表２－３－９に、季節変化を図２－３-13に、各季の水平分布を図２－３-14に示した。また、動物の種類数、個体数、湿重量（同上）の季節別出現状況を表２－３-10に、季節変化を図２－３-15に、各季の水平分布を図２－３-16に示した。

※３層は上層--平均水面、中層--大潮最低低潮面、下層--大潮最低低潮面－１ｍを示す。

ｱ）植物

四季を通して確認した植物(海藻)は、緑藻植物５種類、褐藻植物７種類、紅藻植物15種類、その他の植物２種類の合計29種類であった。

植物(海藻)の季別の出現種類数は、St.14では冬季に最も多く12種類、秋季に最も少なく７種類であった。St.15では冬季に最も多く16種類、夏季に最も少なく５種類であった。

調査点別湿重量(３層合計)は、St.14では春季に最も多く497.8g/0.09㎡×３層（単位面積は以下同じ)、秋季に最も少なく0.1gであった。St.15では春季に最も多く22.0g、秋季に最も少なく0.1g未満であった。

主要種をみると、St.14では、春季にワカメ、夏季にムカデノリ属、秋季にシオグサ属、冬季にムカデノリ、St.15では、春季にムカデノリ、夏季にムカデノリ属、冬季にセイヨウハバノリの構成比が高くなっていた。

以上のように、本調査海域における付着生物(植物)の出現状況について、主要種はいずれも大阪湾に普通にみられる種類であり、湿重量の変動は内湾における一般的な季節変化を示していた。

ｲ）動物

全調査を通して確認した動物は、軟体動物43種類、環形動物33種類、節足動物37種類、その他の動物24種類の合計137種類であった。

季別の動物の出現種類数は、54～85種類の範囲にあり、St.14では春季に最も多く80種類、秋季に最も少なく54種類であった。St.15では春季に最も多く85種類、秋季に最も少なく61種類であった。

調査点別個体数（３層合計）は、St.14は夏季に最も多く7,127個体/0.09㎡×３層（単位面積は以下同じ）、冬季に最も少なく1,004個体、St.15は夏季に最も多く11,849個体、春季に最も少なく5,373個体であった。分類群別の個体数構成比は、St.14では春季及び秋季に環形動物、夏季に軟体動物、冬季にその他の動物が高く、St.15では夏季に環形動物、夏季以外で節足動物が高かった。

調査点別湿重量（３層合計）は、St.14は春季に最も多く97.5g/0.09㎡×３層（単位面積は以下同じ）、冬季に最も少なく24.3g、St.15は春季に最も多く289.9g、秋季に最も少なく98.0gであった。分類群別の湿重量構成比は、St.14では四季を通して軟体動物が高く、St.15では春季にその他の動物、夏季及び秋季に環形動物、冬季に軟体動物が高かった。

主要種をみると、個体数では、St.14の春季にナデシコカンザシゴカイ、夏季にウスカラシオツガイ、秋季にイソヨコエビ属、冬季に多岐腸目、St.15の春季にマルエラワレカラ、夏季にナデシコカンザシゴカイ、秋季及び冬季にイワフジツボが最も高い比率を示した。湿重量では、St.14の春季及び冬季にオオヘビガイ、夏季及び秋季にウスカラシオツガイ、St.15の春季にマンジュウボヤ科、夏季及び秋季にナデシコカンザシゴカイ、冬季にイボニシが最も高い比率を示した。調査点間を比較すると、助松埠頭のSt.14の基盤は消波ブロック、阪南港のSt.15は垂直コンクリート護岸であるという相違があるため、主要種の出現状況及び付着量に差がみられた。

以上のように、本調査海域における付着生物（動物）の出現状況について、主要種はいずれも大阪湾に普通にみられる種類であった。

表２－３－７　付着生物観察結果（ベルトトランセクト法：植物）

門			調査地点	14				15			
			調査時期	令和7年			令和8年	令和7年			令和8年
			種名	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月
植物	被度観察	緑藻植物門	ｱｵﾉﾘ属	r				r			
			ｱｵｻ属	5	r	2	6	2		r	r
			ｼｵｸﾞｻ属	r	10	8	6	5	r	r	r
		褐藻植物門	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ					1			
			ﾌｸﾛﾉﾘ	1				8			r
			ｾｲﾖｳﾊﾊﾞﾉﾘ				5				
			ｶﾔﾓﾉﾘ				r				
			ﾜｶﾒ	17			8				
			ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ	r							
			ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ属		r						
		紅藻植物門	ｱﾏﾉﾘ属	1			r				
			ｳｽｶﾜｶﾆﾉﾃ						1	1	r
			ﾋﾞﾘﾋﾊﾞ			r		r		r	r
			無節ｻﾝｺﾞﾓ類				r				
			ﾏｸｻ			r		3	7	6	3
			ﾃﾝｸﾞｻ属	r							
			ｽｽｶｹﾍﾞﾆ	2			r				
			ﾂﾉﾏﾀ属		2						
			ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	20			6	12			
			ﾂﾙﾂﾙ	3							
			ﾑｶﾃﾞﾉﾘ科	r	11	r	10	4	4	2	6
			ｲﾜﾉｶﾜ科		1				r		
			ｵｷﾂﾉﾘ					1			r
			ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ				1				r
			ｶﾊﾞﾉﾘ	14	6		3	3	1	r	1
			ﾀｵﾔｷﾞｿｳ	3				r			
			ｲｷﾞｽ科	5	5	7	7	1	r	9	11
			ﾀﾞｼﾞｱ属	8							
			ｲﾄｸﾞｻ属	5			25	8			13
		藍藻植物門	藍藻綱		3	8	3			2	4
		珪藻植物門	珪藻綱							r	
	植物種類数			17	9	7	15	14	7	10	13

注：数値は、各調査点で水深＋１ｍ～海底までに連続した50×50cmの方形枠（11枠）を設置し、
各枠ごとに観察した被度階級（被覆率を階級で表したもの）の合計を示す。

被度階級
被度：被覆率（%）
5：76～100
4：51～75
3：26～50
2：10～25
1：1～9
r：極僅か

表２－３－８　付着生物観察結果（ベルトトランセクト法：動物）

		門	調査地点	14				15			
			調査時期	令和7年			令和8年	令和7年			令和8年
			種名	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月
動物	被度観察	海綿動物門	尋常海綿綱	4			3	7			4
		刺胞動物門	ﾋﾄﾞﾛ虫綱		r		r	r	r		r
			ﾘｻﾞﾝｷﾞｱ科			r				r	
		触手動物門	ﾌｫﾛﾆｽ属	9		13	11	r		3	2
		苔虫動物門	ﾌｻｺｹﾑｼ科	4	r	r	2	7	7	5	9
			ｱﾐｺｹﾑｼ科	1				3			
			ｺｹﾑｼ綱	7	2	6	4	17	1	16	19
		軟体動物門	ｵｵﾍﾋﾞｶﾞｲ	r	r	6	r	2	4	2	r
			ﾐﾄﾞﾘｲｶﾞｲ							r	r
			ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ科	r	2	r	1	1		r	
			ｷｸｻﾞﾙｶﾞｲ科		r	3	r	r		r	
		環形動物門	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科	14	23	21	15	20	28	24	23
		節足動物門	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ		2			3	3	3	2
			ｸﾛﾌｼﾞﾂﾎﾞ					r			
			ｱﾒﾘｶﾌｼﾞﾂﾎﾞ	r		r		r		7	
			ﾖｰﾛｯﾊﾟﾌｼﾞﾂﾎﾞ	r		r		r		5	
			ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ		r	r	r	r	r	1	r
			ﾖｺｴﾋﾞ類の泥巣	r	15	16	2	r	11	15	r
		原索動物門	ｼﾛﾎﾞﾔ	2	11	r	r	r	3	1	r
			群体性ﾎﾔ類	10	1	r	1	2	2	3	6
			単体性ﾎﾔ類	r	3		r	1	r	r	r
	個体数観察	刺胞動物門	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ		2	2				173	14
			ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目		408	15	3		2,622	212	9
		軟体動物門	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	4			1				
			ﾖﾒｶﾞｶｻ				1				
			ｳﾉｱｼ		3	3	3				
			ｺﾓﾚﾋﾞｺｶﾞﾓｶﾞｲ				4				3
			ｺｼﾀﾞｶｶﾞﾝｶﾞﾗ	2			3				
			ｼﾏﾒﾉｳﾌﾈｶﾞｲ							1	
			ﾚｲｼｶﾞｲ	12			4	11	1		5
			ｲﾎﾞﾆｼ	10	13	10	2	31	14	35	174
			裸鰓目			2	5	2	4	1	9
			ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ	3	1	3	36		3		2
			ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ	48	22	2	32	16			3
			ﾅﾐﾏｶﾞｼﾜ	1	1		1		1	1	
		節足動物門	ﾔﾄﾞｶﾘ科		3	1					
		棘皮動物門	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ	3			4	1	2	1	21
			ｷﾋﾄﾃﾞ		2			2			
			ｻﾝｼｮｳｳﾆ	2	6			4	7		
			ﾏﾅﾏｺ	11				3		4	
	動物種類数			24	23	22	27	27	19	25	23

注：数値は、各調査点で水深＋１ｍ～海底までに連続した50×50cmの方形枠（11枠）を設置し、
各枠ごとに観察した被度階級（被覆率を階級で表したもの）または個体数の合計を示す。

被度階級
被度：被覆率（%）
5：76～100
4：51～75
3：26～50
2：10～25
1：1～9
r：極僅か

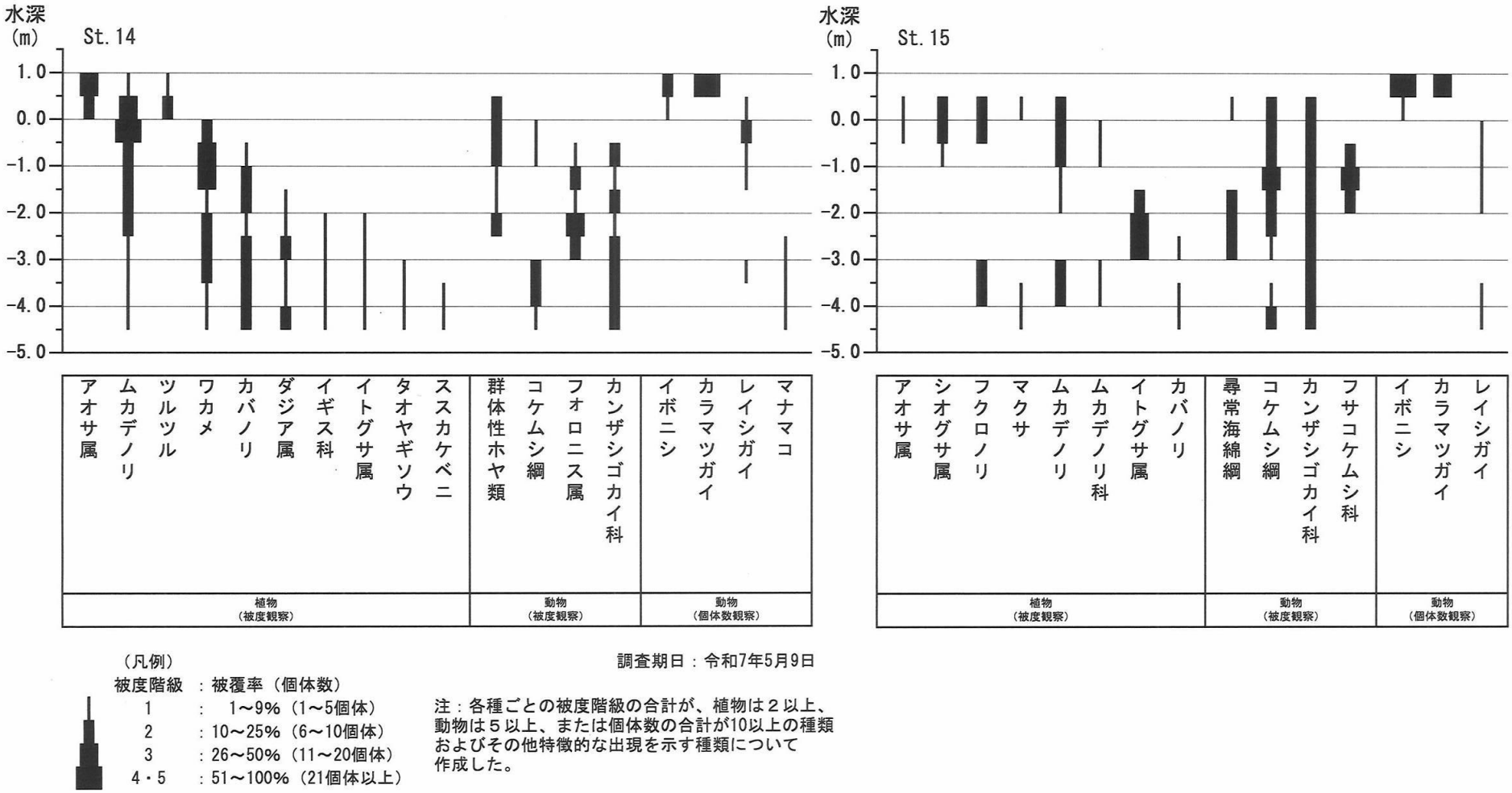


図２－３－11（１） 主な付着生物の鉛直分布（令和７年５月）

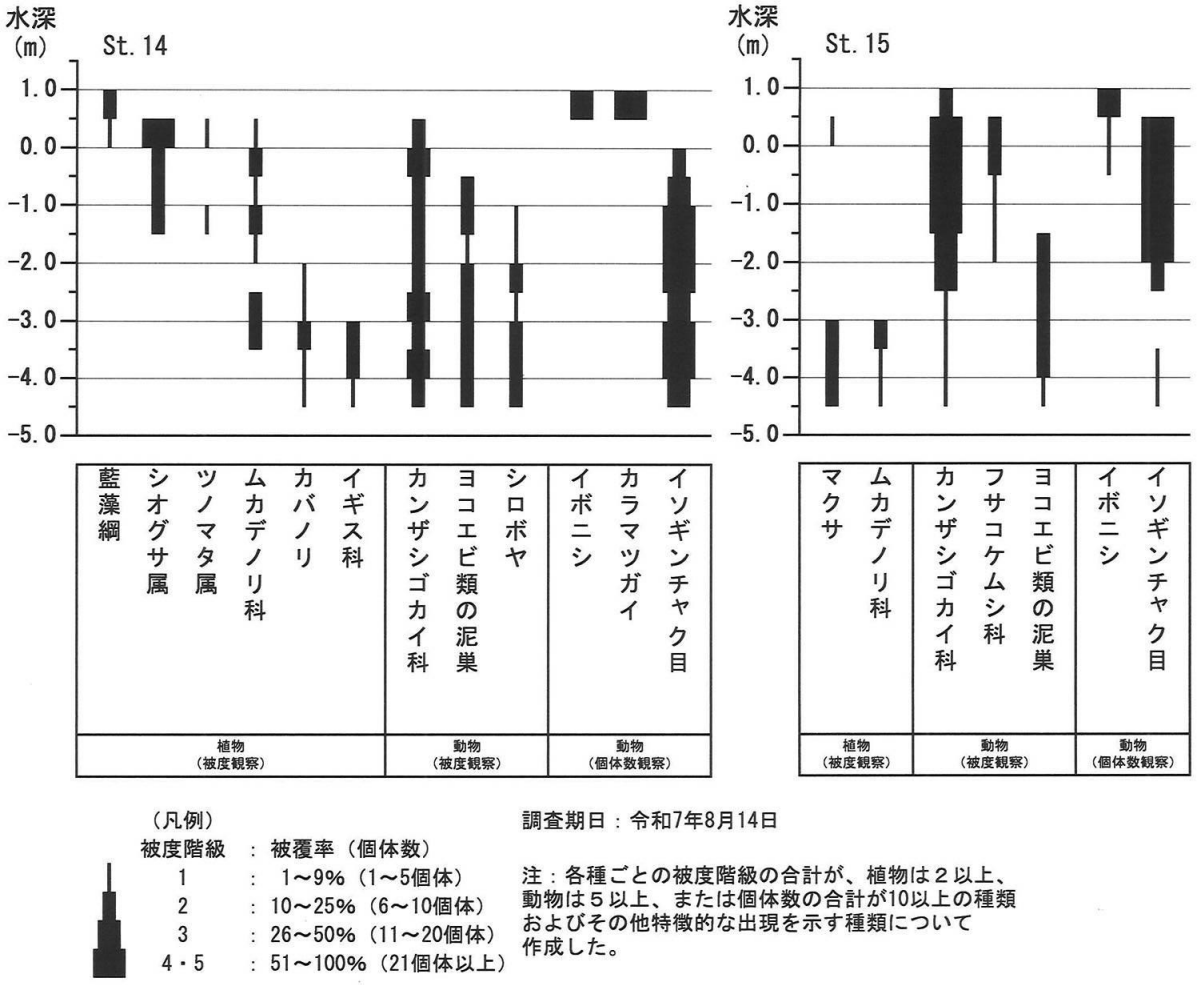


図２－３－11(２)　主な付着生物の鉛直分布（令和７年８月）

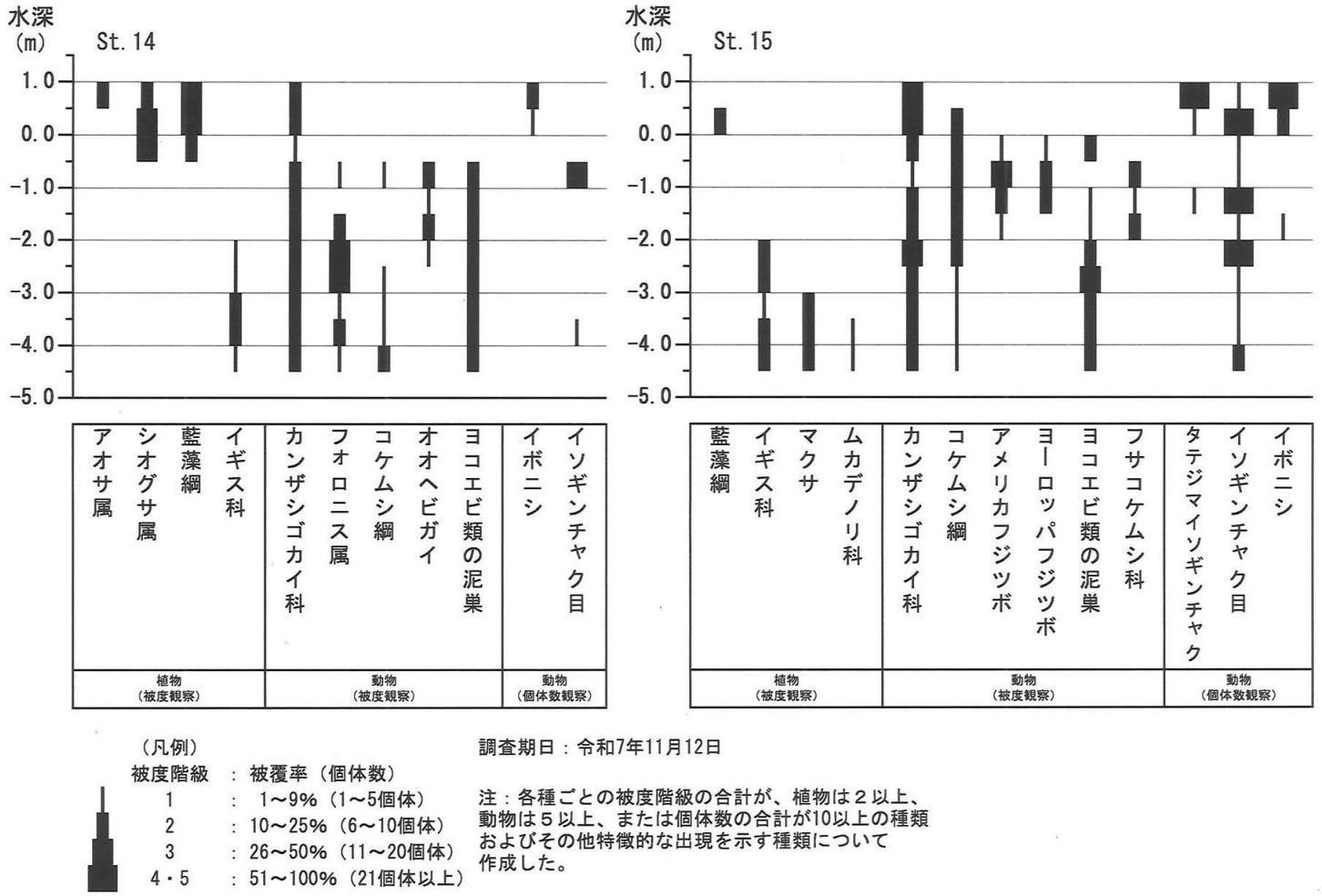


図２－３－11(３)　主な付着生物の鉛直分布（令和７年11月）

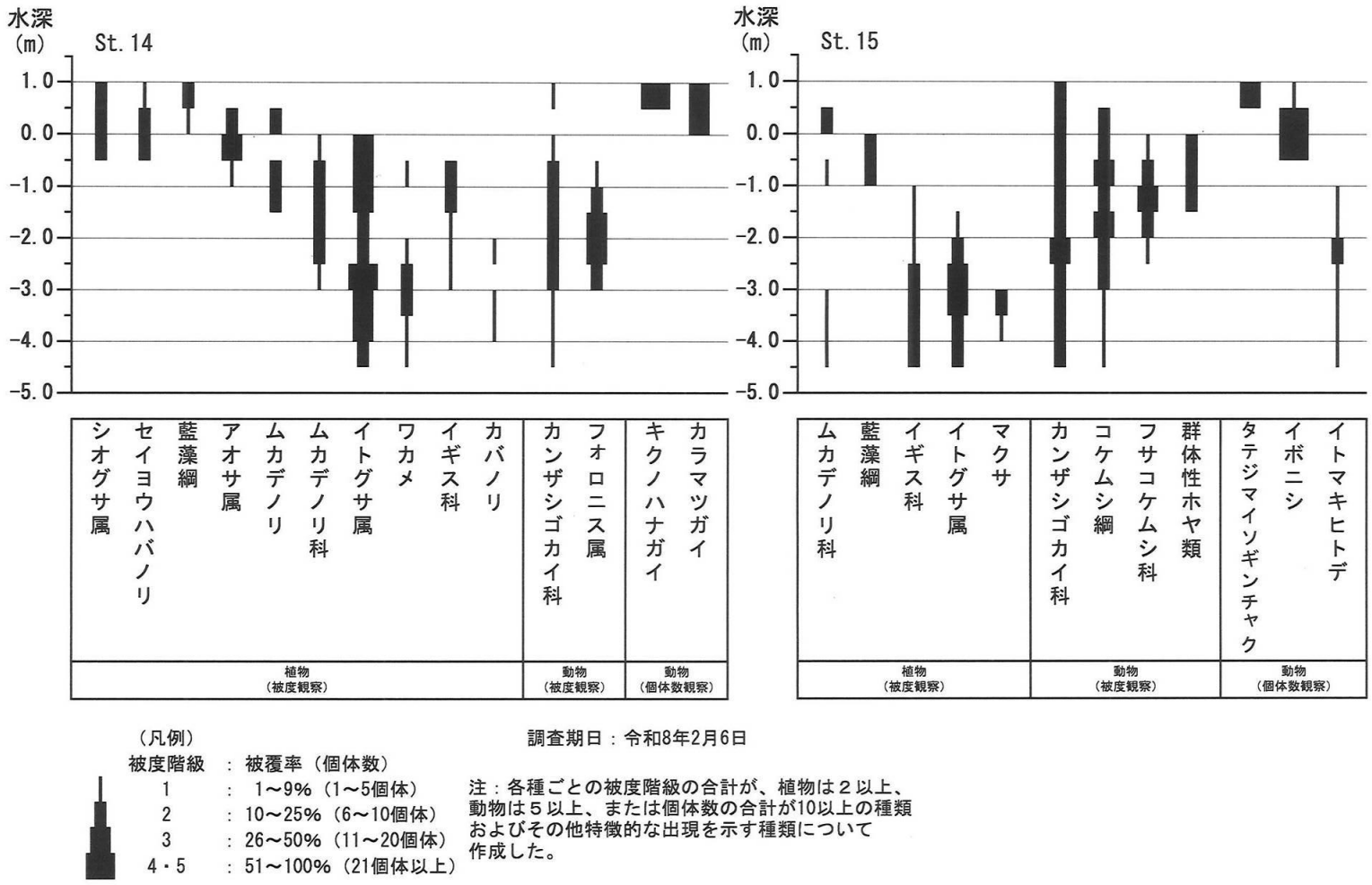
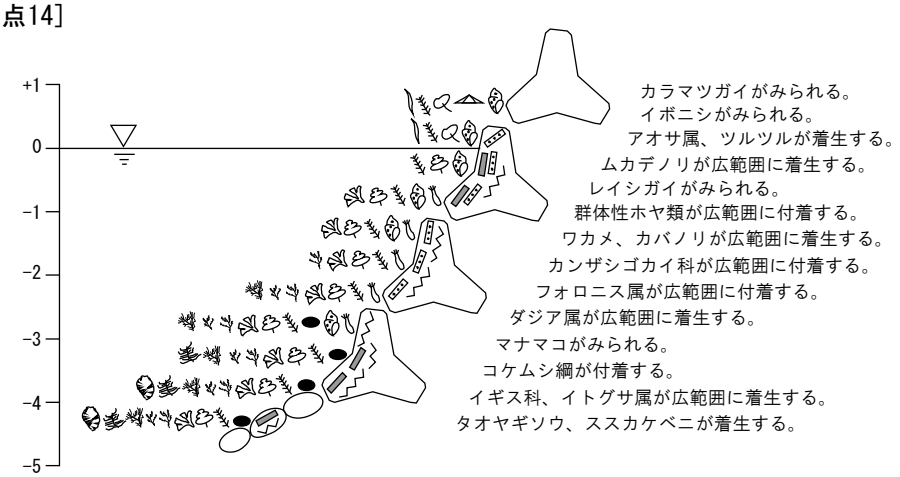
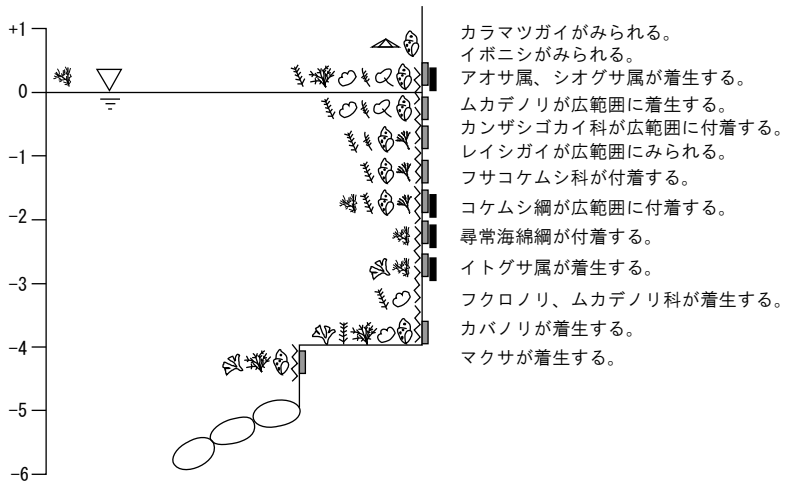


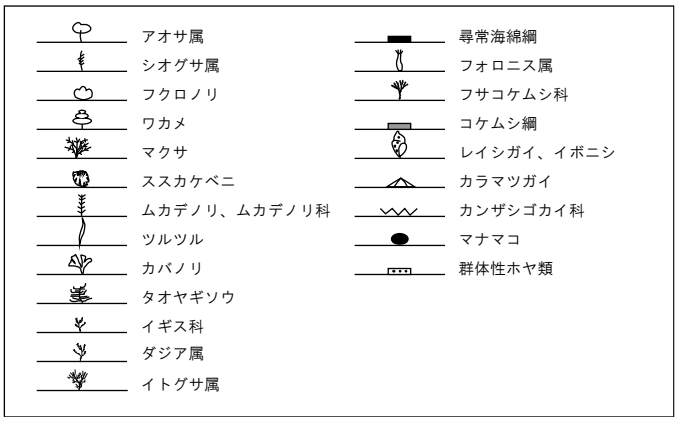
図２－３－11(４)　主な付着生物の鉛直分布（令和８年２月）

[調査点14]



[調査点15]

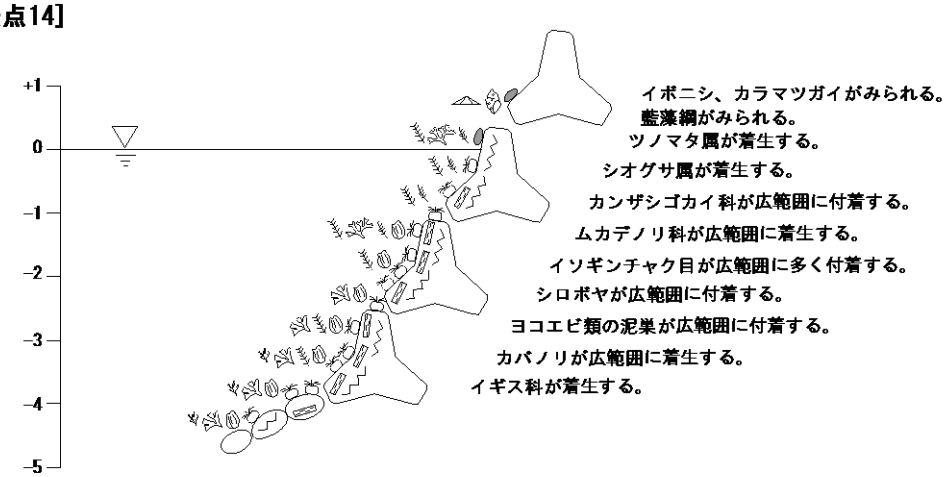




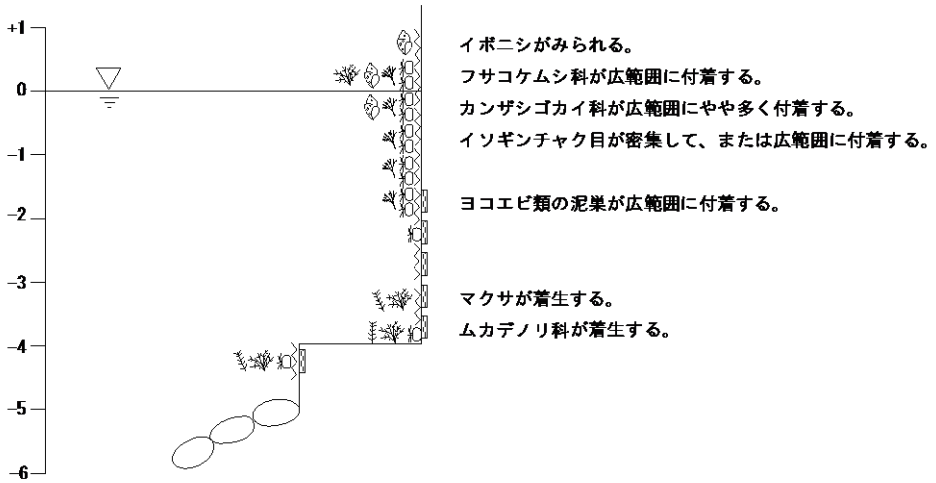
調査期日：令和７年５月９日

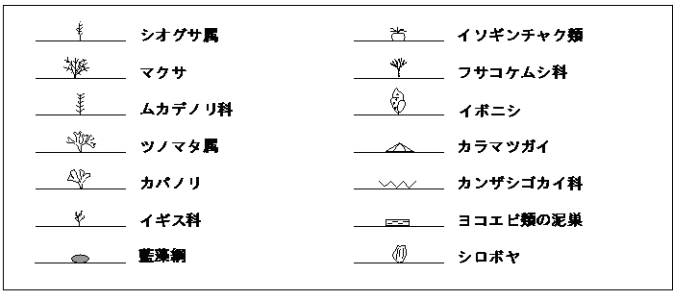
図２－３－12(１)　付着生物調査点の断面模式図（令和７年５月）

[調査点14]



[調査点15]

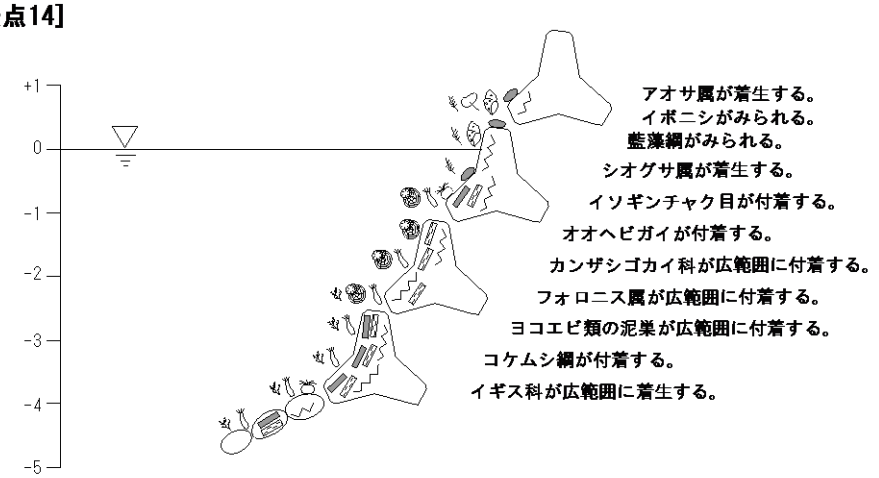




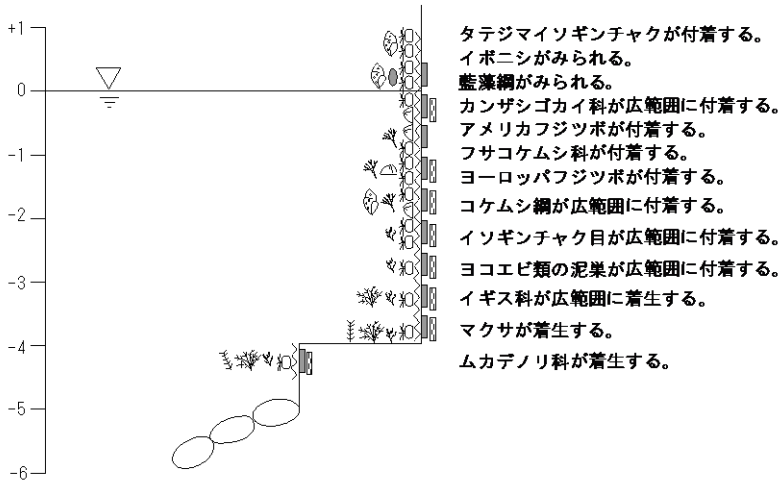
調査期日：令和７年８月14日

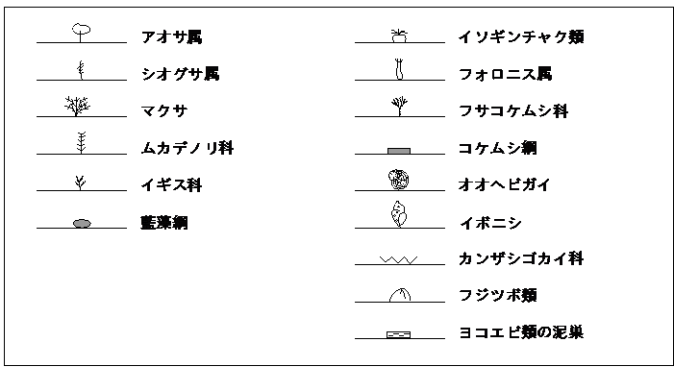
図２－３－12(２)　付着生物調査点の断面模式図（令和７年８月）

[調査点14]



[調査点15]

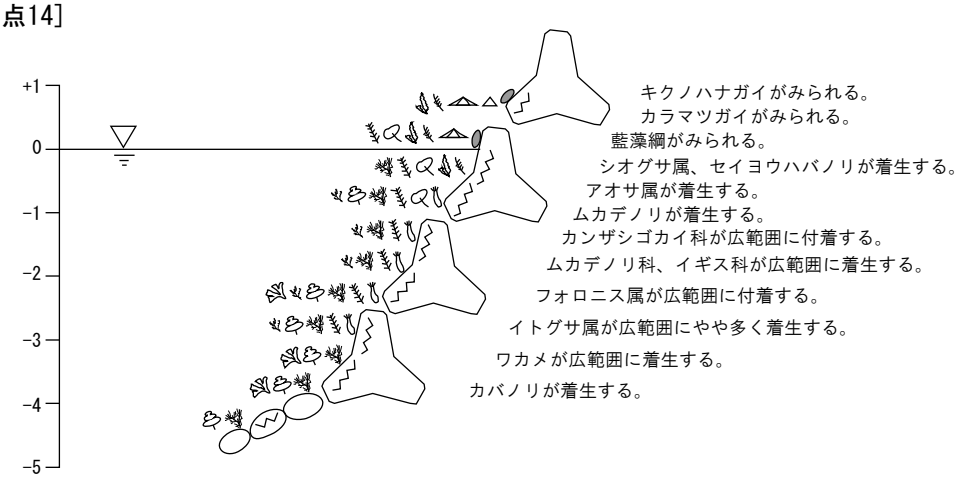




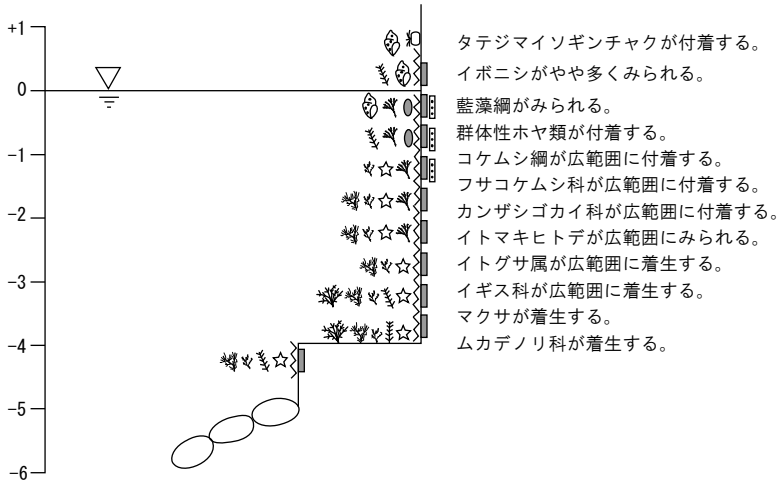
調査期日：令和７年11月12日

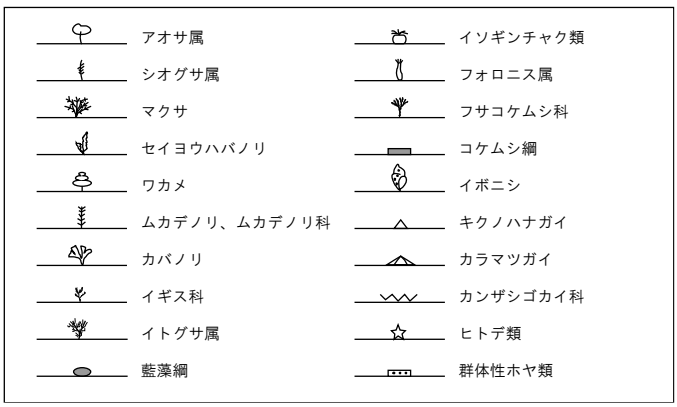
図２－３－12(３)　付着生物調査点の断面模式図（令和７年11月）

[調査点14]



[調査点15]





調査期日：令和８年２月６日

図２－３－12(４)　付着生物調査点の断面模式図（令和８年２月）

表２－３－９　付着生物調査結果（坪刈：植物）

調査時期：令和７年５月～令和８年２月
単位：／0.09㎡×３層

項目	調査点	14[助松埠頭]				15[阪南港]				年平均（注2）		総平均
	調査時期	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	14	15	
種類数	緑藻植物門	3	3	3	3	2	3	2	3	3	5	5
	褐藻植物門	2		2	2	1			4	5	4	7
	紅藻植物門	4	4	2	6	8	2	3	8	11	12	15
	その他		1		1			1	1	2	2	2
（注1）	合計	9	8	7	12	11	5	6	16	21	23	29
湿重量（g）	緑藻植物門	1.5	1.0	0.1	8.3	0.2	0.6	+	1.6	2.7	0.6	1.7
	褐藻植物門	300.6		+	19.2	1.7			3.2	80.0	1.2	40.6
	紅藻植物門	195.7	11.3	+	115.7	20.1	2.2	+	2.7	80.7	6.3	43.5
	その他		3.6		+			+	0.1	0.9	+	0.5
（注3）	合計	497.8	15.9	0.1	143.2	22.0	2.8	+	7.6	164.3	8.1	86.2
湿重量構成比（%）（注3）	緑藻植物門	0.3	6.3	100.0	5.8	0.9	21.4		21.1	1.7	7.4	1.9
	褐藻植物門	60.4		<0.1	13.4	7.7			42.1	48.7	15.1	47.1
	紅藻植物門	39.3	71.1	<0.1	80.8	91.4	78.6		35.5	49.1	77.2	50.4
	その他		22.6		<0.1				1.3	0.5	0.3	0.5
主要種構成比・%	ｱｵﾉﾘ属		0.6		2.8							
	ｱｵｻ属	0.3							9.2			
	ｼｵｸﾞｻ属		5.7	100.0		0.9	21.4		9.2		4.6	
	ﾌｸﾛﾉﾘ					7.7			3.9		6.2	
	ｾｲﾖｳﾊﾊﾞﾉﾘ				13.4				36.8	2.9	8.6	3.2
	ﾜｶﾒ	60.4								45.8		43.6
	ﾃﾝｸﾞｻ科		0.6									
	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ					0.5						
	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	28.4			45.3	89.5				31.4	60.8	32.7
	ﾂﾙﾂﾙ	10.9			2.9	0.5				8.9		8.5
	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ属		70.4				78.6		32.9		14.5	
	ｵｷﾂﾉﾘ					0.9						
	ｶﾊﾞﾉﾘ	<0.1										
	ｼｮｳｼﾞｮｳｹﾉﾘ				32.6					7.1		6.8
（注4）	藍藻綱		22.6									

注：１.種類数の年平均欄及び総平均欄は総種類数を示す。
２.年平均欄は各調査点（３層合計）の平均値を示す。
３.湿重量の+は0.1g/0.09㎡未満を示す。
４.主要種は各期上位５位までの種類で、湿重量構成比（%）で示す。ただし、0.1ｇ/0.09㎡未満の場合は除く。
５.湿重量の平均値は小数点２位を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。
６.湿重量構成比は小数点２位を四捨五入しているため、合計が100.0にならない場合がある。

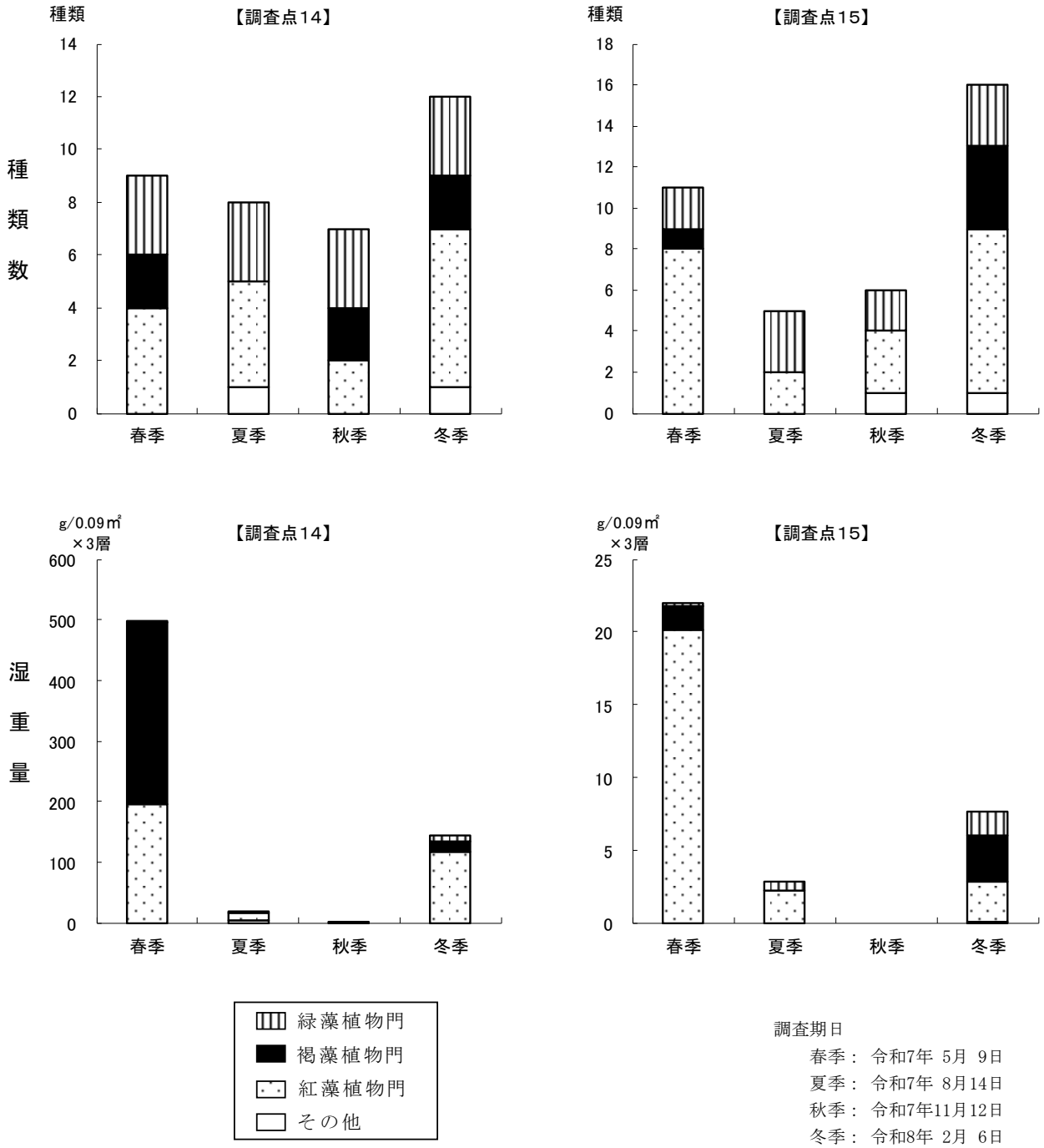


図２－３－13　付着生物(植物)の種類数、湿重量の季節変化

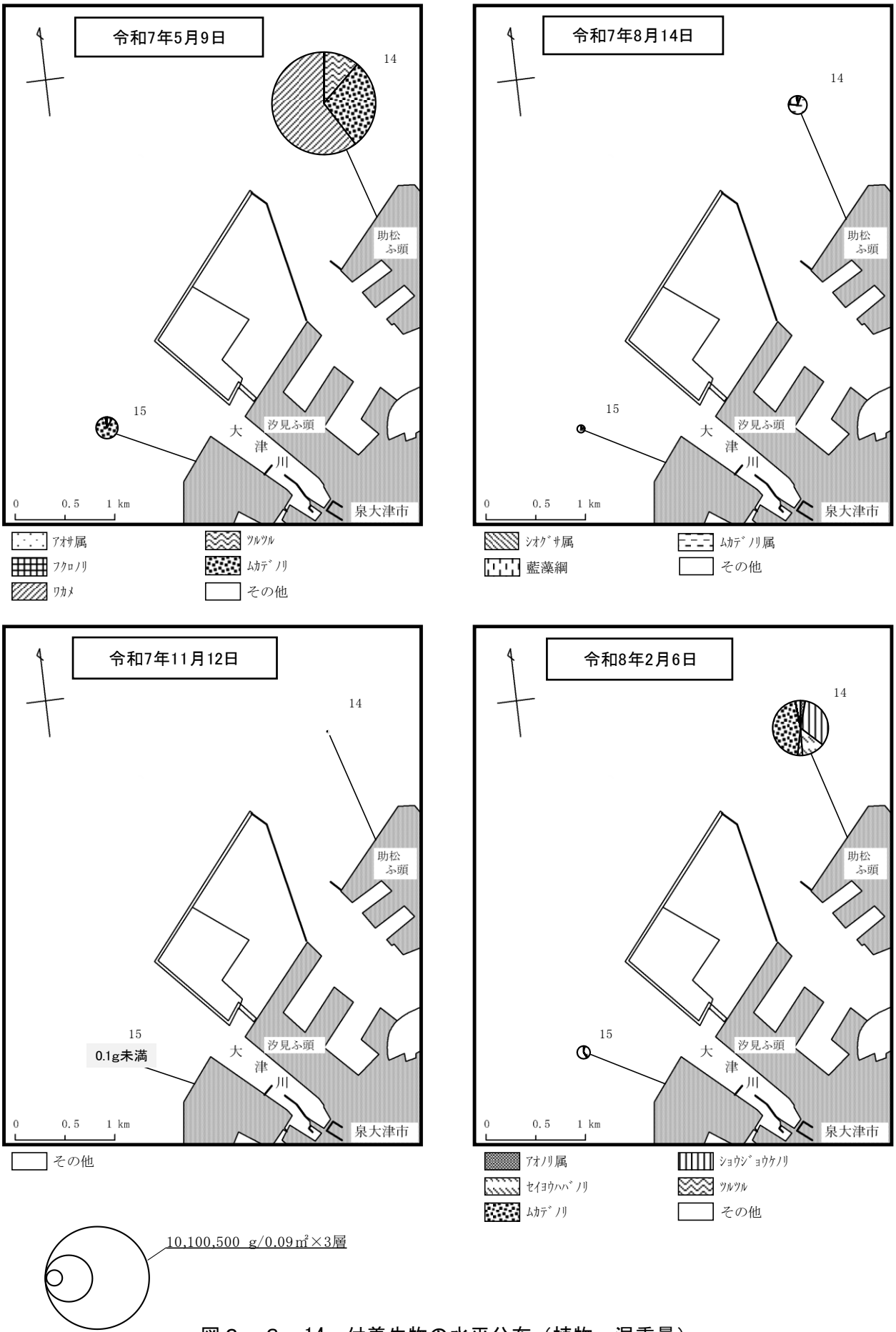


図２－３－14　付着生物の水平分布（植物：湿重量）

表２－３－10(１)　付着生物季節別出現状況（坪刈：動物個体数）

調査時期：令和７年５月～令和８年２月
単位：／0.09㎡×３層

分類群	調査点	14[助松埠頭]				15[阪南港]				年平均（注2）		総平均
	調査時期	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	14	15	
種類数	軟体動物門	22	16	13	18	25	15	16	19	31	37	43
	環形動物門	27	20	18	17	21	24	19	19	33	28	33
	節足動物門	17	13	14	11	24	16	18	17	26	31	37
	その他	14	7	9	11	15	12	8	15	17	21	24
(注1)	合計	80	56	54	57	85	67	61	70	107	117	137
個体数	軟体動物門	801	5,120	479	223	727	945	910	434	1,656	754	1,205
	環形動物門	1,953	1,602	922	117	759	10,049	3,618	2,839	1,149	4,316	2,732
	節足動物門	199	294	769	292	3,607	315	3,891	6,504	389	3,579	1,984
	その他	139	111	53	372	280	540	237	177	169	309	239
	合計	3,092	7,127	2,223	1,004	5,373	11,849	8,656	9,954	3,362	8,958	6,160
個体数構成比	軟体動物門	25.9	71.8	21.5	22.2	13.5	8.0	10.5	4.4	49.3	8.4	19.6
	環形動物門	63.2	22.5	41.5	11.7	14.1	84.8	41.8	28.5	34.2	48.2	44.4
	節足動物門	6.4	4.1	34.6	29.1	67.1	2.7	45.0	65.3	11.6	40.0	32.2
(%)(注3)	その他	4.5	1.6	2.4	37.1	5.2	4.6	2.7	1.8	5.0	3.4	3.9

注：１.種類数の年平均欄及び総平均欄は総種類数を示す。
２.個体数の年平均欄は各調査地点の四季の平均値を示す。
３.個体数の平均値は小数点以下を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。
４.分類群数別構成比は、小数点以下第２位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

表２－３－10(２)　付着生物季節別出現状況（坪刈：動物個体数）

調査時期：令和７年５月～令和８年２月
単位：／0.09㎡×３層

分類群	調査点	14[助松埠頭]				15[阪南港]				年平均（注1）		総平均
	調査時期	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	14	15	
個体数主要種構成比・%	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目						3.3					
	多岐腸目				34.2							
	ｳｽｶﾗｼｵﾂｶﾞｲ		68.3	19.1	11.6		7.1	7.7		40.5	4.6	14.4
	ｷﾇﾏﾄｲｶﾞｲ	20.5				9.3				4.7		
	ｼﾘｽ亜科	4.2										
	ｸﾏﾄﾞﾘｺﾞｶｲ	4.6										
	ﾎﾟﾘﾄﾞﾗ属		3.7	11.7								
	ｹﾔﾘﾑｼ科		2.4				2.8					
	ｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ											
	ﾅﾃﾞｼｺｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	33.1	7.5	11.4			56.2	24.5	12.3	13.5	27.9	24.0
	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼ	10.6	4.5				19.3	5.5	9.5	5.4	10.7	9.3
	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ							26.6	50.5		20.6	15.0
	ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ属				7.4							
	ﾕﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ科					8.7						
	ﾎｿﾖｺｴﾋﾞ属			6.6				9.2				
	ｲｿﾖｺｴﾋﾞ属			22.4	6.9				1.7	5.0		
	ﾀﾃｿｺｴﾋﾞ属					13.1						
	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ					17.4						
	ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ科					12.4						
	ｼﾘｹﾝｳﾐｾﾐ属								8.2		3.5	2.7
(注2)	ｾﾞｳｸｿ属				10.0							

注：１.個体数の年平均欄は各調査地点の四季の平均値を示す。
２.主要種は各季節上位５位までの種類で、個体数構成比（%）で示す。

表２－３－10(３)　付着生物季節別出現状況（坪刈：動物湿重量）

調査時期：令和７年５月～令和８年２月
単位：／0.09㎡×３層

項目	調査点	14[助松埠頭]				15[阪南港]				年平均（注1）		総平均
	調査時期	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	14	15	
湿重量(g)	軟体動物門	56.7	81.3	31.4	17.6	86.6	34.5	25.7	100.9	46.8	61.9	54.3
	環形動物門	27.6	10.7	6.7	0.7	17.7	79.6	35.2	47.9	11.4	45.1	28.3
	節足動物門	1.3	0.7	5.5	1.0	15.7	2.6	32.9	49.2	2.1	25.1	13.6
	その他	11.9	3.7	2.6	5.0	169.9	31.5	4.2	27.5	5.8	58.3	32.0
	合計	97.5	96.4	46.2	24.3	289.9	148.2	98.0	225.5	66.1	190.4	128.3
湿重量構成比(%)(注2)	軟体動物門	58.2	84.3	68.0	72.4	29.9	23.3	26.2	44.7	70.7	32.5	42.4
	環形動物門	28.3	11.1	14.5	2.9	6.1	53.7	35.9	21.2	17.3	23.7	22.0
	節足動物門	1.3	0.7	11.9	4.1	5.4	1.8	33.6	21.8	3.2	13.2	10.6
	その他	12.2	3.8	5.6	20.6	58.6	21.3	4.3	12.2	8.8	30.6	25.0

注：１.湿重量の平均欄は各調査地点の平均値を示す。
２.湿重量の平均値は小数点２位を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。
３.分類群数別構成比は、小数点以下第２位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

表２－３－10(４)　付着生物季節別出現状況（坪刈：動物湿重量）

調査時期：令和７年５月～令和８年２月
単位：／0.09㎡×３層

項目	調査点	14[助松埠頭]				15[阪南港]				年平均（注1）		総平均
	調査時期	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	14	15	
湿重量主要種構成比・%	ﾌｻｺｹﾑｼ科					11.5						
	ｲﾀｺﾌﾞｺｹﾑｼ科					13.8					6.4	
	ｺｼﾀﾞｶｶﾞﾝｶﾞﾗ				7.8							
	ｵｵﾍﾋﾞｶﾞｲ	21.7	14.0	8.0	27.6					17.1		
	ﾚｲｼｶﾞｲ	8.4				7.4						
	ｲﾎﾞﾆｼ	13.9	3.4	6.3		14.1	9.7	17.3	35.6	8.0	20.0	16.9
	ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ			10.8								
	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ				15.6							
	ｳｽｶﾗｼｵﾂｶﾞｲ		61.7	34.8	8.6		12.5	5.3		29.8		10.2
	ﾅﾃﾞｼｺｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	8.7	5.0				33.1	25.9	9.3	6.0	12.5	10.8
	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼ	12.8					13.2		9.3	5.6	6.8	6.5
	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ							18.0	13.6			
	ｱﾒﾘｶﾌｼﾞﾂﾎﾞ			5.8								
	ｽﾍﾟｽﾍﾟｵｳｷﾞｶﾞﾆ							5.9				
	ﾏﾝｼﾞｭｳﾎﾞﾔ科				11.5	20.4			5.7		9.5	7.3
	ｼﾛﾎﾞﾔ		2.9									
(注2)	ｼﾛﾎﾞﾔ科(群体性)						4.9					

注：１.湿重量の年平均欄は各調査地点の四季の平均値を示す。
２.主要種は各季節上位５位までの種類で、湿重量構成比（%）で示す。

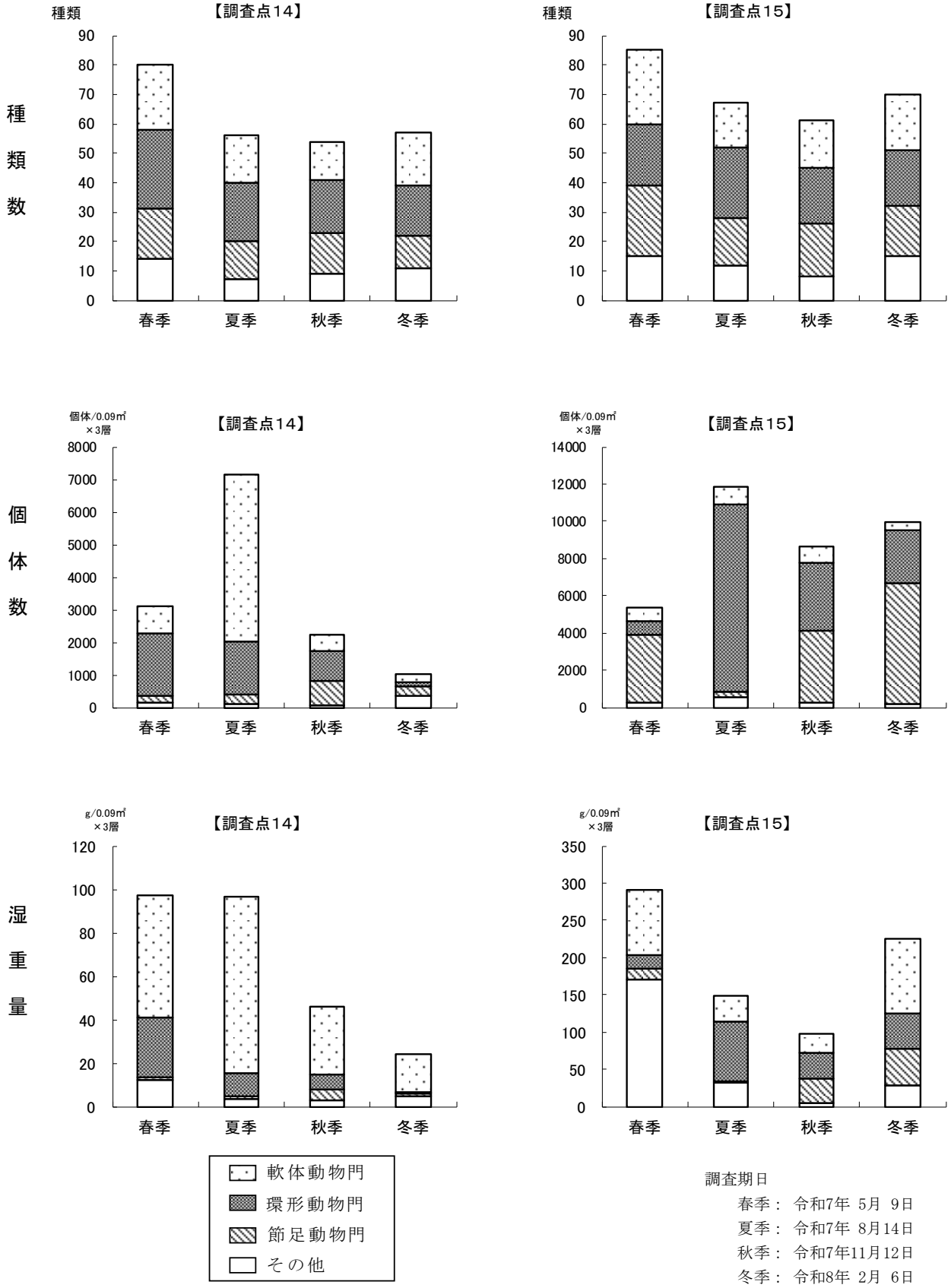


図２－３－15　付着生物（動物）の種類数、個体数、湿重量の季節変化

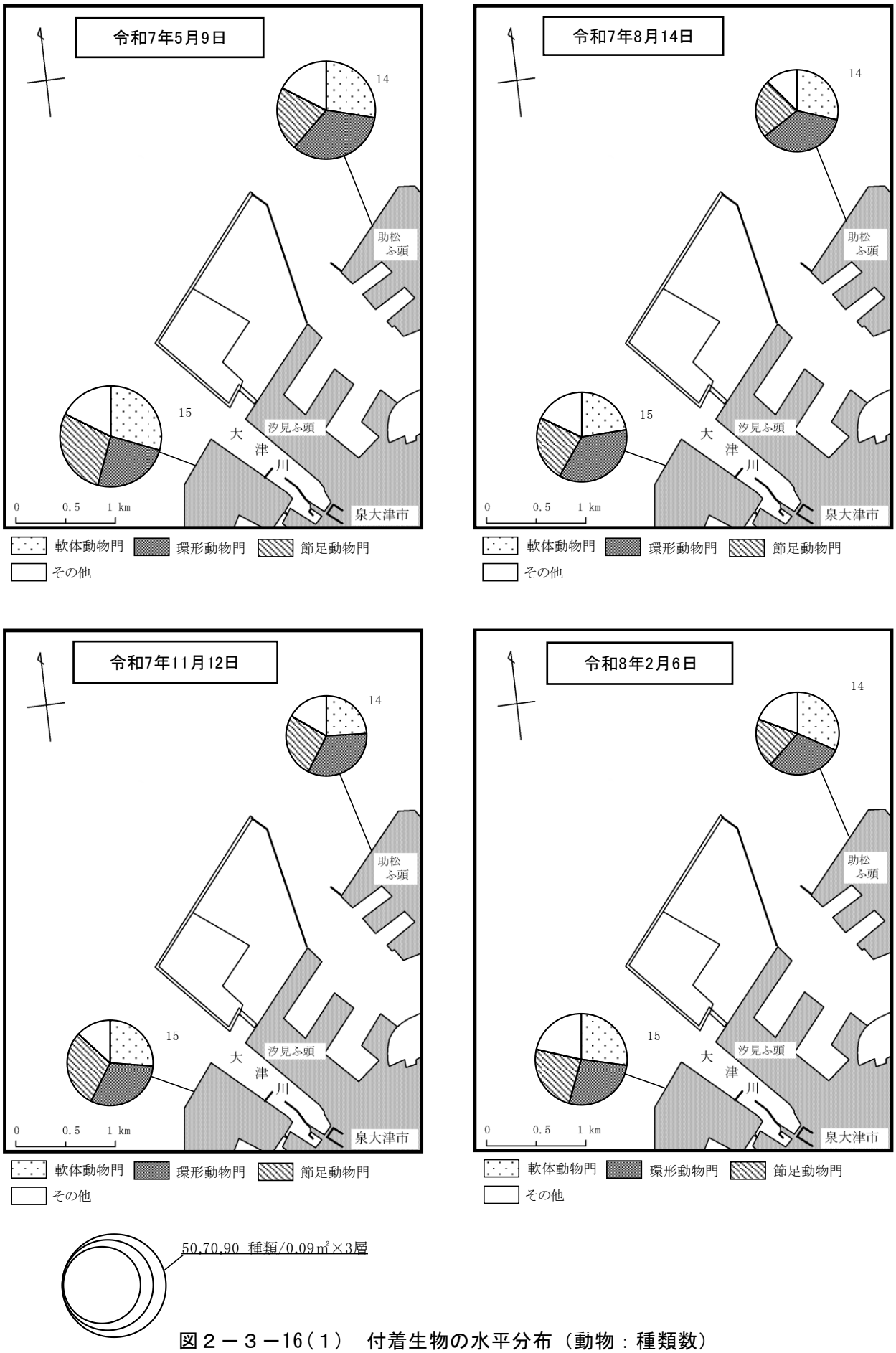


図２－３－16（１） 付着生物の水平分布（動物：種類数）

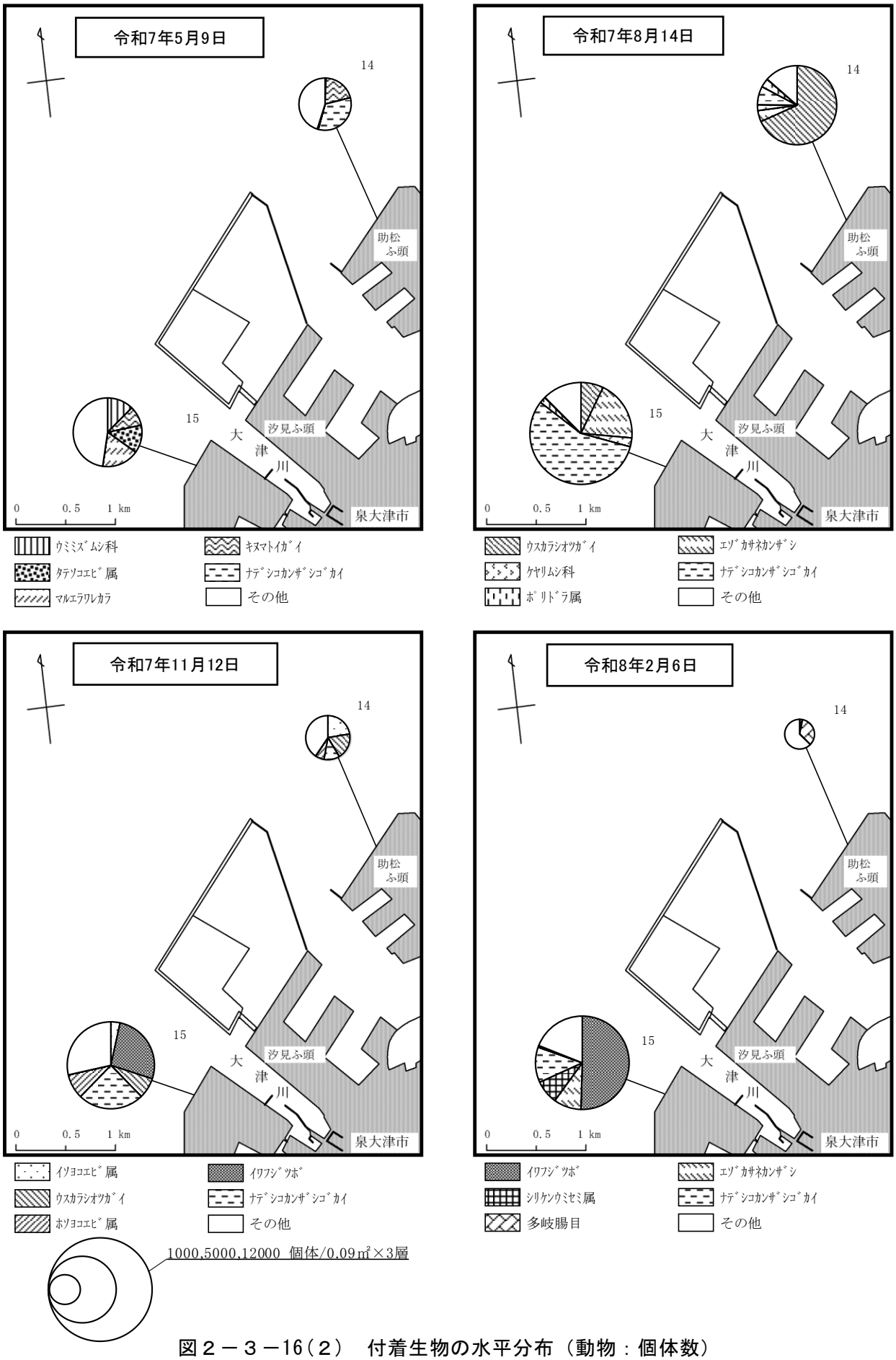


図２－３－16（２） 付着生物の水平分布（動物：個体数）

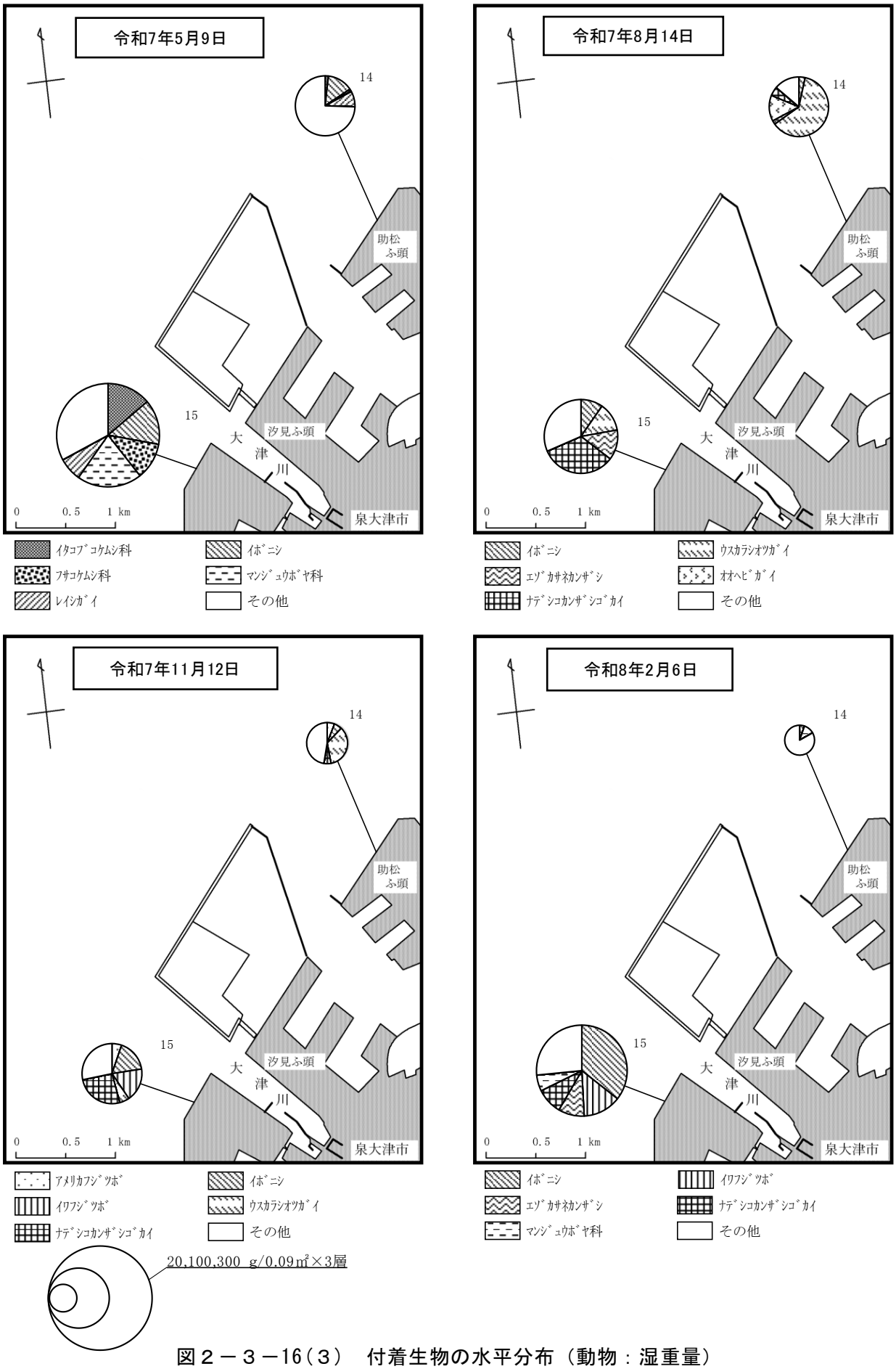


図２－３－16（３） 付着生物の水平分布（動物：湿重量）

（５） 漁業生物調査

刺網による漁業生物の種類数、個体数及び湿重量の季節別出現状況を表２－３-11に、季節変化を図２－３-17に、個体数、湿重量の水平分布を図２－３-18に示した。

四季を通して採捕した漁業生物の種類数は、魚類が19種類、甲殻類が２種類、その他が２種類の合計23種類であった。頭足類は採捕されなかった。季別の種類数は、St.16は夏季に最も多く12種類、春季に最も少なく４種類、St.17は春季に最も多く７種類、冬季に最も少なく３種類であった。

個体数は、St.16は夏季に最も多く261個体/網（単位は以下同じ）、春季に最も少なく11個体、St.17は春季に最も多く105個体、冬季に最も少なく11個体であった。また、分類群別にみると、四季を通して魚類が多かった。

湿重量は、St.16は夏季に最も多く28,646.1g/網（単位は以下同じ）、春季に最も少なく1,595.7g、St.17は夏季に最も多く23,241.4g、冬季に最も少なく2,020.9gであった。また、分類群別にみると、四季を通して、魚類の湿重量が多かった。

個体数からみた主要種は、魚類では春季にカサゴ、夏季にマサバ、秋季にカタクチイワシ、冬季にカサゴ及びマサバであった。甲殻綱では四季を通してイシガニが採捕され、夏季及び秋季にタイワンガザミが採捕された。湿重量からみると、魚類では春季、夏季及び秋季にアカエイ、冬季にクロダイの構成比が高かった。

季別の水平分布をみると、個体数は、夏季のSt.16がSt.17に比べて多く、春季及び秋季のSt.17がSt.16に比べて多かった。湿重量は、夏季のSt.16がSt.17に比べて多く、春季のSt.17がSt.16に比べて多かった。

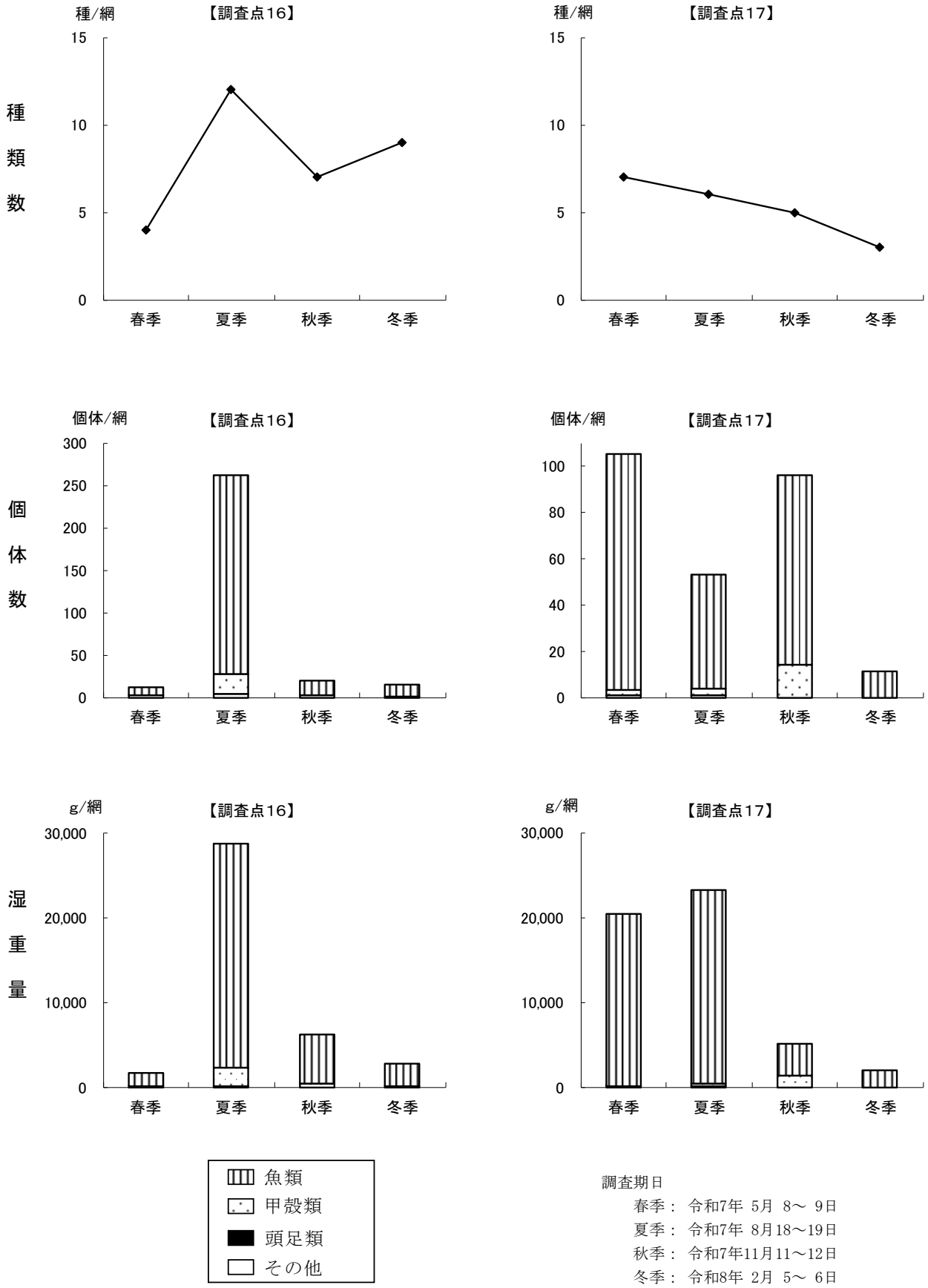
以上のように、本調査海域で採捕された漁業生物は、魚類については大阪湾の一般的な魚類相を示しており、その他甲殻類などについても内湾で普通にみられる種類である。なお、夏季に出現したツバクロエイは、「海洋生物レッドリスト」（環境省、2017年）で情報不足に指定されている種である。

表２－３－11　漁業生物季節別出現状況

調査時期：令和７年５月～令和８年２月

項目	調査日	5月8～9日（春季）			8月18～19日（夏季）			11月11～12日（秋季）			2月5～6日（冬季）		
	調査点	16	17	平　均	16	17	平　均	16	17	平　均	16	17	平　均
種類数	魚　類［19］	3	5	6	9	3	10	5	4	6	8	3	8
	甲殻類［2］		1	1	2	2	2	2	1	2	1		1
	頭足類［0］												
	その他［2］	1	1	1	1	1	2						
(注1)	合　計	4	7	8	12	6	14	7	5	8	9	3	9
個体数	魚　類	9	102	56	234	49	142	17	82	50	14	11	13
	甲殻類		2	1	23	3	13	2	14	8	1		1
	頭足類												
	その他	2	1	2	4	1	3						
(注2)	合　計	11	105	58	261	53	157	19	96	58	15	11	13
湿重量	魚　類	1,458.7	20,256.7	10,857.7	26,393.0	22,816.7	24,604.9	5,863.3	3,828.1	4,845.7	2,697.4	2,020.9	2,359.2
	甲殻類		140.5	70.3	2237.3	395.8	1,316.6	317.7	1278.7	798.2	54.3		27.2
	頭足類												
(g)	その他	137.0	15.4	76.2	15.8	28.9	22.4						
(注2)	合　計	1,595.7	20,412.6	11,004.2	28,646.1	23,241.4	25,943.8	6,181.0	5,106.8	5,643.9	2,751.7	2,020.9	2,386.3
主要種 個体数（組成比%）	魚　類	カサゴ 50 (85.3) アカエイ 3 (4.3) メバル 2 (2.6) クロダイ 1 (1.7) キジハタ 1 (0.9) キチヌ 1 (0.9)			マサバ 68 (43.3) カタクチイワシ 41 (25.8) クロダイ 21 (13.4) アカエイ 6 (3.5) ツバクロエイ 2 (1.3)			カタクチイワシ 40 (69.6) アカエイ 6 (9.6) トカゲエソ 2 (2.6) カサゴ 2 (2.6) キジハタ 1 (0.9) クロダイ 1 (0.9)			カサゴ 4 (26.9) マサバ 4 (26.9) クロダイ 3 (19.2) シログチ 1 (7.7) マイワシ 1 (3.8) スズキ 1 (3.8) マアジ 1 (3.8) マコガレイ 1 (3.8)		
	甲殻類	イシガニ 1 (1.7)			タイワンガザミ 7 (4.1) イシガニ 7 (4.1)			タイワンガザミ 8 (13.0) イシガニ 1 (0.9)			イシガニ 1 (3.8)		
	その他	キヒトデ 2 (2.6)			キヒトデ 2 (1.3) トゲモミジガイ 1 (0.3)								
主要種 湿重量（組成比%）	魚　類	アカエイ 5,011.7 (45.5) カサゴ 4,750.1 (43.2) クロダイ 594.0 (5.4) キチヌ 181.3 (1.6) キジハタ 175.6 (1.6)			アカエイ 10,718.3 (41.3) クロダイ 9,062.0 (34.9) マサバ 2,750.9 (10.6) ツバクロエイ 1,203.9 (4.6) ボラ 573.9 (2.2)			アカエイ 4,038.1 (71.5) トカゲエソ 240.3 (4.3) カタクチイワシ 233.0 (4.1) カサゴ 192.1 (3.4) クロダイ 123.3 (2.2)			クロダイ 1,012.9 (42.4) シログチ 416.6 (17.5) マサバ 385.6 (16.2) カサゴ 261.1 (10.9) スズキ 154.2 (6.5)		
	甲殻類	イシガニ 70.3 (0.6)			タイワンガザミ 1,000.1 (3.9) イシガニ 316.5 (1.2)			タイワンガザミ 775.3 (13.7) イシガニ 23.0 (0.4)			イシガニ 27.2 (1.1)		
	その他	キヒトデ 76.2 (0.7)			トゲモミジガイ 14.5 (0.1) キヒトデ 7.9 (<0.1)								

注：１.種類数の平均欄には各季の総種類数を［　］内の数字は年間通した総種類数を示す。
　　２.個体数、湿重量は１網当たりで示す。
　　３.主要種は各調査点の各分類群で上位５種のものを示す。
　　４.個体数の平均値は小数点以下を四捨五入しているため、合計と一致しない場合がある。
　　５.重量の平均値は小数点２位を四捨五入しているため、合計と一致しない場合がある。



調査期日
春季： 令和7年 5月 8～ 9日
夏季： 令和7年 8月18～19日
秋季： 令和7年11月11～12日
冬季： 令和8年 2月 5～ 6日

図２－３－17　漁業生物の種類数、個体数、湿重量の季節変化

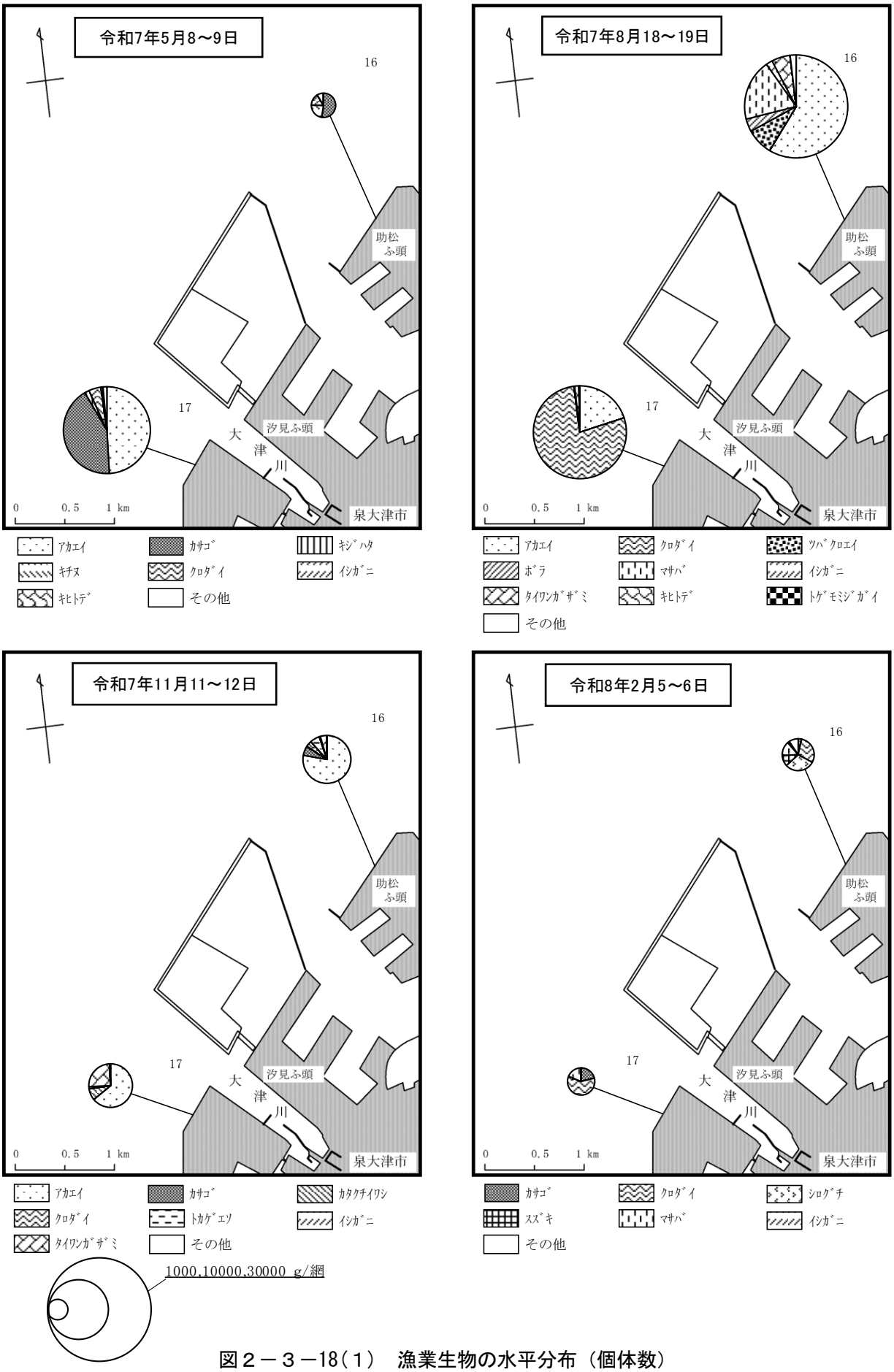


図２－３－18（１） 漁業生物の水平分布（個体数）

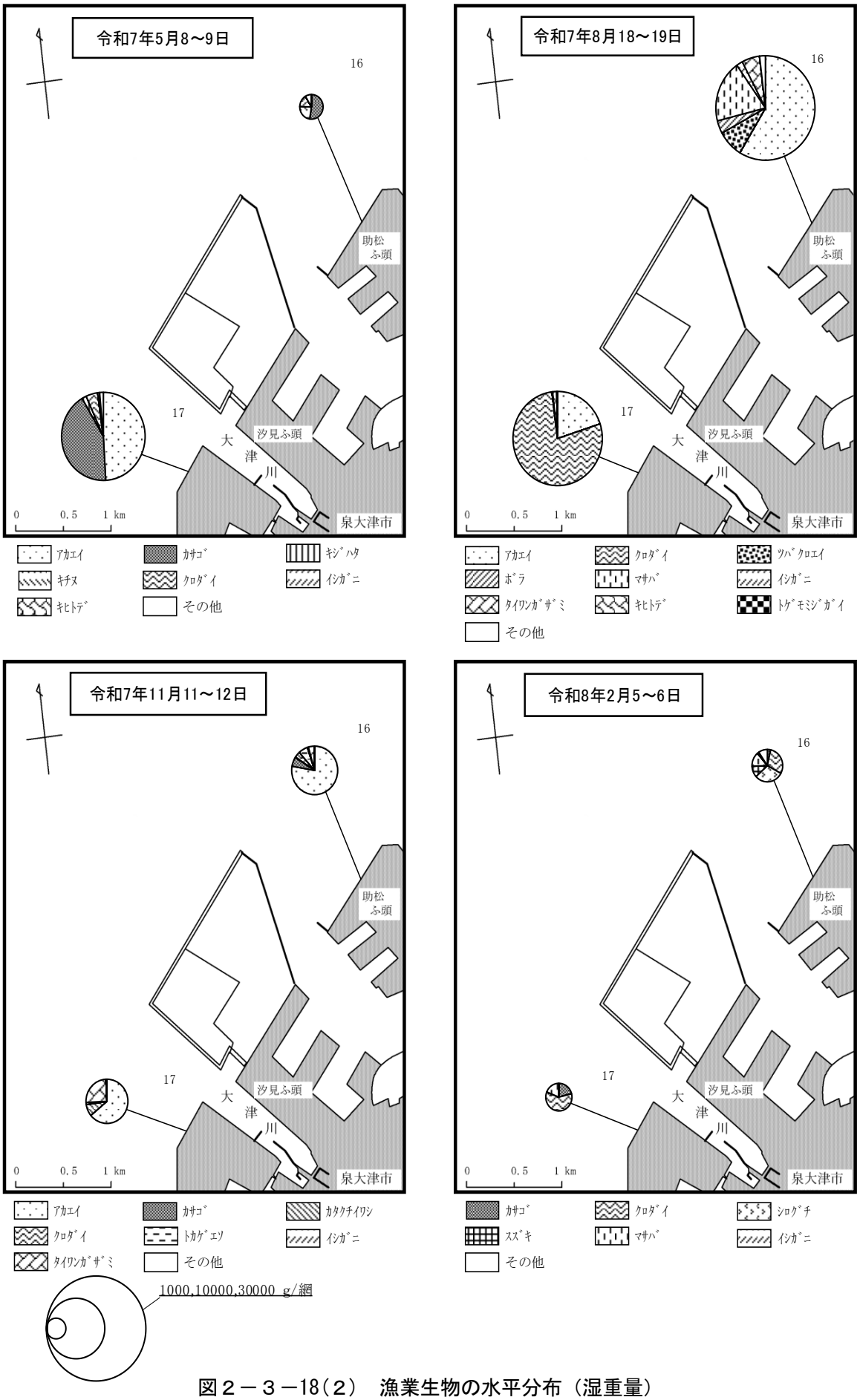


図２－３－18（２） 漁業生物の水平分布（湿重量）

［陸域調査］

４　悪臭・発生ガス

４－１　環境監視の実施状況

処分場及び基地供用に伴い発生する悪臭及び発生ガスの状況を把握するため、表２-４-１に示すとおり、悪臭（臭気濃度、臭気指数、臭気強度）については年２回（６月、８月)、悪臭22物質については年１回（８月)、発生ガスについては年２回（８月、２月）の調査を実施した。

測定点は環境監視調査地点位置図に示すとおりである。

表２－４－１　悪臭・発生ガス調査の実施状況

環境項目	測定・調査項目	測定地点	測定点数	頻度	実施日
悪　臭	臭気濃度 臭気指数 臭気強度	№Ｄ１ №Ｄ２	２地点	２回／年	令和７年 ６月４日 ８月21日
	悪臭22物質	№Ｅ	１地点	１回／年	８月21日
発生ガス	メタン濃度	№Ｆ１ №Ｆ２	２地点	２回／年	令和７年 ８月21日 令和８年 ２月９日

４－２　環境監視の結果

（１）悪臭

①臭気濃度、臭気強度

悪臭の調査結果は、表２-４-２に示すとおりである。

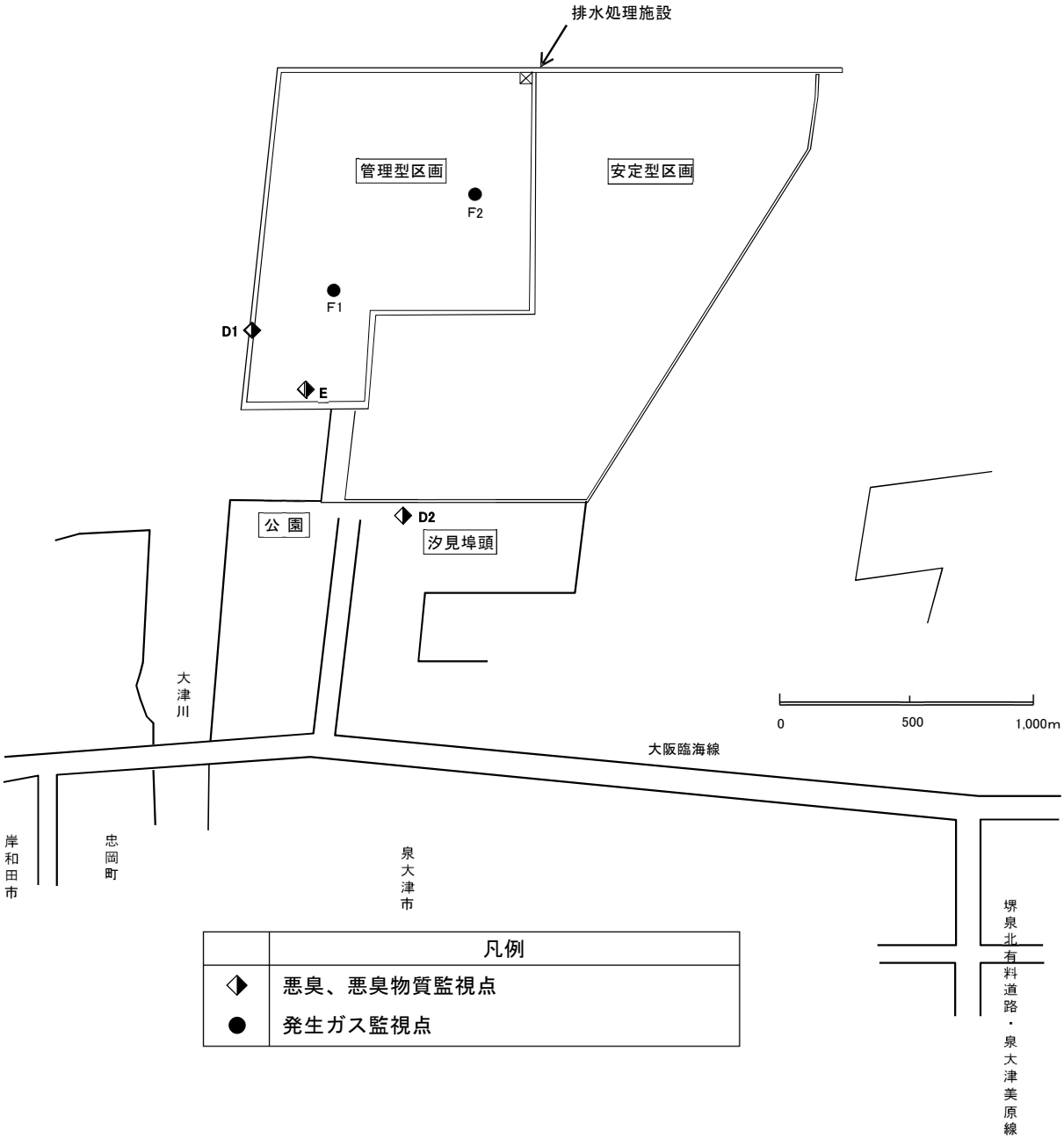
臭気濃度及び臭気指数は、６月及び８月にＤ１（風上)、Ｄ２（風下）の両地点とも<10であった。また、臭気強度は、６月及び８月にＤ１（風上)、Ｄ２（風下）の両地点とも０であった。

②悪臭物質

悪臭物質の調査結果は、表２-４-３に示すとおりである。

Ｅ地点における悪臭物質は、すべて報告下限値未満であった。

以上のことから、本事業による影響は非常に小さいものと考えられる。



環境監視調査地点位置図（陸域調査）

表２－４－２　悪臭調査結果

（泉大津沖埋立処分場及び泉大津基地）

調査日		令和7年6月4日		令和7年8月21日	
測　定　点		Ｄ１（風上）	Ｄ２（風下）	Ｄ１（風上）	Ｄ２（風下）
測 定 時 間		13:10	13:40	16:15	16:35
気　象	天候 （当日/前日）	晴/雨	晴/雨	晴/晴	晴/晴
	気　温	22.8℃	26.5℃	29.8℃	32.2℃
	湿　度	66%	46%	81%	65%
	風　向	西南西	西南西	西南西	西南西
	風　速	1.5m/s	2.5m/s	2.4m/s	2.9m/s
官能試験	臭気濃度	<10	<10	<10	<10
	臭気指数	<10	<10	<10	<10
	臭気強度（*）	0	0	0	0
	臭　質	無臭	無臭	無臭	無臭

注：１.臭気濃度：人の嗅覚でその臭気を感知できなくなった時点の希釈倍数

２.臭気指数：臭気指数＝10×log（臭気濃度）

３.官能試験時に求められた臭気強度である。

４.臭気強度：０（無臭）～５（強烈な臭い）の６段階に区分

表２－４－３　悪臭物質調査結果

（泉大津沖埋立処分場）

調査日：令和７年８月21日

項　　目	調査地点	E		報告下限値	規制基準値
	調査時刻	15：13 ～ 15：50			
	天候(当日/前日)	晴/晴			
	風向(16方位)	西南西			
	風速(m/s)	3.4m/s			
	気温(℃)	35.2℃			
	湿度(%)	57%			
アンモニア	(ppm)	0.1	未満	0.1	1
メチルメルカプタン	(ppm)	0.0005	未満	0.0005	0.002
硫化水素	(ppm)	0.001	未満	0.001	0.02
硫化メチル	(ppm)	0.001	未満	0.001	0.01
二硫化メチル	(ppm)	0.001	未満	0.001	0.009
トリメチルアミン	(ppm)	0.001	未満	0.001	0.005
アセトアルデヒド	(ppm)	0.005	未満	0.005	0.05
プロピオンアルデヒド	(ppm)	0.005	未満	0.005	0.05
ノルマルブチルアルデヒド	(ppm)	0.0009	未満	0.0009	0.009
イソブチルアルデヒド	(ppm)	0.002	未満	0.002	0.02
ノルマルバレルアルデヒド	(ppm)	0.0009	未満	0.0009	0.009
イソバレルアルデヒド	(ppm)	0.0003	未満	0.0003	0.003
イソブタノール	(ppm)	0.09	未満	0.09	0.9
酢酸エチル	(ppm)	0.3	未満	0.3	3
メチルイソブチルケトン	(ppm)	0.1	未満	0.1	1
トルエン	(ppm)	1	未満	1	10
スチレン	(ppm)	0.04	未満	0.04	0.4
キシレン	(ppm)	0.1	未満	0.1	1
プロピオン酸	(ppm)	0.0004	未満	0.0004	0.03
ノルマル酪酸	(ppm)	0.0004	未満	0.0004	0.001
ノルマル吉草酸	(ppm)	0.0004	未満	0.0004	0.0009
イソ吉草酸	(ppm)	0.0004	未満	0.0004	0.001

（２）発生ガス

発生ガスの調査結果は表２-４-４に示すとおりである。

発生ガス中のメタン濃度については、Ｆ１地点が８月に150ppm(0.0%)、２月に770ppm(0.1%)で、Ｆ２地点は８月に6.7ppm、２月に19ppmであった。なお、大気環境中のメタン濃度については、Ｆ１地点が８月に5.3ppm、２月に2.3ppmで、Ｆ２地点が８月に4.6ppm、２月に2.6ppmであった。

なお、Ｆ１地点についてはアスファルト舗装されているため、平成19年度の調査から高濃度の値が検出された。平成27年２月以降は低い値で推移していた。令和３年２月において近年では比較的高い値が検出されていたが、令和３年度以降は再び減少傾向に転じており、令和２年８月以前と同程度となった。

表２－４－４　Ｆ１地点のメタン濃度の経年変化（参考）

調査年月	メタン濃度（ppm）
平成 8年 8月	4,200 (0.4%)
平成 8年 9月	112 (0.0%)
平成 9年 8月	450 (0.0%)
平成10年 8月	64.1 (0.0%)
平成11年 8月	12 (0.0%)
平成12年 8月	44 (0.0%)
平成13年 8月	8.4 (0.0%)
平成14年 8月	3.8 (0.0%)
平成15年 8月	1.9 (0.0%)
平成16年 8月	1.6 (0.0%)
平成17年 8月	2.5 (0.0%)
平成18年 8月	1.9 (0.0%)
平成19年 8月	380,000 (38.0%)
平成20年 8月	280,000 (28.0%)
平成21年 2月	160,000 (16.0%)
平成21年 8月	220,000 (22.0%)
平成22年 2月	17,000 (1.7%)
平成22年 8月	37,000 (3.7%)
平成23年 2月	200,000 (20.0%)
平成23年 8月	380,000 (38.0%)
平成24年 2月	290,000 (29.0%)
平成24年 8月	58,000 (5.8%)
平成25年 2月	17,000 (1.7%)
平成25年 8月	42,000 (4.2%)
平成26年 2月	15,000 (1.5%)
平成26年 8月	6,400 (0.6%)
平成27年 2月	2.0 (0.0%)
平成27年 8月	2,200 (0.2%)
平成28年 2月	440 (0.0%)
平成28年 8月	920 (0.1%)
平成29年 2月	2.5 (0.0%)
平成29年 8月	170 (0.0%)
平成30年 2月	110 (0.0%)
平成30年 8月	3,600 (0.4%)
平成31年 2月	16 (0.0%)
令和元年 8月	350 (0.0%)
令和 2年 2月	5.2 (0.0%)
令和 2年 8月	1,800 (0.2%)
令和 3年 2月	85,000 (8.5%)
令和 3年 8月	34,000 (3.4%)
令和 4年 2月	15,000 (1.5%)
令和 4年 8月	300 (0.0%)
令和 5年 2月	33 (0.0%)
令和 5年 8月	34 (0.0%)
令和 6年 2月	630 (0.1%)
令和 6年 8月	3.5 (0.0%)
令和 7年 2月	3.0 (0.0%)
令和 7年 8月	150 (0.0%)
令和 8年 2月	770 (0.1%)

表２－４－５　発生ガス調査結果

（泉大津沖埋立処分場）

調査日		令和7年8月21日		令和8年2月9日	
調査地点		Ｆ１	Ｆ２	Ｆ１	Ｆ２
調査時刻		13:45	14:45	12:40	11:00
気象	天　　候	晴	晴	晴	晴
	風向（16方位）	南南西	西南西	西北西	西北西
	風速（m/s）	2.7	2.5	3.5	2.7
	気温（℃）	31.9	33.6	6.5	6.6
	湿度（%）	62	60	94	94
	地中温度（℃）	30.3	34.9	14.8	10.6
	流量（cm^3/分）	<10	<10	<10	<10
メタン（ppm）	発 生 ガ ス	150	6.7	770	19
	大気環境	5.3	4.6	2.3	2.6

[泉大津沖埋立処分場仮防波堤の建設に係る環境監視調査]

５　水質

５－１　環境監視の実施状況

仮防波堤建設工事は平成10年４月２日に置換砂投入を開始し、平成10年10月７日に竣工したが、仮防波堤の設置に伴う水質への影響について確認するため、表２-５-１に示すとおり、令和７年度においても仮防波堤周辺で濁度、ＣＯＤ(化学的酸素要求量)、ＳＳ(浮遊物質量)、ＦＳＳ(不揮発性浮遊物質量)の測定（１回/月）を実施した。

なお、調査点は別図調査点位置図に、測定方法は表２-５-２に示すとおりである。

表２－５－１　水質調査の実施状況

調　査　項　目	調 査 点	調 査 点 数	頻　度
濁度、COD(化学的酸素要求量)、 SS(浮遊物質量)、 FSS(不揮発性浮遊物質量)	№Ａ、Ｂ	２地点	１回／月

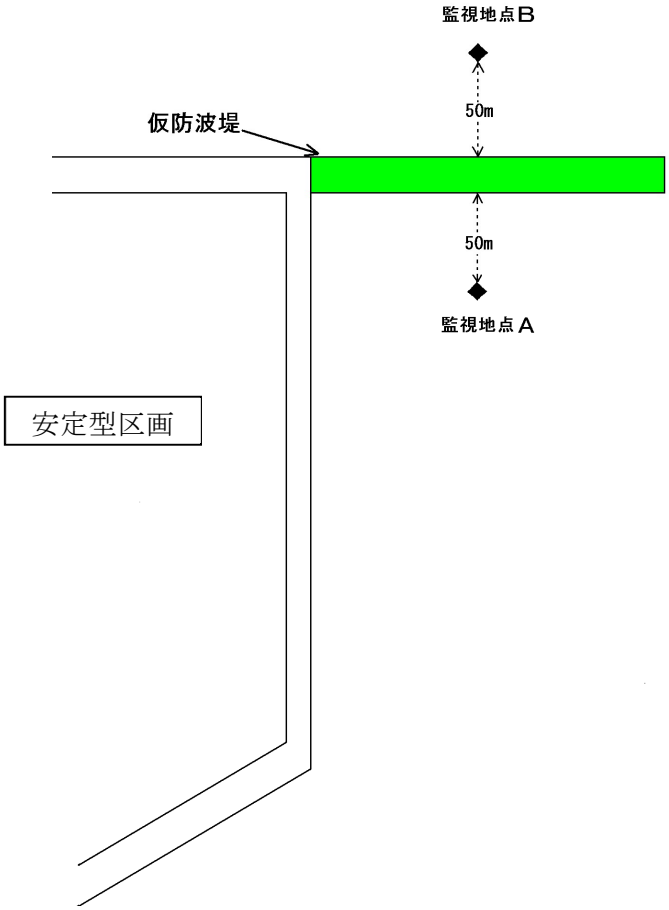
表２－５－２　濁度・水質測定方法

調 査 項 目	測 定 方 法
濁度	JIS K 0102-1 9.3
COD(化学的酸素要求量)	JIS K 0102-1 17.2
SS(浮遊物質量)	昭和46年環境庁告示第59号 付表8
FSS(不揮発性浮遊物質量)	JIS K 0102-1 14.5.1

５－２　環境監視の結果

調査結果は表２-５-３に示すとおりである。

濁度は、№Ａ点及び№Ｂ点ともに<１～２度(ｶｵﾘﾝ)であり、基本監視点における濁度の管理の目安値（表層：11度(ｶｵﾘﾝ)、底層：９度(ｶｵﾘﾝ)）を超えたことはなかったことから、本事業による影響は非常に小さいと考えられる。



別図　調査点位置図

表２－５－３　泉大津沖埋立処分場仮防波堤の建設に係る環境監視調査結果

測定項目 / 年月 / 測定点	濁度（度（ｶｵﾘﾝ））		ＣＯＤ（mg/L）		ＳＳ（mg/L）		ＦＳＳ（mg/L）	
	Ａ	Ｂ	Ａ	Ｂ	Ａ	Ｂ	Ａ	Ｂ
令和7年4月17日	2	2	3.4	2.8	4	4	2	2
令和7年5月8日	<1	<1	2.1	2.2	2	2	<1	<1
令和7年6月3日	1	1	4.3	4.4	3	4	1	2
令和7年7月1日	2	1	3.8	3.1	6	5	1	1
令和7年8月5日	1	1	3.2	3.4	2	2	<1	1
令和7年9月2日	1	1	3.5	4.2	2	2	<1	<1
令和7年10月1日	1	1	2.8	2.6	2	2	1	<1
令和7年11月11日	1	1	2.4	2.0	2	2	<1	<1
令和7年12月11日	<1	1	1.5	1.4	2	2	<1	1
令和8年1月27日	1	1	2.0	1.7	2	1	1	1
令和8年2月5日	<1	<1	1.7	1.5	2	2	1	<1
令和8年3月3日	1	1	2.0	1.7	3	3	1	2
令和7年4月～令和8年3月	<1～2	<1～2	1.5～4.3	1.4～4.4	2～6	1～5	<1～2	<1～2

注：測定点Ａは仮防波堤内側、測定点Ｂは仮防波堤外側であり、採水層はいずれも中層（海面下３ｍ）。

Ⅲ　大阪基地供用に係る環境監視

第１章　　環境監視の概要

１　環境監視の目的

本環境監視は、泉大津沖処分場埋立事業に関連した大阪基地の供用及び廃棄物輸送にあたり、大阪湾広域臨海環境整備センターが「大阪湾圏域広域処理場整備事業に係る大阪府域環境保全協議会」の指導を得て作成した「大阪基地供用に係る環境監視計画」（以下このⅢにおいて「環境監視計画」という。）に基づいて、周辺環境への影響を把握し、その影響を最小限にとどめ、環境の悪化を未然に防止することを目的とする。

２　環境監視の内容

環境監視の内容としては、環境監視計画に基づいて実施した令和７年度の調査結果を整理するとともに、環境基準との比較等のデータ解析を行い、基地周辺の状況を把握した。

監視の項目は、以下に示す陸域調査の４項目である。

〔陸域調査〕

①　交通量

②　騒音・振動

③　大気質

④　悪臭

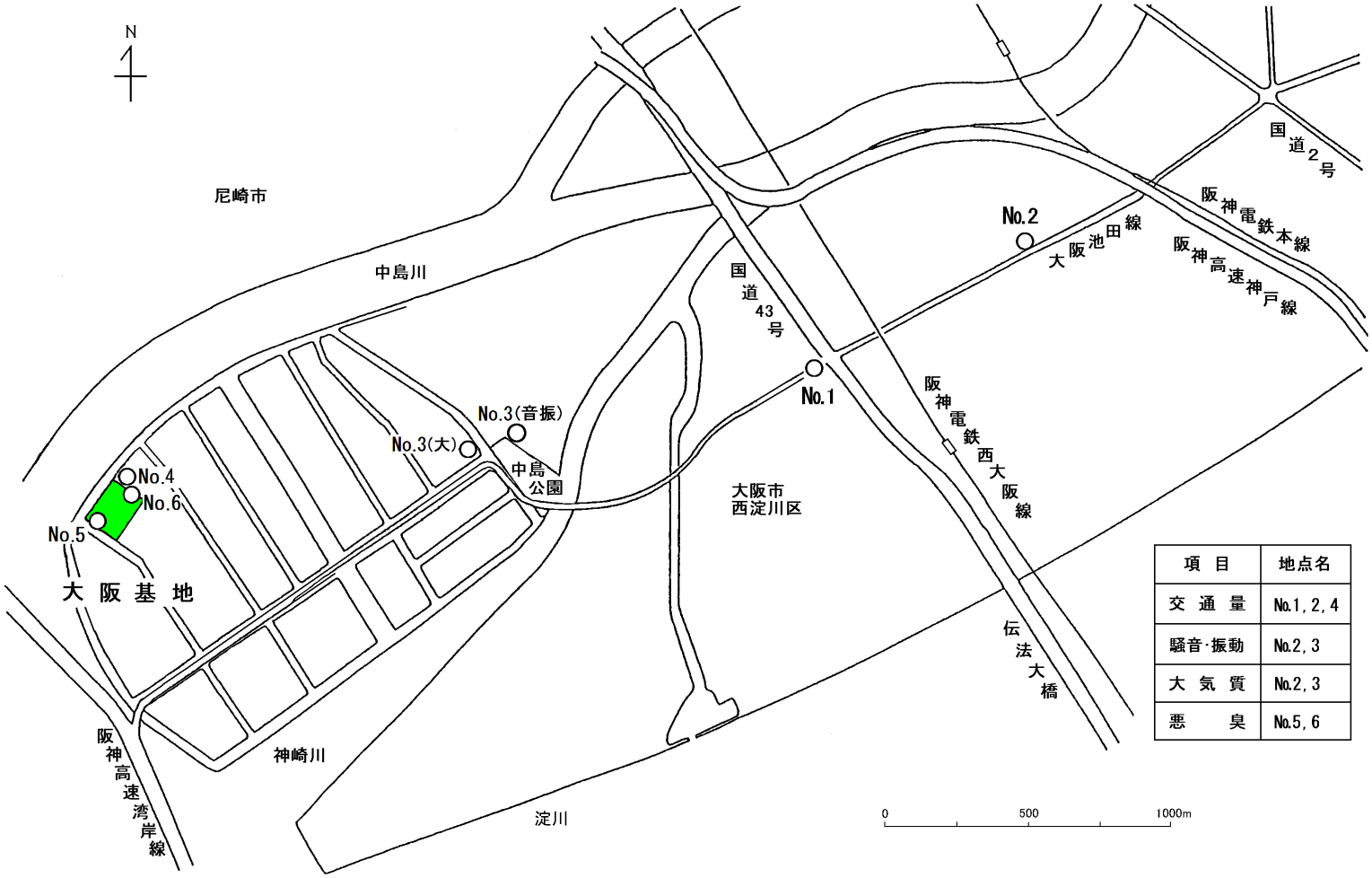


図３－１　環境監視調査位置点図（大阪基地）

第２章　　環境監視結果

１　交通量

１－１　環境監視の実施状況

交通量については、表３-１-１に示すとおり、総交通量及び廃棄物車の状況を把握するため、年４回の四季調査を実施した。

測定点は別図調査地点位置図に、測定項目及び測定方法は表３-１-２に示すとおりである。

表３－１－１　交通量調査の実施状況

環境項目	測定・調査項目	測定地点	測定点数	頻　度	実　施　日
交通量	総交通量 （２車種分類）	№１、２、４	３地点	４回／年	令和７年 ５月13日 ８月１日 11月５日 令和８年 ２月３日
	廃棄物車数 （２車種分類）				

表３－１－２　交通量測定方法

分　類	測定・調査項目	測　定　方　法
交通量	総交通量 （２車種分類）	調査員による通行車両の計数 （毎正時から10分間測定） （８時から18時まで(10時間)）
	廃棄物車数 （２車種分類）	調査員による通行車両の計数 （毎正時から60分間測定） （８時から18時まで(10時間)）

１－２　環境監視の結果

交通量調査結果の概要は表３-１-３に示すとおりである。

大阪池田線沿道の測定点(№１)における時間交通量は816～1,356台で推移し、大型車の混入率は29.8～70.8%(平均52.6%)であった。廃棄物車の時間交通量は０～８台（うち、大型車：０～８台）で推移し、総交通量に占める割合は0.0～0.7%(平均0.1%)（総交通量(大型車)に占める廃棄物車(大型車)の割合：0.0～1.2%(平均0.2%)）であった。

大阪池田線沿道の測定点(№２)における時間交通量は912～1,485台で推移し、大型車の混入率は15.7～43.5%(平均32.4%)であった。廃棄物車の時間交通量は０～５台（うち、大型車：０～５台）で推移し、総交通量に占める割合は0.0～0.4%(平均0.1%)（総交通量(大型車)に占める廃棄物車(大型車)の割合：0.0～1.1%(平均0.3%)）であった。

両測定点(№１、№２)では、交通総量に占める廃棄物車両の割合が共に低いことから、本事業の廃棄物車による交通への影響は非常に小さいものと考えられる。

大阪基地近傍の測定点(№４)における時間交通量は66～240台で推移し、大型車の混入率は5.6～70.4%(平均42.8%)であった。廃棄物車の時間交通量は０～78台（うち、大型車：０～78台）で推移し、総交通量に占める割合は0.0～47.1%(平均18.6%)（総交通量(大型車)に占める廃棄物車(大型車)の割合：0.0～71.8%（平均41.4%)であった。

表３－１－３　交通量調査結果総括表（令和７年度）

（大阪基地）

測定地点	測定日	総交通量 最小～最大（台／時）	総交通量 全交通量（台）	総交通量に占める大型車混入率 最小～最大（%）	総交通量に占める大型車混入率 平均（%）	廃棄物車数 最小～最大（台／時）	廃棄物車数 全交通量（台）	総交通量に占める廃棄物車混入率 最小～最大（%）	総交通量に占める廃棄物車混入率 平均（%）
No.1	令和7年5月13日	991（ 342）～ 1,262（ 859）	11,208（ 5,886）	29.8 ～ 70.8	52.5	0（ 0）～ 8（ 8）	18（ 18）	0.0（ 0.0）～ 0.7（ 1.2）	0.2（ 0.3）
	令和7年8月1日	1,051（ 426）～ 1,356（ 711）	12,509（ 6,155）	31.4 ～ 64.6	49.2	0（ 0）～ 3（ 3）	11（ 11）	0.0（ 0.0）～ 0.2（ 0.5）	0.1（ 0.2）
	令和7年11月5日	906（ 354）～ 1,309（ 733）	10,369（ 5,647）	33.7 ～ 67.3	54.5	0（ 0）～ 2（ 2）	7（ 7）	0.0（ 0.0）～ 0.2（ 0.3）	0.1（ 0.1）
	令和8年2月3日	816（ 324）～ 1,296（ 770）	11,150（ 6,024）	30.5 ～ 64.0	54.0	0（ 0）～ 2（ 2）	8（ 6）	0.0（ 0.0）～ 0.2（ 0.3）	0.1（ 0.1）
	令和7年度	816（ 324）～ 1,356（ 859）	11,309（ 5,928）	29.8 ～ 70.8	52.6	0（ 0）～ 8（ 8）	11（ 11）	0.0（ 0.0）～ 0.7（ 1.2）	0.1（ 0.2）
No.2	令和7年5月13日	912（ 162）～ 1,261（ 517）	10,803（ 3,537）	15.7 ～ 43.5	32.7	0（ 0）～ 5（ 5）	9（ 9）	0.0（ 0.0）～ 0.4（ 1.1）	0.1（ 0.3）
	令和7年8月1日	913（ 276）～ 1,485（ 470）	12,214（ 3,742）	20.4 ～ 39.9	30.6	0（ 0）～ 3（ 3）	10（ 10）	0.0（ 0.0）～ 0.2（ 0.8）	0.1（ 0.3）
	令和7年11月5日	912（ 180）～ 1,279（ 535）	11,174（ 3,854）	17.8 ～ 41.8	34.5	0（ 0）～ 4（ 4）	14（ 14）	0.0（ 0.0）～ 0.4（ 1.1）	0.1（ 0.4）
	令和8年2月3日	948（ 192）～ 1,380（ 573）	11,713（ 3,732）	17.2 ～ 42.2	31.9	0（ 0）～ 3（ 3）	13（ 12）	0.0（ 0.0）～ 0.3（ 0.8）	0.1（ 0.3）
	令和7年度	912（ 162）～ 1,485（ 573）	11,476（ 3,716）	15.7 ～ 43.5	32.4	0（ 0）～ 5（ 5）	12（ 11）	0.0（ 0.0）～ 0.4（ 1.1）	0.1（ 0.3）
No.4	令和7年5月13日	66（ 18）～ 192（ 85）	1,230（ 524）	15.6 ～ 70.4	42.6	0（ 0）～ 64（ 61）	258（ 242）	0.0（ 0.0）～ 47.1（ 71.8）	21.0（ 46.2）
	令和7年8月1日	129（ 12）～ 216（ 138）	1,639（ 715）	5.6 ～ 69.7	43.6	0（ 0）～ 78（ 78）	367（ 361）	0.0（ 0.0）～ 44.2（ 64.7）	22.4（ 50.5）
	令和7年11月5日	96（ 6）～ 193（ 120）	1,479（ 653）	6.3 ～ 68.2	44.2	0（ 0）～ 61（ 60）	279（ 257）	0.0（ 0.0）～ 44.2（ 59.1）	18.9（ 39.4）
	令和8年2月3日	90（ 12）～ 240（ 104）	1,515（ 621）	13.3 ～ 64.0	41.0	0（ 0）～ 45（ 45）	183（ 183）	0.0（ 0.0）～ 34.9（ 60.0）	12.1（ 29.5）
	令和7年度	66（ 6）～ 240（ 138）	1,466（ 628）	5.6 ～ 70.4	42.8	0（ 0）～ 78（ 78）	272（ 261）	0.0（ 0.0）～ 47.1（ 71.8）	18.6（ 41.4）

注：１.測定時間は８時～18時（10時間）であり、総交通量及び廃棄物車数の全交通量欄には10時間合計値を示す。
２.総交通量は１時間値に補正（一般車：10分間値×６＋廃棄物車：１時間値）したものを示す。
３.廃棄物車は１時間の全数交通量を示す。
４.総交通量欄及び廃棄物車数欄の（ ）内は大型車数を示す。また、総交通量に占める廃棄物車混入率欄の（ ）内は総交通量（大型車）に占める廃棄物車（大型車）の混入率を示す。

２　騒音・振動

２－１　環境監視の実施状況

騒音・振動については、表３-２-１に示すとおり、基地供用及び廃棄物輸送に伴い発生する騒音・振動の状況を把握するため、年２回(５、11月)の調査を実施した。

測定点は別図調査地点位置図に示すとおりである。

表３－２－１　騒音・振動調査の実施状況

環境項目	測定・調査項目	測定地点	測定点数	頻　度	実　施　日
騒音・振動	騒音・振動	№２、３	２地点	２回／年 毎正時から （８時から 18時まで (10時間))	令和７年 ５月13日 11月５日

表３－２－２　騒音・振動に係る環境基準及び要請限度

測　定　地　点	用途地域	地域区分	騒音に係る環境基準値(dB)		自動車騒音の要請限度(dB)		道路交通振動の要請限度(dB)	
			区域区分	基準	区域区分	限度	区域区分	限度
№２（大阪池田線沿道）	準住居	近接空間（４）	特例	70	b	75	第１種	65
№３（中島公園近傍）	第１種住居	（２）	B	65				

注：１.上表の環境基準及び要請限度は、いずれも昼間の時間の区分に係るものである。
（昼間）　騒音に係る環境基準，自動車騒音の要請限度　：午前６時から午後10時まで
道路交通振動の要請限度　：午前６時から午後９時まで
２.地域区分の欄の「近接空間」は「道路に面する地域」のうち、「幹線交通を担う道路に近接する空間」のことである。（　）内は面する道路の車線数である。
３.区域区分は以下のとおりである。
（環境基準）　幹線交通を担う道路に近接する空間は特例
Ｂ地域(第１種住居地域)のうち２車線以上の車線を有する道路に面する地域
（自動車騒音の要請限度）　b区域(第１種住居地域、準住居地域)のうち２車線以上の車線を有する道路に面する区域
（道路交通振動の要請限度）　第１種住居地域、準住居地域は第１種区域
４.騒音に係る環境基準と自動車騒音の要請限度はL_{eq}、道路交通振動の要請限度はL_{10}によるものである。

２－２　環境監視の結果

騒音・振動調査結果の概要は表３-２-４に示すとおりである。

（１）騒音

大阪池田線沿道の測定点(№.２)における等価騒音レベル(L_{Aeq})は、５月及び11月ともに69dBであり、環境基準値(70dB)及び自動車騒音の要請限度(75dB)を下回っていた。なお、騒音レベルの中央値(L_{A50})は、63～67dB(平均65dB)となっており、主要音源は自動車走行音であった。

中島公園近傍の測定点(№.３)における等価騒音レベル(L_{Aeq})は、５月が59dB、11月が58dBであり、環境基準値(65dB) 及び自動車騒音の要請限度(75dB)を下回っていた。なお、騒音レベルの中央値(L_{A50})は、50～60dB(平均53dB)となっており、主要音源は自動車走行音であった。

廃棄物車の総交通量に占める割合は、№.１で0.0～0.7%、№.２で0.0～0.4%であることから、本事業の廃棄物車による騒音への影響は非常に小さいと考えられる。

（２）振動

大阪池田線沿道の測定点(№.２)における振動レベル(L_{10})は、５月が47dB、11月が45dB、中島公園近傍の測定点(№.３)における振動レベル(L_{10})は、５月が37dB、11月が38dBであり、いずれの測定点でも道路交通振動の要請限度(65dB)を下回っており、特に問題はなかった。

表３－２－３　　騒音・振動測定結果総括表

（大阪基地）

地点	測定月日	時間区分	測定時間数	騒音レベル (dB)												振動レベル (dB)		
				L_{A5}			L_{A50}			L_{A95}			L_{Aeq}			L_{10}		
				平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大
№.２	令和7年5月13日	昼間	10	75	73	76	65	63	66	54	52	59	69	67.8	69.8	47	44	49
	令和7年11月5日	昼間	10	75	74	76	66	64	67	56	54	58	69	68.0	70.2	45	42	47
	令和7年度	昼間	20	75	73	76	65	63	67	55	52	59	69	67.8	70.2	46	42	49
№.３	令和7年5月13日	昼間	10	62	55	66	54	50	60	49	46	54	59	53.8	61.1	37	34	40
	令和7年11月5日	昼間	10	62	60	66	53	51	58	50	48	55	58	55.6	61.3	38	36	40
	令和7年度	昼間	20	62	55	66	53	50	60	50	46	55	58	53.8	61.3	38	34	40

注：測定時間は８時～18時である。

３　大気質

３－１　環境監視の実施状況

大気質については、表３-３-１に示すとおり、基地供用及び廃棄物輸送に伴い発生する大気汚染物質の状況を把握するため、年４回の四季調査を実施した。

なお、測定は７日間の連続測定とし、測定点は別図調査地点位置図に示すとおりである。

表３－３－１　大気質調査の実施状況

環境項目	測定・調査項目	測定地点	測定点数	頻　度	実　施　日
大気質	二酸化硫黄、 一酸化窒素、 二酸化窒素、 浮遊粒子状物質、 風向、風速	№２、３	２地点	４回／年 １週間 （連続）	令和７年 ５月13日～19日 ８月１日～７日 11月５日～11日 令和８年 ２月３日～９日

表３－３－２　二酸化硫黄、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質に係る環境基準

項　目	環　境　基　準
二酸化硫黄	１時間値の１日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、 １時間値が0.1ppm以下であること
二酸化窒素	１時間値の１日平均値が0.04ppmから0.06ppmまで のゾーン内またはそれ以下であること
浮遊粒子状物質	１時間値の１日平均値が0.10mg/m^{3}以下であり、 かつ、１時間値が0.20mg/m^{3}以下であること

３－２　環境監視の結果

大気質調査結果の概要を表３-３-３、項目毎の期間平均値、日平均及び時間平均の最大値、最小値を表３-３-４、図３-３-１に、調査時の地点別風配図を図３-３-２に示した。

大阪池田線沿道の測定点(№２)、中島公園近傍の測定点(№３)ともに、二酸化硫黄、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質について、四季を通じて環境基準値を下回っており、特に問題はなかった。

表３－３－３　　大気質測定結果総括表　〔令和７年度〕

（大阪基地）

項目			No.２	No.３
二酸化硫黄	有効測定日数	（日）	28	28
	日平均値が0.04ppmを超えた日数	（日）	0	0
	測定時間数	（時間）	672	672
	１時間値が0.1ppmを超えた時間数	（時間）	0	0
二酸化窒素	有効測定日数	（日）	28	28
	日平均値が0.04ppm以上、0.06ppm以下の日数	（日）	0	0
	日平均値が0.06ppmを超えた日数	（日）	0	0
	測定時間数	（時間）	672	672
	１時間値が0.1ppm以上、0.2ppm以下の時間数	（時間）	0	0
	１時間値が0.2ppmを超えた時間数	（時間）	0	0
浮遊粒子状物質	有効測定日数	（日）	28	28
	日平均値が0.1mg/m^3を超えた日数	（日）	0	0
	測定時間数	（時間）	672	672
	１時間値が0.2mg/m^3を超えた時間数	（時間）	0	0

表３－３－４　項目毎の期間平均値及び最大値・最小値（令和７年度）

測定地点：No.２　　（大阪基地）

項目／区分／調査期間	二酸化硫黄(ppm)			一酸化窒素(ppm)			二酸化窒素(ppm)			窒素酸化物(ppm)			浮遊粒子状物質(mg/m^3)			風速(m/s)			最多風向
	平均値	日平均値 最大 最小	1時間値 最大 最小	平均値	日平均値 最大 最小	1時間値 最大 最小	平均値	日平均値 最大 最小	1時間値 最大 最小	平均値	日平均値 最大 最小	1時間値 最大 最小	平均値	日平均値 最大 最小	1時間値 最大 最小	平均値	日平均値 最大 最小	1時間値 最大 最小	
令和7年	0.005	0.006	0.010	0.004	0.005	0.020	0.013	0.017	0.028	0.017	0.022	0.040	0.021	0.028	0.046	1.8	2.5	5.0	WSW
5月13日～5月19日		0.003	0.002		0.003	0.001		0.009	0.002		0.014	0.003		0.015	0.001		0.9	0.0	
令和7年	0.006	0.007	0.010	0.003	0.004	0.010	0.006	0.008	0.012	0.009	0.012	0.021	0.021	0.032	0.054	2.7	3.2	5.2	W
8月1日～8月7日		0.004	0.004		0.001	0.000		0.003	0.002		0.004	0.002		0.016	0.000		2.3	0.5	
令和7年	0.005	0.007	0.010	0.006	0.010	0.069	0.014	0.015	0.037	0.020	0.024	0.102	0.010	0.014	0.031	1.7	2.4	5.0	N
11月5日～11月11日		0.002	0.002		0.003	0.001		0.012	0.004		0.016	0.006		0.006	0.000		1.2	0.0	
令和8年	0.004	0.006	0.009	0.010	0.025	0.069	0.017	0.032	0.048	0.028	0.057	0.115	0.009	0.018	0.041	1.8	3.7	5.6	N
2月3日～2月9日		0.002	0.001		0.001	0.001		0.004	0.002		0.005	0.003		0.002	0.000		0.9	0.0	

測定地点：No.３

項目／区分／調査期間	二酸化硫黄(ppm)			一酸化窒素(ppm)			二酸化窒素(ppm)			窒素酸化物(ppm)			浮遊粒子状物質(mg/m^3)			風速(m/s)			最多風向
	平均値	日平均値 最大 最小	1時間値 最大 最小	平均値	日平均値 最大 最小	1時間値 最大 最小	平均値	日平均値 最大 最小	1時間値 最大 最小	平均値	日平均値 最大 最小	1時間値 最大 最小	平均値	日平均値 最大 最小	1時間値 最大 最小	平均値	日平均値 最大 最小	1時間値 最大 最小	
令和7年	0.004	0.005	0.007	0.004	0.006	0.028	0.015	0.021	0.038	0.020	0.027	0.058	0.023	0.030	0.047	2.2	3.0	5.4	W
5月13日～5月19日		0.003	0.002		0.002	0.000		0.009	0.002		0.012	0.002		0.018	0.004		1.5	0.2	
令和7年	0.004	0.005	0.009	0.001	0.003	0.014	0.008	0.011	0.022	0.009	0.013	0.033	0.026	0.042	0.080	3.0	3.3	6.2	WSW
8月1日～8月7日		0.003	0.002		0.000	0.000		0.003	0.002		0.003	0.002		0.018	0.000		2.6	0.7	
令和7年	0.003	0.003	0.005	0.008	0.019	0.094	0.012	0.017	0.039	0.021	0.035	0.133	0.013	0.017	0.035	1.9	2.7	6.5	ENE
11月5日～11月11日		0.002	0.001		0.003	0.001		0.009	0.003		0.012	0.005		0.009	0.002		1.3	0.1	
令和8年	0.003	0.004	0.006	0.014	0.029	0.093	0.020	0.039	0.053	0.034	0.068	0.131	0.011	0.022	0.073	1.9	4.1	6.7	N
2月3日～2月9日		0.002	0.002		0.001	0.001		0.002	0.001		0.004	0.002		0.001	0.000		0.8	0.1	

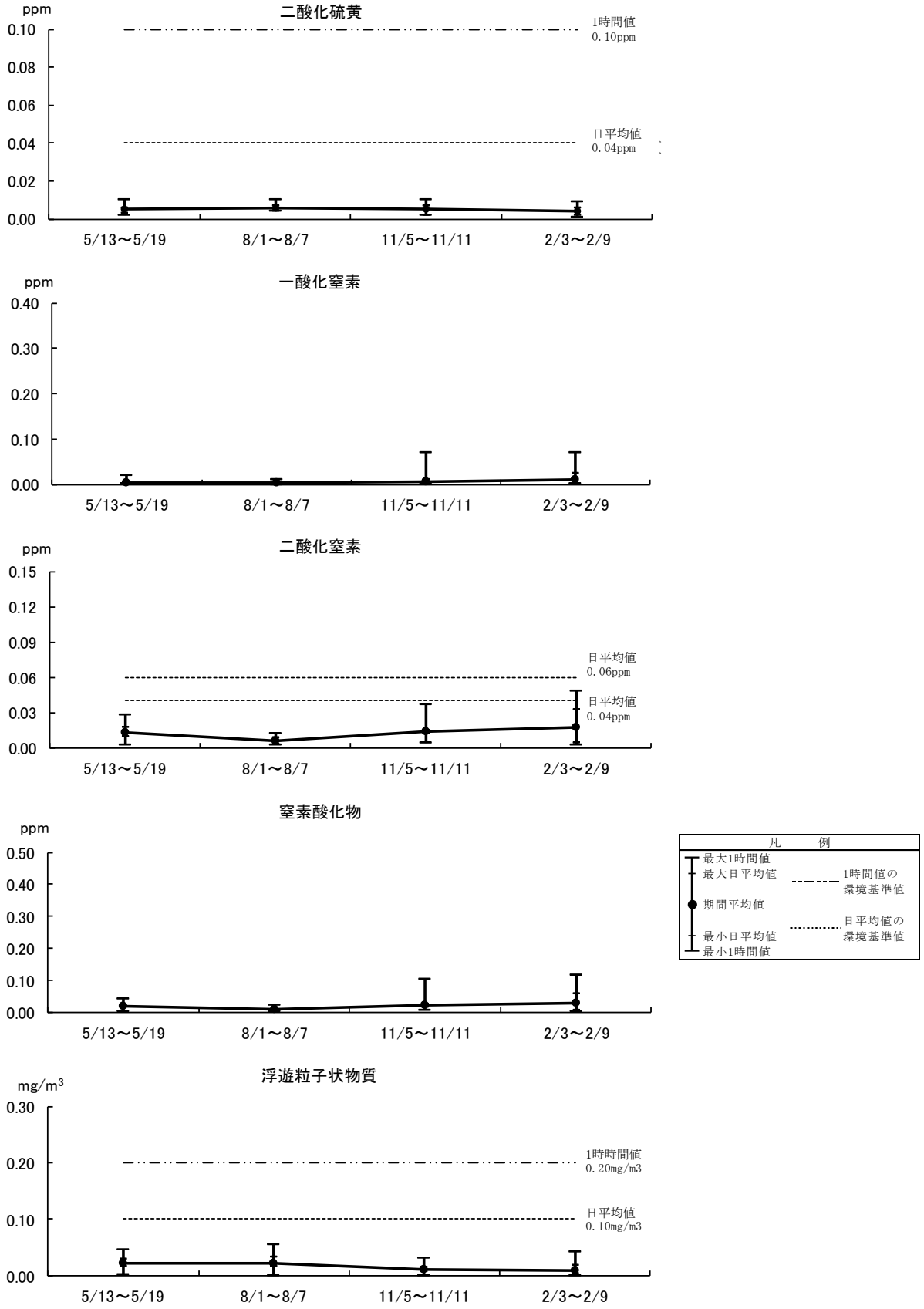


図３－３－１（１）　調査期間毎の比較（測定地点：№２）（大阪基地）

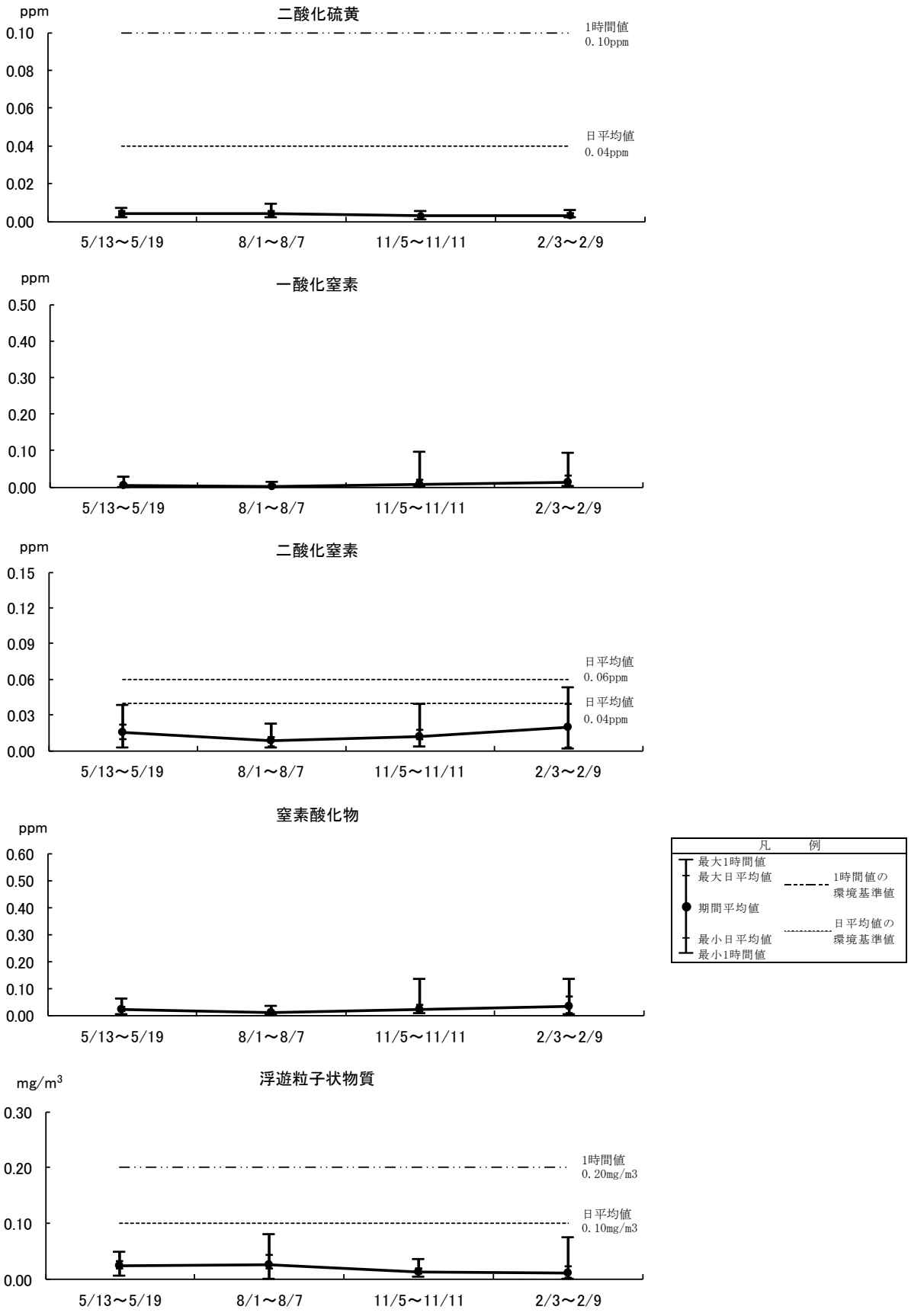
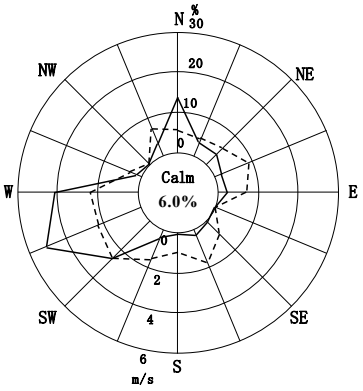
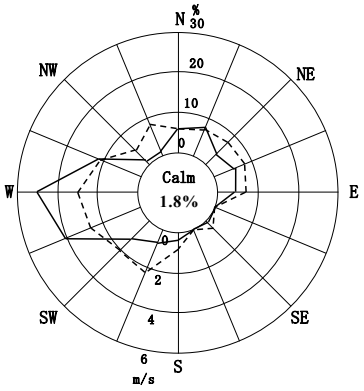
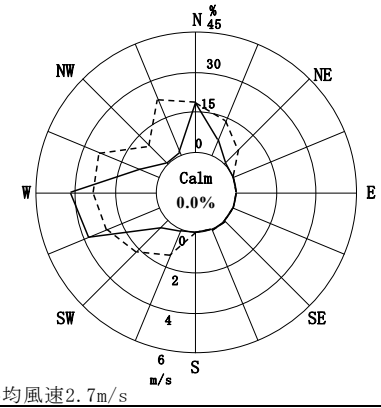
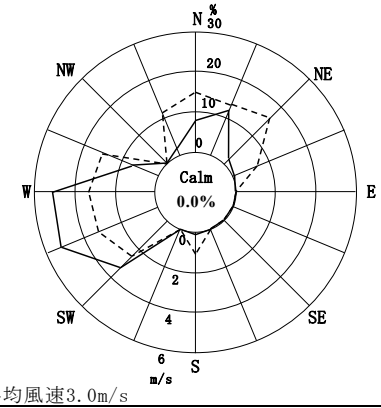
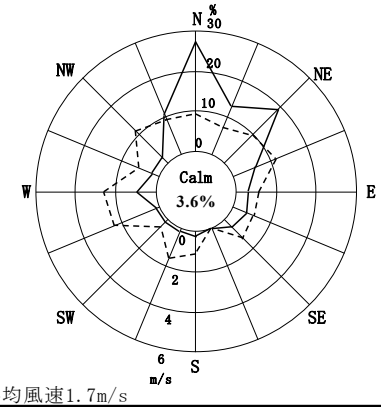
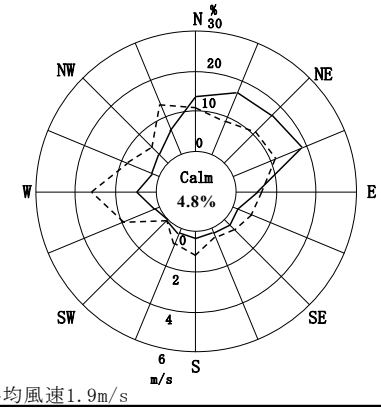
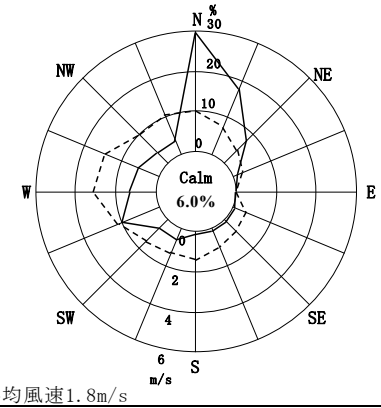
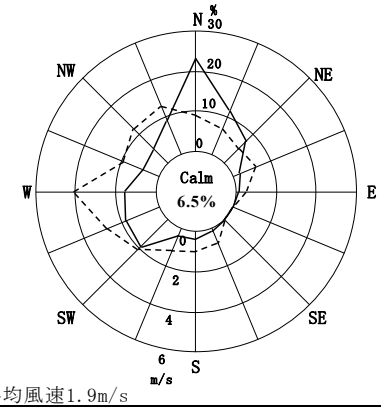


図３－３－１（２）　調査期間毎の比較（測定地点：№３）（大阪基地）

	No.2	No.3
令和7年 5月13日～ 5月19日	 平均風速1.8m/s	 平均風速2.2m/s
令和7年 8月1日～ 8月7日	 平均風速2.7m/s	 平均風速3.0m/s
令和7年 11月5日～ 11月11日	 平均風速1.7m/s	 平均風速1.9m/s
令和8年 2月3日～ 2月9日	 平均風速1.8m/s	 平均風速1.9m/s

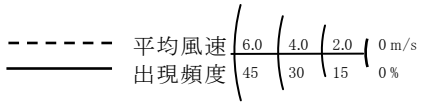


図３－３－２　　地点別風配図と風向別平均風速（大阪基地）

４　悪臭

４－１　環境監視の実施状況

悪臭については、表３-４-１に示すとおり、基地供用に伴い発生する悪臭の状況を把握するため、年２回(６月、８月)の調査を実施した。

測定点は別図調査地点位置図に示すとおりである。

表３－４－１　悪臭調査の実施状況

環境項目	測定・調査項目	測定地点	測定点数	頻　度	実　施　日
悪　臭	臭気濃度 臭気指数 臭気強度	№５ №６	２地点	２回／年	令和７年 ６月４日 ８月１日

４－２　環境監視の結果

悪臭調査結果は表３-４-２に示すとおりである。

臭気濃度及び臭気指数は、６月及び８月ともNo.５（風上)、No.６（風下）の全てで<10であった。また、臭気強度は、６月及び８月ともNo.５（風上)、No.６（風下）の全てで０であった。

以上のことから、本事業による影響は非常に小さいものと考えられる。

表３－４－２　悪臭調査結果

（大阪基地）

調査日		令和7年6月4日		令和7年8月1日	
測　定　点		No. 5（風上）	No. 6（風下）	No. 5（風上）	No. 6（風下）
測 定 時 間		9:15	9:40	9:20	9:45
気　象	天候(当日/前日)	晴/雨	晴/雨	晴/晴	晴/晴
	気　　温	21.1℃	20.9℃	29.8℃	30.6℃
	湿　　度	76%	79%	95%	96%
	風　　向	南南西～西南西	南西	南南西	南
	風　　速	2.5m/s	0.5m/s	1.2m/s	0.6m/s
官能試験	臭気濃度	<10	<10	<10	<10
	臭気指数	<10	<10	<10	<10
	臭気強度（*）	0	0	0	0
	臭　　質	無臭	無臭	無臭	無臭

注：1.臭気濃度：人の嗅覚でその臭気を感知できなくなった時点の希釈倍数
2.臭気指数：臭気指数＝10×log（臭気濃度）
3.官能試験時に求められた臭気強度である。
4.臭気強度：０（無臭）～５（強烈な臭い）の６段階に区分

Ⅳ　堺基地供用に係る環境監視

第１章　　環境監視の概要

１　環境監視の目的

本環境監視は、泉大津沖処分場埋立事業に関連した堺基地の供用及び廃棄物輸送にあたり、大阪湾広域臨海環境整備センターが「大阪湾圏域広域処理場整備事業に係る大阪府域環境保全協議会」の指導を得て作成した「堺基地供用に係る環境監視計画」（以下このⅣにおいて「環境監視計画」という。）に基づいて、周辺環境への影響を把握し、その影響を最小限にとどめ、環境の悪化を未然に防止することを目的とする。

２　環境監視の内容

環境監視の内容としては、環境監視計画に基づいて実施した令和７年度の調査結果を整理するとともに、環境基準との比較等のデータ解析を行い、基地周辺の状況を把握した。

監視の項目は、以下に示す陸域調査の４項目である。

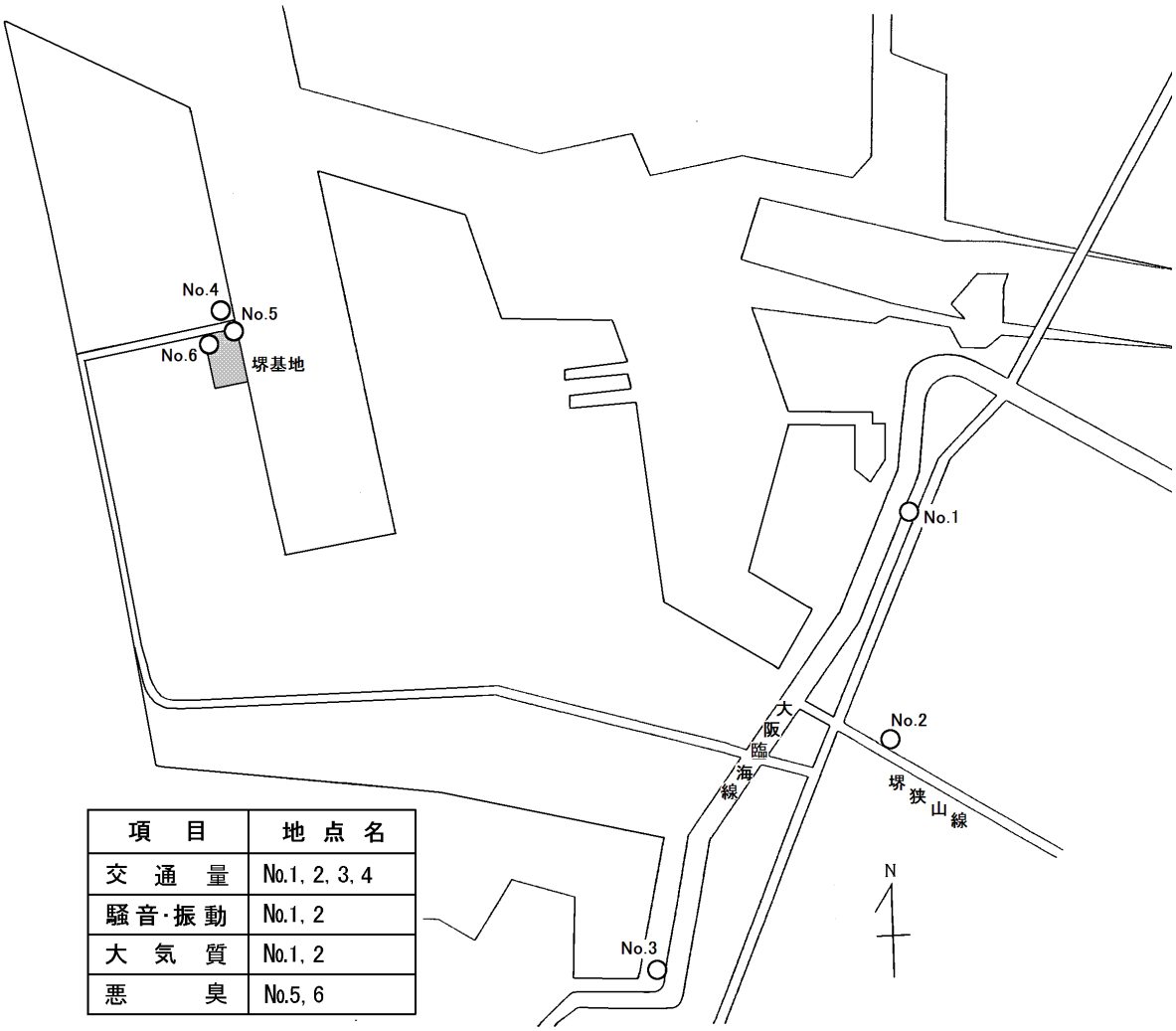
〔陸域調査〕

①　交通量

②　騒音・振動

③　大気質

④　悪臭



項　目	地 点 名
交　通　量	No.1, 2, 3, 4
騒音･振動	No.1, 2
大　気　質	No.1, 2
悪　　臭	No.5, 6

図４－１　環境監視調査地点位置図（堺基地）

第２章　　環境監視結果

１　交通量

１－１　環境監視の実施状況

交通量については、表４-１-１に示すとおり、総交通量及び廃棄物車数の状況を把握するため、年４回の四季調査を実施した。

測定点は別図調査地点位置図に、測定項目及び測定方法は表４-１-２に示すとおりである。

表４－１－１　交通量調査の実施状況

環境項目	測定・調査項目	測定地点	測定点数	頻度	実施日
交通量	総交通量 （２車種分類）	№１，２，３，４	４地点	４回／年	令和７年 ５月21日 ８月19日 11月13日 令和８年 ２月12日
	廃棄物車数 （２車種分類）				

表４－１－２　交通量測定方法

分類	測定・調査項目	測定方法
交通量	総交通量 （２車種分類）	調査員による通行車両の計数 （毎正時から10分間測定） （８時から18時まで(10時間)）注
	廃棄物車数 （２車種分類）	調査員による通行車両の計数 （毎正時から60分間測定） （８時から18時まで(10時間)）

注：測定点№４の交通量の調査時間については、堺基地入場門の閉鎖が17時45分であるため、8時から17時までの９時間とした。

１－２　環境監視の結果

交通量調査結果の概要は表４-１-３に示すとおりである。

大阪臨海線沿道の測定点(№１)における時間交通量は1,735～3,504台で推移し、大型車の混入率は13.7～56.5%(平均38.9%)であった。廃棄物車の時間交通量は０～10台

（うち、大型車：０～10台）で推移し、総交通量に占める割合は0.0～0.5%(平均0.1%)（総交通量(大型車)に占める廃棄物車(大型車)の割合：0.0～1.1%(平均0.2%)）であった。

堺狭山線沿道の測定点(№２)における時間交通量は930～1,752台で推移し、大型車の混入率は9.5～38.8%(平均25.2%)であった。廃棄物車の時間交通量は０～３台（うち、大型車：０～２台）で推移し、総交通量に占める割合は0.0～0.2%(平均0.0%)（総交通量(大型車)に占める廃棄物車(大型車)の割合：0.0～0.6%(平均0.1%)）であった。

大阪臨海線沿道の測定点(№３)における時間交通量は1,434～2,952台で推移し、大型車の混入率は9.3～57.5%(平均39.0%)であった。廃棄物車の時間交通量は０～３台（うち、大型車：０～３台）で推移し、総交通量に占める割合は0.0～0.2%(平均0.0%)（総交通量(大型車)に占める廃棄物車(大型車)の割合：0.0～0.3%(平均0.1%)）であった。

各測定点(№１、№２、№３)では、交通総量に占める廃棄物車両の割合が共に低いことから、本事業の廃棄物車による交通への影響は非常に小さいものと考えられる。

堺基地近傍の測定点(№４)における時間交通量は０～55台で推移し、大型車の混入率は0.0～100.0%(平均86.2%)であった。廃棄物車の時間交通量は０～55台（うち、大型車：０～54台）で推移し、総交通量に占める割合は37.9～100.0%(平均93.5%)（総交通量(大型車)に占める廃棄物車(大型車)の割合：64.7～100.0%(平均99.1%)）であった。

表４－１－３　交通量調査結果総括表（令和７年度）

（堺基地）

測定地点	測定日	総交通量 最小～最大（台／時）	総交通量 全交通量（台）	総交通量に占める大型車混入率 最小～最大（%）	総交通量に占める大型車混入率 平均（%）	廃棄物車数 最小～最大（台／時）	廃棄物車数 全交通量（台）	総交通量に占める廃棄物車混入率 最小～最大（%）	総交通量に占める廃棄物車混入率 平均（%）
No.1	令和7年5月21日	1,735（480）～ 3,048（1,178）	23,378（9,392）	15.7 ～ 56.5	40.2	0（0）～ 5（5）	14（14）	0.0（0.0）～ 0.2（0.4）	0.1（0.1）
	令和7年8月19日	1,764（565）～ 3,222（1,170）	23,587（9,151）	18.6 ～ 52.7	38.8	0（0）～ 6（6）	19（19）	0.0（0.0）～ 0.3（0.8）	0.1（0.2）
	令和7年11月13日	1,806（462）～ 3,366（1,301）	23,650（9,136）	13.7 ～ 55.5	38.6	0（0）～ 6（6）	16（16）	0.0（0.0）～ 0.3（0.5）	0.1（0.2）
	令和8年2月12日	1,861（498）～ 3,504（1,208）	23,326（8,902）	14.2 ～ 51.8	38.2	0（0）～ 10（10）	34（34）	0.0（0.0）～ 0.5（1.1）	0.1（0.4）
	令和7年度	1,735（462）～ 3,504（1,301）	23,485（9,145）	13.7 ～ 56.5	38.9	0（0）～ 10（10）	21（21）	0.0（0.0）～ 0.5（1.1）	0.1（0.2）
No.2	令和7年5月21日	1,026（168）～ 1,752（486）	14,251（3,487）	10.0 ～ 34.0	24.5	0（0）～ 1（1）	1（1）	0.0（0.0）～ 0.1（0.2）	0.0（0.0）
	令和7年8月19日	1,122（264）～ 1,698（488）	13,882（3,436）	17.3 ～ 35.3	24.8	0（0）～ 2（2）	4（4）	0.0（0.0）～ 0.2（0.6）	0.0（0.1）
	令和7年11月13日	930（156）～ 1,644（552）	13,265（3,622）	9.5 ～ 38.8	27.3	0（0）～ 3（2）	5（4）	0.0（0.0）～ 0.2（0.4）	0.0（0.1）
	令和8年2月12日	1,074（234）～ 1,728（433）	13,662（3,293）	13.5 ～ 30.8	24.1	0（0）～ 2（2）	6（5）	0.0（0.0）～ 0.2（0.6）	0.0（0.2）
	令和7年度	930（156）～ 1,752（552）	13,765（3,460）	9.5 ～ 38.8	25.2	0（0）～ 3（2）	4（4）	0.0（0.0）～ 0.2（0.6）	0.0（0.1）
No.3	令和7年5月21日	1,434（426）～ 2,832（1,111）	19,415（7,619）	15.0 ～ 55.2	39.2	0（0）～ 1（1）	5（5）	0.0（0.0）～ 0.1（0.2）	0.0（0.1）
	令和7年8月19日	1,500（456）～ 2,952（1,046）	21,309（8,235）	15.4 ～ 50.8	38.6	0（0）～ 2（2）	3（3）	0.0（0.0）～ 0.1（0.2）	0.0（0.0）
	令和7年11月13日	1,722（264）～ 2,832（1,159）	21,390（8,560）	9.3 ～ 57.5	40.0	0（0）～ 2（1）	6（4）	0.0（0.0）～ 0.1（0.1）	0.0（0.0）
	令和8年2月12日	1,524（318）～ 2,856（1,009）	19,783（7,537）	11.1 ～ 51.7	38.1	0（0）～ 3（3）	7（7）	0.0（0.0）～ 0.2（0.3）	0.0（0.1）
	令和7年度	1,434（264）～ 2,952（1,159）	20,474（7,988）	9.3 ～ 57.5	39.0	0（0）～ 3（3）	5（5）	0.0（0.0）～ 0.2（0.3）	0.0（0.1）
No.4	令和7年5月21日	0（0）～ 49（45）	234（206）	70.0 ～ 97.6	88.0	0（0）～ 49（45）	222（206）	70.0（100.0）～ 100.0（100.0）	94.9（100.0）
	令和7年8月19日	2（0）～ 55（54）	206（191）	0.0 ～ 100.0	92.7	2（0）～ 55（54）	206（191）	100.0（100.0）～ 100.0（100.0）	100.0（100.0）
	令和7年11月13日	1（1）～ 46（43）	216（176）	58.6 ～ 100.0	81.5	1（1）～ 46（43）	186（170）	37.9（64.7）～ 100.0（100.0）	86.1（96.6）
	令和8年2月12日	1（1）～ 52（48）	252（208）	50.0 ～ 100.0	82.5	1（1）～ 52（48）	234（208）	62.5（100.0）～ 100.0（100.0）	92.9（100.0）
	令和7年度	0（0）～ 55（54）	227（195）	0.0 ～ 100.0	86.2	0（0）～ 55（54）	212（194）	37.9（64.7）～ 100.0（100.0）	93.5（99.1）

注：１.測定時間は測定地点№１～３が８時～18時（10時間）、測定地点№４が８時～17時（９時間）であり、総交通量及び廃棄物車数の全交通量欄には当該時間の合計値を示す。
２.総交通量は１時間値に補正（一般車：10分間値×６＋廃棄物車：１時間値）したものを示す。
３.廃棄物車は１時間の全数交通量を示す。
４.総交通量欄及び廃棄物車数欄の（　）内は大型車数を示す。また、総交通量に占める廃棄物車混入率欄の（　）内は総交通量（大型車）に占める廃棄物車（大型車）の混入率を示す。

２　騒音・振動

２－１　環境監視の実施状況

騒音・振動については、表４-２-１に示すとおり、基地供用及び廃棄物輸送に伴い発生する騒音・振動の状況を把握するため、年２回（５、11月）の調査を実施した。

測定点は別図調査地点位置図に示すとおりである。

表４－２－１　騒音・振動調査の実施状況

環境項目	測定・調査項目	測定地点	測定点数	頻　度	実　施　日
騒音・振動	騒音・振動	№１、２	２地点	２回／年 毎正時から （８時から 18時まで (10時間))	令和７年 ５月21日 11月13日

表４－２－２　騒音・振動に係る環境基準及び要請限度

測定地点	用途地域	地域区分	騒音に係る環境基準値(dB)		自動車騒音の要請限度(dB)		道路交通振動の要請限度(dB)	
			区域区分	基準	区域区分	限度	区域区分	限度
№１（大阪臨海線沿道）	第１種住居	近接空間（６）	特例	70	b	75	第１種	65
№２（堺狭山線沿道）	近隣商業	近接空間（４）	特例		c		第２種	70

注:１.上表の環境基準及び要請限度は、いずれも昼間の時間の区分に係るものである。
（昼間）　騒音に係る環境基準，自動車騒音の要請限度　：午前６時から午後10時まで
道路交通振動の要請限度　：午前６時から午後９時まで
２.地域区分の欄の「近接空間」は「道路に面する地域」のうち、「幹線交通を担う道路に近接する空間」のことである。（　）内は面する道路の車線数である。
３.区域区分は以下のとおりである。
（環境基準）　幹線交通を担う道路に近接する空間は特例
（自動車騒音の要請限度）　ｂ区域(第１種住居地域)のうち２車線以上の車線を有する道路に面する区域
ｃ区域(近隣商業地域)のうち車線を有する道路に面する区域
（道路交通振動の要請限度）　第１種住居地域は第１種区域、近隣商業地域は第２種区域
４.騒音に係る環境基準と自動車騒音の要請限度はL_{eq}、道路交通振動の要請限度はL_{10}によるものである。

２－２　環境監視の結果

騒音・振動調査結果の概要は表４-２-４に示すとおりである。

（１）騒音

大阪臨海線沿道の測定点(№.１)における等価騒音レベル(L_{Aeq})は、５月が74dB、11月が73dBであり、環境基準値(70dB)を上回っていたが、自動車騒音の要請限度(75dB)は下回っていた。なお、騒音レベルの中央値(L_{A50})は、70～73dB(平均72dB)となっており、主要音源は自動車走行音であった。

堺狭山線沿道の測定点(№.２)における等価騒音レベル(L_{Aeq})は、５月及び11月ともに64dBであり、環境基準値(70dB)及び自動車騒音の要請限度(75dB)を下回っていた。なお、騒音レベルの中央値(L_{A50})は、59～63dB(平均61dB)となっており、主要音源は自動車走行音であった。

廃棄物車の総交通量に占める割合は、No. １で0.0～0.5%、No. ２で0.0～0.2%であり、本事業の廃棄物車による騒音への影響は非常に小さいと考えられる。

（２）振動

大阪臨海線沿道の測定点(№.１)における振動レベル(L_{10})は、５月が45dB、11月が47dB、堺狭山線沿道の測定点(№.２)における振動レベル(L_{10})は、５月が41dB、11月が40dBであり、いずれの測定点でも道路交通振動の要請限度(測定点№.１：65dB、測定点№.２：70dB)を下回っており、特に問題はなかった。

表４－２－３　騒音・振動測定結果総括表

（堺基地）

地点	測定月日	時間区分	測定時間数	騒音レベル (dB)												振動レベル (dB)		
				L_{A5}			L_{A50}			L_{A95}			L_{Aeq}			L_{10}		
				平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大
№.１	令和7年5月21日	昼間	10	79	77	80	72	70	73	65	63	66	74	72.4	75.0	45	43	47
	令和7年11月13日	昼間	10	78	77	79	71	70	73	64	62	66	73	72.3	74.4	47	44	49
	令和7年度	昼間	20	78	77	80	72	70	73	65	62	66	74	72.3	75.0	46	43	49
№.２	令和7年5月21日	昼間	10	69	68	70	61	59	62	51	49	53	64	62.1	64.6	41	37	43
	令和7年11月13日	昼間	10	70	69	72	61	59	63	50	48	51	64	63.3	65.6	40	37	43
	令和7年度	昼間	20	70	68	72	61	59	63	50	48	53	64	62.1	65.6	41	37	43

注：測定時間は８時～18時である。

３　大気質

３－１　環境監視の実施状況

大気質については、表４-３-１に示すとおり、基地供用及び廃棄物輸送に伴い発生する大気汚染物質の状況を把握するため、年４回の四季調査を実施した。

なお、測定は７日間の連続測定とし、測定点は別図調査地点位置図に示すとおりである。

表４－３－１　大気質調査の実施状況

環境項目	測定・調査項目	測定地点	測定点数	頻度	実施日
大気質	二酸化硫黄、 一酸化窒素、 二酸化窒素、 浮遊粒子状物質、 風向、風速	№１、２	２地点	４回／年 １週間 （連続）	令和７年 ５月21日～27日 ８月19日～25日 11月13日～19日 令和８年 ２月12日～18日

表４－３－２　二酸化硫黄、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質に係る環境基準

項　目	環境基準
二酸化硫黄	１時間値の１日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、 １時間値が0.1ppm以下であること
二酸化窒素	１時間値の１日平均値が0.04ppmから0.06ppmまで のゾーン内またはそれ以下であること
浮遊粒子状物質	１時間値の１日平均値が0.10mg/m^{3}以下であり、かつ、１時間値が0.20mg/m^{3}以下であること

３－２　環境監視の結果

大気質調査結果の概要を表４-３-３、項目毎の期間平均値、日平均及び時間平均の最大値、最小値を表４-３-４、図４-３-１に、調査時の地点別風配図を図４-３-２に示した。

大阪臨海線沿道の測定点(№１)、堺狭山線沿道の測定点(№２)ともに、二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質について、四季を通じて環境基準値を下回っており、特に問題はなかった。

表４－３－３　大気汚染測定結果総括表　　〔令和７年度〕

（堺基地）

項目			No.１	No.２
二酸化硫黄	有効測定日数	（日）	28	28
	日平均値が0.04ppmを超えた日数	（日）	0	0
	測定時間数	（時間）	672	672
	１時間値が0.1ppmを超えた時間数	（時間）	0	0
二酸化窒素	有効測定日数	（日）	28	28
	日平均値が0.04ppm以上、0.06ppm以下の日数	（日）	0	0
	日平均値が0.06ppmを超えた日数	（日）	0	0
	測定時間数	（時間）	672	672
	１時間値が0.1ppm以上、0.2ppm以下の時間数	（時間）	0	0
	１時間値が0.2ppmを超えた時間数	（時間）	0	0
浮遊粒子状物質	有効測定日数	（日）	28	28
	日平均値が0.1mg/m^3を超えた日数	（日）	0	0
	測定時間数	（時間）	672	672
	１時間値が0.2mg/m^3を超えた時間数	（時間）	0	0

表４－３－４　項目毎の期間平均値及び最大値・最小値（令和７年度）

測定地点：No.１　（堺基地）

項目／区分／調査期間	二酸化硫黄(ppm)			一酸化窒素(ppm)			二酸化窒素(ppm)			窒素酸化物(ppm)			浮遊粒子状物質(mg/m^3)			風速(m/s)			最多風向
	平均値	日平均値	1時間値	平均値	日平均値	1時間値	平均値	日平均値	1時間値	平均値	日平均値	1時間値	平均値	日平均値	1時間値	平均値	日平均値	1時間値	
		最大	最大		最大	最大		最大	最大		最大	最大		最大	最大		最大	最大	
		最小	最小		最小	最小		最小	最小		最小	最小		最小	最小		最小	最小	
令和7年	0.004	0.005	0.010	0.006	0.018	0.062	0.014	0.023	0.043	0.019	0.041	0.091	0.011	0.020	0.045	1.6	2.0	4.2	ENE
5月21日～5月27日		0.003	0.002		0.000	0.000		0.004	0.001		0.005	0.001		0.005	0.000		1.1	0.2	
令和7年	0.005	0.008	0.060	0.003	0.006	0.021	0.011	0.014	0.030	0.014	0.020	0.044	0.021	0.034	0.054	1.1	1.3	2.2	WSW
8月19日～8月25日		0.003	0.002		0.000	0.000		0.006	0.003		0.006	0.003		0.009	0.001		1.0	0.2	
令和7年	0.004	0.005	0.009	0.009	0.017	0.059	0.018	0.027	0.045	0.027	0.042	0.084	0.017	0.023	0.048	1.1	1.7	2.7	ESE
11月13日～11月19日		0.002	0.001		0.002	0.001		0.011	0.003		0.013	0.005		0.010	0.001		0.7	0.0	
令和8年	0.005	0.007	0.023	0.009	0.013	0.053	0.023	0.026	0.042	0.032	0.039	0.091	0.021	0.028	0.066	1.1	2.0	4.0	WNW
2月12日～2月18日		0.003	0.002		0.003	0.001		0.019	0.003		0.024	0.005		0.008	0.001		0.7	0.0	

測定地点：No.２

項目／区分／調査期間	二酸化硫黄(ppm)			一酸化窒素(ppm)			二酸化窒素(ppm)			窒素酸化物(ppm)			浮遊粒子状物質(mg/m^3)			風速(m/s)			最多風向
	平均値	日平均値	1時間値	平均値	日平均値	1時間値	平均値	日平均値	1時間値	平均値	日平均値	1時間値	平均値	日平均値	1時間値	平均値	日平均値	1時間値	
		最大	最大		最大	最大		最大	最大		最大	最大		最大	最大		最大	最大	
		最小	最小		最小	最小		最小	最小		最小	最小		最小	最小		最小	最小	
令和7年	0.003	0.004	0.008	0.009	0.016	0.059	0.013	0.021	0.043	0.021	0.037	0.094	0.011	0.023	0.042	1.3	2.1	4.6	ESE
5月21日～5月27日		0.002	0.001		0.003	0.002		0.007	0.003		0.010	0.005		0.003	0.000		0.9	0.0	
令和7年	0.004	0.004	0.007	0.006	0.009	0.021	0.010	0.013	0.023	0.017	0.021	0.041	0.017	0.033	0.069	1.1	1.2	1.7	W
8月19日～8月25日		0.003	0.002		0.002	0.001		0.008	0.003		0.010	0.005		0.006	0.000		0.9	0.0	
令和7年	0.003	0.004	0.012	0.018	0.033	0.086	0.016	0.025	0.042	0.034	0.054	0.117	0.013	0.019	0.038	0.7	1.3	2.4	NNE
11月13日～11月19日		0.001	0.001		0.008	0.004		0.010	0.004		0.018	0.008		0.006	0.000		0.4	0.0	
令和8年	0.005	0.009	0.026	0.010	0.021	0.064	0.018	0.023	0.036	0.028	0.044	0.097	0.021	0.026	0.051	1.0	1.8	3.1	NNE
2月12日～2月18日		0.003	0.001		0.005	0.001		0.013	0.003		0.018	0.004		0.010	0.000		0.5	0.0	

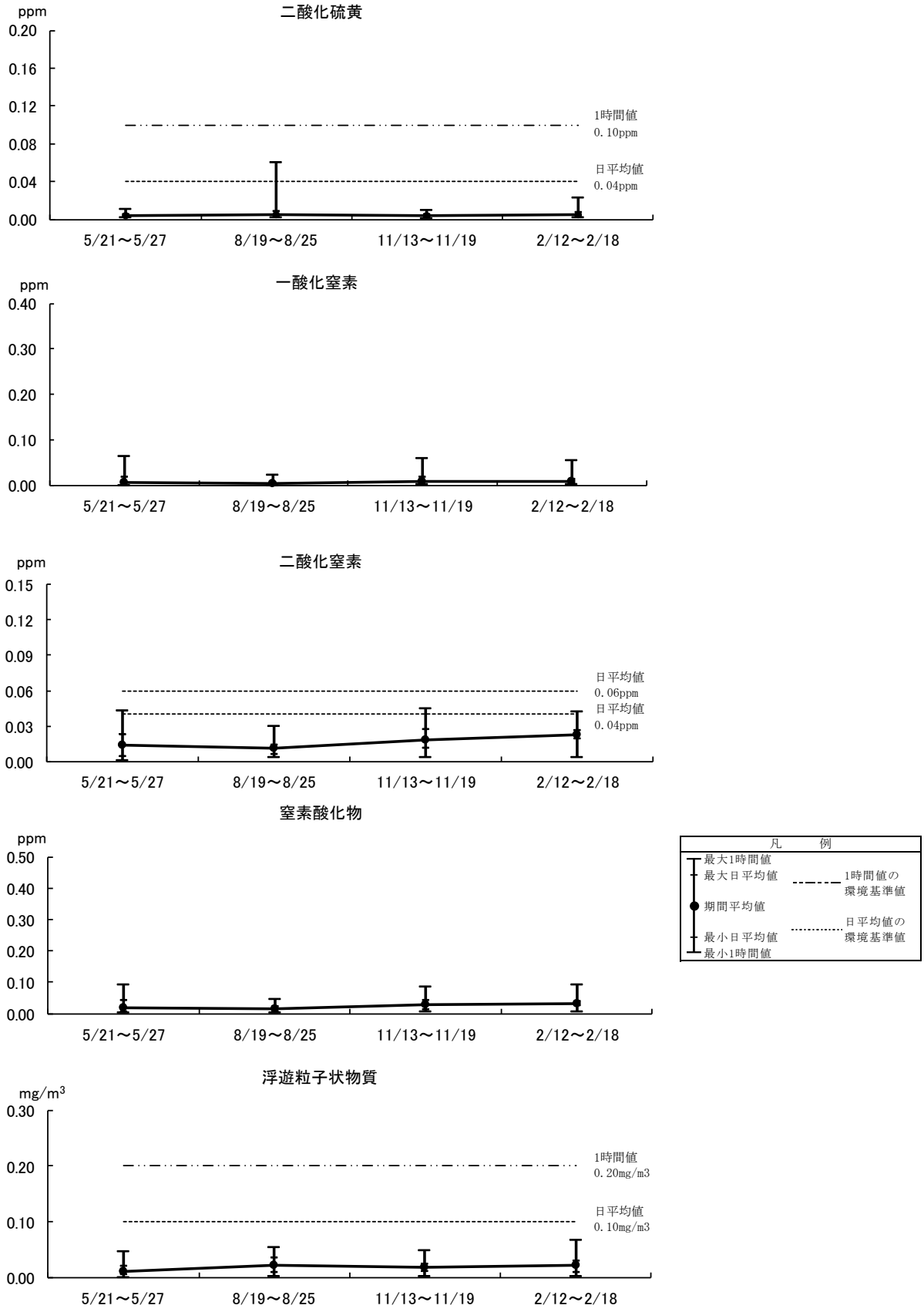


図４－３－１（１）　調査期間毎の比較（測定地点：№１）　　（堺基地）

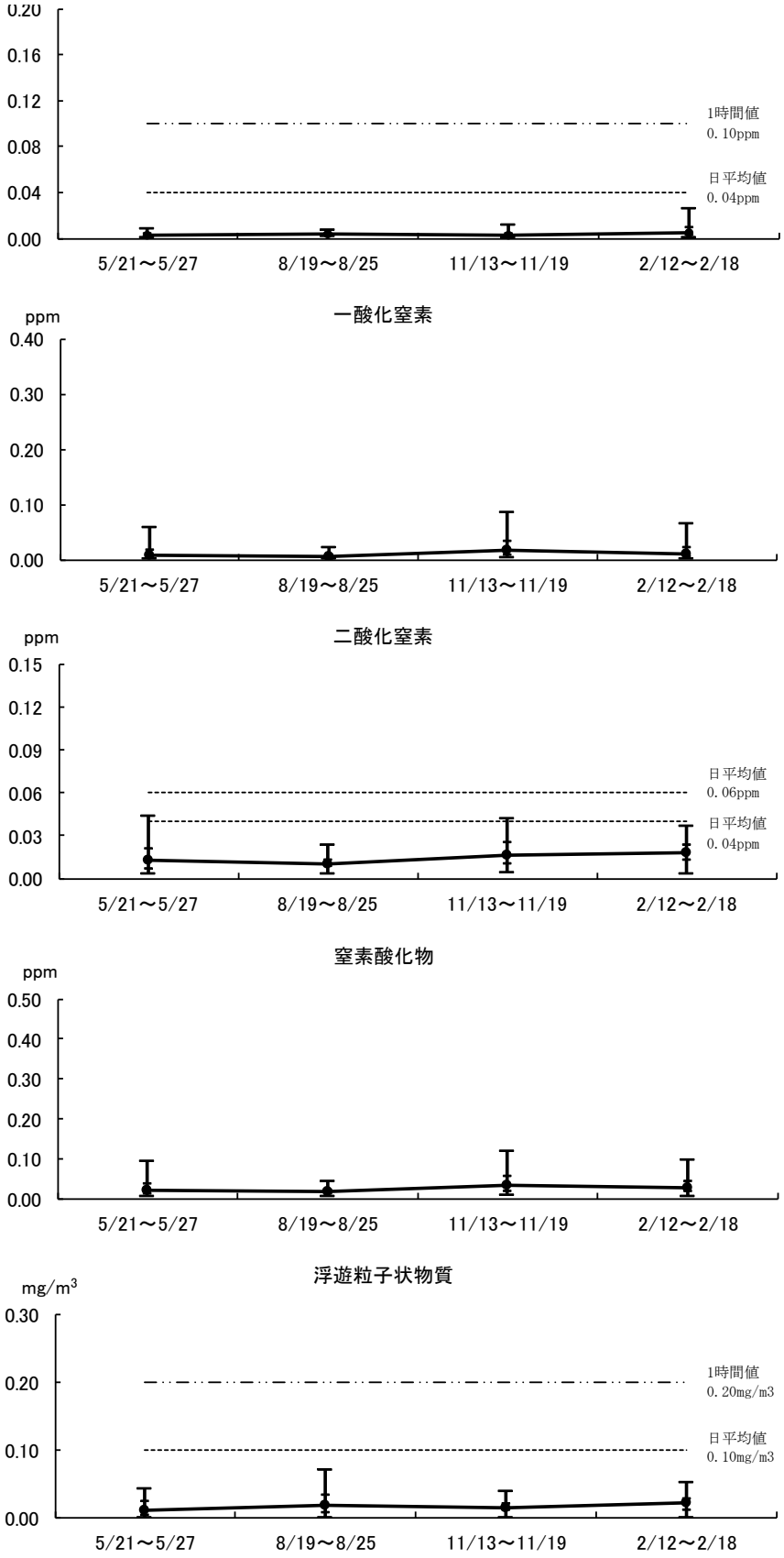
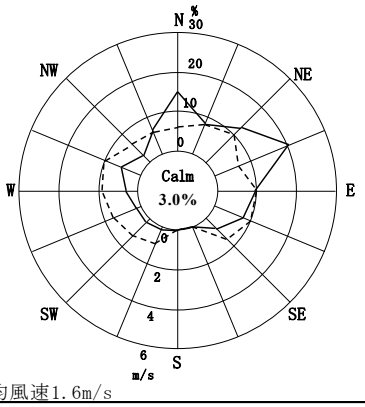
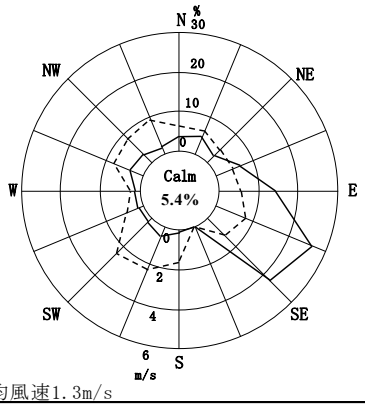
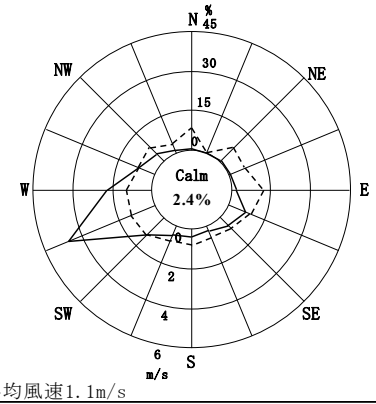
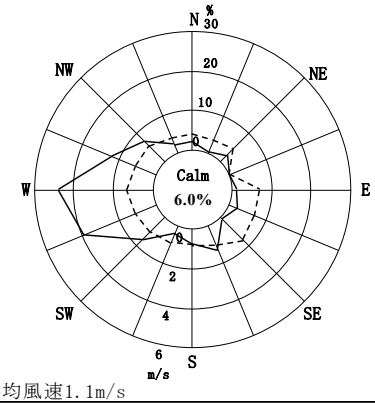
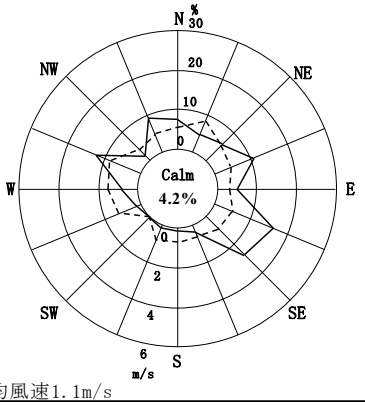
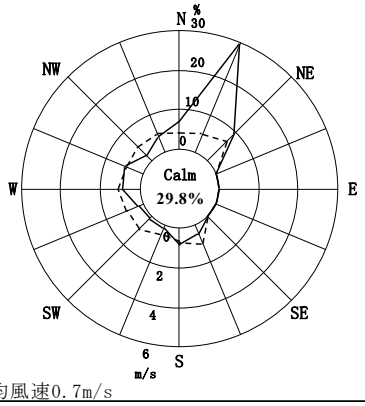
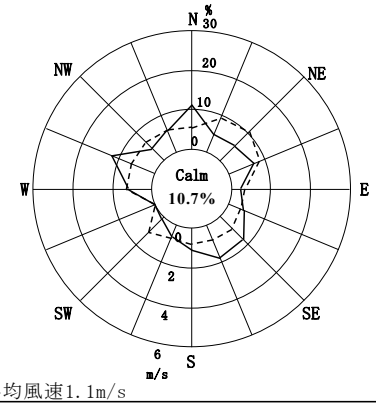
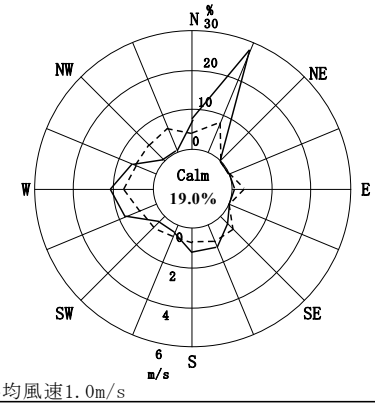


図４－３－１（２）　調査期間毎の比較（測定地点：№.２）　　（堺基地）

	No.1	No.2
令和7年 5月21日～ 5月27日	 平均風速1.6m/s	 平均風速1.3m/s
令和7年 8月19日～ 8月25日	 平均風速1.1m/s	 平均風速1.1m/s
令和7年 11月13日～ 11月19日	 平均風速1.1m/s	 平均風速0.7m/s
令和8年 2月12日～ 2月18日	 平均風速1.1m/s	 平均風速1.0m/s

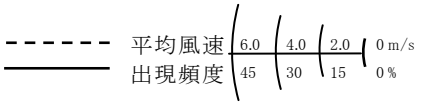


図４－３－２　　地点別風配図と風向別平均風速（堺基地）

４　悪臭

４－１　環境監視の実施状況

悪臭については、表４-４-１に示すとおり、基地供用に伴い発生する悪臭の状況を把握するため、年２回（６月、８月）の調査を実施した。

測定点は別図調査地点位置図に示すとおりである。

表４－４－１　悪臭調査の実施状況

環境項目	測定・調査項目	測定地点	測定点数	頻度	実施日
悪　臭	臭気濃度 臭気指数 臭気強度	№.５ №.６	２地点	２回／年	令和７年 ６月４日 ８月１日

４－２　環境監視の結果

悪臭調査結果は表４-４-２に示すとおりである。

臭気濃度及び臭気指数は、６月及び８月ともNo.５（風下）、No.６（風上）の全てで<10であった。また、臭気強度は、６月及び８月ともNo.５（風下）、No.６（風上）の全てで０であった。

以上のことから、本事業による影響は非常に小さいものと考えられる。

表４－４－２　悪臭調査結果

（堺基地）

調査日		令和7年6月4日		令和7年8月1日	
測　定　点		No. ５（風下）	No. ６（風上）	No. ５（風下）	No. ６（風上）
測 定 時 間		11:20	10:52	11:30	11:05
気　象	天候（当日/前日）	晴/雨	晴/雨	晴/晴	晴/晴
	気　　温	22.1℃	22.0℃	31.5℃	31.0℃
	湿　　度	74%	75%	85%	90%
	風　　向	西	西～南	西南西	南西
	風　　速	1.5m/s	1.8m/s	2.1m/s	1.1m/s
官能試験	臭気濃度	<10	<10	<10	<10
	臭気指数	<10	<10	<10	<10
	臭気強度（*）	0	0	0	0
	臭　　質	無臭	無臭	無臭	無臭

注：１.臭気濃度：人の嗅覚でその臭気を感知できなくなった時点の希釈倍数
　　２.臭気指数：臭気指数＝10×log（臭気濃度）
　　３.官能試験時に求められた臭気強度である。
　　４.臭気強度：０（無臭）～５（強烈な臭い）の６段階に区分

Ⅴ　処分場及び積出基地の供用に係る環境監視計画

Ⅴ　処分場及び基地の供用に係る環境監視計画

ⅰ　泉大津沖処分場の埋立及び泉大津基地供用に係る環境監視計画

１．監視の目的

泉大津沖処分場への廃棄物の埋立の開始、これに伴う泉大津基地への廃棄物の輸送及び基地供用にあたり、当該事業が与える周辺海域や陸域への影響を把握し、周辺環境への影響を最小限にとどめ、環境の悪化を未然に防止することを目的とする。

２．環境監視区分

２－１　海　域

泉大津沖処分場からの周辺環境への影響を監視するため、「埋立処分場近傍の海域の水質、底質、海生生物」、「排水処理施設からの放流水の水質」について調査を実施する。

調査項目、調査頻度、調査地点は別表１に示す。

２－２　陸　域

泉大津沖処分場からの悪臭や発生ガスについて調査を実施する。

調査項目、調査頻度、調査地点は別表２に示す。

３．調査地点毎の調査概要

調査地点の配置は別図１に示す。

３－１　海　域

調査地点	調　　査　　の　　概　　要
①水質基本監視点 №.１、３～７ 底質、海生生物 基本監視点 №.１、３～７	環境に対する影響を確実にかつ系統的に把握するため護岸から500ｍに設定し、水質の状況を確認する。 系統的に底質、海生生物の状況を確認する。
②補助監視点 №.８～９ 補助監視点 №.12～13	内水の状況を把握するため内水面に設定し、水質の状況を把握する。 管理型護岸の遮水性を確認するために、護岸から30ｍに設定する。 水質の状況を把握する。
③放流水監視点 №.11	放流口に設定する。 水質の状況を把握する。
④付着生物監視点 №.14～15	周辺海域での付着生物の状況を把握する。
⑤漁業生物監視点 №.16～17	周辺海域での漁獲対象生物の状況を把握するために設定する。

３－２　陸　域

調査地点	意　　義　　及　　び　　目　　的
①悪臭監視点 Ｄ Ｅ	埋立状況に合わせ、敷地境界上に設定する。 敷地境界（護岸）上に風下、風上の２点設定する。 臭気強度、臭気濃度及び臭気指数を把握する。 悪臭に係る法定22物質の状況を把握する。
②発生ガス監視点 Ｆ	埋立状況に合わせ埋立地上に設定する。 発生ガス（メタンガス）の状況と発生ガス量を把握する。

４．測定・分析方法等

４－１　海　域

①測定・分析方法は表４－１～４－６による。

②監視の時期

週１回調査：週間の間隔が適当となるよう実施する。

月１回調査：おおむね大潮時に実施する。

年１回調査：おおむね８月に実施する。（ダイオキシン類調査は２月）

年２回調査：おおむね８月、２月に実施する。

年４回調査：おおむね５月、８月、11月、及び２月に実施する。

③調査の水深等

表層とは、海面下１ｍとする。

底層とは、海底から２ｍとする。

底質調査は、海底面で実施する。

④海生生物の同定

各調査地点で優占５種となった種について実施する。

４－２　陸　域

①測定方法は表５－１～５－２による。

②監視の時期

年２回調査：悪臭調査（官能試験）は６月及び８月、発生ガス調査は８月及び２月に実施する。

年１回調査：悪臭調査（悪臭物質）は８月に実施する。

③悪臭の測定は、調査地点Ｄにあっては嗅覚測定法による。

④悪臭に係る法定22物質の測定は、環境庁長官が定めるところによる。

⑤発生ガスの測定はガスクロマトグラフ法、発生ガス量は石鹸膜流量計計測法による。

５．評価と対策

①埋立処分場近傍海域の水質についての監視基準を、基本監視点において、次表のとおり設定する。

項　　目	基　　準　　値
ＦＳＳ	表層　５㎎／Ｌ　；　底層　７㎎／Ｌ

②管理型排水処理施設からの放流水質の管理基準を、放流水の監視点において、次表のとおり設定する。

項目		管理基準値
水素イオン濃度（ｐＨ）		5.0以上 9.0以下
化学的酸素要求量（ＣＯＤ）		60mg／Ｌ
浮遊物質量（ＳＳ）		50mg／Ｌ
ｎ－ヘキサン抽出物質含有量（鉱油類）		5mg／Ｌ
〃 （動植物油脂）		30mg／Ｌ
大腸菌数		800CFU／mL
窒素含有量（Ｔ－Ｎ）		60mg／Ｌ
燐含有量（Ｔ－Ｐ）		8mg／Ｌ
有害物質	カドミウム及びその化合物	0.03mg／Ｌ
	シアン化合物	1mg／Ｌ
	有機燐化合物	1mg／Ｌ
	鉛及びその化合物	0.1mg／Ｌ
	六価クロム化合物	0.5mg／Ｌ
	砒素及びその化合物	0.1mg／Ｌ
	水銀及びその化合物	0.005mg／Ｌ
	アルキル水銀化合物	検出されないこと
	ＰＣＢ	0.003mg／Ｌ
	トリクロロエチレン	0.1mg／Ｌ
	テトラクロロエチレン	0.1mg／Ｌ
	ジクロロメタン	0.2mg／Ｌ
	四塩化炭素	0.02mg／Ｌ
	1,2-ジクロロエタン	0.04mg／Ｌ
	1,1-ジクロロエチレン	1mg／Ｌ
	ｼｽ-1,2-ジクロロエチレン	0.4mg／Ｌ
	1,1,1-トリクロロエタン	3mg／Ｌ
	1,1,2-トリクロロエタン	0.06mg／Ｌ
	1,3-ジクロロプロペン	0.02mg／Ｌ
	チウラム	0.06mg／Ｌ
	シマジン	0.03mg／Ｌ
	チオベンカルブ	0.2mg／Ｌ
	ベンゼン	0.1mg／Ｌ
	セレン及びその化合物	0.1mg／Ｌ
	ほう素及びその化合物	230mg／Ｌ
	ふっ素及びその化合物	15mg／Ｌ
	アンモニア等*)	200mg／Ｌ
	1,4-ジオキサン	10mg／Ｌ
	ダイオキシン類	10pg-TEQ／Ｌ**)
特殊項目	フェノール類含有量	5mg／Ｌ
	銅含有量	3mg／Ｌ
	亜鉛含有量	2mg／Ｌ
	溶解性鉄含有量	10mg／Ｌ
	溶解性マンガン含有量	10mg／Ｌ
	クロム含有量	2mg／Ｌ

*) アンモニア等：アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物をいう。

**)ダイオキシン類10pg-TEQ/Lを遵守するため、ＳＳ10mg/Lを指標値として排水処理施設の運転管理を行う。

③監視結果に基づく対応

環境監視の結果、監視基準値を超える場合は直ちに原因究明調査を行い、その結果について「大阪湾圏域広域処理場整備事業に係る大阪府域環境保全協議会」（以下「環境保全協議会」という。）に報告し、必要に応じて適切な処置を講じる。

④原因究明調査結果は、利用できる他の機関の情報等も勘案して総合的に評価する。

6．報　告

①調査の結果は別添様式により、調査月の翌月の末日までに評価を添えて「環境保全協議会」に報告する。

調査結果は、年度毎にとりまとめ評価の上、翌年度の早い時期に「環境保全協議会」に報告する。

②調査の実施計画は、調査月の前月の20日までに「環境保全協議会」に報告する。

③上記①～②の報告について緊急を要する場合、また、報告した内容に変更を生じた場合は、その都度「環境保全協議会」に報告する。

別表1　　水質等監視計画表

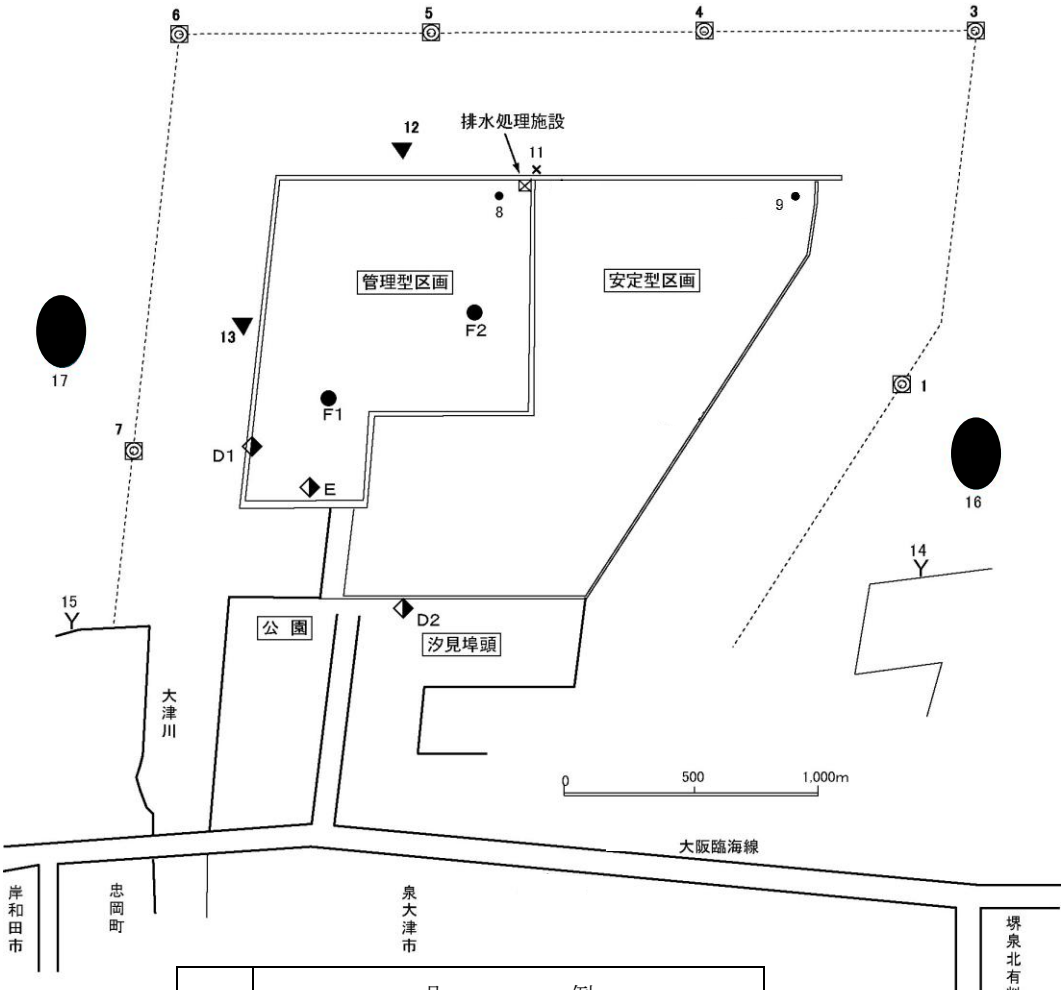
監視区分	地点番号	水質														底質		海生生物				備考
		一般項目							生活1			生活2	健康項目	ダイオキシン類	特殊項目	一般項目	健康項目	動物ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝ 底生生物 魚卵 稚仔魚	植物ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝ	付着生物	漁業生物	
		濁度	透明度	水温	浮遊物質	ｸﾛﾛﾌｨﾙa	FSS	塩分	COD	DO	pH											
基本監視	1	M	M	M	M	M	M	M	M	M	M	S4	S2		S4	S2		S4	S4			
	3	M	M	M	M	M	M	M	M	M	M	S4	S2		S4	S2		S4	S4			
	4	M	M	M	M	M	M	M	M	M	M	S4	S2		S4	S2		S4	S4			
	5	M	M	M	M	M	M	M	M	M	M	S4	S2		S4	S2		S4	S4			
	6	M	M	M	M	M	M	M	M	M	M	S4	S2		S4	S2		S4	S4			
	7	M	M	M	M	M	M	M	M	M	M	S4	S2		S4	S2		S4	S4			
補助監視	8		W	W	W	S4	S4	S4	W	W	W	S4	S4	S4	S4							管理型、1層のみ
	9		W	W	W	S4	S4	S4	W	W	W	S1	S1		S1							安定型、1層のみ
放流水	11	D		D	W				D、M	D	D、M	S4	S4	S4	S4							管理型
補助監視	12	M	M	M	M	M	M	M	M	M	M	S4	S2	S4	S4							
	13	M	M	M	M	M	M	M	M	M	M	S4	S2	S4	S4							
付着生物監視	14																			S4		
	15																			S4		
漁業生物監視	16																				S4	
	17																				S4	
備考						表層のみ						大腸菌数及びn-ﾍｷｻﾝ抽出物質（油分等）は表層のみ	基本監視点については表層のみ	表層のみ		含有試験表層（海底面）		1層のみ				

注１：記号でDは自動測定機による毎日調査、Wは週調査、Mは月調査、Ｓ１は年１回調査、Ｓ２は２季調査及びＳ４は４季調査である。
２：水質及び海生生物（付着生物及び漁業生物を除く。）調査で特に断りがない場合は２層（表層・底層）である。
３：生活２とは、全窒素　全燐　大腸菌数　n-ﾍｷｻﾝ抽出物質（油分等）である。補助監視点8及び放流水11の全窒素はW（週調査）とする。
４：水質の健康項目とは、ｶﾄﾞﾐｳﾑ 全ｼｱﾝ 鉛　六価ｸﾛﾑ 砒素　総水銀　ｱﾙｷﾙ水銀（総水銀が検出された場合のみ）　PCB　ｼﾞｸﾛﾛﾒﾀﾝ　四塩化炭素 1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾀﾝ　1,1-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ　ｼｽ-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ　1,1,1-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ　1,1,2-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ　ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ　ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ　1,3-ｼﾞｸﾛﾛﾌﾟﾛﾍﾟﾝ　ﾁｳﾗﾑ　ｼﾏｼﾞﾝ　ﾁｵﾍﾞﾝｶﾙﾌﾞ　ﾍﾟﾝｾﾞﾝ　ｾﾚﾝ 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素　ふっ素　ほう素　1,4-ジオキサン　アンモニア等（アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物）　ダイオキシン類
1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ　ｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ(※)である。
ただし、補助監視点8及び放流水11についてはこれらに有機燐及びほう素を加えた項目とする。また、1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ、ｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ(※)は補助監視12、13のみとする。
(※)別名：塩化ﾋﾞﾆﾙ又は塩化ﾋﾞﾆﾙﾓﾉﾏｰ
５：水質の特殊項目とは、ﾌｪﾉｰﾙ類　銅　亜鉛　総ｸﾛﾑ　溶解性鉄　溶解性ﾏﾝｶﾞﾝ　硝酸性窒素　亜硝酸性窒素　である。
６：底質の一般項目とは、含水率　粒度組成　COD 強熱減量　硫化物　全窒素　全燐　である。
７：底質の健康項目とは、ｶﾄﾞﾐｳﾑ ｼｱﾝ 有機燐　鉛　六価ｸﾛﾑ PCB 砒素　総水銀　ｱﾙｷﾙ水銀　ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ　ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ　銅　亜鉛　ふっ素　である。
８：放流水の 自動測定機による毎日調査のうち、 COD調査については、UV計により実施する。
９：基本監視地点番号２及び補助監視地点番号１０（開口部）は削除。（平成１４年３月）

別表２　陸域環境監視

区分　／　地点		D	E	F	備　考
悪臭	22 物質		S1		
	臭気濃度	S2			
	臭気強度	S2			
発生ガス	メタン、 発生ガス量			S2	

別図1　　環境監視調査地点位置図



	凡　　例
◎	水質基本監視点
	底質、海生生物(付着生物及び漁業生物を除く)
	付着生物基本監視点
●	水質補助監視点(内水)
	排水処理施設
×	放流水監視点(放流口に設定)
	悪臭又は悪臭物質監視点
●	発生ガス監視点
▼	水質補助監視点(護岸から30m)
⬬	漁業生物監視点

表４－１　水質測定・分析方法

測定・分析項目		測定・分析方法	単位	記載方法	
				有効桁数	報告下限値
透明度		海洋観測指針 第1部3.2	m	小数点以下1桁	0.1
水温		JIS K 0102 7.2	℃	小数点以下1桁	－
濁度		JIS K 0101 9	度(ｶｵﾘﾝ)	2	1
クロロフィルａ		海洋観測指針 第1部6.3.3	μｇ/Ｌ	3	1
浮遊物質量（ＳＳ）		昭和46年環境庁告示第59号 付表9	mg/Ｌ	2	1
不揮発性懸濁物質（ＦＳＳ）		JIS K 0102 14.4	mg/Ｌ	2	1
塩分		海洋観測指針 第1部5.3	－	小数点以下1桁	－
水素イオン濃度（ｐＨ）		JIS K 0102 12.1	－	小数点以下1桁	0.1
化学的酸素要求量（COD_{Mn}）		JIS K 0102 17	mg/Ｌ	2	0.5
溶存酸素量（ＤＯ）		JIS K 0102 32	mg/Ｌ	2	0.5
大腸菌数	基本監視点、補助監視点、内水、管理型排水処理施設放流水	昭和46年環境庁告示第59号 付表10	CFU/100mL	2	1
ﾉﾙﾏﾙﾍｷｻﾝ抽出物質（油分等）		昭和46年環境庁告示第59号 付表14	mg/Ｌ	2	0.5
全窒素（Ｔ－Ｎ）		JIS K 0102 45.4	mg/Ｌ	2	0.04
全燐（Ｔ－Ｐ）		JIS K 0102 46.3	mg/Ｌ	2	0.003
カドミウム（Ｃｄ）		JIS K 0102 55	mg/Ｌ	2	0.001
全シアン（ＣＮ）		JIS K 0102 38	mg/Ｌ	2	0.1
有機燐（Ｏ－Ｐ）		昭和49年環境庁告示第64号　付表1	mg/Ｌ	2	0.1

表４－２－１　水質測定・分析方法　［放流水・内水］

分析項目	分析方法	単位	記載方法	
			有効桁数	報告下限値
鉛（Ｐｂ）	JIS K 0102 54	mg/Ｌ	2	0.005
六価クロム（$Ｃｒ^{6+}$）	JIS K 0102 65.2	mg/Ｌ	2	0.02
砒素（Ａｓ）	JIS K 0102 61	mg/Ｌ	2	0.005
総水銀（Ｔ－Ｈｇ）	昭和46年環境庁告示第59号 付表2	mg/Ｌ	2	0.0005
アルキル水銀	昭和46年環境庁告示第59号 付表3	mg/Ｌ	2	0.0005
ＰＣＢ	昭和46年環境庁告示第59号 付表4	mg/Ｌ	2	0.0005
トリクロロエチレン	JIS K 0125 5	mg/Ｌ	2	0.002
テトラクロロエチレン	JIS K 0125 5	mg/Ｌ	2	0.0005
ジクロロメタン	JIS K 0125 5	mg/Ｌ	2	0.005
四塩化炭素	JIS K 0125 5	mg/Ｌ	2	0.001
1,2－ジクロロエタン	JIS K 0125 5	mg/Ｌ	2	0.001
1,1－ジクロロエチレン	JIS K 0125 5	mg/Ｌ	2	0.005
シス－1,2－ジクロロエチレン	JIS K 0125 5	mg/Ｌ	2	0.01
1,1,1－トリクロロエタン	JIS K 0125 5	mg/Ｌ	2	0.001
1,1,2－トリクロロエタン	JIS K 0125 5	mg/Ｌ	2	0.002
1,3－ジクロロプロペン	JIS K 0125 5	mg/Ｌ	2	0.001
チウラム	昭和46年環境庁告示第59号 付表5	mg/Ｌ	2	0.003
シマジン	昭和46年環境庁告示第59号 付表6	mg/Ｌ	2	0.001
チオベンカルブ	昭和46年環境庁告示第59号 付表6	mg/Ｌ	2	0.005
ベンゼン	JIS K 0125 5	mg/Ｌ	2	0.005
セレン	JIS K 0102 67	mg/Ｌ	2	0.005
ほう素（Ｂ）	JIS K 0102 47.1	mg/Ｌ	2	0.1
ふっ素（Ｆ）	JIS K 0102 34	mg/Ｌ	2	0.1
アンモニア等（※）	平成元年環境庁告示第39号	mg/Ｌ	2	0.04
亜硝酸性窒素	JIS K 0102 43.1	mg/Ｌ	2	0.04
硝酸性窒素	JIS K 0102 43.2	mg/Ｌ	2	0.04
1,4－ジオキサン	昭和46年環境庁告示第59号　付表8	mg/Ｌ	2	0.05
フェノール類	JIS K 0102 28.1	mg/Ｌ	2	0.01
銅（Ｃｕ）	JIS K 0102 52	mg/Ｌ	2	0.005
亜鉛（Ｚｎ）	JIS K 0102 53	mg/Ｌ	2	0.01
溶解性鉄（Ｆｅ）	前処理後 JIS K 0102 57	mg/Ｌ	2	0.08
溶解性マンガン（Ｍｎ）	前処理後 JIS K 0102 56	mg/Ｌ	2	0.01
全クロム（Ｔ－Ｃｒ）	JIS K 0102 65.1	mg/Ｌ	2	0.03
ダイオキシン類	JIS K 0312	pg-TEQ/Ｌ	2	JIS K 0312による

（※）：アンモニア等とは、アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物をいう。

表4－2－2 水質測定･分析方法 [基本監視点･補助監視点(St.12, 13)]

測定・分析項目	測定・分析方法	単位	記載方法	
			有効桁数	報告下限値
鉛（Ｐｂ）	JIS K 0102 54	mg/Ｌ	2	0.002
六価クロム（Ｃｒ$^{6+}$）	JIS K 0102 65.2	mg/Ｌ	2	0.002
砒素（Ａｓ）	JIS K 0102 61	mg/Ｌ	2	0.001
総水銀（Ｔ－Ｈｇ）	昭和46年環境庁告示第59号 付表2	mg/Ｌ	2	0.0005
アルキル水銀	昭和46年環境庁告示第59号 付表3	mg/Ｌ	2	0.0005
ＰＣＢ	昭和46年環境庁告示第59号 付表4	mg/Ｌ	2	0.0005
トリクロロエチレン	JIS K 0125 5	mg/Ｌ	2	0.001
テトラクロロエチレン	JIS K 0125 5	mg/Ｌ	2	0.0005
ジクロロメタン	JIS K 0125 5	mg/Ｌ	2	0.002
四塩化炭素	JIS K 0125 5	mg/Ｌ	2	0.0002
1,2－ジクロロエタン	JIS K 0125 5	mg/Ｌ	2	0.0004
1,1－ジクロロエチレン	JIS K 0125 5	mg/Ｌ	2	0.002
1,2－ジクロロエチレン	JIS K 0125 5	mg/Ｌ	2	0.004
ｼｽ－1,2－ジクロロエチレン	JIS K 0125 5	mg/Ｌ	2	0.004
1,1,1－トリクロロエタン	JIS K 0125 5	mg/Ｌ	2	0.0005
1,1,2－トリクロロエタン	JIS K 0125 5	mg/Ｌ	2	0.0006
1,3－ジクロロプロペン	JIS K 0125 5	mg/Ｌ	2	0.0002
クロロエチレン（※1）	平成9年環境庁告示第10号　付表	mg/Ｌ	2	0.0002
チウラム	昭和46年環境庁告示第59号 付表5	mg/Ｌ	2	0.0006
シマジン	昭和46年環境庁告示第59号 付表6	mg/Ｌ	2	0.0003
チオベンカルブ	昭和46年環境庁告示第59号 付表6	mg/Ｌ	2	0.002
ベンゼン	JIS K 0125 5	mg/Ｌ	2	0.001
セレン	JIS K 0102 67	mg/Ｌ	2	0.002
ふっ素（Ｆ）	JIS K 0102 34	mg/Ｌ	2	0.08
アンモニア等（※2）	平成元年環境庁告示第39号	mg/Ｌ	2	0.01
亜硝酸性窒素	JIS K 0102 43.1	mg/Ｌ	2	0.005
硝酸性窒素	JIS K 0102 43.2	mg/Ｌ	2	0.04
1,4－ジオキサン	昭和46年環境庁告示第59号 付表8	mg/Ｌ	2	0.005
フェノール類	JIS K 0102 28.1	mg/Ｌ	2	0.005
銅（Ｃｕ）	JIS K 0102 52	mg/Ｌ	2	0.001
亜鉛（Ｚｎ）	JIS K 0102 53	mg/Ｌ	2	0.001
溶解性鉄（Ｆｅ）	前処理後　JIS K 0102 57	mg/Ｌ	2	0.01
溶解性マンガン（Ｍｎ）	前処理後　JIS K 0102 56	mg/Ｌ	2	0.01
全クロム（Ｔ－Ｃｒ）	JIS K 0102 65.1	mg/Ｌ	2	0.01
ダイオキシン類	JIS K 0312	pg-TEQ/Ｌ	2	JIS K 0312による

（※1）：別名 塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー

（※2）：アンモニア等とは、アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物をいう。

表４－３　底質分析方法（含有量試験）

測定・分析項目	測定・分析方法	単位	記載方法	
			有効桁数	報告下限値
含水率	底質調査方法　Ⅱ.4.1	%	2	－
粒度組成	JIS A 1204	%	2	0.1
強熱減量（ＩＬ）	底質調査方法　Ⅱ.4.2	%	2	0.5
化学的酸素要求量（CODsed）	底質調査方法　Ⅱ.4.7	mg/g 乾泥	2	0.5
硫化物	底質調査方法　Ⅱ.4.6	mg/g 乾泥	2	0.1
全窒素（Ｔ－Ｎ）	底質調査方法　Ⅱ.4.8	mg/kg 乾泥	2	50
全燐（Ｔ－Ｐ）	底質調査方法　Ⅱ.4.9	mg/kg 乾泥	2	50
カドミウム（Ｃｄ）	底質調査方法　Ⅱ.5.1	mg/kg 乾泥	2	0.01
シアン（ＣＮ）	底質調査方法　Ⅱ.4.11	mg/kg 乾泥	2	0.1
有機燐（Ｏ－Ｐ）	乾燥泥をｱｾﾄﾝｰｿﾞｯｸｽﾚｰ抽出後昭和49年環境庁告示第64号付表1に掲げる方法	mg/kg 乾泥	2	0.1
鉛（Ｐｂ）	底質調査方法　Ⅱ.5.2	mg/kg 乾泥	2	0.1
六価クロム（Cr^{6+}）	底質調査方法　Ⅱ.5.12.3	mg/kg 乾泥	2	2
砒素（Ａｓ）	底質調査方法　Ⅱ.5.9	mg/kg 乾泥	2	0.1
総水銀（Ｔ－Ｈｇ）	底質調査方法　Ⅱ.5.14.1	mg/kg 乾泥	2	0.01
トリクロロエチレン	前処理後 JIS K 0125 5.1	mg/kg 乾泥	2	0.05
テトラクロロエチレン	前処理後 JIS K 0125 5.1	mg/kg 乾泥	2	0.01

表４－４　底質分析方法（含有量試験）

測定・分析項目	測定・分析方法	単位	記載方法	
			有効桁数	報告下限値
アルキル水銀（Ｒ－Ｈｇ）	底質調査方法　Ⅱ.5.14.2	mg/kg 乾泥	2	0.01
ＰＣＢ	底質調査方法　Ⅱ.6.4	mg/kg 乾泥	2	0.01
銅（Ｃｕ）	底質調査方法　Ⅱ.5.3	mg/kg 乾泥	2	0.01
亜鉛（Ｚｎ）	底質調査方法　Ⅱ.5.4	mg/kg 乾泥	2	0.01
ふっ素（Ｆ）	環境測定分析法注解第3巻6章第4節15	mg/kg 乾泥	2	1

表４－５　海生生物調査方法

調査項目	調査方法	単位	測定・計数項目
植物プランクトン	海洋観測指針　第1部6.2. （バンドーン型採水器による採集）	mL/L 細胞/mL 有無	沈殿量 種別細胞数 有害プランクトン
動物プランクトン	海洋観測指針　第1部6.2. （北原式定量ネット(NXX13)による採集－鉛直曳）	mL/m^3 個体/m^3	沈殿量 種別個体数
魚卵・稚仔魚	マルチネット（もじ網付きGG54）水平曳による採集	個体/1000m^3	種別個体数
底生生物（ベントス）	海洋観測指針（1990年版）9.7及び9.8 （スミスマッキンタイヤ型採泥器による採集）	個体/0.1m^2 g/0.1m^2	種別個体数 種別湿重量
付着生物	ベルトトランセクト法による観察	被度または 個体/0.25m^2	被度または 種（群）別個体数
	直接採集（3層）　：平均水面 ：大潮最低低潮面 ：大潮最低低潮面－1m	個体 g/0.09m^2	種別個体数 種別湿重量
漁業生物	刺網による方法	個体/網 cm，g	種の同定，個体数の係数 全長，体長，湿重量

表４－６　発生ガス及び悪臭物質測定方法

測定項目		測定方法	単位	記載方法	
				有効桁数	報告下限値
発生ガス	メタン	廃棄物最終処分場安定化監視マニュアル（平成元年11月：環境庁）準拠	ppm	2	0.1
	ガス流量		cm^3/分	2	10
特定悪臭物質	アンモニア	昭和47年 環境庁告示第9号	ppm	2	0.1
	メチルメルカプタン			2	0.0005
	硫化水素			2	0.001
	硫化メチル			2	0.001
	二硫化メチル			2	0.001
	トリメチルアミン			2	0.001
	アセトアルデヒド			2	0.005
	プロピオンアルデヒド			2	0.005
	ノルマルブチルアルデヒド			2	0.0009
	イソブチルアルデヒド			2	0.002
	ノルマルバレルアルデヒド			2	0.0009
	イソバレルアルデヒド			2	0.0003
	イソブタノール			2	0.09
	酢酸エチル			2	0.3
	メチルイソブチルケトン			2	0.1
	トルエン			2	1
	スチレン			2	0.04
	キシレン			2	0.1
	プロピオン酸			2	0.0004
	ノルマル酪酸			2	0.0004
	ノルマル吉草酸			2	0.0004
	イソ吉草酸			2	0.0004
嗅覚測定	臭気濃度	平成7年 環境庁告示第63号	—	2	10
	臭気指数		—	2	10
	臭気強度	臭気指数測定マニュアル（平成8年3月：環境庁）準拠	—	2	0

注：発生ガス（メタン，ガス流量）及び特定悪臭物質については、泉大津沖津処分場においてのみ実施。

ⅱ　大阪基地供用に係る環境監視計画

１．監視の目的

基地供用及び廃棄物輸送にあたり、周辺環境への影響を最小限にとどめ環境の悪化を未然に防止することを目的とする。

２．監視項目、監視時期、監視地点

監視項目、監視時期については別表のとおり定める。

監視地点については別図のとおり定める。

３．監視方法

①各監視項目の調査方法はＪＩＳ等の公定法による。

②騒音、振動、交通量は、始業１時間前から終業１時間後の間の各正時毎10分間測定する。

交通総量は、大型車とそれ以外の２車種別とする。

③廃棄物車両数は、大型車とそれ以外の２種別に、始業１時間前から終業１時間後の間調査する。

④悪臭は、嗅覚測定法とする。

⑤大気質は１週間の連続測定とする。

４．監視スケジュールの報告

原則として、環境監視実施計画を前月の20日までに「環境保全協議会」に報告する。

ただし、内容等に変更が生じた場合には、その都度「環境保全協議会」に報告する。

５．監視結果の報告

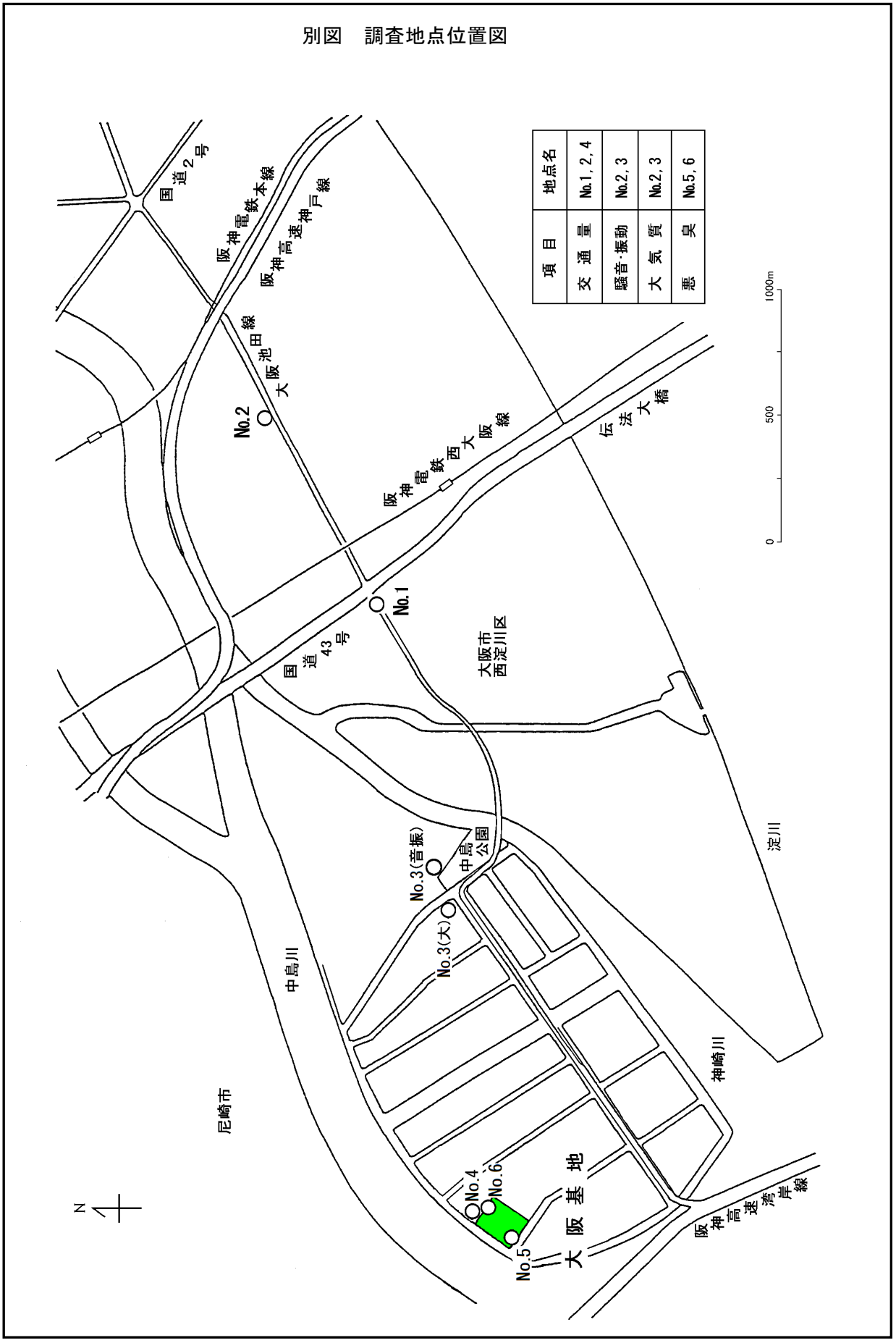
監視結果は、別途定める様式により、原則として調査終了の翌月末までに「環境保全協議会」に報告する。

（別　表）

大阪基地供用に係る環境監視計画

対　　象	項　　目	頻　度	地　　点	備　　考
騒音・振動		年２回	№２，３	原則として５月、11月の交通量測定時に実施する。
大　気　質	SO_2、NO、NO_2、SPM 、風向、風速	年４回	№２，３	原則として５月、８月、11月、２月の交通量測定日を含む期間に実施する。
交 通 総 量	大型車、それ以外の２種類	年４回	№１，２，４	原則として５月、８月、11月、２月に実施する。
廃棄物車数	廃棄物車のみ	年４回	№１，２，４	原則として５月、８月、11月及び２月に実施する。
悪　　臭	嗅覚測定法による臭気濃度、臭気指数及び臭気強度	年２回	№５，６	原則として６月及び８月に実施する。

別図　調査地点位置図


国道2号
阪神電鉄本線
阪神高速神戸線
阪神電鉄西大阪線
大阪池田線
伝法大橋
No.2
No.1
国道43号
大阪市
西淀川区
No.3(音振)
No.3(大)
中島公園
中島川
尼崎市
淀川
神崎川
No.4
No.6
No.5
大阪基地
阪神高速湾岸線
N
0
500
1000m
項目
地点名
交通量
No.1,2,4
騒音･振動
No.2,3
大気質
No.2,3
悪臭
No.5,6

ⅲ　堺基地供用に係る環境監視計画

１．監視の目的

基地供用及び廃棄物輸送にあたり、周辺環境への影響を最小限にとどめ環境の悪化を未然に防止することを目的とする。

２．監視項目、監視時期、監視地点

監視項目、監視時期については別表のとおり定める。

監視地点については別図のとおり定める。

３．監視方法

①各監視項目の調査方法はＪＩＳ等の公定法による。

②騒音、振動、交通量は、始業１時間前から終業１時間後の間の各正時毎10分間測定する。

交通総量は、大型車とそれ以外の２種別とする。

③廃棄物車両数は、大型車とそれ以外の２種別に、始業１時間前から終業１時間後の間調査する。

④悪臭は、嗅覚測定法とする。

⑤大気質は１週間の連続測定とする。

４．監視スケジュールの報告

原則として、環境監視実施計画を前月の20日までに「環境保全協議会」に報告する。

ただし、内容等に変更が生じた場合には、その都度「環境保全協議会」に報告する。

５．監視結果の報告

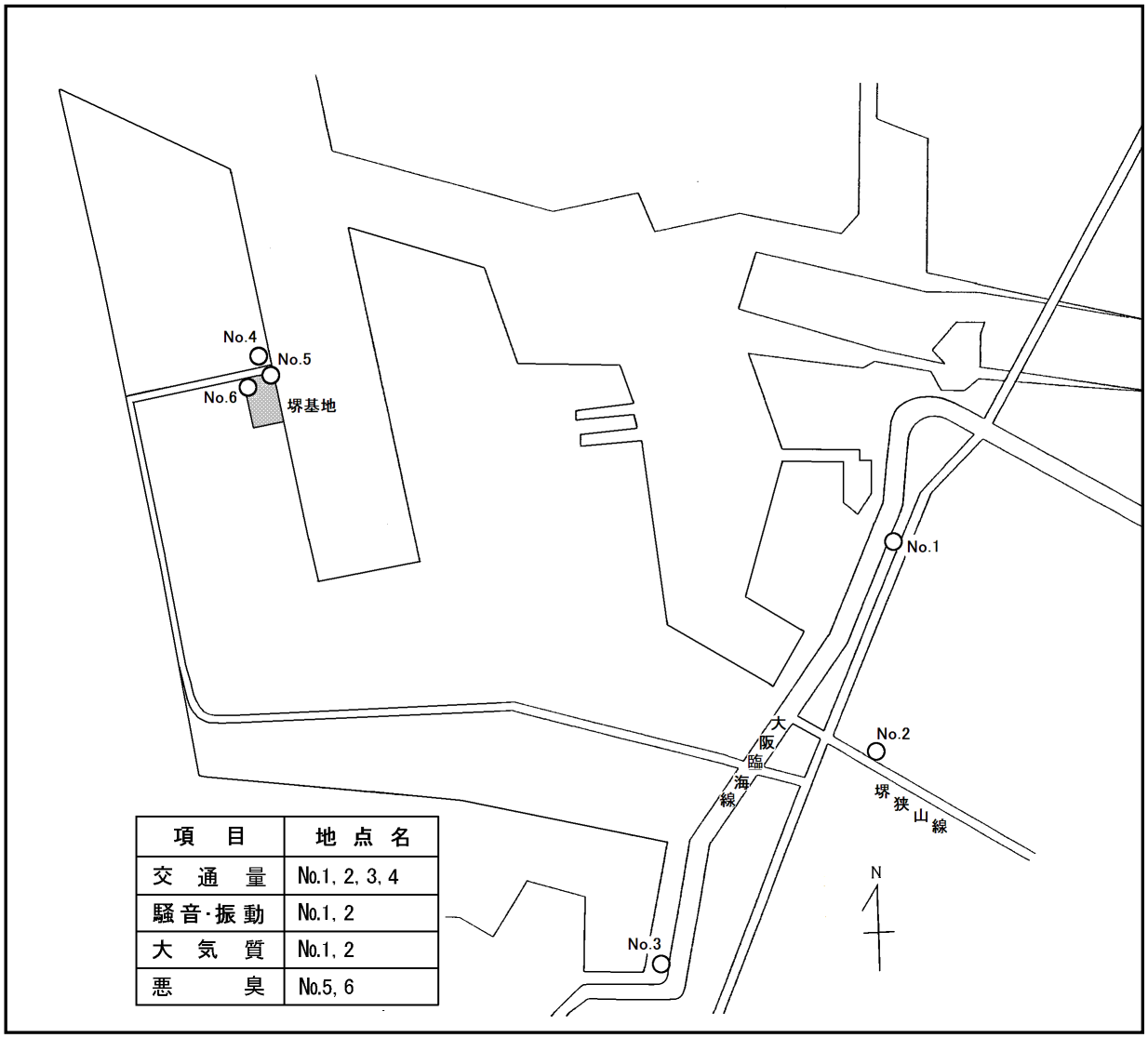
監視結果は、別途定める様式により、原則として調査終了の翌月末までに「環境保全協議会」に報告する。

（別　表）

堺基地供用に係る環境監視計画

対　　象	項　　目	頻　度	地　　点	備　　考
騒音・振動		年２回	№１，２	原則として５月、11月の交通量測定時に実施する。
大　気　質	SO_2、NO、NO_2、SPM 、風向、風速	年４回	№１，２	原則として５月、８月、11月、２月の交通量測定日を含む期間に実施する。
交 通 総 量	大型車、それ以外の２種類	年４回	№１，２，３，４	原則して５月、８月、11月、２月に実施する。
廃棄物車数	廃棄物車のみ	年４回	№１，２，３，４	原則として５月、８月、11月、２月に実施する。
悪　　臭	嗅覚測定法による臭気濃度、臭気指数及び臭気強度	年２回	№５，６	原則として６月及び８月に実施する。

別図　調査地点位置図



項　目	地 点 名
交　通　量	No.1, 2, 3, 4
騒音・振動	No.1, 2
大　気　質	No.1, 2
悪　　臭	No.5, 6

ⅳ 泉大津沖埋立処分場仮防波堤の建設に係る環境監視計画

１．監視の目的

泉大津埋立処分場仮防波堤の建設工事は、平成10年4月2日に置換砂投入を開始し、平成10年10月7日に竣工したところであるが、仮防波堤の設置に伴う水質への影響の程度について確認を行うため環境監視を実施する。

２．監視項目、監視時期、監視地点

環境監視は、別紙に示す地点において、表２のとおり実施する。

なお、環境監視は、水質への影響の程度について評価を行うことができるまでの必要な期間実施し、そのとりまとめた結果については、環境保全協議会へ報告し、評価・指導を受けるものとする。

表１　仮防波堤設置後の環境監視の内容

監　視　項　目	濁度、ＣＯＤ、ＳＳ、ＦＳＳ
監　視　頻　度	１回／月
監 視 地 点 数	Ａ、Ｂ
採　　水　　層	中層（海面下３ｍ）

表２　水質測定・分析方法

測定・分析項目	測定・分析方法	単位	記載方法	
			有効桁数	報告下限値
濁度	JIS K 0101 9	度(ｶｵﾘﾝ)	2	1
浮遊物質量（ＳＳ）	昭和46年環境庁告示第59号 付表9	mg/Ｌ	2	1
不揮発性懸濁物質（ＦＳＳ）	JIS K 0102 14.4	mg/Ｌ	2	1
化学的酸素要求量（CODMn）	JIS K 0102 17	mg/Ｌ	2	0.5

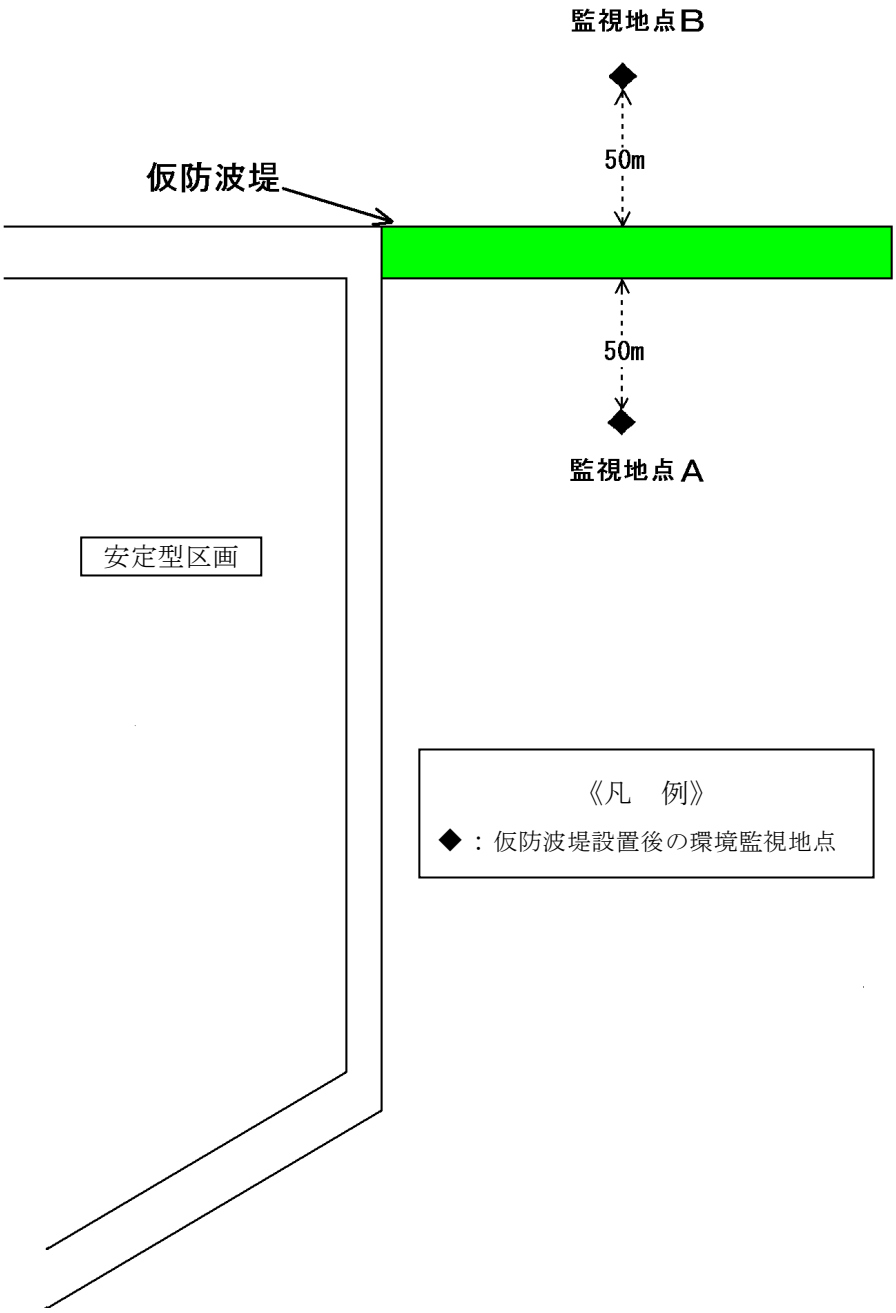
３．監視結果の報告

監視結果は、環境監視計画に基づく定期的な報告時に、別途報告する。

◎参考

濁度の管理の目安と濁りに係る環境監視の評価手順については、『処分場及び積出基地の供用に係る環境監視計画』の参考の内容に準じた取扱いとする。

【　別紙　】



v 参 考

1．水質の監視基準及び濁度の管理の目安の設定の考え方

水質の監視基準は、工事による影響を適切に監視するため、基本監視点において不揮発性浮遊物質量ＦＳＳ（ＦＳＳ＝ＳＳ－ＶＳＳで計算する。）で設定する。監視基準は、平成２年度環境監視調査結果のバックグラウンドのＦＳＳ値に埋立工事によるインパクト分を加えたものとし、表層５mg／L、底層７mg／L、とする。

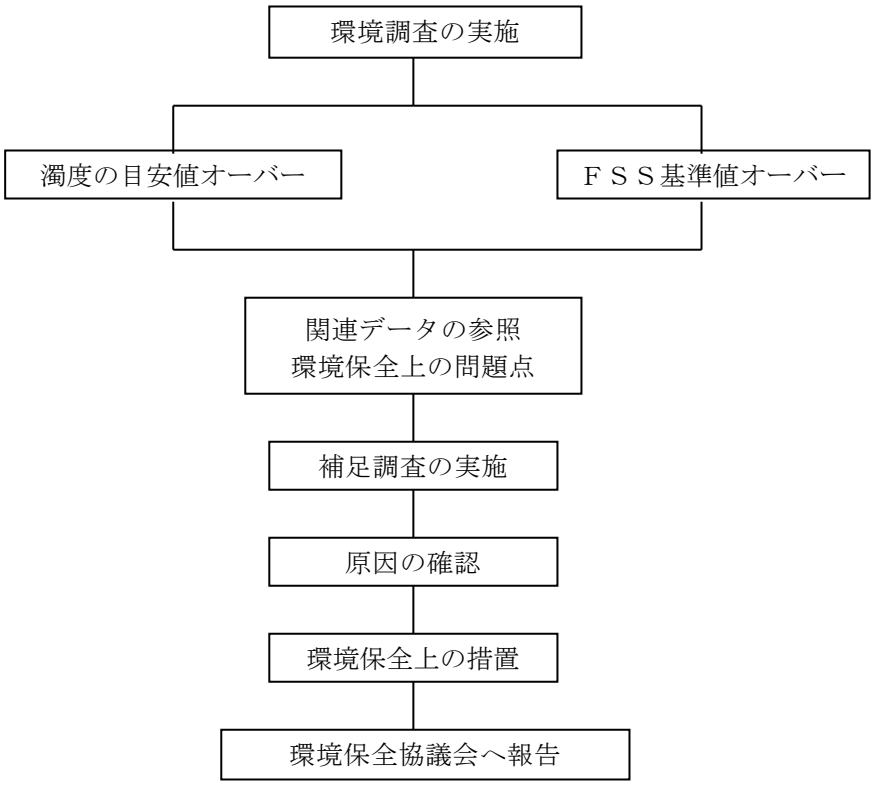
ＦＳＳの監視基準に対応して濁度の管理の目安を設定する。目安値は平成２年度の環境監視調査結果から作成したＳＳと濁度との回帰式に基づき、表層 11 度、底層９度とする。

2．濁りに係る環境監視の評価手順

環境調査の結果、監視基準（又は濁度の目安）を超えたときは、直ちに補足調査等を実施し原因の究明を行う。

工事が原因であると考えられるときは直ちに環境保全対策を講ずる。

濁りに係る調査結果の評価方法については、次のとおりとする。



3．基本監視点における水質に係る環境調査の頻度

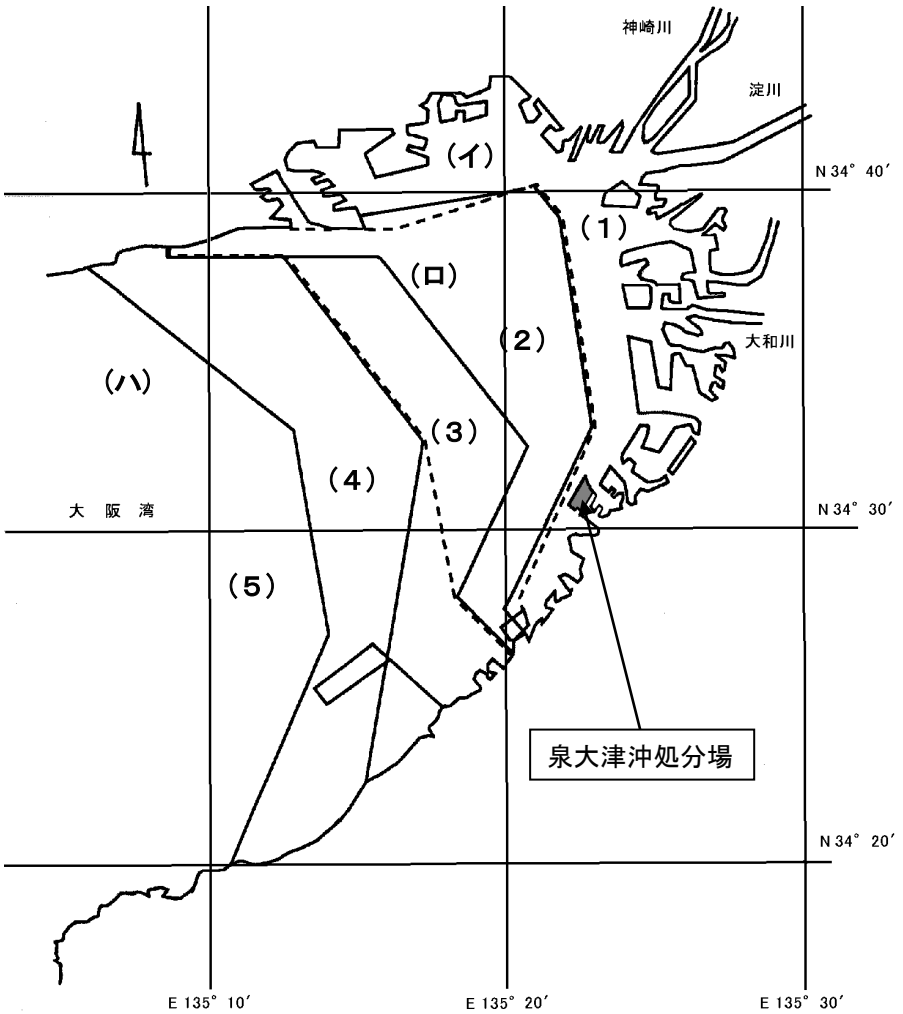
ＦＳＳの監視の頻度は月１回とする。

Ⅵ　参　考　資　料

（大阪湾水域類型、水質環境基準等）

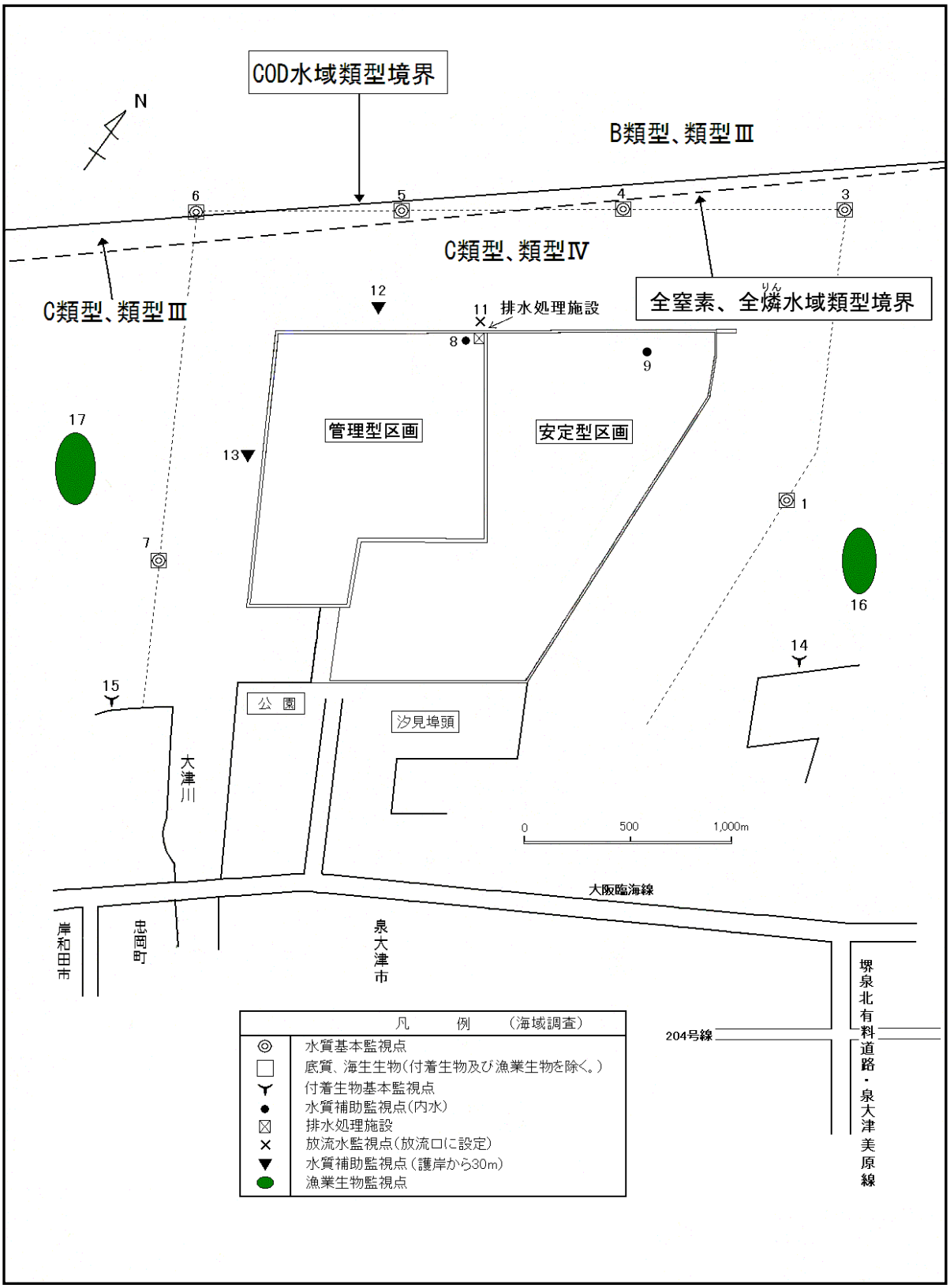
COD 水域類型指定	
水　域	該当類型
大阪湾(1)	C
大阪湾(2)	B
大阪湾(3)	A
大阪湾(4)	A
大阪湾(5)	A

全窒素全燐(りん)水域類型指定	
水　域	該当類型
大阪湾(イ)	Ⅳ
大阪湾(ロ)	Ⅲ
大阪湾(ハ)	Ⅱ



注）－－－は全窒素、全燐に係る環境基準の水域を表す。

資料図－１　　大阪湾水域類型



資料図－２　　泉大津沖埋立処分場環境監視地点と大阪湾水域類型

大阪湾の水質汚濁及び底質に係る環境基準等

１．健康項目（海域）

項　　目	環境基準値	（大阪府） 生活環境保全目標値	対象水域
カドミウム	0.003mg／L 以下	同左	全公共用水域
全シアン	検出されないこと	同左	
鉛	0.01mg／L 以下	同左	
六価クロム	0.02mg／L 以下	同左	
砒素	0.01mg／L 以下	同左	
総水銀	0.0005mg／L 以下	同左	
アルキル水銀	検出されないこと	同左	
PCB	検出されないこと	同左	
ジクロロメタン	0.02mg／L 以下	同左	
四塩化炭素	0.002mg／L 以下	同左	
１，２－ジクロロエタン	0.004mg／L 以下	同左	
１，１－ジクロロエチレン	0.1mg／L 以下	同左	
シス－１，２－ジクロロエチレン	0.04mg／L 以下	同左	
１，１，１－トリクロロエタン	1mg／L 以下	同左	
１，１，２－トリクロロエタン	0.006mg／L 以下	同左	
トリクロロエチレン	0.01mg／L 以下	同左	
テトラクロロエチレン	0.01mg／L 以下	同左	
１，３－ジクロロプロペン	0.002mg／L 以下	同左	
チラウム	0.006mg／L 以下	同左	
シマジン	0.003mg／L 以下	同左	
チオベンカルブ	0.02mg／L 以下	同左	
ベンゼン	0.01mg／L 以下	同左	
セレン	0.01mg／L 以下	同左	
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10mg／L 以下	同左	
１，４－ジオキサン	0.05mg／L 以下	同左	
ダイオキシン類	1pg－TEQ／L 以下	同左	

（注）１　基準値・目標値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値・目標値については、最高値とする。アルキル水銀及び PCB については、「検出されないこと」をもって基準値とされているので、同一測定点における年間のすべての検体の測定値が不検出であることをもって目標達成と判断する。さらに総水銀に係る評価方法は（注）３のとおり。

２　「検出されないこと」とは、定量限界未満をいう。

３　総水銀についての目標の適否の判定は、年間の測定値が 0.0005mg／L を超える検体数が調査対象検体の 37%以上である場合を不適とする（昭和 49 年 12 月 23 日付け環水管第 182 号）。

２．生活環境項目（海域）

項目 ＼ 類型 ＼ 利用目的の適応性			A	B	C
			水産１級 水浴 自然環境保全及びＢ以下の欄に掲げるもの	水産２級 工業用水及びＣの欄に掲げるもの	環境保全
環境基準値	（大阪府）生活環境保全目標値	水素イオン濃度（ｐＨ）	7.8以上 8.3以下	7.8以上 8.3以下	7.0以上 8.3以下
		化学的酸素要求量（COD）	2 mg／L 以下	3 mg／L 以下	8 mg／L 以下
		溶存酸素量（DO）	7.5 mg／L 以上	5 mg／L 以上	2 mg／L 以上
		大腸菌数	300CFU／100mL 以下	―	―
		ノルマルヘキサン抽出物質(油分等)	検出されないこと	検出されないこと	―
対象水域等			対象水域及びその水域が該当する水域類型は資料図-1 のとおりとする		

（注）1　基準値・目標値は、日間平均値とする。
2　大腸菌数に用いる単位はCFU（コロニー形成単位（Colony Forming Unit）/100ml とし、大腸菌を培地で培養し、発育したコロニーの数を数えることで算出する。

３．全窒素、全燐（海域）

項目 ＼ 類型	利用目的の適応性	環境基準値 (大阪府)生活環境保全目標値		対象水域
		全窒素	全燐	
Ⅰ	自然環境保全及びⅡ以下の欄に掲げるもの（水産２種及び３種を除く）	0.2 mg／L 以下	0.02 mg／L 以下	資料図-1 のとおり
Ⅱ	水産１種 水浴及びⅢ以下の欄に掲げるもの（水産２種及び３種を除く）	0.3 mg／L 以下	0.03 mg／L 以下	
Ⅲ	水産２種及びⅣの欄に掲げるもの（水産３種を除く）	0.6 mg／L 以下	0.05 mg／L 以下	
Ⅳ	水産３種 工業用水、生物生息環境保全	1 mg／L 以下	0.09 mg／L 以下	

（注）　基準値・目標値は、年間平均値とする。

４．海　域（底質）

項　目	（大阪府）生活環境保全目標値	対象水域
ＰＣＢ	10mg／kg	全公共用水域
水　銀	「底質の暫定除去基準について」（昭和 50 年 10 月 28 日環水管第 119 号水質保全局長通知）に定める基準に該当しないこと	〃